

**平成 28 年度
市政世論調査結果報告書**

越谷市

はじめに

本市の市政世論調査は昭和45年に実施して以来、今回で47回目を迎えます。市政世論調査は市民各層の行政ニーズを的確にとらえ、行政施策に反映させていくために継続して実施しているものです。

今回は、「暮らしや居住意向について」「男女共同参画について」「市民活動について」「路上喫煙について」「在宅医療・介護ニーズについて」「市内の公共交通について」「起業について」「越谷市の伝統的手工芸品について」「医療費適正化（医療費通知）について」「景観（風景）について」「こしがやブランド認定品について」「地場農産物や地産地消について」「住宅用火災警報器の設置状況について」「自治基本条例について」「越谷市への愛着度と魅力発信について」「スポーツ・レクリエーションの実施状況について」「地域医療体制について」「広報について」「越谷市の施策について」の各テーマにおいて、市民意識の把握に努めました。

今回の調査で、すべてのニーズや問題点が解明されたわけではありませんが、調査の結果を今後の市政運営の参考資料として活用しながら、市民の皆様の期待に応えられるまちづくりや、行政サービスを推進してまいりたいと考えております。

ご多忙にもかかわらず、市政世論調査にご協力をいただきました市民の皆様にご心より御礼申し上げます。

平成28年11月

越谷市長 高橋 努

目次

第1章 調査設計	1
1. 調査実施の目的	3
2. 調査手法	3
3. 回収状況	3
4. 調査項目	3
5. 居住地区区分	4
6. 集計結果の誤差比率について	5
7. 集計結果の有意性について	6
8. 報告書の見かた	7
第2章 調査回答者の属性	9
1. 回答者の属性	11
第3章 調査結果の概要	15
1. 暮らしや居住意向について	17
2. 男女共同参画について	17
3. 市民活動について	17
4. 路上喫煙について	18
5. 在宅医療・介護ニーズについて	18
6. 市内の公共交通について	18
7. 起業について	18
8. 越谷市の伝統的手工芸品について	19
9. 医療費適正化（医療費通知）について	19
10. 景観（風景）について	19
11. こしがやブランド認定品について	19
12. 地場農産物や地産地消について	19
13. 住宅用火災警報器の設置状況について	20
14. 自治基本条例について	20
15. 越谷市への愛着度と魅力発信について	20
16. スポーツ・レクリエーションの実施状況について	21
17. 地域医療体制について	21
18. 広報について	21
19. 越谷市の施策について	21

第4章 調査結果の詳細	23
1. 暮らしや居留意向について	25
(1) 現在の暮らし向き	25
(2) 居留意向	31
(3) 転居意向の理由	37
2. 男女共同参画について	43
(1) 「ことば」や「ことがら」の認知	43
(2) 「男は仕事、女は家庭」という考え方の賛否	47
(3) 男女平等の考え	49
(4) 女性の働き方（理想）	52
(5) 女性の働き方（現実）	54
(6) 仕事上での男女別能力差	56
3. 市民活動について	58
(1) 市民活動への参加意向	58
(2) 参加しない理由	60
(3) 市民活動団体の認知	62
(4) 市民活動団体に期待すること	64
(5) 市民活動支援センターの認知	66
(6) 市民活動団体に特に望むこと	68
4. 路上喫煙について	70
(1) 喫煙の有無	70
(2) 「越谷市路上喫煙の防止に関する条例」の認知	72
(3) 「路上喫煙禁止区域」の認知	74
(4) 路上喫煙防止のために必要な取組み	76
5. 在宅医療・介護ニーズについて	77
(1) 自分に介護が必要になった場合の希望	77
(2) 家族に介護が必要になった場合の希望	79
(3) 療養生活を送りたい場所	81
6. 市内の公共交通について	83
(1) 公共交通の利用有無	83
(2) 公共交通の満足度	85
7. 起業について	87
(1) 起業意向	87
(2) 起業の際に期待する支援	89
(3) 起業したくない理由	91
8. 越谷市の伝統的手工芸品について	93
(1) 越谷市の伝統的手工芸品の認知	93
(2) 越谷市伝統的手工芸品に期待する取組み	95

9. 医療費適正化（医療費通知）について	97
(1) 加入保険	97
(2) 医療費通知の確認	99
(3) 医療費通知を受け取って思うこと	101
(4) 医療費通知に関する意見	104
10. 景観（風景）について	105
(1) 景観（風景）の満足度	105
(2) 行政に望むこと	107
11. こしがやブランド認定品について	109
(1) こしがやブランド認定品の認知と購入経験	109
(2) こしがやブランド認定品を購入した理由	111
(3) こしがやブランド認定品に求めるもの	113
12. 地場農産物や地産地消について	115
(1) 越谷の農業特産物の認知	115
(2) 越谷の農業特産物の購入経験・購入場所	117
(3) 野菜の購入場所	121
(4) 野菜を購入するとき意識すること	123
(5) 地産地消推進に必要なこと	125
13. 住宅用火災警報器の設置状況について	127
(1) 住宅用火災警報器の設置	127
(2) 住宅用火災警報器の設置場所	129
(3) 住宅用火災警報器の点検	131
(4) 住宅用火災警報器の交換時期	133
14. 自治基本条例について	135
(1) 「越谷市自治基本条例」の認知	135
(2) 関心のある市政に参加する方法	137
(3) 関心のあるまちづくりの分野	139
(4) まちづくりのためにできること	141
(5) 協働の担い手	143
15. 越谷市への愛着度と魅力発信について	145
(1) 越谷市への愛着	145
(2) 愛着がある理由	147
(3) 越谷市の誇れるもの	149
(4) 観光やレジャーで知りたい情報	151
(5) 観光情報を得る方法	153
(6) 越谷駅東口高架下の拠点施設への期待	155

1 6. スポーツ・レクリエーションの実施状況について	157
(1) スポーツ・レクリエーション活動の実施状況	157
(2) スポーツ・レクリエーション活動を行った主な理由	159
(3) スポーツ・レクリエーション活動の効果	161
(4) スポーツ・レクリエーション活動を行っていない理由	163
(5) 今後、行ってみたいスポーツ・レクリエーション活動—比較的軽いスポーツ—	165
(6) 今後、行ってみたいスポーツ・レクリエーション活動—野外活動—	167
(7) 今後、行ってみたいスポーツ・レクリエーション活動—競技的スポーツ—	169
1 7. 地域医療体制について	171
(1) 地域医療体制の認知	171
(2) 医療機関の情報の入手方法	173
(3) 夜間や休日の急病の対応	175
1 8. 広報について	177
(1) 市政情報を得ているもの	177
(2) 市政情報を得るために活用したことがあるもの	179
(3) 広報こしがや「お知らせ版」の感想	181
(4) 広報こしがや「お知らせ版」で分かりにくい点	183
(5) 広報こしがや「季刊版」の感想	184
(6) 広報こしがや「季刊版」で分かりにくい点	186
1 9. 越谷市の施策について	187
(1) よくなってきたと感じるもの	187
(2) 特に力を入れるべきだと思われるもの	190
(3) 自由回答	193

第5章 調査票	197
---------	-----

第 1 章 調査設計

1. 調査実施の目的

本調査は、市民生活の現状、行政への要望及び市政に対する評価の意識を的確に把握するとともに、市民に対する施策の浸透状況を測定し、今後の行政運営等に反映させるための基礎的資料とすることを目的として実施した。

2. 調査手法

- (1) 調査地域：越谷市全域
- (2) 調査対象：市内在住の18歳以上の男女
- (3) 対象者数：5,000人
- (4) 抽出方法：住民基本台帳より無作為抽出
- (5) 調査方法：郵送法（郵送配布・郵送回収）
- (6) 調査期間：平成28年6月24日～平成28年7月8日

3. 回収状況

	票数	回収率
配布数	5,000	
回収数	2,502	50.04%
有効回収数	2,500	50.00%

4. 調査項目

調査項目
(1) 基本属性（問1～問7） (2) 暮らしや居留意向について（問8～問9-2） (3) 男女共同参画について（問10～問14） (4) 市民活動について（問15～問19） (5) 路上喫煙について（問20～問23） (6) 在宅医療・介護ニーズについて（問24～問26） (7) 市内の公共交通について（問27～問28） (8) 起業について（問29～問29-3） (9) 越谷市の伝統的手工芸品について（問30～問31） (10) 医療費適正化（医療費通知）について（問32～問34） (11) 景観（風景）について（問35～問36） (12) こしがやブランド認定品について（問37～問38） (13) 地場農産物や地産地消について（問39～問43） (14) 住宅用火災警報器の設置状況について（問44～問44-4） (15) 自治基本条例について（問45～問49） (16) 越谷市への愛着度と魅力発信について（問50～問54） (17) スポーツ・レクリエーションの実施状況について（問55～問56） (18) 地域医療体制について（問57～問59） (19) 広報について（問60～問63-2） (20) 越谷市の施策について（問64～問65）

5. 居住地区区分



◆ 居住地区該当町表

地区区分	該当町名
桜井	大字大里、大字下間久里、大字上間久里、大字大泊、大字平方、平方南町、千間台東1～4丁目
新方	大字弥十郎、大字大吉、大字向畑、大字北川崎、大字大杉、大字大松、大字船渡、弥栄町1～4丁目
増林	大字花田、大字増林、大字増森、大字中島、東越谷1～10丁目、中島1～3丁目、増林1～3丁目、増森1～2丁目、花田1～7丁目
大袋	大字恩間、大字大竹、大字大道、大字三野宮、大字恩間新田、大字袋山、大字大林、大字大房、千間台西1～6丁目
荻島	大字野島、大字小曾川、大字砂原、大字南荻島、大字西新井、大字北後谷、大字長島
出羽	宮本町1～5丁目、神明町1～3丁目、谷中町1～4丁目、七左町1丁目の一部・3～8丁目、大間野町1～5丁目、新川町1～2丁目
蒲生	大字蒲生、瓦曾根1～2丁目、南越谷1丁目、登戸町、蒲生東町、蒲生寿町、蒲生旭町、蒲生本町、蒲生愛宕町、蒲生南町、蒲生1～4丁目、蒲生西町1～2丁目、南町1～3丁目
川柳	伊原1～2丁目、川柳町1～5丁目、レイクタウン7丁目
大相模	大字西方、西方1～2丁目、相模町1～7丁目、大成町1～2・6～8丁目、東町1～3・5丁目、流通団地1～4丁目、レイクタウン1～6・8～9丁目
大沢	大沢、大沢1～4丁目、東大沢1～5丁目
北越谷	北越谷1～5丁目
越ヶ谷	越ヶ谷、越ヶ谷1～5丁目、御殿町、柳町、越ヶ谷本町、中町、弥生町、赤山町1～2丁目、宮前1丁目、赤山本町
南越谷	七左町1丁目の一部・2丁目、瓦曾根3丁目、南越谷2～5丁目、蒲生茜町、東柳田町、元柳田町、赤山町3～5丁目

6. 集計結果の誤差比率について

今回のアンケート調査は、その調査対象となる母集団（越谷市全域に住む18歳以上の男女）から一部を抽出した標本（サンプル）の比率、平均、標準偏差などを調べ、これらの値から母集団の比率や平均を推測する、いわゆる「標本調査」を行っている。したがって、調査結果には母集団に対する標本誤差が生じる。

本調査では、母集団の推定において、信頼度を95%として信頼区間を算出しており、その際の標本誤差は以下の数式で統計的に算出できる。

$$b = \pm 1.96 \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}}$$

b : 信頼度95%の標本誤差

N : 母集団のサイズ

n : 有効回収数 (=2,500)

P : サンプルの回答比率

ただし、 $\frac{N-n}{N-1} \doteq 1$

上記の式に今回の数値をあてはめると、標本誤差は下表のようになる。

回答比率(P) 基数(n)	5%または 95%前後	10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	60%または 40%前後	50%前後
10,000	±0.4%	±0.6%	±0.8%	±0.9%	±1.0%	±1.0%
5,000	±0.6%	±0.8%	±1.1%	±1.3%	±1.4%	±1.4%
2,500	±0.9%	±1.2%	±1.6%	±1.8%	±1.9%	±2.0%
2,000	±1.0%	±1.3%	±1.8%	±2.0%	±2.1%	±2.2%
1,000	±1.4%	±1.9%	±2.5%	±2.8%	±3.0%	±3.1%
500	±1.9%	±2.6%	±3.5%	±4.0%	±4.3%	±4.4%
100	±4.3%	±5.9%	±7.8%	±9.0%	±9.6%	±9.8%

(小数点以下第2位を四捨五入)

7. 集計結果の有意性について

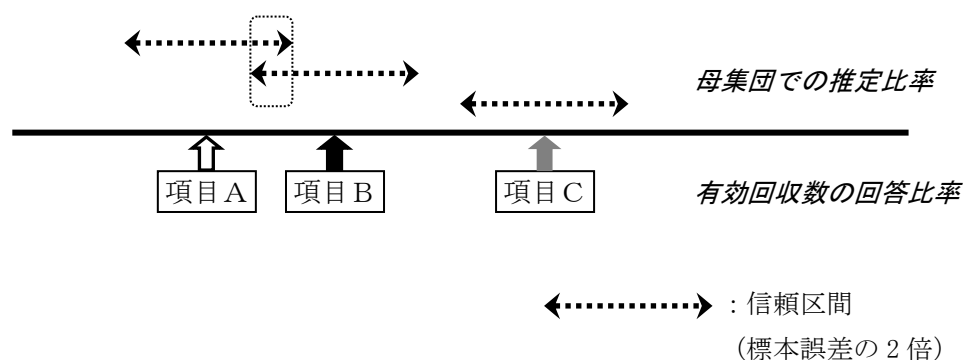
今回のアンケート調査は「標本調査」であり、調査対象となる母集団への標本誤差が必ず生じてくる。その際、どの程度までアンケート調査結果に基づく評価ができるのかという有意性が問題となる。

今回の調査では、有効回収数が2,500票であるため、回答比率がちょうど50%の場合には標本誤差は±2.0%となっている。つまり、アンケート調査結果で得た50%という集計結果を、実際の母集団にあてはめるには標本誤差±2.0%分の誤差が生じることになる。したがって、母集団の傾向として評価する際には、50%ではなく、 $50 \pm 2.0\%$ (=48.0%~52.0%)という一定の幅を持った値(信頼区間)として取り扱う必要がある。そして、その信頼区間に基づいて母集団の評価のために、項目間の評価をする場合、少なくとも評価対象となる項目の回答比率の差が4.0%(標本誤差の2倍)以上でなければ意味をなさない(有意性を持たない)ものとなる(下図参照)。

そのため、アンケート調査に有意性を持たせ、母集団へ効果的に反映させるためには、ある程度の回収数が必要とされている。例えば、100票そこそこの回収数の場合、その調査結果の標本誤差は、回答比率50%において±9.8%となり、信頼区間は19.6%にも上がってしまう。このような状況では項目間の評価が事実上不可能に近くなり、アンケート調査自体が意味のないものになってしまう。このような事態を招かないためにも、通常の標本調査においては、回収数が1,000票程度は必要であるといえる。

今回のアンケート調査の場合、有効回収数が2,500票であるため、評価にあたっての前提条件はクリアされている。ただし、前述の標本誤差が生じてくるため、評価・分析にあたっては、信頼区間(今回の調査の場合は4.0%程度)未満の差異は切り捨てて考える必要がある。

<項目Bは項目Aよりも優位に高いとはいえない場合>



8. 報告書の見かた

- (1) nは比率算出の基数であり、100%が何人の回答に相当するかを示す。
- (2) 「無回答」はその設問に回答をしなかったものであり、有効票となる。
- (3) 属性別の集計において、全体の調査数には無回答も含まれるため、各属性の調査数の合計は全体の調査数と一致しない。
- (4) 回答はすべて百分率（%）で表し、小数点以下第2位を四捨五入している。そのため、**数値の合計は100%を前後する場合がある。**
- (5) 複数回答を求める質問の回答については、すべての数値を合計すると100%を超えることがある。
- (6) 図表中の「-」は該当者なしを表す。
- (7) 割合の表記については、下記のとおり。
例 40%台

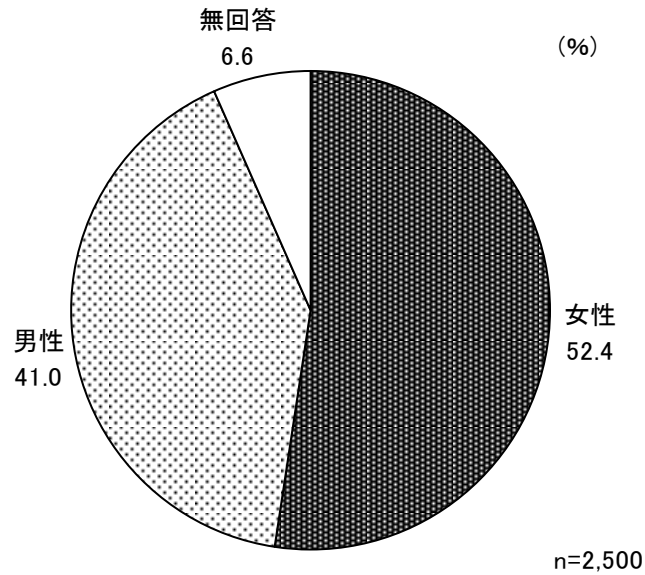
表記	約4割（4割）	4割強	4割半ば	5割弱	約5割（5割）
範囲	39.0～41.9% (40.0%)	42.0～43.9%	44.0～46.9%	47.0～48.9%	49.0～51.9% (50.0%)

第2章 調査回答者の属性

1. 回答者の属性

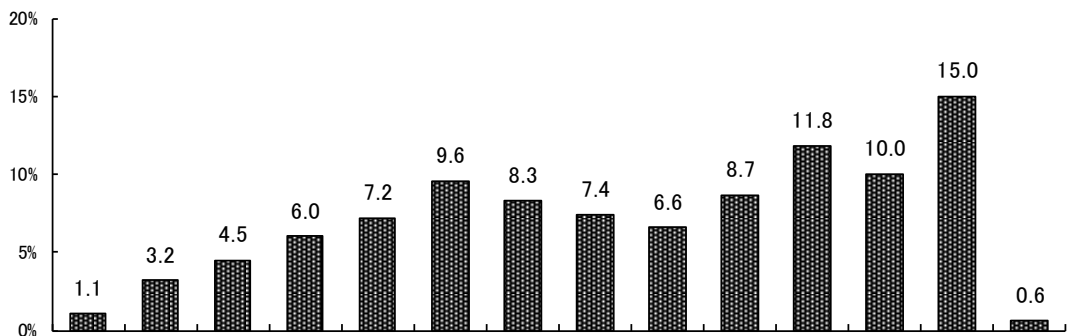
1. 性別

問1. あなたの性別はどちらですか。(〇は1つ)



2. 年代

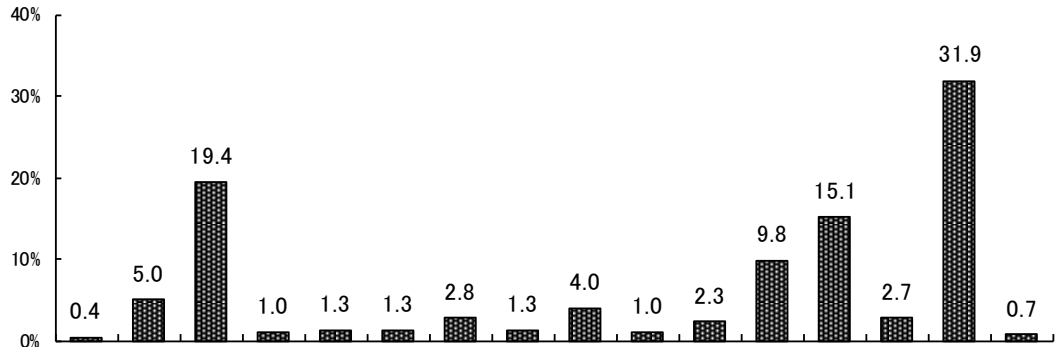
問2. あなたの年齢はどの区分にあてはまりますか。(〇は1つ)



	調査数	18歳以下	19歳	20歳	21歳	22歳	23歳	24歳	25歳	26歳	27歳	28歳	29歳	30歳	75歳以上	無回答
合計	2,500(人)	28	79	112	151	180	239	208	184	166	217	296	250	375	15	
	100(%)	1.1	3.2	4.5	6.0	7.2	9.6	8.3	7.4	6.6	8.7	11.8	10.0	15.0	0.6	
女性	1,309(人)	12	41	65	96	108	119	105	97	93	121	147	125	177	3	
	100(%)	0.9	3.1	5.0	7.3	8.3	9.1	8.0	7.4	7.1	9.2	11.2	9.5	13.5	0.2	
男性	1,025(人)	16	36	45	53	67	109	97	76	66	85	122	97	148	8	
	100(%)	1.6	3.5	4.4	5.2	6.5	10.6	9.5	7.4	6.4	8.3	11.9	9.5	14.4	0.8	
無回答	166(人)	-	2	2	2	5	11	6	11	7	11	27	28	50	4	
	100(%)	-	1.2	1.2	1.2	3.0	6.6	3.6	6.6	4.2	6.6	16.3	16.9	30.1	2.4	

3. 職業

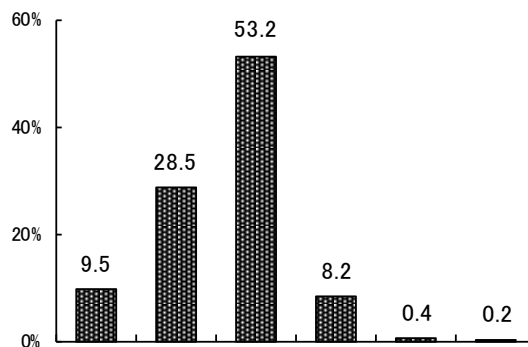
問3. あなたのご職業は次のうちどれにあたりますか。(〇は1つ)



	調査数	農業	市内会社員	市外会社員	小売店自営業	建築関係自営業	製造関係自営業	サービス関係自営業	自由業	公務員	団体職員	学生	家事従業	パートタイマー	その他	無職	無回答
合計	2,500(人)	11	126	484	25	32	32	69	33	99	25	57	246	378	67	798	18
	100(%)	0.4	5.0	19.4	1.0	1.3	1.3	2.8	1.3	4.0	1.0	2.3	9.8	15.1	2.7	31.9	0.7

4. 世帯の状況

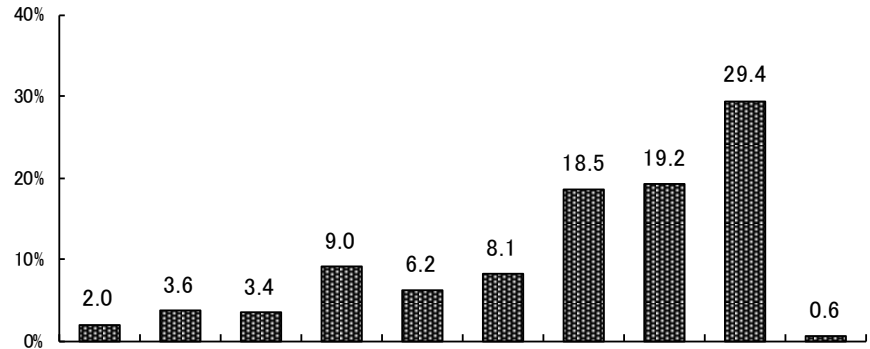
問4. あなたの世帯は次のうちどれにあたりますか。(〇は1つ)



	調査数	単身世帯(ひとり暮らし)	一世帯世帯(夫婦のみ、兄弟姉妹のみ)	二世帯世帯(親子など)	三世帯世帯(親と子と孫など)	その他	無回答
合計	2,500(人)	237	713	1,331	204	10	5
	100(%)	9.5	28.5	53.2	8.2	0.4	0.2

5. 居住年数

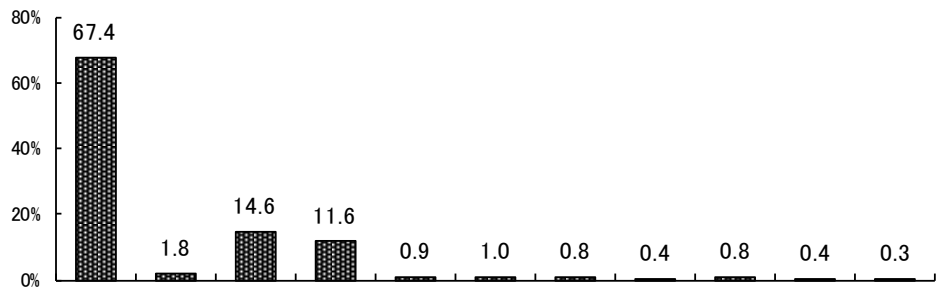
問5. あなたは、越谷市に住んでどれくらいになりますか。(〇は1つ)



調査数	1年未満	1〜3年未満	3〜5年未満	5〜10年未満	10〜15年未満	15〜20年未満	20〜30年未満	30〜40年未満	40年以上	無回答
合計	51	91	84	224	156	202	462	481	734	15
	2.0	3.6	3.4	9.0	6.2	8.1	18.5	19.2	29.4	0.6

6. 居住形態

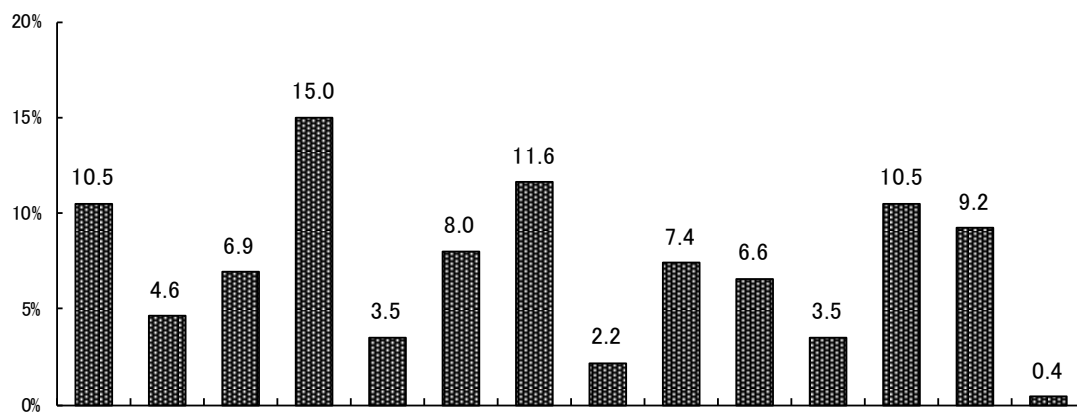
問6. あなたのお住まいは次のどれにあたりますか。(〇は1つ)



調査数	持ち家一戸建て	民間借家一戸建て	民間分譲マンション	民間賃貸マンション・アパート	公団分譲マンション	公団等賃貸マンション	社宅・官舎	宿舎	間借り・下宿・寮・寄宿舎	店舗・事務所併用住宅	その他	無回答
合計	1,686	45	365	289	22	25	21	11	19	10	7	
	67.4	1.8	14.6	11.6	0.9	1.0	0.8	0.4	0.8	0.4	0.3	

7. 居住地区

問7. あなたは、どの地区に住んでいますか。(〇は1つ)



	調査数	桜井地区	新方地区	増林地区	大袋地区	荻島地区	出羽地区	蒲生地区	川柳地区	大相模地区	大沢地区	北越谷地区	越ヶ谷地区	南越谷地区	無回答
合計	2,500(人)	263	115	172	376	88	200	290	54	186	165	88	262	230	11
	100(%)	10.5	4.6	6.9	15.0	3.5	8.0	11.6	2.2	7.4	6.6	3.5	10.5	9.2	0.4

第3章 調査結果の概要

1. 暮らしや居住意向について

現在の暮らし向きについて「十分満足している」と「十分とはいえないが一応満足している」を合わせた『満足』は5割強となっている。

今後の居住意向について「ずっと住み続けたい」と「どちらかといえば住み続けたい」を合わせた『定住意向』は7割半ばとなっている。

『転居意向』の主な理由は、「交通の便が悪いので」「現在、住んでいる住宅が狭いので」「賃貸住宅に住んでおり、持ち家がほしいため」が1割強で多く、「付近の生活環境が悪いので」が約1割で続く。

2. 男女共同参画について

男女共同参画における「ことば」や「ことがら」で、「内容を知っている」ものは「DV（ドメスティック・バイオレンス）」が7割強で最も多く、「LGBT（同性愛者、両性愛者、心身の性別が一致しない者）」が5割半ばと続く。

「男は仕事、女は家庭」という考え方の賛否については、『賛成』が約3割、『反対』が5割強となっている。

男女平等の考えについて「平等になっていない」のは「社会通念や風潮において」が約5割と最も多い。

理想とする女性の働き方は「結婚や出産にかかわらず仕事を続ける（ている・ていた）」が2割強で最も多いが、現実には「子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける（ている・ていた）」が約3割で最も多くなっている。

仕事をしていく上で、能力に男女差があると思うかについては、「そうは思わない」が約5割、「あると思う」が4割弱となっている。

3. 市民活動について

市民活動に参加した、または参加したいと思ったことについて、「参加したことがある」は約2割、「参加したいと思ったことがあるが、参加しなかった」は2割半ばとなっている。

市民活動に参加しない理由としては、「関心がなかったから」が約3割と最も多く、「時間がなかったから」が3割弱と続く。

市民活動団体の認知について、「よく知っている」は1割弱となっている。

市民活動団体に期待することについては、「行政が取り組まない問題に取り組む」が約3割と最も多く、「身近な問題を、市民自身で解決する」が3割弱と続く。

市民活動支援センターの認知については、「知らない」が5割強となっている。

市民活動団体に特に望むことについては、「市民活動に関する情報提供」が約6割と最も多くなっている。

4. 路上喫煙について

喫煙の有無については、「吸う」が1割半ば、「吸わない」が8割強となっている。

「越谷市路上喫煙の防止に関する条例」の認知については、「知らない」が約5割となっている。

「路上喫煙禁止区域」の認知については、「知らない」が5割半ば、「禁止区域があるのは知っている」は3割半ばとなっている。

路上喫煙の防止のために必要な取組みは、「喫煙者のマナー・モラル向上の啓発活動」が最も多い。

5. 在宅医療・介護ニーズについて

自分に介護が必要になった場合の介護の希望については、「家族に依存せずに生活できるような介護サービスがあれば、自宅で介護を受けたい」が4割弱と最も多く、「自宅で家族の介護と外部の介護サービスを組み合わせて介護を受けたい」が2割強と続く。

家族に介護が必要になった場合の介護の希望については、「自宅で家族の介護と外部の介護サービスを組み合わせて介護を受けさせたい」が約3割と最も多く、「家族に依存せずに生活できるような介護サービスがあれば、自宅で介護を受けさせたい」が2割半ばと続く。

療養生活を送りたい場所については、「自宅で療養して必要になれば緩和ケア病棟に入院したい」が約3割と最も多く、「自宅で療養して必要になればそれまでの医療機関に入院したい」が約2割と続く。

6. 市内の公共交通について

鉄道は「常に利用している」が約3割で最も多く、「とても満足している」と「やや満足している」を合わせた『満足』は8割強となっている。

バスは「全く利用しない」が3割半ばで最も多く、『満足』は5割半ばとなっている。

タクシーは「たまに利用している」「全く利用しない」がともに約4割で多く、『満足』は6割弱となっている。

7. 起業について

起業意向については、「起業する予定である」と「機会があれば起業したい」を合わせた『起業意向あり』は約1割となっている。

起業の際に期待する支援については、「起業のための資金調達（融資・補助金等）の支援をしてほしい」が5割半ばと最も多く、「起業に伴う各種手続きを教えてほしい」が4割半ばと続く。

起業したくない理由としては、「起業することに現実味がない、起業したいと考えたことがない」が4割強と最も多く、「起業するための能力、知識、経験がない」が3割半ばと続く。

8. 越谷市の伝統的手工芸品について

越谷市の伝統的手工芸品の認知について、『知っている』は「越谷だるま」が8割弱と最も多く、「越谷手焼きせんべい」が7割弱、「越谷ひな人形」が6割強と続く。また、「買ったことがある」では、「越谷手焼きせんべい」が4割強と最も多く、「越谷だるま」が約2割、「越谷ひな人形」が約1割と続く。

越谷市伝統的手工芸品に期待する取組みについては、「技術の継承（後継者の育成）」「見学・体験などの受入れ」がともに3割半ばと多くなっている。

9. 医療費適正化（医療費通知）について

加入保険については、「被用者保険」が3割半ば、「国民健康保険組合」「越谷市国民健康保険」が2割強となっている。

医療費通知の内容については、「確認している」が7割強で、医療費通知を受け取ったことで「健康な身体づくりを意識しようと思う」「医療機関への適正な受診を心がけようと思う」が7割弱となっている。

医療費通知に関する意見では「通知の必要性を感じない、無駄である、やめた方がよい」が最も多くなっている。

10. 景観（風景）について

住まいの地区の景観（風景）の満足度は、「満足している」と「十分とはいえないが、概ね満足している」を合わせた『満足』が6割強となっている。

良い景観（風景）のまちをつくるため行政に望むものは、「良好な景観づくりに役立つ公共事業」「目標や基本方針を住民に示す」がともに約4割で多くなっている。

11. こしがやブランド認定品について

こしがやブランド認定品については、「知っていて、買ったことがある」と「知っているが、買ったことはない」を合わせた『知っている』が約5割、「知っていて、買ったことがある」は2割強となっている。購入した理由としては「家族や友人等と食べるため」が約5割と最も多くなっている。

こしがやブランド認定品に求めるものについては、「市のイメージアップやPR活動につながること」が約4割と最も多くなっている。

12. 地場農産物や地産地消について

越谷の農業特産物の認知については、「くわい」が6割強と最も多く、「ねぎ」が約6割で続く。

購入経験については、「ねぎ」が6割と最も多く、「小松菜」「いちご」が4割半ばと続く。

野菜の購入場所については、「スーパーマーケット」が約9割と最も多く、野菜を購入するときに意識することは「鮮度の良さ」が8割半ばで最も多くなっている。

地産地消推進に必要なことについては、「スーパーマーケットなど、地場農産物を購入できる店の増加」が8割弱で最も多くなっている。

1 3. 住宅用火災警報器の設置状況について

住宅用火災警報器の設置状況は「設置されている」が約7割、設置場所は「台所」が7割半ば、「寝室」が5割半ばとなっている。

住宅用火災警報器の点検については、『点検方法を知っている』が6割強で、「点検方法を知っていて定期的に実施している」は約3割、交換時期について「知っている」は3割弱となっている。

1 4. 自治基本条例について

「越谷市自治基本条例」は、「よく知っている」と「まあまあ知っている」を合わせた『知っている』は1割に満たない結果となっている。

関心のある市政に参加する方法については、「アンケート」が4割強と最も多くなっている。

関心のあるまちづくりの分野については、「暮らしの安全・安心に関すること（防災、防犯、消防、消費生活など）」が約6割と最も多く、「福祉に関すること（社会保障、児童福祉、障がい者福祉、高齢者福祉など）」が5割強と続く。

まちづくりのためにできることについては、「お祭りや町内会・自治会などが主催するイベントに参加する」が5割半ばと最も多く、「ボランティア活動に参加する」「町内会・自治会の会員（役員）として活動する」が2割強と続く。

協働の担い手については、「自治会」が5割半ばと最も多く、「行政」が約4割で続く。

1 5. 越谷市への愛着度と魅力発信について

越谷市への愛着については、「とても愛着がある」と「愛着がある」と「やや愛着がある」を合わせた『愛着がある』は7割半ばとなっている。

愛着がある理由としては、「交通の利便性がよく、都内等に近い」が7割半ばと最も多く、「ショッピング施設や商店街が豊富」が5割弱と続く。

越谷市の誇れるものについては、「イオンレイクタウン」が約6割と最も多く、「南越谷阿波踊り」が約5割と続く。

観光やレジャーで知りたい情報については、「イベントや催しなどの催事情報」が約5割と最も多く、「観光施設や花の名所などの『観て』楽しむ観光情報」が3割半ばと続く。

観光情報を得る方法については、「ホームページ」が約4割と最も多く、「友人・知人等からの口コミ」が4割弱となっている。

越谷駅東口高架下の拠点施設への期待については、「ご当地グルメ、地場野菜の惣菜などの提供」が5割強と最も多く、「こしがやブランド認定品、伝統的手工芸品、ガーヤちゃんグッズなどの市内特産物の販売」が4割強と続く。

16. スポーツ・レクリエーションの実施状況について

この1年間のスポーツ・レクリエーション活動の実施状況については、『週1回以上』が4割弱となっている。

活動を行った主な理由については「運動不足解消」が6割半ばと最も多く、「健康、体力維持・増進」が5割半ばと続く。

活動の効果については「運動不足が解消した」が約5割と最も多くなっている。

活動を行っていない理由については、「仕事（家事、育児も含む）や勉強が忙しいから」が約4割と最も多く、「年をとったから」が約2割と続く。

今後、行ってみたい活動内容は、比較的軽いスポーツでは「ウォーキング」、野外活動では「ハイキング」、競技的スポーツでは「テニス」が最も多くなっている。

17. 地域医療体制について

地域医療体制の認知については、「越谷市夜間急患診療所」が7割半ば、「休日当番医制度」が7割強、「小児救急電話相談（#8000）」が4割半ば、「大人の救急電話相談（#7000）」が3割半ばとなっている。

医療機関の情報の入手方法については、「広報こしがや『お知らせ版』や『季刊版』」が4割半ばと最も多く、「インターネットで調べる（越谷市・埼玉県公式ホームページを除く）」が4割弱と続く。

夜間や休日の急病の対応については、「越谷市夜間急患診療所を利用する」が3割半ばと最も多く、「受診できる医療機関を調べ、その医療機関を利用する」が約3割と続く。

18. 広報について

市政情報を主に得ているものは、「広報こしがや『お知らせ版』や『季刊版』」が7割強と最も多くなっている。

市政情報を得るために活用したことがあるものでは、「広報こしがや『お知らせ版』や『季刊版』」が約7割と最も多く、「越谷市公式ホームページ」が3割弱と続く。

広報こしがや「お知らせ版」は、「分かりやすい」と「おおむね分かりやすい」を合わせた『分かりやすい』が7割半ば、広報こしがや「季刊版」は『分かりやすい』が約7割となっている。

19. 越谷市の施策について

越谷市で進めている施策について、ここ数年のうちで「よくなってきたと感じるもの」は、「駅周辺の整備」が約4割と最も多く、「バス路線等公共交通網の充実」が1割半ばと続く。

今後の市政の中で「特に力を入れるべきだと思われるもの」は、「水害や地震などの災害対策」が3割半ばと最も多く、「防犯対策」が約3割と続く。

第4章 調査結果の詳細

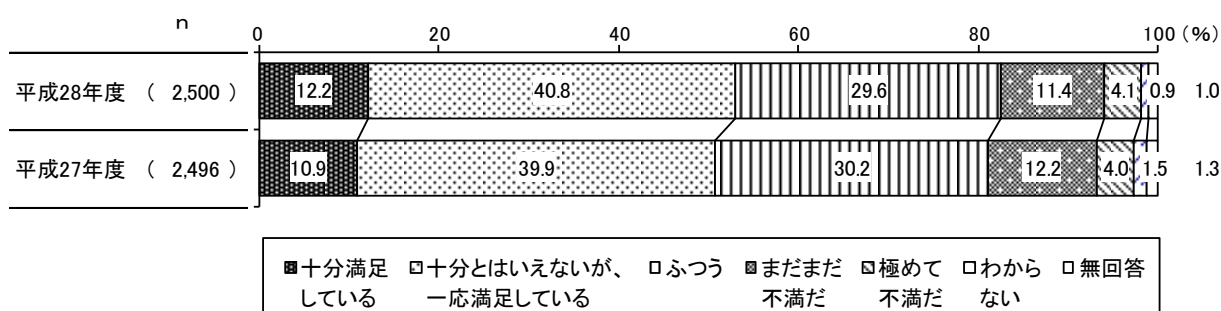
1. 暮らしや居住意向について

(1) 現在の暮らし向き

◇『満足』が5割強

問8. あなたは現在の暮らし向きについて、どのように思っていますか。(〇は1つ)

図表1-1-1 現在の暮らし向き

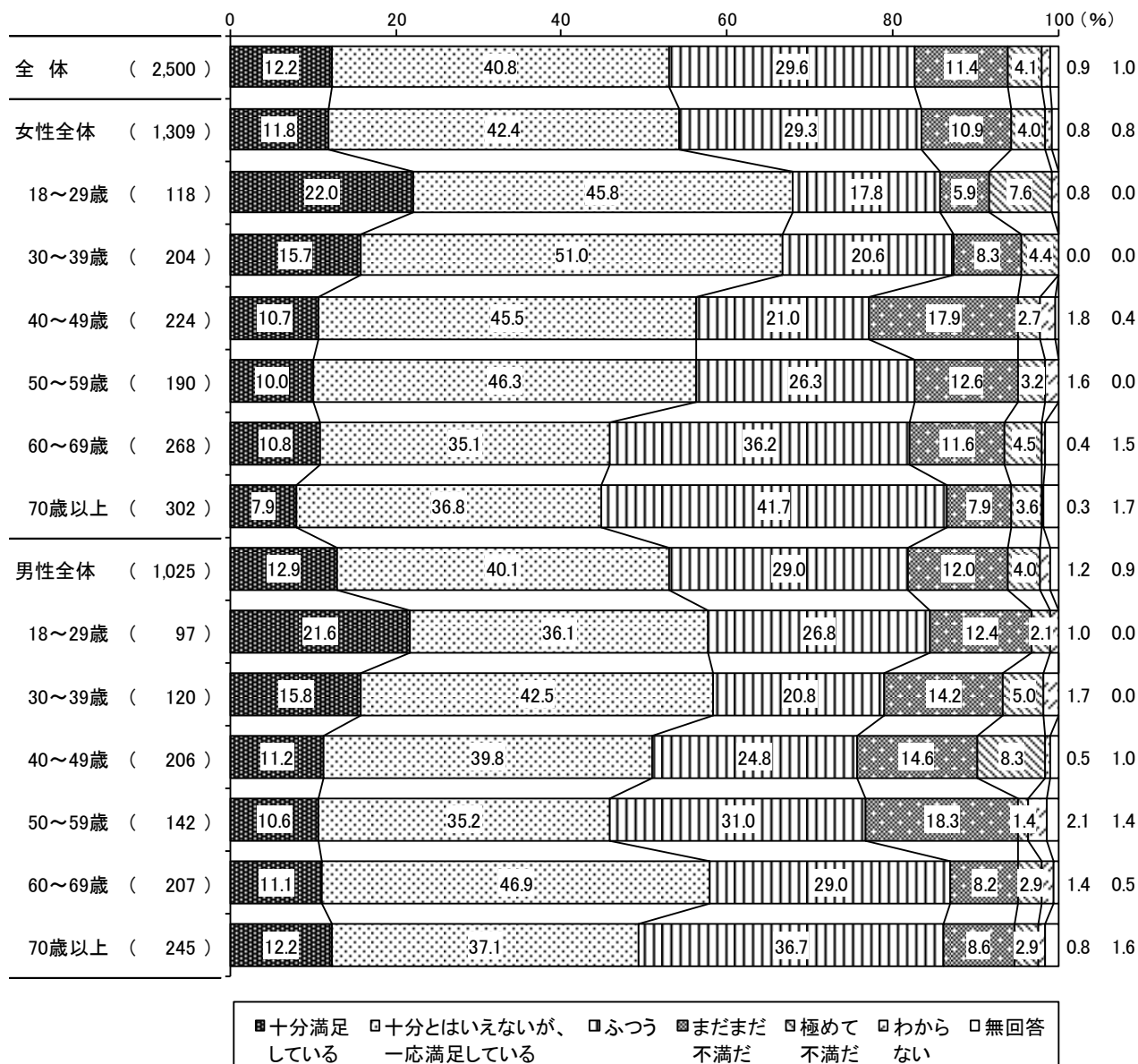


現在の暮らし向きについては、「十分とはいえないが、一応満足している」(40.8%)が最も多く、次いで、「ふつう」(29.6%)、「十分満足している」(12.2%)、「まだまだ不満だ」(11.4%)、「極めて不満だ」(4.1%)となっている。「十分満足している」と「十分とはいえないが、一応満足している」を合わせた『満足』(53.0%)は5割を超えている。

前回の調査と比較すると、『満足』(53.0%)は平成27年度調査(50.8%)と比べ2.2ポイント増加している。また、「まだまだ不満だ」と「極めて不満だ」を合わせた『不満』(15.5%)は平成27年度調査(16.2%)と比べ0.7ポイント減少している。

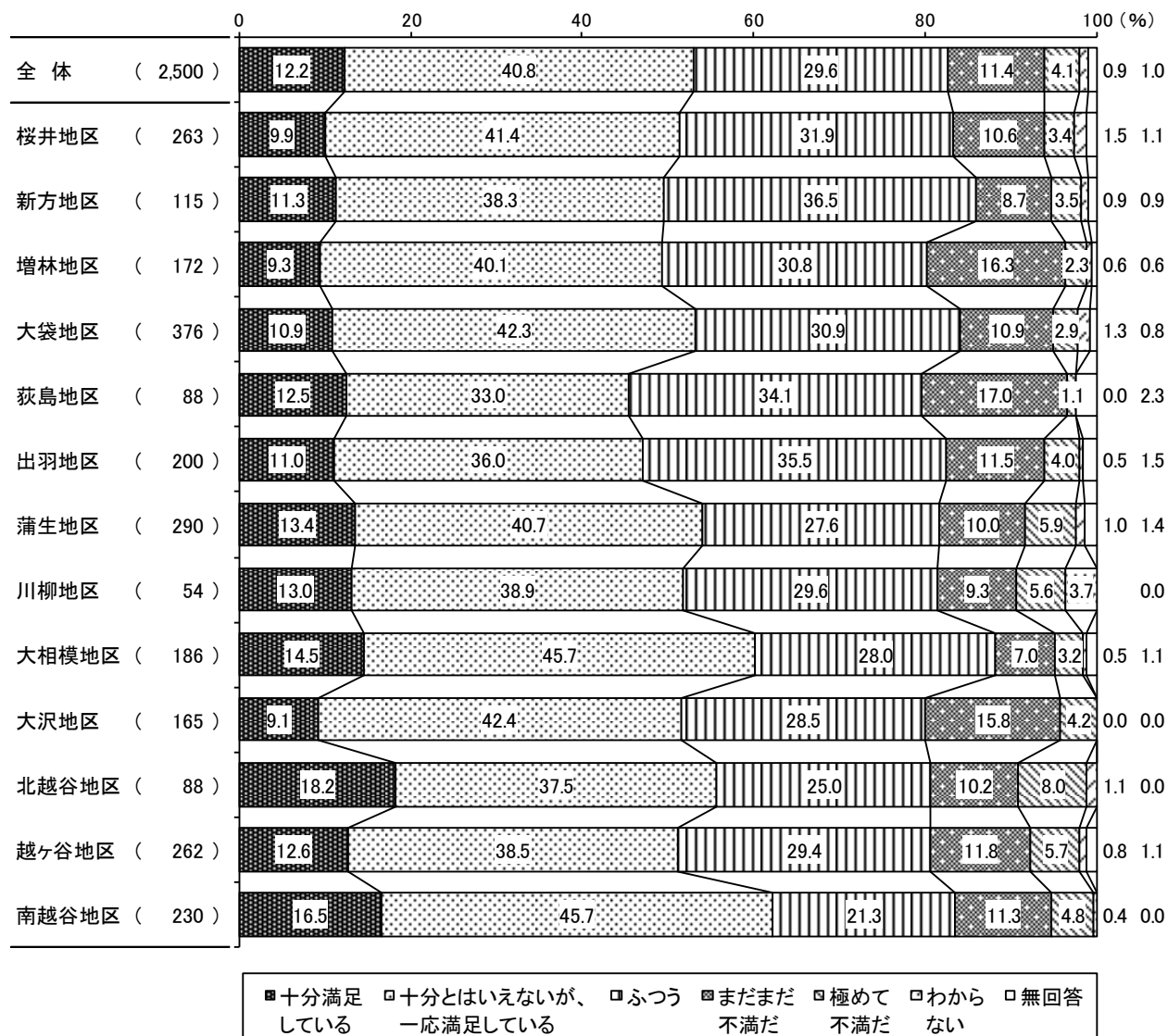
性別で見ると、『満足』は女性（54.2%）が男性（53.0%）より1.2ポイント高くなっている。
 性・年齢別で見ると、『満足』は女性18～29歳（67.8%）、女性30～39歳（66.7%）で6割半ば以上と多くなっている。

図表1-1-2 性・年齢別 現在の暮らし向き



居住地区別でみると、『満足』は南越谷地区（62.2%）、大相模地区（60.2%）で6割以上と多くなっている。一方、『不満』は大沢地区（20.0%）で2割と最も多くなっている。

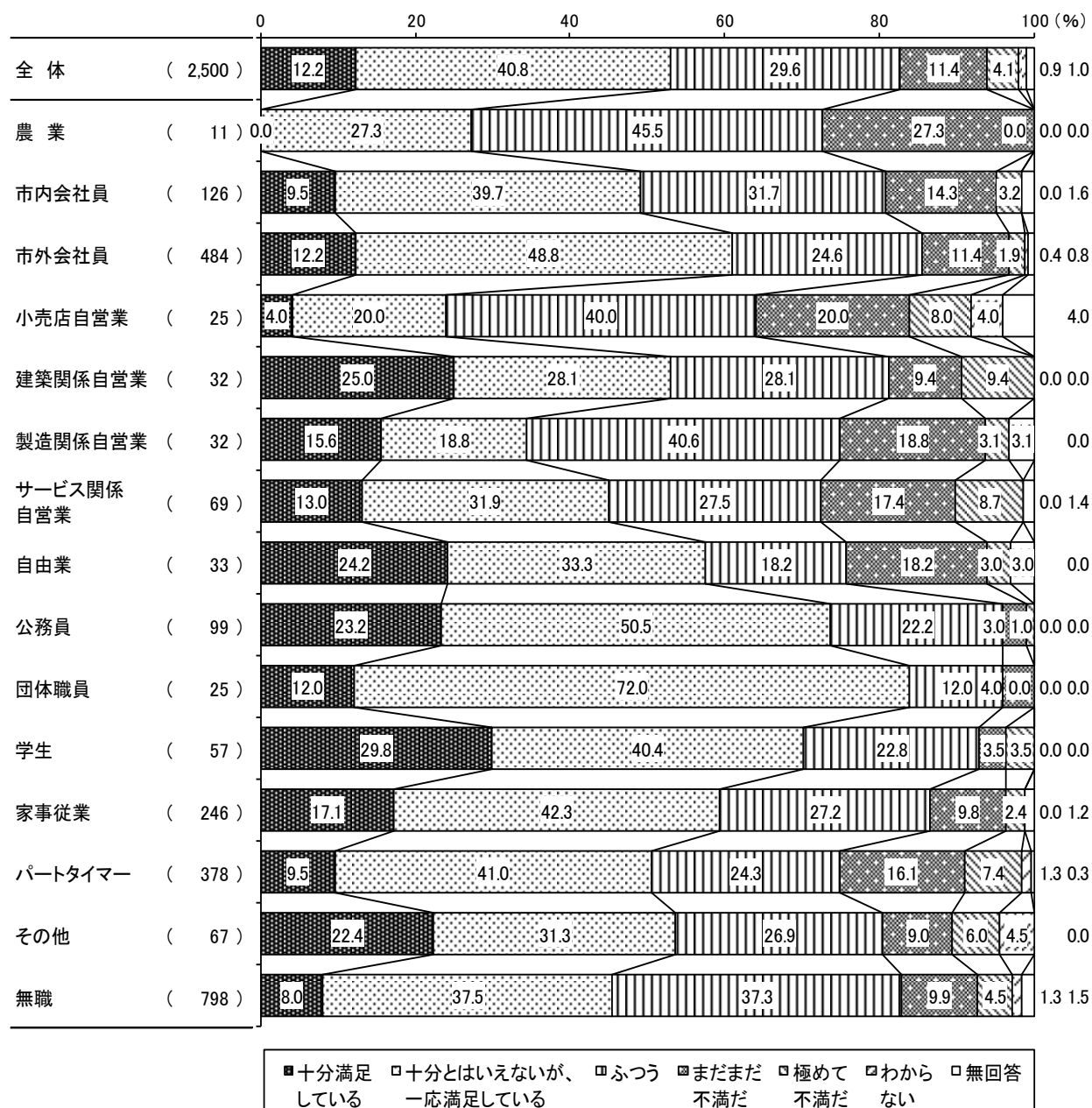
図表1-1-3 居住地区別 現在の暮らし向き



職業別で見ると、『満足』は団体職員（84.0%）、公務員（73.7%）、学生（70.2%）で7割以上と多くなっている。一方、『不満』はサービス関係自営業（26.1%）で2割半ばと多くなっている。

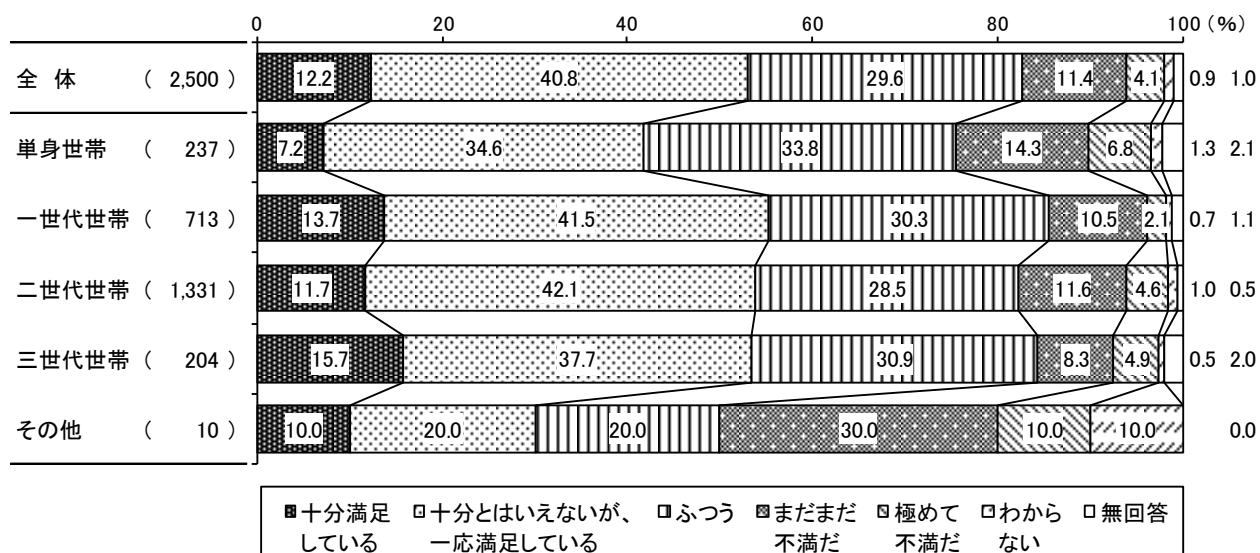
※ 調査数が少ないもの（本調査では30人未満とする）については記述の対象としない

図表1-1-4 職業別 現在の暮らし向き



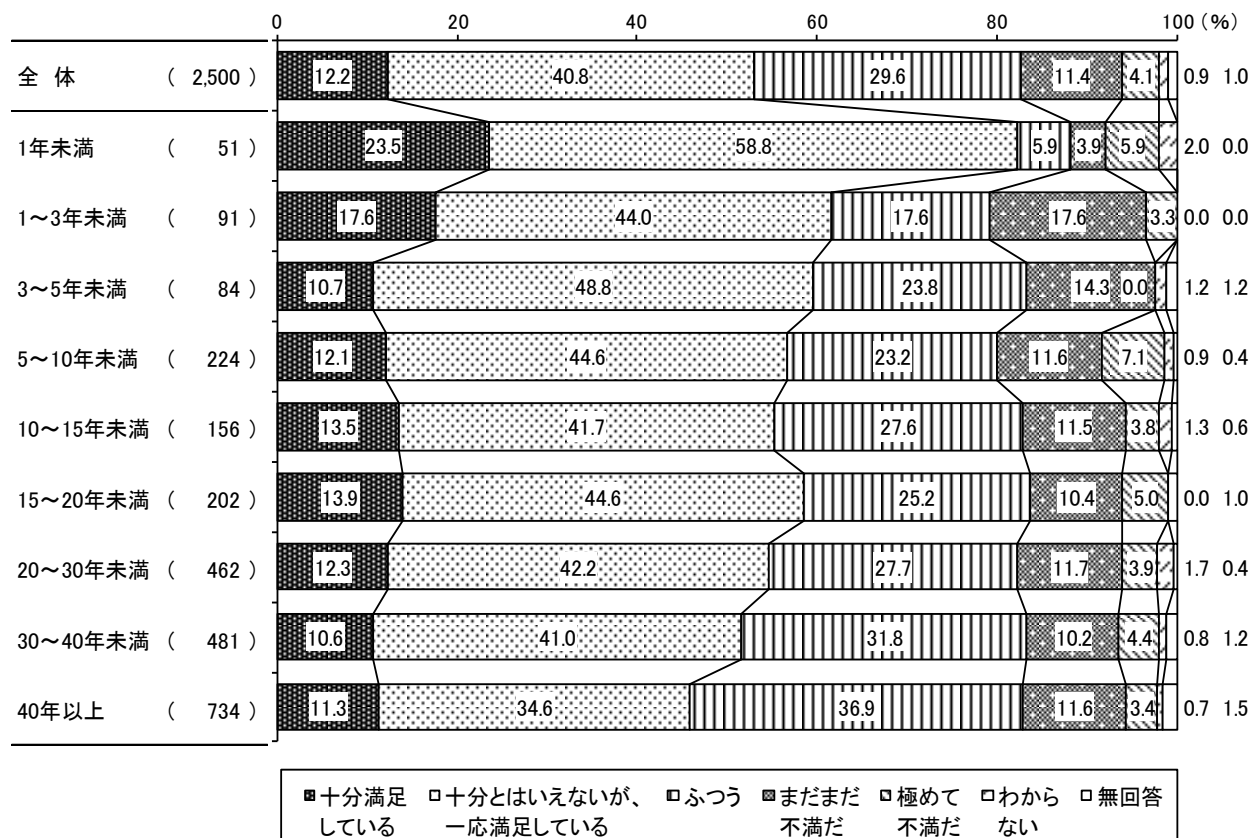
世帯状況別でみると、『満足』は単身世帯（41.8%）で最も少なくなっている。

図表 1-1-5 世帯状況別 現在の暮らし向き



居住年数別でみると、『満足』は1年未満（82.3%）で8割強と多くなっている。一方、『不満』は1～3年未満（20.9%）で約2割とやや多くなっている。

図表1-1-6 居住年数別 現在の暮らし向き

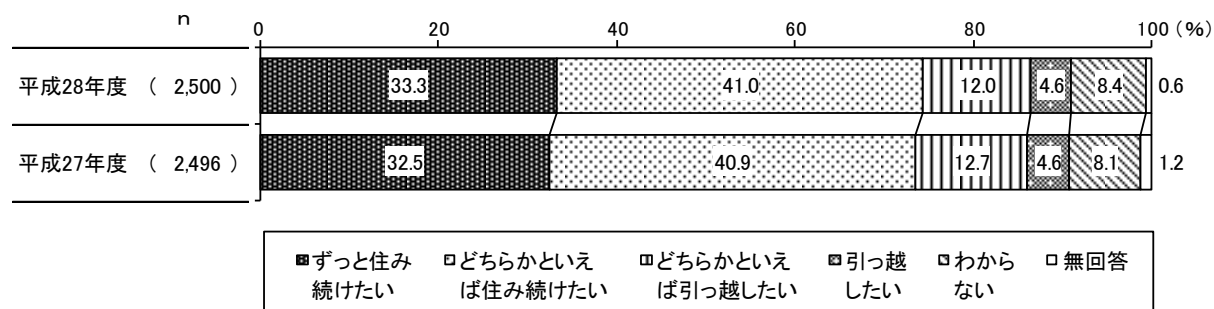


(2) 居住意向

◇『定住意向』は7割半ば

問9. あなたは今後も、現在のところに住み続けたいと思いますか。(○は1つ)

図表1-2-1 居住意向



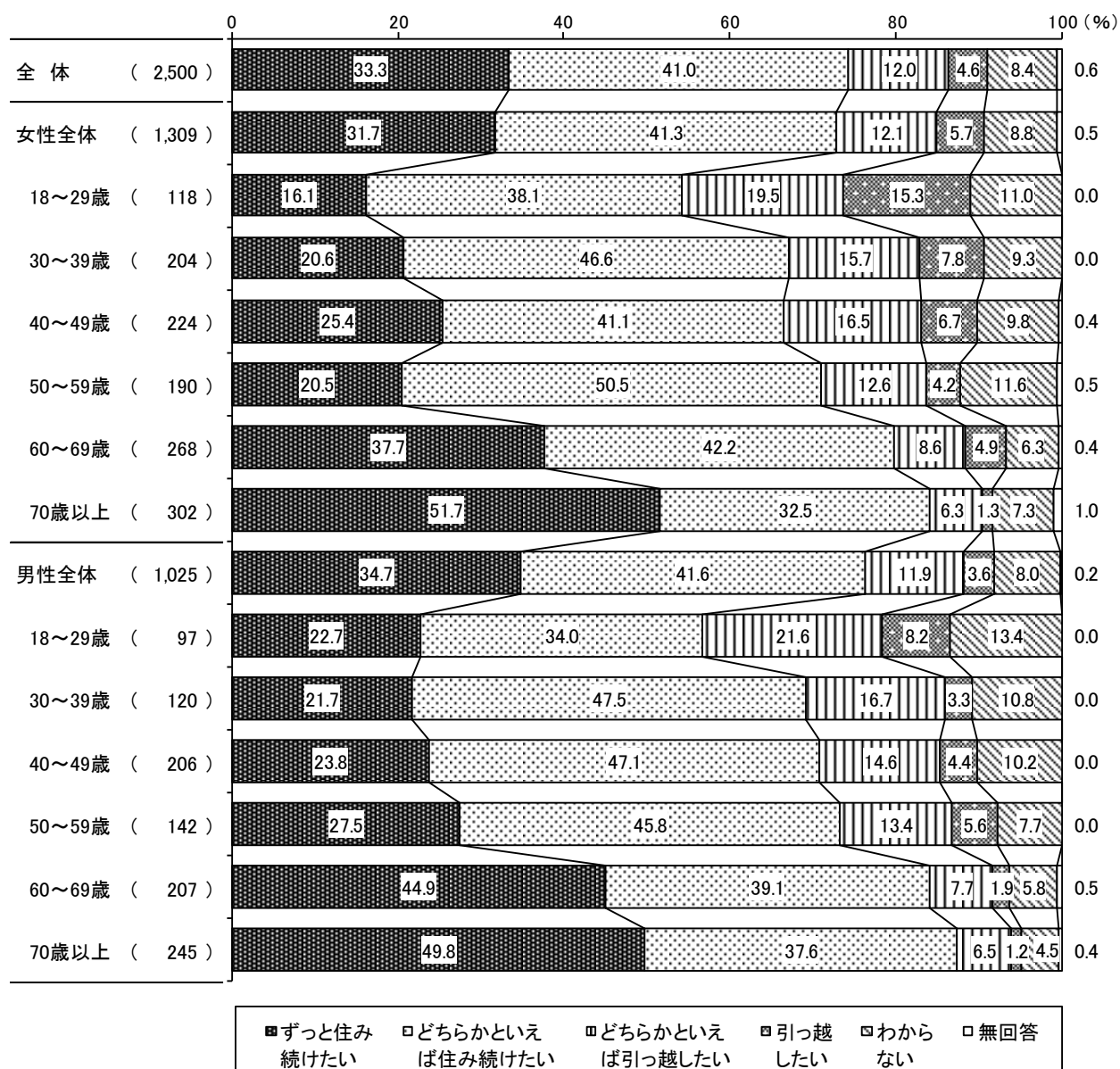
今後の居住意向については、「どちらかといえば住み続けたい」(41.0%)が最も多く、次いで、「ずっと住み続けたい」(33.3%)、「どちらかといえば引っ越したい」(12.0%)、「引っ越したい」(4.6%)の順となっている。

「ずっと住み続けたい」と「どちらかといえば住み続けたい」の合計を『定住意向』とすると、『定住意向』(74.3%)は7割半ばとなっている。

前回の調査と比較すると、『定住意向』(74.3%)は平成27年度調査(73.4%)と比べ0.9ポイント増加している。同様に、「どちらかといえば引っ越したい」と「引っ越したい」を合わせた『転居意向』(16.6%)は平成27年度調査(17.3%)と比べ0.7ポイント減少している。

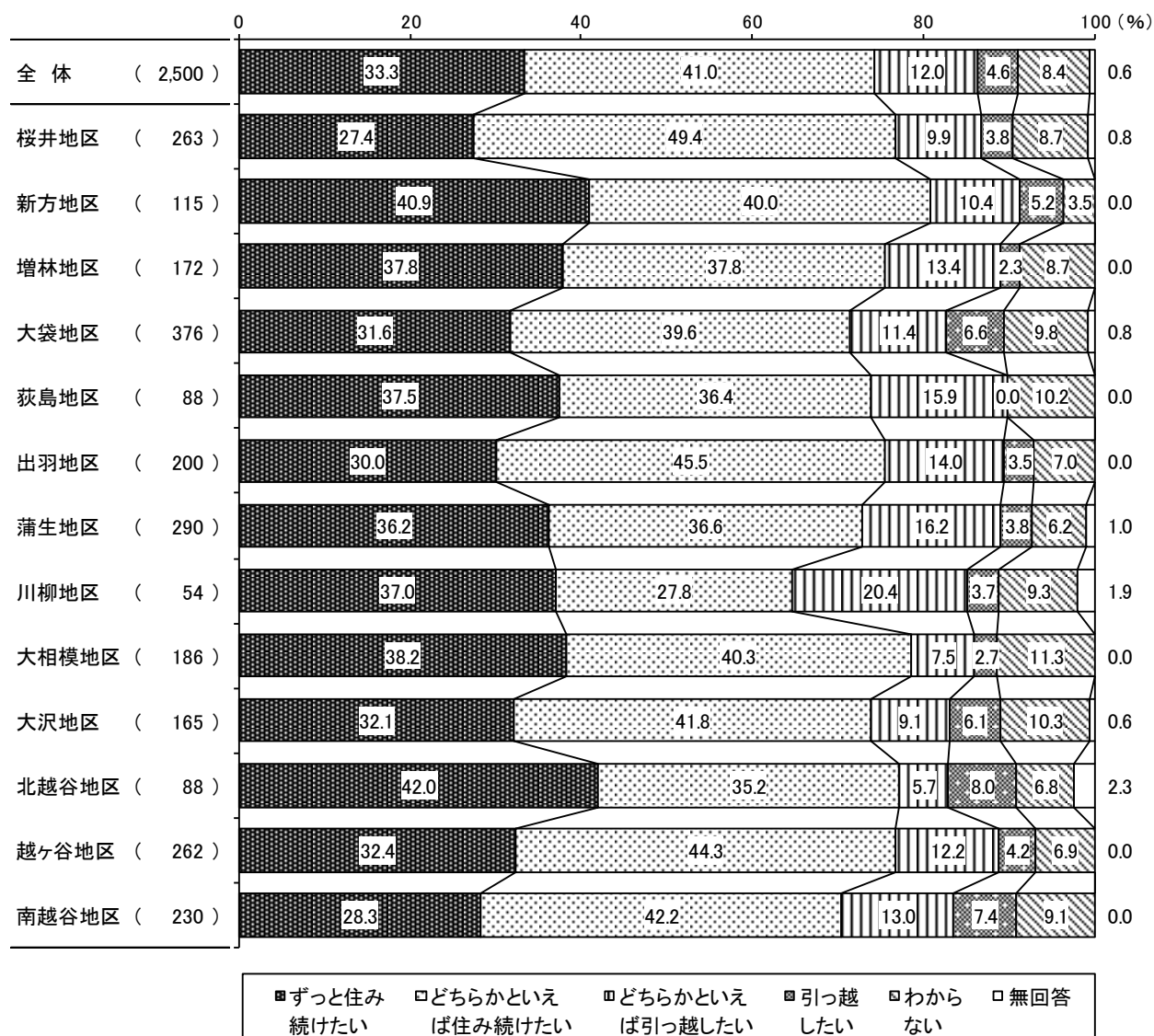
性別でみると、『定住意向』は男性（76.3%）が女性（73.0%）より3.3ポイント高くなっている。
 性・年齢別でみると、『定住意向』は男性70歳以上（87.4%）、女性70歳以上（84.2%）、男性60～69歳（84.0%）、女性60～69歳（79.9%）でおよそ8割以上と多くなっている。一方、「転居意向」は女性18～29歳（34.8%）で3割半ば、男性18～29歳（29.8%）で約3割と多くなっている。

図表1-2-2 性・年齢別 居住意向



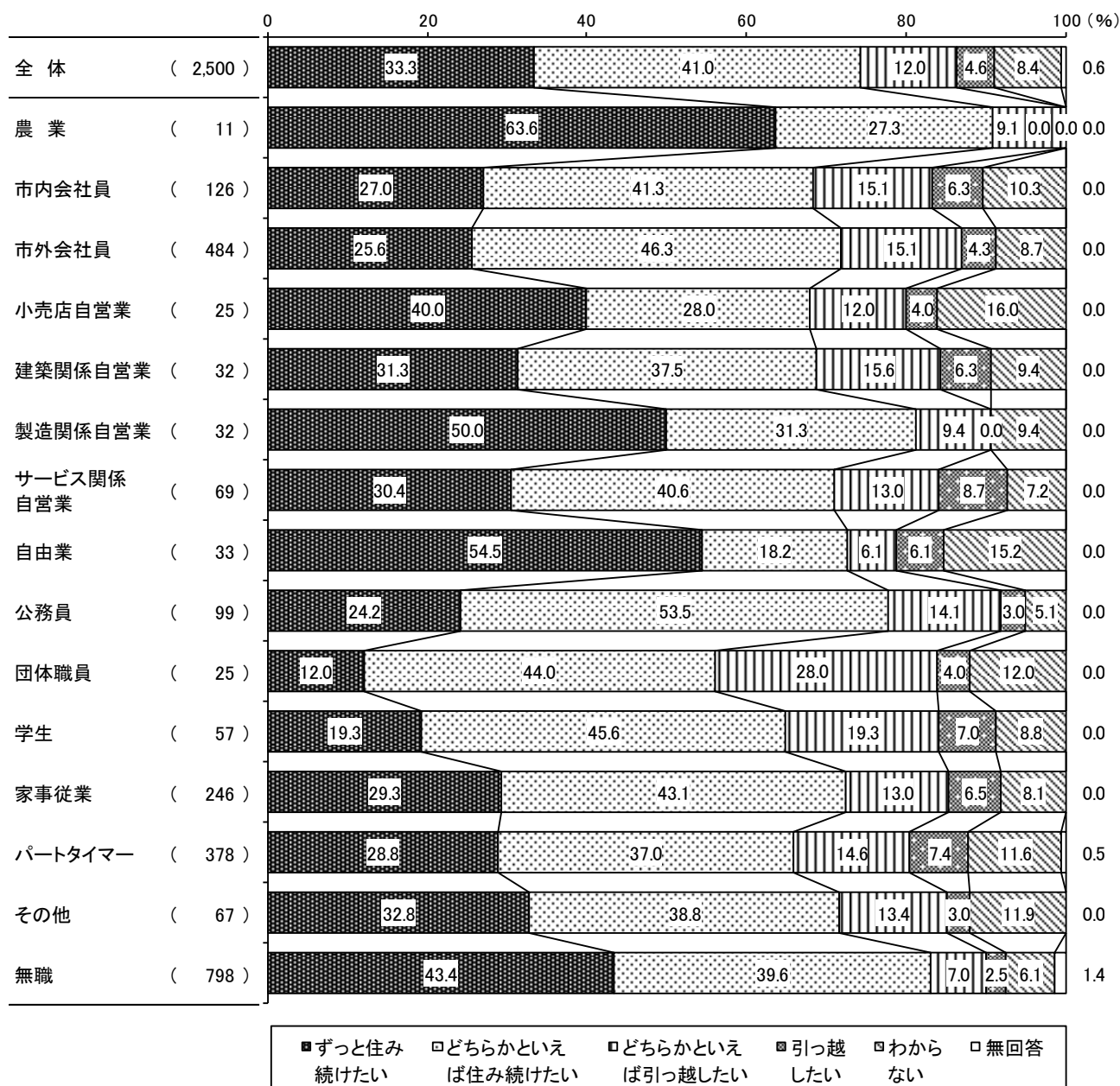
居住地区別でみると、『定住意向』は新方地区（80.9%）で約8割と最も多くなっている。

図表1-2-3 居住地区別 居住意向



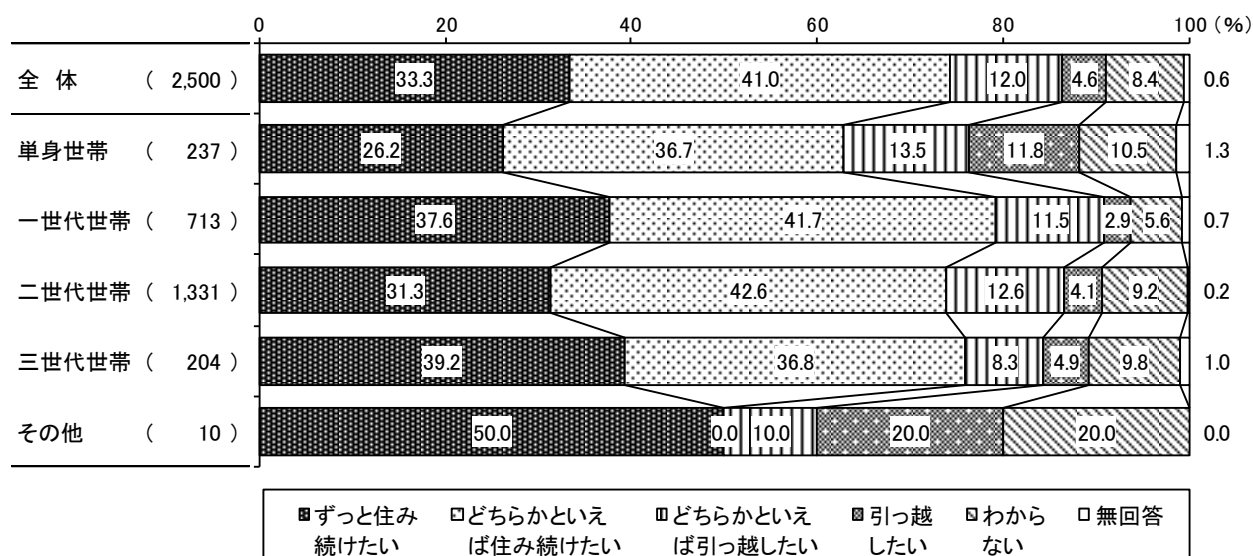
職業別でみると、『定住意向』は農業(90.9%)で約9割と最も多くなっている。次いで、無職(83.0%)、製造関係自営業(81.3%)が8割以上となっている。一方、『転居意向』は団体職員(32.0%)で3割強と多くなっている。

図表1-2-4 職業別 居住意向



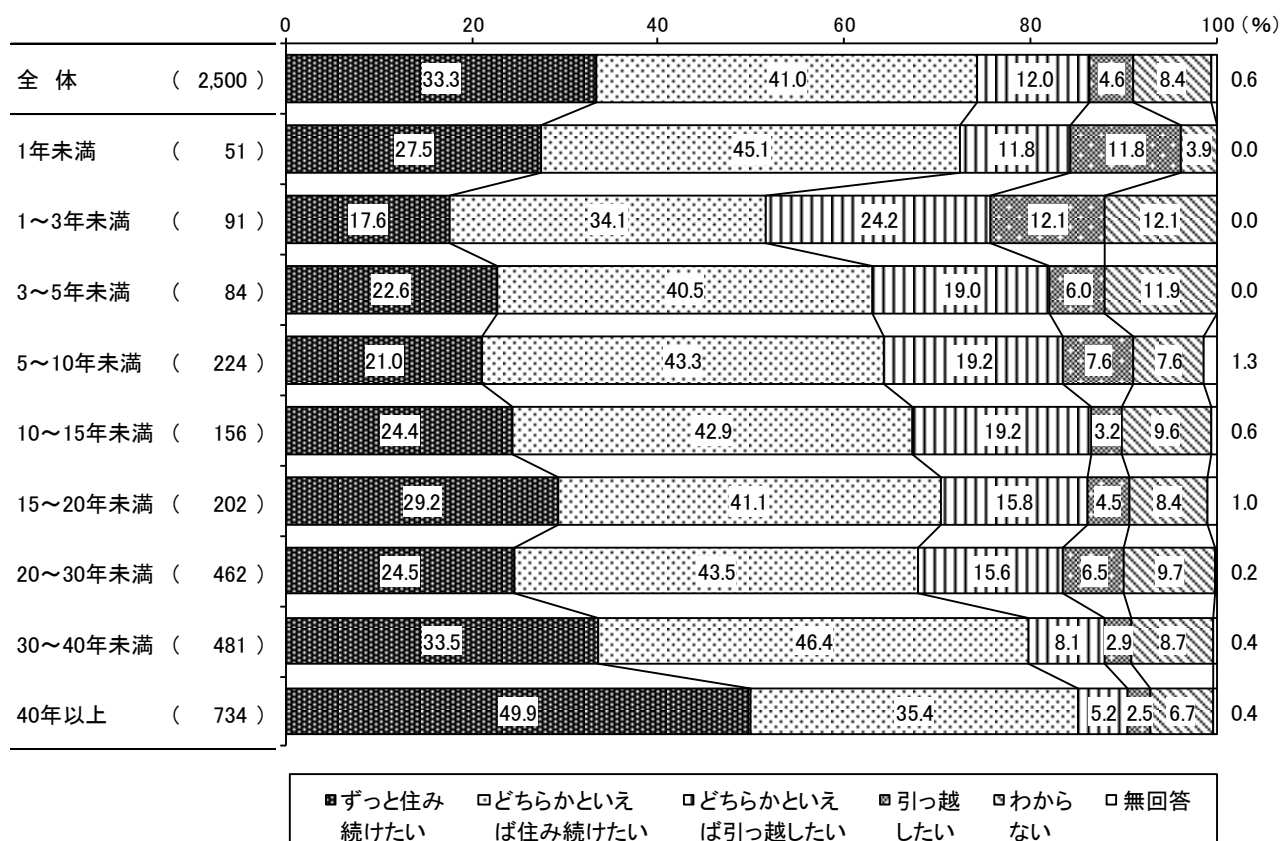
世帯状況別でみると、『定住意向』は一世代世帯（79.3%）で約8割と最も多く、次いで、三世代世帯（76.0%）が7割半ばと多くなっている。一方、『転居意向』は単身世帯（25.3%）で2割半ばと多くなっている。

図表1-2-5 世帯状況別 居留意向



居住年数別でみると、『定住意向』は40年以上（85.3%）で8割半ばと最も多く、次いで、30～40年未満（79.9%）が約8割と多くなっている。一方、『転居意向』は1～3年未満（36.3%）が3割半ばと最も多く、5～10年未満（26.8%）、3～5年未満（25.0%）で2割半ばと多くなっている。

図表1-2-6 居住年数別 居住意向

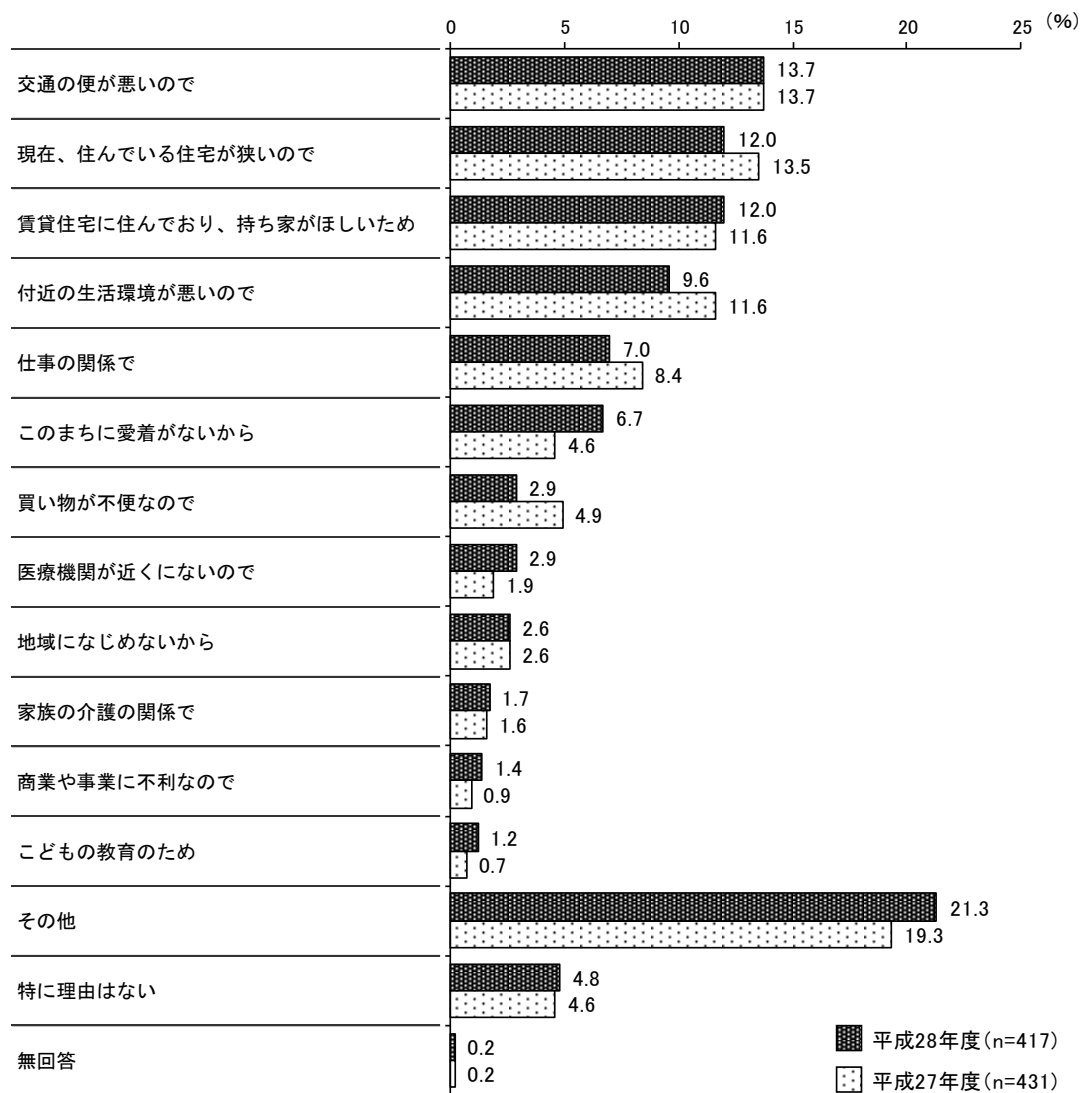


(3) 転居意向の理由

◇「交通の便が悪いので」が最も多く、1割強

問9-2. 問9で「3」または「4」と答えた方（引っ越したいと答えた方）に伺います。
 引っ越したいと思われる主な理由は何ですか。（○は1つ）

図表 1-3-1 転居意向の理由



『転居意向』のある 417 人に引っ越したいと思う主な理由を聞いたところ、「交通の便が悪いので」(13.7%) が最も多く、次いで、「現在、住んでいる住宅が狭いので」(12.0%)、「賃貸住宅に住んでおり、持ち家がほしいため」(12.0%)、「付近の生活環境が悪いので」(9.6%)、「仕事の関係で」(7.0%) の順となっている。また、「その他」として「水害が心配」「故郷に帰る」「税金が高い」等が挙げられた。

前回の調査と比較すると、「このまちに愛着がないから」で2.1ポイント増加している。

性別で見ると、女性は「交通の便が悪いので」(14.2%)が最も多く、次いで、「現在、住んでいる住宅が狭いので」(13.8%)、「賃貸住宅に住んでおり、持ち家がほしいため」(12.9%)となっている。男性は「交通の便が悪いので」「賃貸住宅に住んでおり、持ち家がほしいため」(ともに12.6%)が最も多く、次いで、「付近の生活環境が悪いので」(11.9%)となっている。

性・年齢別で見ると、「賃貸住宅に住んでおり、持ち家がほしいため」は男性18～29歳(27.6%)、女性30～39歳(27.1%)で3割弱と多くなっている。また、「現在、住んでいる住宅が狭いので」は女性30～39歳(22.9%)、男性60～69歳(20.0%)で2割以上、「付近の生活環境が悪いので」は男性40～49歳(20.5%)、男性60～69歳(20.0%)で約2割と多くなっている。

図表1-3-2 性・年齢別 転居意向の理由

(%)

	調査数(人)	商業や事業に不利なので	交通の便が悪いので	現在、住んでいる住宅が狭いので	付近の生活環境が悪いので	仕事の関係で	賃貸住宅に住んでおり、持ち家がほしいため	こどもの教育のため	買物に不便なので	医療機関が近くにない	このまちに愛着がないから	地域になじめないから	家族の介護の関係で	その他	特に理由はない	無回答
全体	417	1.4	13.7	12.0	9.6	7.0	12.0	1.2	2.9	2.9	6.7	2.6	1.7	21.3	4.8	0.2
女性全体	232	0.4	14.2	13.8	7.8	5.2	12.9	2.2	2.6	1.7	5.2	3.4	1.3	25.4	3.9	-
18～29歳	41	-	17.1	14.6	4.9	12.2	19.5	2.4	2.4	-	2.4	2.4	-	19.5	2.4	-
30～39歳	48	-	6.3	22.9	2.1	10.4	27.1	4.2	2.1	2.1	-	4.2	2.1	12.5	4.2	-
40～49歳	52	-	9.6	13.5	5.8	1.9	15.4	3.8	1.9	-	7.7	1.9	1.9	34.6	1.9	-
50～59歳	32	3.1	15.6	3.1	15.6	3.1	3.1	-	6.3	-	12.5	-	3.1	34.4	-	-
60～69歳	36	-	22.2	13.9	13.9	-	-	-	-	2.8	2.8	8.3	-	30.6	5.6	-
70歳以上	23	-	21.7	8.7	8.7	-	-	-	4.3	8.7	8.7	4.3	-	21.7	13.0	-
男性全体	159	1.9	12.6	10.7	11.9	9.4	12.6	-	3.1	4.4	8.2	1.3	2.5	15.1	5.7	0.6
18～29歳	29	3.4	20.7	10.3	3.4	17.2	27.6	-	-	-	10.3	-	-	3.4	3.4	-
30～39歳	24	4.2	8.3	4.2	4.2	16.7	12.5	-	4.2	-	8.3	4.2	4.2	12.5	16.7	-
40～49歳	39	-	17.9	7.7	20.5	7.7	7.7	-	7.7	7.7	7.7	-	2.6	12.8	-	-
50～59歳	27	-	11.1	14.8	11.1	11.1	11.1	-	3.7	3.7	11.1	-	3.7	14.8	3.7	-
60～69歳	20	5.0	5.0	20.0	20.0	-	10.0	-	-	-	5.0	-	5.0	20.0	10.0	-
70歳以上	19	-	5.3	10.5	5.3	-	5.3	-	-	15.8	5.3	5.3	-	36.8	5.3	5.3

居住地区別でみると、「交通の便が悪いので」は荻島地区（42.9%）で4割強と最も多くなっている。また、「賃貸住宅に住んでおり、持ち家がほしいため」は北越谷地区（25.0%）で2割半ば、「付近の生活環境が悪いので」は新方地区（22.2%）で2割強、「現在、住んでいる住宅が狭いので」は南越谷地区（21.3%）で約2割と最も多くなっている。

図表1-3-3 居住地区別 転居意向の理由

(%)

	調査数（人）	商業や事業に不利なので	交通の便が悪いので	現在、住んでいる住宅が狭いので	付近の生活環境が悪いので	仕事の関係で	賃貸住宅に住んでおり、持ち家がほしいため	こどもの教育のため	買い物が不便なので	医療機関が近くにない	このまちに愛着がないから	地域になじめないから	家族の介護の関係で	その他	特に理由はない	無回答
全 体	417	1.4	13.7	12.0	9.6	7.0	12.0	1.2	2.9	2.9	6.7	2.6	1.7	21.3	4.8	0.2
桜井地区	36	-	11.1	8.3	11.1	5.6	8.3	5.6	2.8	-	13.9	2.8	-	22.2	8.3	-
新方地区	18	-	27.8	-	22.2	-	5.6	-	-	5.6	5.6	-	11.1	22.2	-	-
増林地区	27	-	22.2	7.4	7.4	7.4	11.1	-	-	-	3.7	7.4	-	25.9	7.4	-
大袋地区	68	-	17.6	7.4	4.4	10.3	13.2	1.5	2.9	7.4	4.4	-	1.5	26.5	2.9	-
荻島地区	14	-	42.9	7.1	21.4	-	-	-	7.1	14.3	-	-	-	7.1	-	-
出羽地区	35	-	20.0	14.3	8.6	-	2.9	2.9	2.9	2.9	5.7	-	-	31.4	8.6	-
蒲生地区	58	3.4	5.2	19.0	13.8	6.9	17.2	-	1.7	-	12.1	1.7	-	12.1	6.9	-
川柳地区	13	-	7.7	7.7	7.7	15.4	7.7	-	7.7	7.7	15.4	7.7	-	7.7	7.7	-
大相模地区	19	5.3	26.3	5.3	15.8	-	5.3	5.3	5.3	-	5.3	-	-	26.3	-	-
大沢地区	25	-	8.0	16.0	12.0	-	16.0	-	-	-	4.0	-	4.0	32.0	8.0	-
北越谷地区	12	-	16.7	8.3	-	16.7	25.0	-	-	8.3	-	-	8.3	16.7	-	-
越ヶ谷地区	43	2.3	7.0	14.0	7.0	18.6	20.9	-	7.0	-	2.3	4.7	-	14.0	2.3	-
南越谷地区	47	4.3	2.1	21.3	6.4	4.3	10.6	-	2.1	2.1	8.5	8.5	4.3	21.3	4.3	-

職業別でみると、「賃貸住宅に住んでおり、持ち家がほしいため」は家事従業（27.1%）で3割弱と最も多く、「仕事の関係で」は市外会社員（16.0%）で1割半ばと最も多くなっている。

※ 調査数が少ないもの（本調査では30人未満とする）については記述の対象としない

図表1-3-4 職業別 転居意向の理由

	調査数（人）	商業や事業に不利なので	交通の便が悪いので	現在、住んでいる住宅が狭いので	付近の生活環境が悪いので	仕事の関係で	賃貸住宅に住んでおり、持ち家がほしいため	こどもの教育のため	買い物が不便なので	医療機関が近くにない	このまちに愛着がないから	地域になじめないから	家族の介護の関係で	その他	特に理由はない	無回答
全体	417	1.4	13.7	12.0	9.6	7.0	12.0	1.2	2.9	2.9	6.7	2.6	1.7	21.3	4.8	0.2
農業	1	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-
市内会社員	27	3.7	7.4	3.7	14.8	11.1	11.1	3.7	-	-	3.7	-	-	37.0	3.7	-
市外会社員	94	2.1	12.8	10.6	9.6	16.0	17.0	-	3.2	1.1	8.5	-	2.1	11.7	5.3	-
小売店自営業	4	25.0	-	25.0	25.0	25.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
建築関係自営業	7	-	14.3	14.3	28.6	-	14.3	-	14.3	-	-	-	-	14.3	-	-
製造関係自営業	3	-	33.3	-	-	-	-	-	-	-	-	33.3	-	-	33.3	-
サービス関係自営業	15	-	13.3	20.0	6.7	6.7	6.7	-	6.7	-	13.3	-	-	20.0	-	6.7
自由業	4	-	-	25.0	-	-	-	-	-	-	25.0	-	-	50.0	-	-
公務員	17	-	23.5	11.8	-	-	11.8	11.8	5.9	11.8	5.9	-	11.8	5.9	-	-
団体職員	8	-	-	12.5	12.5	12.5	-	-	-	-	-	-	12.5	37.5	12.5	-
学生	15	6.7	26.7	6.7	6.7	6.7	13.3	-	-	-	13.3	-	-	20.0	-	-
家事従業	48	-	12.5	18.8	8.3	2.1	27.1	4.2	-	2.1	2.1	4.2	-	18.8	-	-
パートタイマー	83	1.2	14.5	14.5	10.8	7.2	7.2	-	2.4	-	6.0	3.6	2.4	27.7	2.4	-
その他	11	-	9.1	18.2	-	-	-	-	-	-	18.2	-	-	45.5	9.1	-
無職	76	-	14.5	7.9	9.2	-	5.3	-	3.9	10.5	6.6	6.6	-	23.7	11.8	-

世帯状況別でみると、「現在、住んでいる住宅が狭いので」は三世帯世帯（18.5%）で2割弱と最も多く、「交通の便が悪いので」は二世帯世帯（16.6%）で1割半ばと最も多くなっている。また、「賃貸住宅に住んでおり、持ち家がほしいため」は一世帯世帯（14.6%）で、「付近の生活環境が悪いので」は二世帯世帯（12.1%）で最も多くなっている。

図表1-3-5 世帯状況別 転居意向の理由

	調査数（人）	商業や事業に不利なので	交通の便が悪いので	現在、住んでいる住宅が狭いので	付近の生活環境が悪いので	仕事の関係で	賃貸住宅に住んでおり、持ち家がほしいため	こどもの教育のため	買い物が不便なので	医療機関が近くにない	このまちに愛着がないから	地域になじめないから	家族の介護の関係で	その他	特に理由はない	無回答
全体	417	1.4	13.7	12.0	9.6	7.0	12.0	1.2	2.9	2.9	6.7	2.6	1.7	21.3	4.8	0.2
単身世帯	60	-	10.0	15.0	3.3	11.7	8.3	-	-	5.0	10.0	5.0	-	20.0	11.7	-
一世帯世帯	103	2.9	12.6	9.7	8.7	5.8	14.6	-	2.9	1.9	4.9	2.9	2.9	25.2	4.9	-
二世帯世帯	223	0.9	16.6	10.8	12.1	6.7	12.6	1.8	3.6	3.1	7.2	1.3	1.3	18.8	3.1	-
三世帯世帯	27	3.7	3.7	18.5	7.4	3.7	3.7	3.7	3.7	-	3.7	7.4	3.7	33.3	-	3.7
その他	3	-	-	33.3	-	-	33.3	-	-	-	-	-	-	-	33.3	-

居住年数別でみると、「賃貸住宅に住んでおり、持ち家がほしいため」は1年未満（41.7%）で約4割と最も多く、1～3年未満（24.2%）、3～5年未満（23.8%）も2割以上と多くなっている。また、「現在、住んでいる住宅が狭いので」は3～5年未満（23.8%）で、「交通の便が悪いので」は40年以上（23.2%）で2割強以上と最も多くなっている。

図表1-3-6 居住年数別 転居意向の理由

	調査数（人）	商業や事業に不利なので	交通の便が悪いので	現在、住んでいる住宅が狭いので	付近の生活環境が悪いので	仕事の関係で	賃貸住宅に住んでおり、持ち家がほしいため	こどもの教育のため	買い物が不便なので	医療機関が近くにない	このまちに愛着がないから	地域になじめないから	家族の介護の関係で	その他	特に理由はない	無回答
全体	417	1.4	13.7	12.0	9.6	7.0	12.0	1.2	2.9	2.9	6.7	2.6	1.7	21.3	4.8	0.2
1年未満	12	-	-	-	-	16.7	41.7	-	-	8.3	16.7	-	8.3	8.3	-	-
1～3年未満	33	-	15.2	18.2	-	12.1	24.2	-	6.1	-	12.1	-	-	9.1	3.0	-
3～5年未満	21	4.8	4.8	23.8	-	14.3	23.8	4.8	-	-	4.8	-	4.8	14.3	-	-
5～10年未満	60	3.3	10.0	11.7	11.7	5.0	10.0	3.3	5.0	1.7	10.0	6.7	1.7	16.7	3.3	-
10～15年未満	35	-	8.6	8.6	11.4	8.6	8.6	-	2.9	-	5.7	5.7	-	25.7	14.3	-
15～20年未満	41	-	9.8	14.6	7.3	9.8	12.2	-	-	4.9	12.2	2.4	2.4	19.5	4.9	-
20～30年未満	102	2.9	16.7	10.8	11.8	7.8	9.8	1.0	1.0	1.0	5.9	2.0	2.0	21.6	5.9	-
30～40年未満	53	-	13.2	9.4	15.1	3.8	5.7	1.9	5.7	7.5	3.8	-	1.9	28.3	3.8	-
40年以上	56	-	23.2	10.7	10.7	-	8.9	-	1.8	5.4	-	3.6	-	30.4	3.6	1.8

2. 男女共同参画について

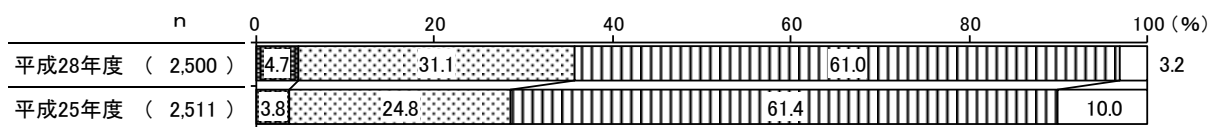
(1) 「ことば」や「ことがら」の認知

◇「内容を知っている」は「DV（ドメスティック・バイオレンス）」が7割強、「LGBT（同性愛者、両性愛者、心身の性別が一致しない者）」が5割半ば

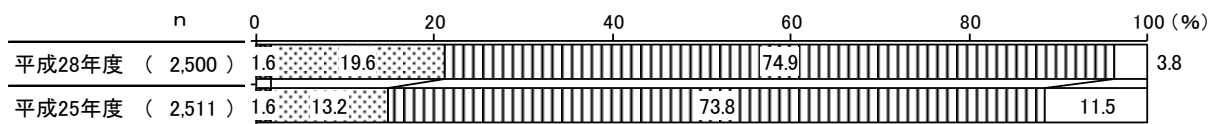
問10. 次に掲げる「ことば」や「ことがら」を知っていますか。(ア～ケそれぞれ〇は1つずつ)

図表2-1-1 「ことば」や「ことがら」の認知

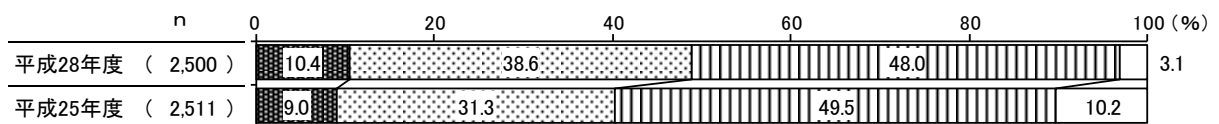
ア 越谷市男女共同参画推進条例



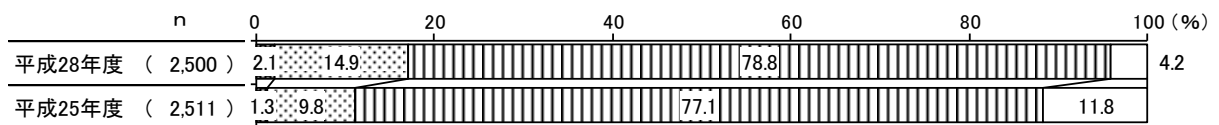
イ 第3次越谷市男女共同参画計画



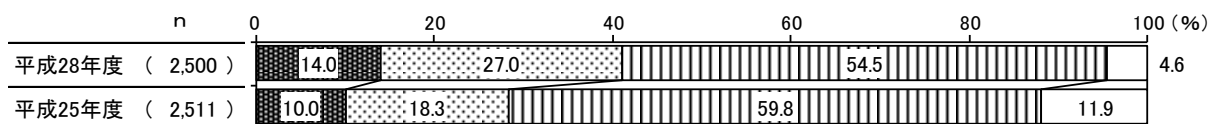
ウ 越谷市男女共同参画支援センター「ほっと越谷」



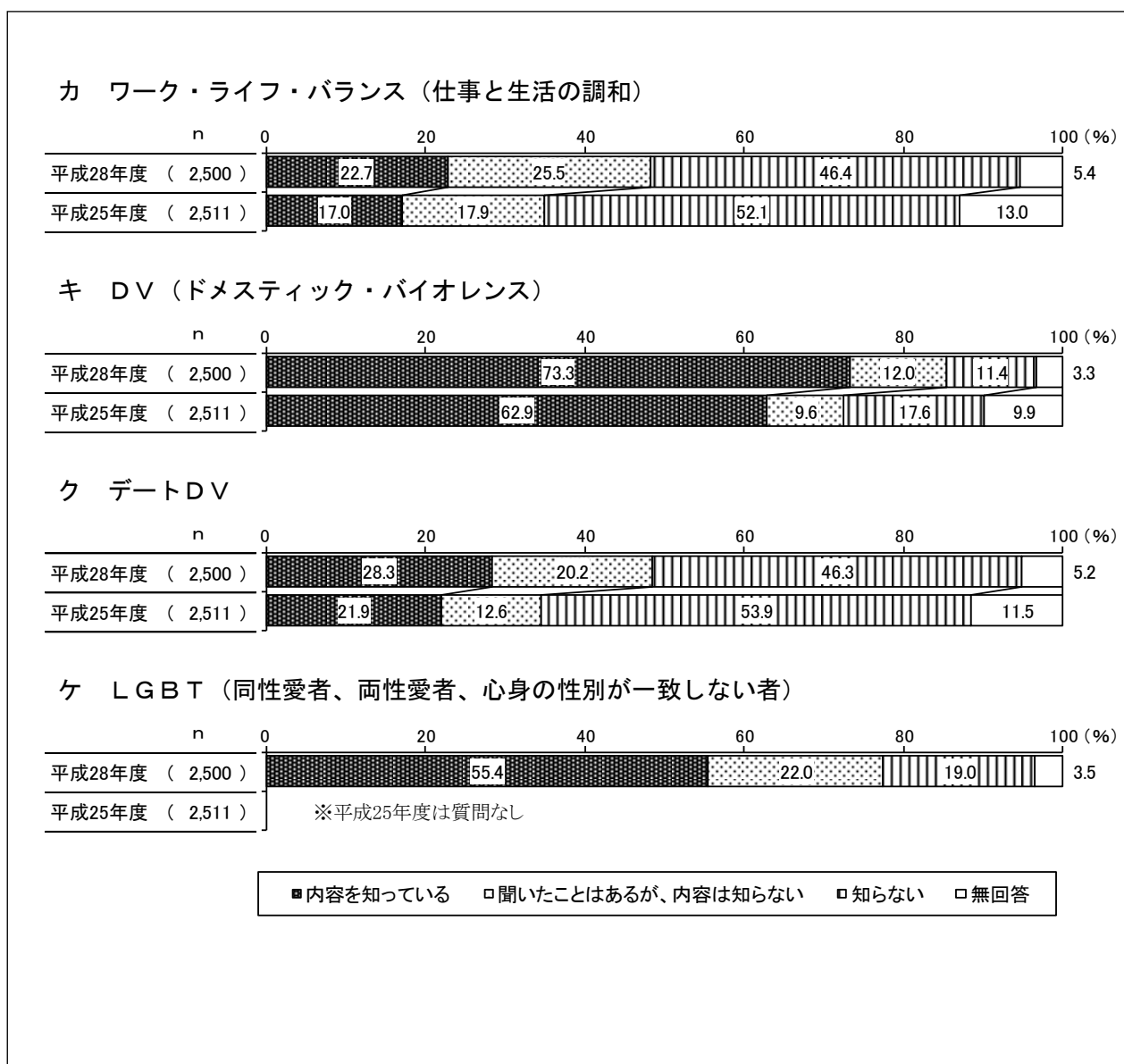
エ 越谷市男女共同参画苦情処理委員



オ 男女共同参画社会



■ 内容を知っている □ 聞いたことはあるが、内容は知らない □ 知らない □ 無回答



男女共同参画における「ことば」や「ことがら」の認知については、「内容を知っている」で「キ DV（ドメスティック・バイオレンス）」（73.3%）が7割強と最も多く、次いで、「ケ LGBT（同性愛者、両性愛者、心身の性別が一致しない者）」（55.4%）、「ク デートDV」（28.3%）、「カ ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」（22.7%）の順となっている。一方、「知らない」は「エ 越谷市男女共同参画苦情処理委員」（78.8%）、「イ 第3次越谷市男女共同参画計画」（74.9%）、「ア 越谷市男女共同参画推進条例」（61.0%）の順となっている。

前回の調査と比較すると、「内容を知っている」で「キ DV（ドメスティック・バイオレンス）」（73.3%）は平成25年度調査（62.9%）と比べ10.4ポイント、「ク デートDV」（28.3%）は平成25年度調査（21.9%）と比べ6.4ポイント、「カ ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」（22.7%）は平成25年度調査（17.0%）と比べ5.7ポイントそれぞれ増加している。

性別でみると、「内容を知っている」は「ウ 越谷市男女共同参画支援センター『ほっと越谷』」で女性（12.5%）が男性（7.9%）より4.6ポイント、「キ DV（ドメスティック・バイオレンス）」で女性（76.9%）が男性（71.6%）より5.3ポイントそれぞれ高くなっている。また、「ク デートDV」で女性（31.7%）が男性（25.7%）より6.0ポイント、「ケ LGBT（同性愛者、両性愛者、心身の性別が一致しない者）」で女性（60.5%）が男性（51.4%）より9.1ポイントそれぞれ高くなっている。一方、「オ 男女共同参画社会」で男性（15.6%）が女性（13.2%）より2.4ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「内容を知っている」は「ア 越谷市男女共同参画推進条例」で男性60～69歳（7.2%）、「イ 第3次越谷市男女共同参画計画」で男性60～69歳（3.4%）、「エ 越谷市男女共同参画苦情処理委員」で男性60～69歳（3.4%）で最も多く、「ウ 越谷市男女共同参画支援センター『ほっと越谷』」は女性40～49歳（14.7%）、女性60～69歳（14.6%）で多くなっている。また、「オ 男女共同参画社会」は女性18～29歳（37.3%）で「カ ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」では女性18～29歳（40.7%）で「キ DV（ドメスティック・バイオレンス）」では女性18～29歳（95.8%）で「ク デートDV」では「内容を知っている」は女性18～29歳（48.3%）で「ケ LGBT（同性愛者、両性愛者、心身の性別が一致しない者）」では女性18～29歳（76.3%）で最も多くなっている。

図表2-1-2 性・年齢別 「ことば」や「ことがら」の認知

(%)

	調査数(人)	ア 越谷市男女共同参画推進条例				イ 第3次越谷市男女共同参画計画				ウ 越谷市男女共同参画支援センター「ほっと越谷」				エ 越谷市男女共同参画苦情処理委員				オ 男女共同参画社会			
		内容を 知っている	聞いた 内容は 知らない があるが、	知らない	無 回答	内容を 知っている	聞いた 内容は 知らない があるが、	知らない	無 回答	内容を 知っている	聞いた 内容は 知らない があるが、	知らない	無 回答	内容を 知っている	聞いた 内容は 知らない があるが、	知らない	無 回答	内容を 知っている	聞いた 内容は 知らない があるが、	知らない	無 回答
全体	2,500	4.7	31.1	61.0	3.2	1.6	19.6	74.9	3.8	10.4	38.6	48.0	3.1	2.1	14.9	78.8	4.2	14.0	27.0	54.5	4.6
女性全体	1,309	4.6	32.9	59.6	2.9	1.3	19.6	75.5	3.6	12.5	45.0	39.9	2.7	2.1	16.0	77.9	3.9	13.2	28.0	54.6	4.2
18~29歳	118	3.4	19.5	77.1	-	0.8	11.9	87.3	-	10.2	33.9	55.9	-	0.8	11.9	87.3	-	37.3	29.7	33.1	-
30~39歳	204	3.9	23.5	72.1	0.5	1.5	9.8	88.2	0.5	9.8	42.6	47.5	-	2.0	9.3	88.2	0.5	13.7	20.6	64.7	1.0
40~49歳	224	3.6	33.5	62.5	0.4	0.4	16.1	83.0	0.4	14.7	48.7	36.2	0.4	2.2	12.1	84.4	1.3	10.7	27.7	61.2	0.4
50~59歳	190	4.7	41.6	53.7	-	1.1	21.6	77.4	-	13.7	54.2	31.6	0.5	1.6	15.8	82.6	-	16.8	34.7	47.4	1.1
60~69歳	268	5.6	39.6	53.7	1.1	1.9	26.5	70.1	1.5	14.6	45.1	38.8	1.5	2.6	19.4	76.5	1.5	10.4	30.6	56.7	2.2
70歳以上	302	5.3	33.1	51.0	10.6	1.7	24.8	60.3	13.2	10.9	42.4	37.4	9.3	2.6	22.5	60.9	13.9	5.6	26.2	54.0	14.2
男性全体	1,025	4.9	28.6	64.2	2.3	2.1	19.0	76.1	2.7	7.9	30.8	59.0	2.2	2.0	13.0	82.0	3.0	15.6	26.0	54.8	3.6
18~29歳	97	6.2	13.4	80.4	-	1.0	9.3	89.7	-	6.2	23.7	70.1	-	3.1	7.2	89.7	-	30.9	21.6	47.4	-
30~39歳	120	5.0	25.0	69.2	0.8	0.8	21.7	76.7	0.8	7.5	33.3	59.2	-	0.8	15.8	82.5	0.8	19.2	23.3	56.7	0.8
40~49歳	206	3.9	21.8	73.8	0.5	2.9	11.2	85.4	0.5	5.8	26.2	67.0	1.0	1.5	8.3	89.8	0.5	19.4	23.8	55.8	1.0
50~59歳	142	2.1	27.5	69.0	1.4	0.7	14.1	83.8	1.4	4.9	35.9	58.5	0.7	0.7	9.2	88.7	1.4	16.2	26.8	54.2	2.8
60~69歳	207	7.2	28.0	62.3	2.4	3.4	20.3	73.4	2.9	8.7	29.5	59.4	2.4	3.4	12.1	81.6	2.9	13.0	27.5	55.6	3.9
70歳以上	245	4.9	42.9	46.1	6.1	2.4	29.8	60.4	7.3	11.4	34.7	47.8	6.1	2.4	20.8	68.2	8.6	6.1	28.2	56.7	9.0

(%)

	調査数(人)	カ ワーク・ライフ・バランス (仕事と生活の調和)				キ DV (ドメスティック・バイオレンス)				ク デートDV				ケ LGBT ※			
		内容を 知っている	聞いた 内容は 知らない があるが、	知らない	無 回答	内容を 知っている	聞いた 内容は 知らない があるが、	知らない	無 回答	内容を 知っている	聞いた 内容は 知らない があるが、	知らない	無 回答	内容を 知っている	聞いた 内容は 知らない があるが、	知らない	無 回答
全体	2,500	22.7	25.5	46.4	5.4	73.3	12.0	11.4	3.3	28.3	20.2	46.3	5.2	55.4	22.0	19.0	3.5
女性全体	1,309	23.0	25.8	46.2	5.0	76.9	11.8	8.5	2.8	31.7	19.5	43.9	5.0	60.5	20.1	16.1	3.3
18~29歳	118	40.7	15.3	44.1	-	95.8	1.7	2.5	-	48.3	17.8	33.9	-	76.3	15.3	8.5	-
30~39歳	204	26.0	28.4	44.6	1.0	94.1	4.4	1.0	0.5	37.7	19.6	42.2	0.5	70.1	19.1	10.3	0.5
40~49歳	224	33.9	20.5	44.6	0.9	91.1	6.3	2.7	-	37.5	23.2	38.4	0.9	67.9	19.2	12.9	-
50~59歳	190	26.8	33.7	37.4	2.1	90.0	8.4	1.6	-	43.2	23.2	33.2	0.5	72.1	19.5	8.4	-
60~69歳	268	19.0	29.5	48.9	2.6	72.0	14.6	11.9	1.5	25.4	16.8	52.6	5.2	59.3	19.4	18.7	2.6
70歳以上	302	7.3	24.2	52.3	16.2	44.0	24.2	21.5	10.3	15.6	17.5	51.7	15.2	36.4	24.5	27.8	11.3
男性全体	1,025	23.8	25.4	46.4	4.4	71.6	11.2	14.6	2.5	25.7	20.8	49.6	4.0	51.4	24.5	22.0	2.1
18~29歳	97	35.1	21.6	43.3	-	89.7	2.1	8.2	-	34.0	25.8	39.2	1.0	57.7	22.7	19.6	-
30~39歳	120	34.2	22.5	41.7	1.7	87.5	5.8	5.8	0.8	35.0	16.7	48.3	-	58.3	22.5	19.2	-
40~49歳	206	35.9	24.8	37.4	1.9	84.5	9.2	6.3	-	30.6	26.7	41.3	1.5	62.6	19.9	17.5	-
50~59歳	142	25.4	26.1	47.2	1.4	83.8	8.5	7.7	-	30.3	21.8	46.5	1.4	63.4	23.9	12.7	-
60~69歳	207	16.4	29.5	47.3	6.8	66.7	17.4	13.5	2.4	17.9	21.3	55.1	5.8	49.8	25.6	22.7	1.9
70歳以上	245	8.6	24.9	57.1	9.4	42.4	15.5	33.9	8.2	15.9	15.5	59.2	9.4	30.6	29.4	32.7	7.3

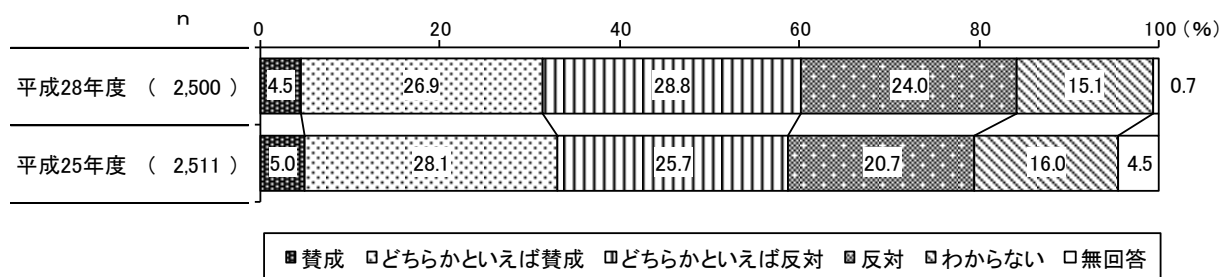
※ LGBT (同性愛者、両性愛者、心身の性別が一致しない者)

(2) 「男は仕事、女は家庭」という考え方の賛否

◇『賛成』が約3割、『反対』が5割強

問 11. 「男は仕事、女は家庭」という考え方がありますが、あなたはごどう思いますか。
 (○は1つ)

図表 2-2-1 「男は仕事、女は家庭」という考え方の賛否



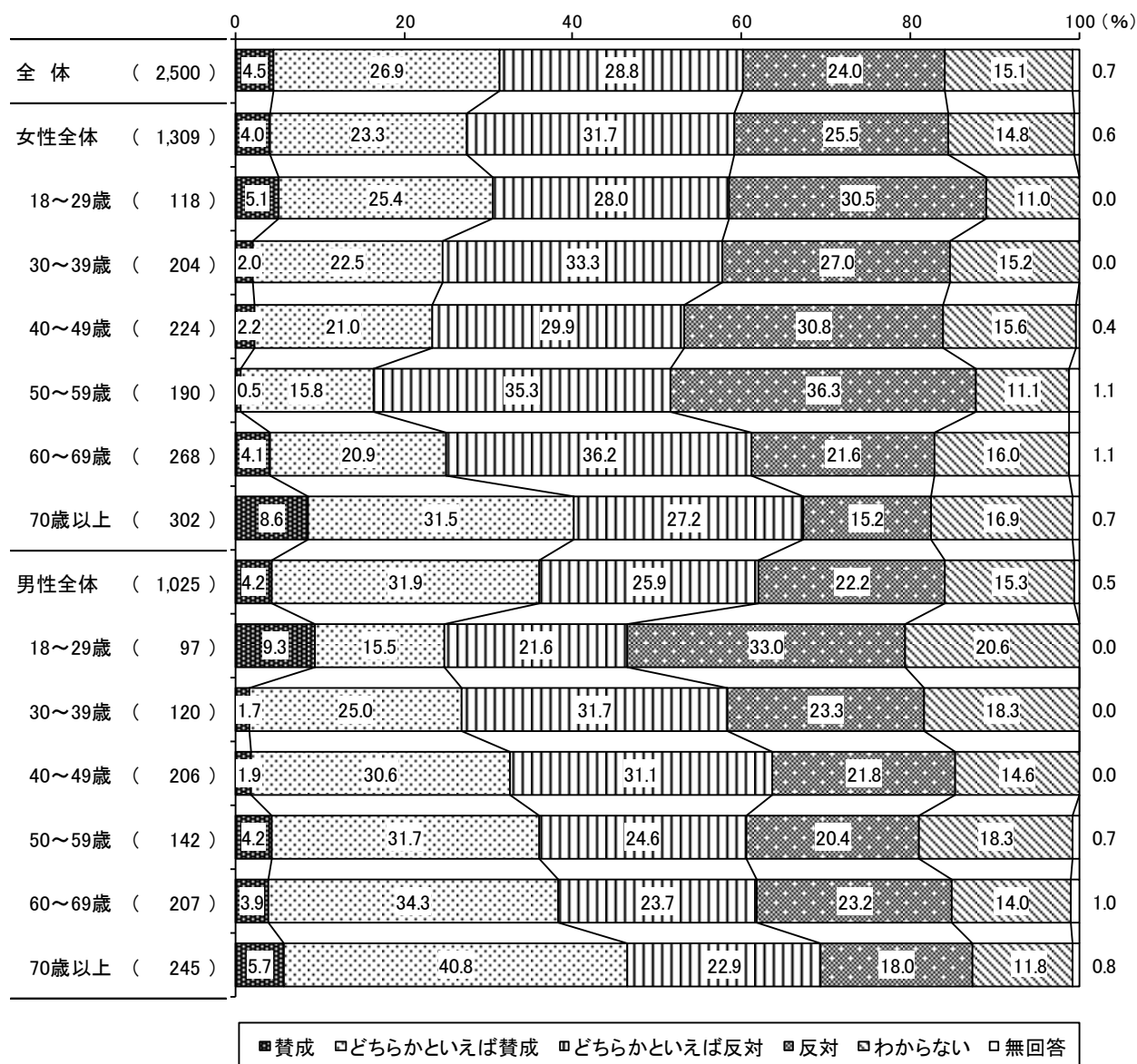
「男は仕事、女は家庭」という考え方の賛否については、「どちらかといえば反対」(28.8%)が最も多く、次いで、「どちらかといえば賛成」(26.9%)、「反対」(24.0%)、「賛成」(4.5%)の順となっている。「賛成」と「どちらかといえば賛成」を合わせた『賛成』(31.4%)と、「どちらかといえば反対」と「反対」を合わせた『反対』(52.8%)では、『反対』が上回る結果となっている。

前回の調査と比較すると、『賛成』(31.4%)は平成25年度調査(33.1%)と比べ1.7ポイント減少、『反対』(52.8%)は平成25年度調査(46.4%)と比べ6.4ポイント増加している。

性別で見ると、『賛成』は男性(36.1%)が女性(27.3%)より8.8ポイント高く、『反対』は女性(57.2%)が男性(48.1%)より9.1ポイント高くなっている。

性・年齢別で見ると、『賛成』は男性70歳以上(46.5%)、女性70歳以上(40.1%)で4割以上と多く、一方、『反対』は女性50～59歳(71.6%)で約7割と高くなっている。

図表2-2-2 性・年齢別 「男は仕事、女は家庭」という考え方の賛否

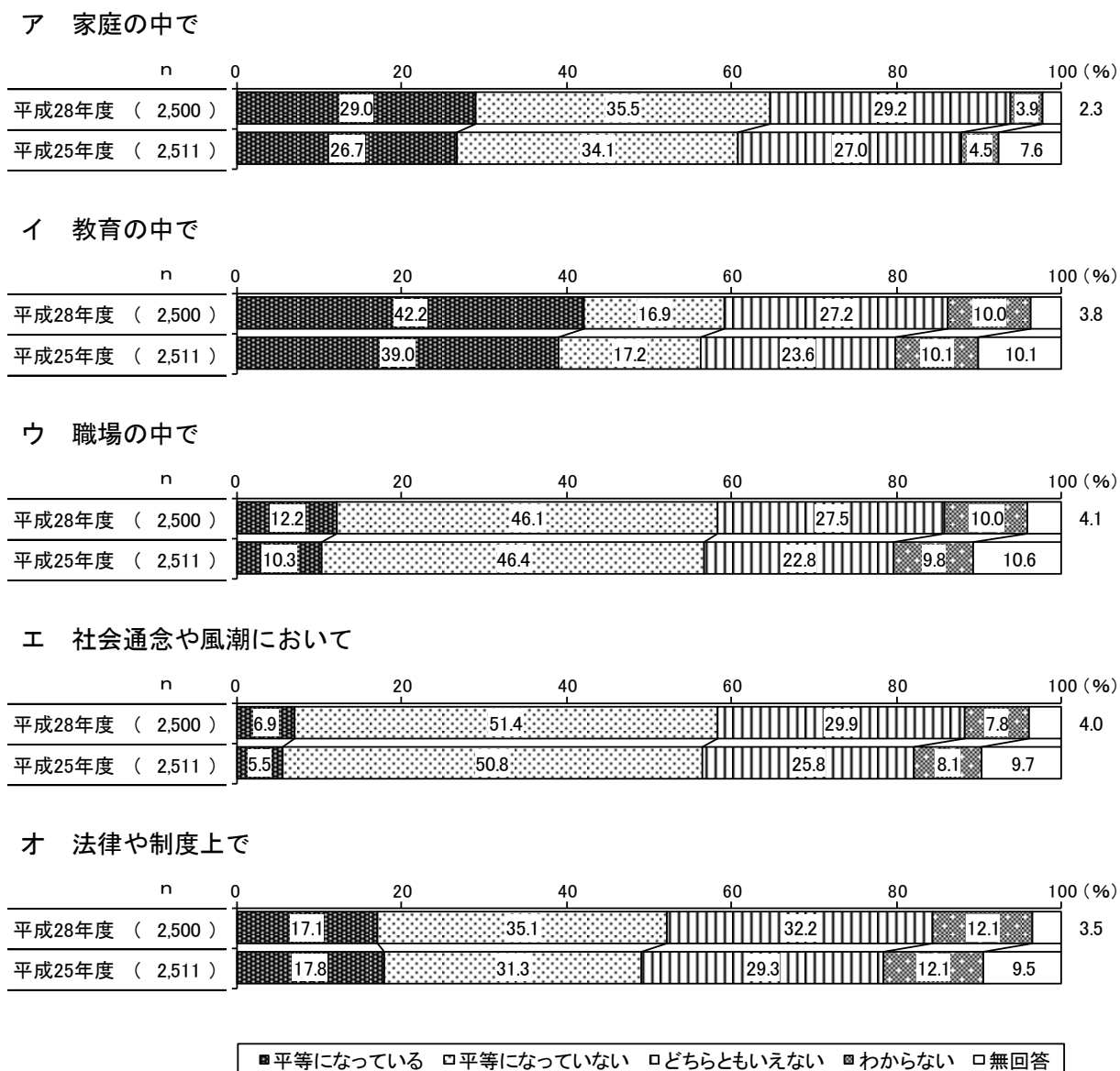


(3) 男女平等の考え

◇「平等になっていない」は「社会通念や風潮において」で約5割

問12. 次の分野で、男女は平等になっていると思いますか。(ア～オそれぞれ〇は1つずつ)

図表2-3-1 男女平等の考え



男女平等の考えについては、「平等になっている」は「イ 教育の中で」(42.2%)が4割強と最も多く、一方、「平等になっていない」は「エ 社会通念や風潮において」(51.4%)が約5割と最も多くなっている。

前回の調査と比較すると、「平等になっている」では「イ 教育の中で」(42.2%)が平成25年度調査(39.0%)と比べ3.2ポイント、「ア 家庭の中で」(29.0%)が平成25年度調査(26.7%)と比べ2.3ポイントそれぞれ増加している。一方、「平等になっていない」では「オ 法律や制度上で」(35.1%)が平成25年度調査(31.3%)と比べ3.8ポイント増加している。

「ア 家庭の中で」について性別で見ると、「平等になっていない」は女性(44.0%)が男性(26.6%)より17.4ポイント高くなっている。

性・年齢別で見ると、「平等になっていない」は女性50～59歳(60.5%)で約6割と多くなっている。

「イ 教育の中で」について性別で見ると、「平等になっていない」は女性(18.3%)が男性(15.3%)より3.0ポイント高くなっている。

性・年齢別で見ると、「平等になっていない」は男性18～29歳(33.0%)で3割強と多くなっている。

「ウ 職場の中で」について性別で見ると、「平等になっていない」は女性(48.7%)が男性(44.4%)より4.3ポイント高くなっている。

性・年齢別で見ると、「平等になっていない」は女性50～59歳(61.6%)で約6割と多くなっている。

「エ 社会通念や風潮において」について性別で見ると、「平等になっていない」は女性(55.7%)が男性(47.6%)より8.1ポイント高くなっている。

性・年齢別で見ると、「平等になっていない」は女性50～59歳(72.1%)で7割強と多くなっている。

「オ 法律や制度上で」について性別で見ると、「平等になっていない」は女性(38.0%)が男性(32.0%)より6.0ポイント高くなっている。

性・年齢別で見ると、「平等になっていない」は女性30～39歳(50.5%)で約5割と多くなっている。

図表2-3-2 性・年齢別 男女平等の考え

(%)

	調査数 (人)	ア 家庭の中で					イ 教育の中で					ウ 職場の中で				
		い平 等にな って	い平 等にな って	いど ちらと も	わ から ない	無 回 答	い平 等にな って	い平 等にな って	いど ちらと も	わ から ない	無 回 答	い平 等にな って	い平 等にな って	いど ちらと も	わ から ない	無 回 答
全 体	2,500	29.0	35.5	29.2	3.9	2.3	42.2	16.9	27.2	10.0	3.8	12.2	46.1	27.5	10.0	4.1
女性全体	1,309	22.2	44.0	28.7	3.1	1.9	36.9	18.3	30.3	11.0	3.5	8.9	48.7	27.1	11.5	3.8
18～29歳	118	22.9	44.9	26.3	5.1	0.8	37.3	21.2	29.7	11.0	0.8	12.7	51.7	23.7	10.2	1.7
30～39歳	204	22.1	50.0	27.0	1.0	-	36.8	20.1	36.3	5.9	1.0	11.3	57.4	25.0	5.9	0.5
40～49歳	224	21.0	47.3	27.2	4.5	-	41.5	20.1	29.9	8.5	-	11.6	53.1	29.0	6.3	-
50～59歳	190	16.3	60.5	21.1	2.1	-	40.0	23.2	30.0	6.8	-	10.0	61.6	24.7	3.2	0.5
60～69歳	268	20.1	41.0	34.0	2.2	2.6	35.1	17.2	30.6	13.4	3.7	5.6	48.9	31.0	10.8	3.7
70歳以上	302	27.8	29.8	32.5	4.3	5.6	32.8	12.6	26.8	16.9	10.9	5.6	30.1	26.5	25.8	11.9
男性全体	1,025	37.2	26.6	29.4	4.9	2.0	49.3	15.3	23.7	8.8	2.9	16.2	44.4	27.7	8.4	3.3
18～29歳	97	23.7	37.1	32.0	4.1	3.1	35.1	33.0	24.7	4.1	3.1	15.5	50.5	17.5	12.4	4.1
30～39歳	120	29.2	38.3	23.3	7.5	1.7	49.2	20.8	20.8	9.2	-	13.3	57.5	25.8	3.3	-
40～49歳	206	31.1	32.0	29.6	7.3	-	53.4	15.0	20.4	10.7	0.5	17.0	51.5	28.6	2.4	0.5
50～59歳	142	40.1	24.6	30.3	3.5	1.4	54.9	9.9	28.2	5.6	1.4	16.9	47.2	31.7	2.1	2.1
60～69歳	207	43.0	20.3	32.4	2.9	1.4	54.1	12.1	26.6	6.3	1.0	17.9	40.1	32.9	7.7	1.4
70歳以上	245	45.3	18.8	27.8	4.1	4.1	43.7	11.4	22.9	13.1	9.0	15.5	31.0	25.3	18.8	9.4

(%)

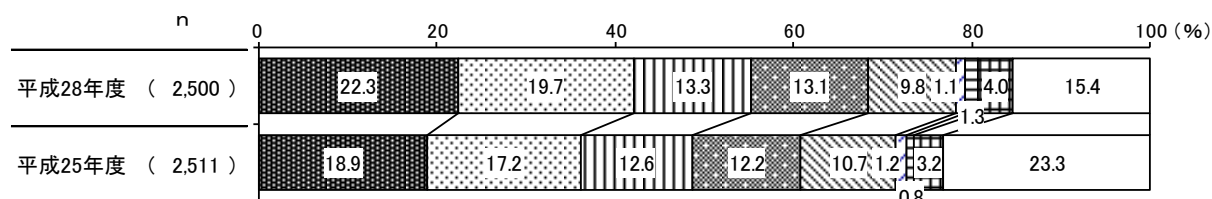
	調査数 (人)	エ 社会通念や風潮において					オ 法律や制度上で				
		い平 等にな って	い平 等にな って	いど ちらと も	わ から ない	無 回 答	い平 等にな って	い平 等にな って	いど ちらと も	わ から ない	無 回 答
全 体	2,500	6.9	51.4	29.9	7.8	4.0	17.1	35.1	32.2	12.1	3.5
女性全体	1,309	3.6	55.7	28.1	8.8	3.8	10.6	38.0	34.5	13.8	3.2
18～29歳	118	4.2	54.2	30.5	10.2	0.8	9.3	39.0	38.1	12.7	0.8
30～39歳	204	1.5	69.6	24.0	4.4	0.5	4.9	50.5	33.8	10.3	0.5
40～49歳	224	2.7	59.4	32.1	5.4	0.4	8.5	46.4	37.1	8.0	-
50～59歳	190	2.6	72.1	20.5	4.2	0.5	8.9	47.4	35.3	8.4	-
60～69歳	268	1.5	57.5	28.0	9.3	3.7	10.8	34.7	32.5	18.7	3.4
70歳以上	302	7.9	32.5	31.5	16.2	11.9	17.5	19.9	32.8	19.5	10.3
男性全体	1,025	11.1	47.6	31.6	6.3	3.3	25.8	32.0	30.0	9.4	2.9
18～29歳	97	4.1	61.9	22.7	8.2	3.1	12.4	42.3	30.9	11.3	3.1
30～39歳	120	12.5	61.7	23.3	2.5	-	17.5	39.2	35.0	8.3	-
40～49歳	206	11.2	52.9	32.5	2.4	1.0	25.2	36.9	31.1	6.3	0.5
50～59歳	142	11.3	45.8	35.9	6.3	0.7	31.0	35.2	29.6	3.5	0.7
60～69歳	207	11.6	47.8	32.9	6.8	1.0	30.0	29.5	28.5	10.6	1.4
70歳以上	245	13.1	31.0	34.7	10.6	10.6	29.4	20.0	27.3	14.3	9.0

(4) 女性の働き方 (理想)

◇理想の働き方は「結婚や出産にかかわらず仕事を続ける (ている・ていた)」が2割強

問 13. 女性の働き方について、あなたはどのように思いますか。「理想」と「現実 (あなた自身やあなたの家庭の状況)」について、次の中からそれぞれ1つずつ選んでください。

図表 2-4-1 女性の働き方 (理想)



- 結婚や出産にかかわらず仕事を続ける(ている・ていた)
- 子育ての時期だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続ける(ている・ていた)
- 子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける(ている・ていた)
- 子どもができるまで仕事をもち、子どもができたらか家事や子育てに専念する(している・していた)
- 結婚するまで仕事をもち、結婚後は家事に専念する(している・していた)
- 仕事はもたない(もっていない)
- その他
- わからない
- 無回答

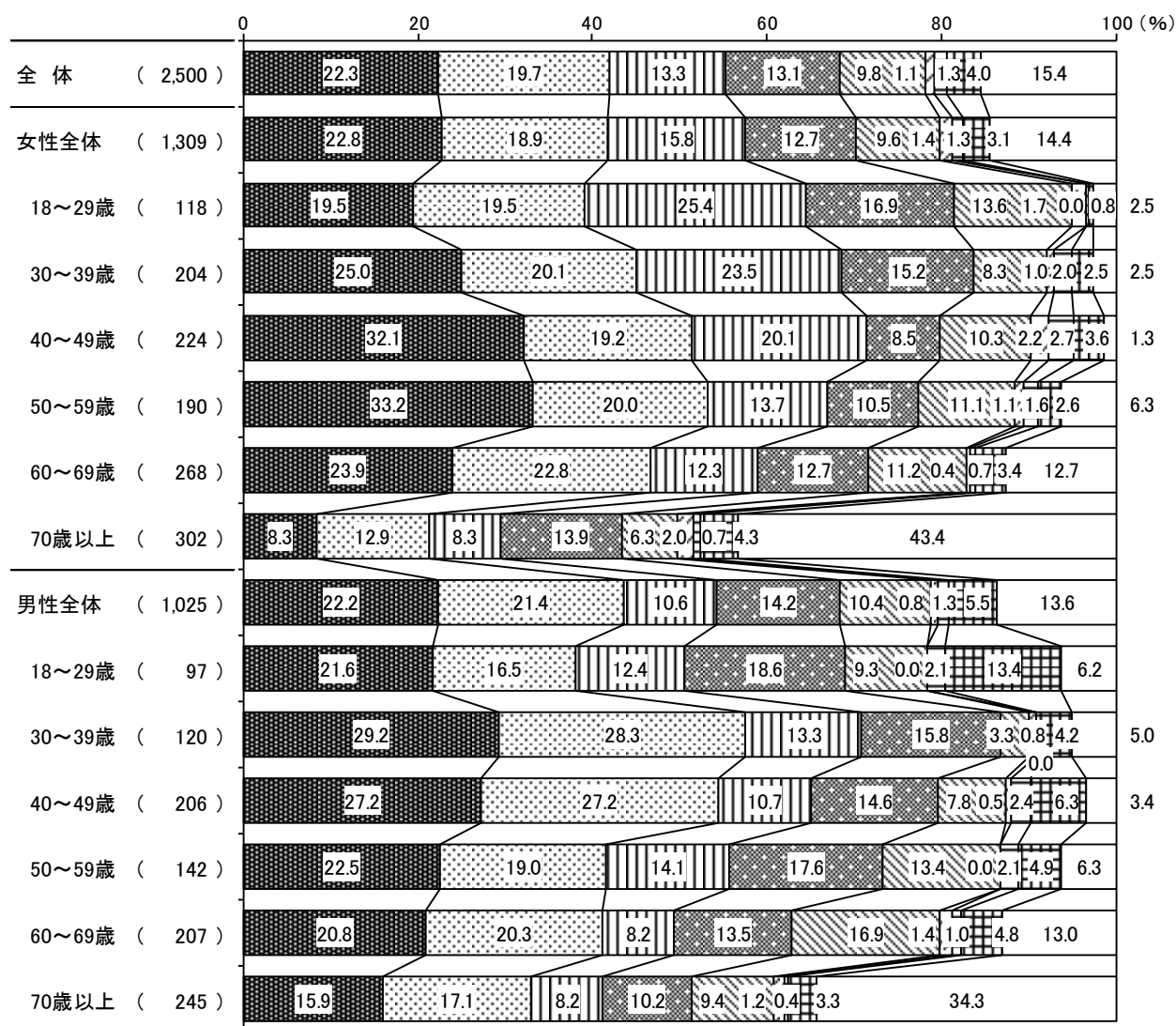
理想とする女性の働き方については、「結婚や出産にかかわらず仕事を続ける (ている・ていた)」(22.3%) が最も多く、次いで、「子育ての時期だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続ける (ている・ていた)」(19.7%)、「子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける (ている・ていた)」(13.3%)、「子どもができるまで仕事をもち、子どもができたらか家事や子育てに専念する (している・していた)」(13.1%)、「結婚するまで仕事をもち、結婚後は家事に専念する (している・していた)」(9.8%)、「仕事はもたない (もっていない)」(1.1%) の順となっている。また、「その他」として「個人の自由」「妻の意志を尊重する」「各家庭で異なる」等が挙げられた。

前回の調査と比較すると、「結婚や出産にかかわらず仕事を続ける (ている・ていた)」(22.3%) は平成 25 年度調査 (18.9%) と比べ 3.4 ポイント、「子育ての時期だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続ける (ている・ていた)」(19.7%) は平成 25 年度調査 (17.2%) と比べ 2.5 ポイントそれぞれ増加している。

性別でみると、「子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける(ている・ていた)」は女性(15.8%)が男性(10.6%)より5.2ポイント高く、「子育ての時期だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続ける(ている・ていた)」は男性(21.4%)が女性(18.9%)より2.5ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「結婚や出産にかかわらず仕事を続ける(ている・ていた)」は女性50～59歳(33.2%)、女性40～49歳(32.1%)で3割強と多くなっている。

図表2-4-2 性・年齢別 女性の働き方(理想)



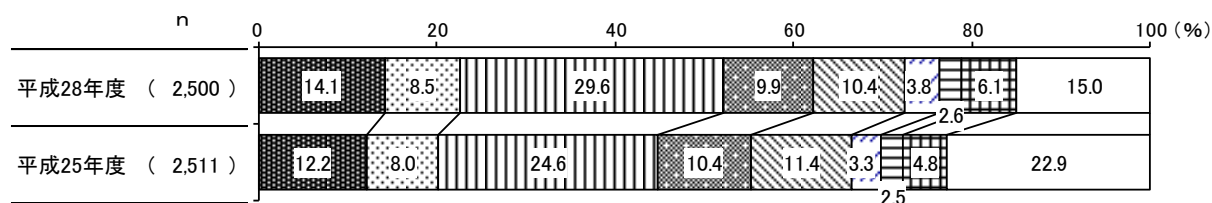
- 結婚や出産にかかわらず仕事を続ける(ている・ていた)
- 子育ての時期だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続ける(ている・ていた)
- 子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける(ている・ていた)
- 子どもができるまで仕事をもち、子どもができたなら家事や子育てに専念する(している・していた)
- 結婚するまで仕事をもち、結婚後は家事に専念する(している・していた)
- 仕事はもたない(もっていない)
- その他
- わからない
- 無回答

(5) 女性の働き方（現実）

◇現実には「子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける（ている・ていた）」が約3割

問 13. 女性の働き方について、あなたはどのように思いますか。「理想」と「現実（あなた自身やあなたの家庭の状況）」について、次の中からそれぞれ1つずつ選んでください。

図表 2-5-1 女性の働き方（現実）



- 結婚や出産にかかわらず仕事を続ける(ている・ていた)
- 子育ての時期だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続ける(ている・ていた)
- 子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける(ている・ていた)
- 子どもができるまで仕事をもち、子どもができたなら家事や子育てに専念する(している・していた)
- 結婚するまで仕事をもち、結婚後は家事に専念する(している・していた)
- 仕事はもたない(もっていない)
- その他
- わからない
- 無回答

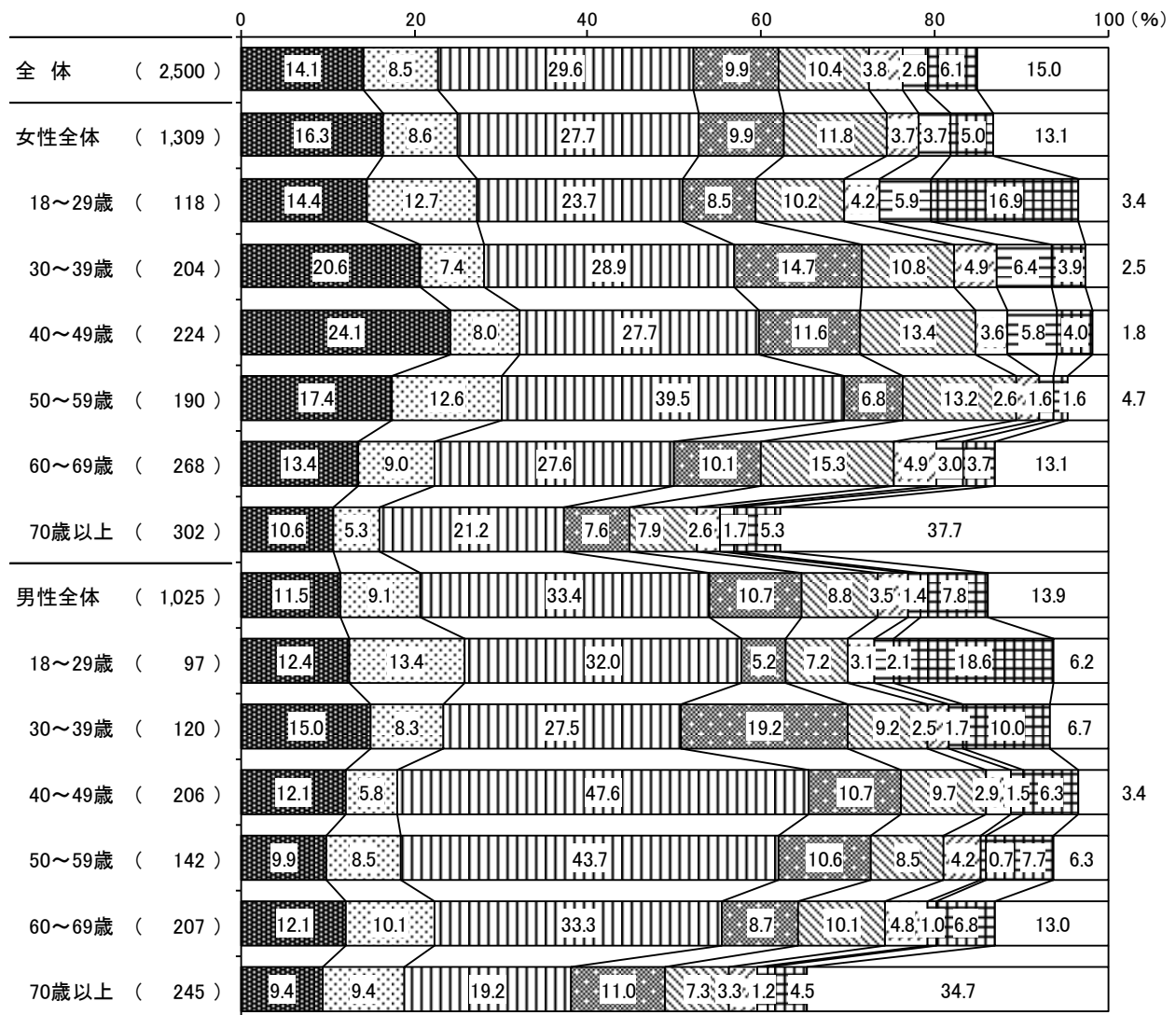
現実の女性の働き方については、「子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける（ている・ていた）」(29.6%)が最も多く、次いで、「結婚や出産にかかわらず仕事を続ける（ている・ていた）」(14.1%)、「結婚するまで仕事をもち、結婚後は家事に専念する(している・していた)」(10.4%)、「子どもができるまで仕事をもち、子どもができたなら家事や子育てに専念する（している・していた）」(9.9%)、「子育ての時期だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続ける(ている・ていた)」(8.5%)、「仕事はもたない(もっていない)」(3.8%)の順となっている。また、「その他」として「未婚なので」「結婚も出産もしない」等が挙げられた。

前回の調査と比較すると、「子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける（ている・ていた）」(29.6%)は平成25年度調査(24.6%)と比べ5.0ポイント増加している。

性別でみると、「子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける(ている・ていた)」は男性(33.4%)が女性(27.7%)より5.7ポイント高く、「結婚や出産にかかわらず仕事を続ける(ている・ていた)」は女性(16.3%)が男性(11.5%)より4.8ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける(ている・ていた)」は男性40～49歳(47.6%)、男性50～59歳(43.7%)で4割以上と多く、女性では50～59歳(39.5%)が約4割で最も多くなっている。

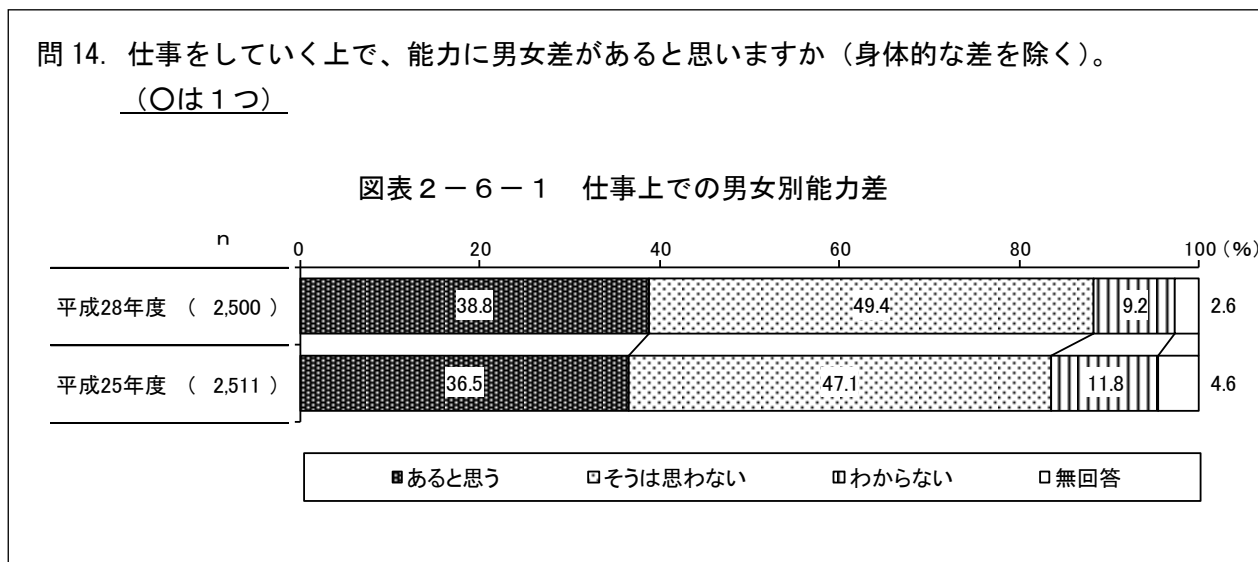
図表2-5-2 性・年齢別 女性の働き方(現実)



- 結婚や出産にかかわらず仕事を続ける(ている・ていた)
- 子育ての時期だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続ける(ている・ていた)
- 子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける(ている・ていた)
- 子どもができるまで仕事をもち、子どもができたなら家事や子育てに専念する(している・していた)
- 結婚するまで仕事をもち、結婚後は家事に専念する(している・していた)
- 仕事はもたない(もっていない)
- その他
- わからない
- 無回答

(6) 仕事上での男女別能力差

◇「そうは思わない」が約5割



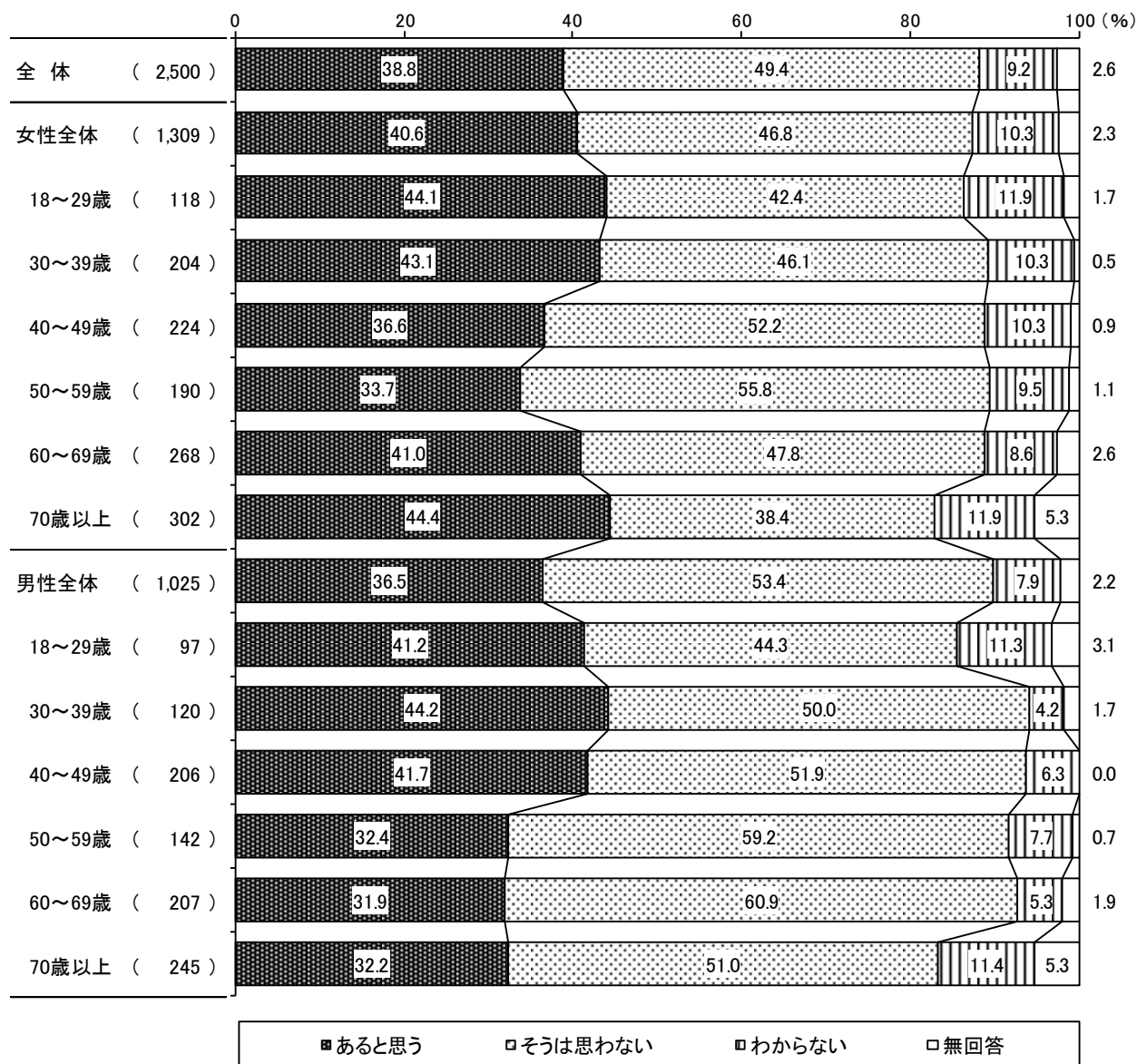
仕事をしていく上で、能力に男女差があると思うかについては、「そうは思わない」(49.4%)が約5割、「あると思う」(38.8%)が4割弱となっている。

前回の調査と比較すると、「あると思う」(38.8%)は平成25年度調査(36.5%)と比べ2.3ポイント増加している。一方、「そうは思わない」(49.4%)も平成25年度調査(47.1%)と比べ2.3ポイント増加している。

性別で見ると、「そうは思わない」は男性（53.4%）が女性（46.8%）より6.6ポイント高くなっている。一方、「あると思う」は女性（40.6%）が男性（36.5%）より4.1ポイント高くなっている。

性・年齢別で見ると、「そうは思わない」は男性60～69歳（60.9%）、男性50～59歳（59.2%）で約6割と多くなっている。一方、「あると思う」は女性70歳以上（44.4%）、男性30～39歳（44.2%）、女性18～29歳（44.1%）で4割半ばと多くなっている。

図表2-6-2 性・年齢別 仕事上での男女別能力差



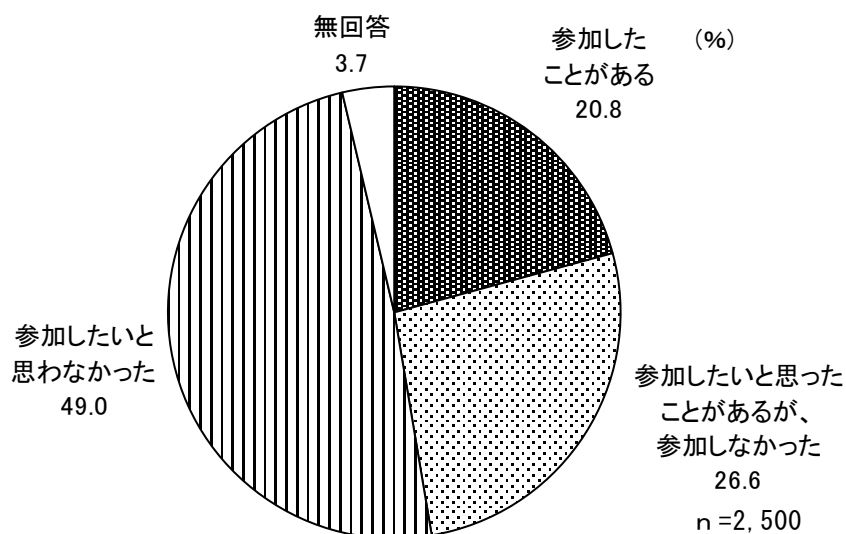
3. 市民活動について

(1) 市民活動への参加意向

◇「参加したいと思わなかった」が約5割

問 15. 市民活動に参加した、または参加したいと思ったことはありますか。(○は1つ)

図表 3-1-1 市民活動への参加意向

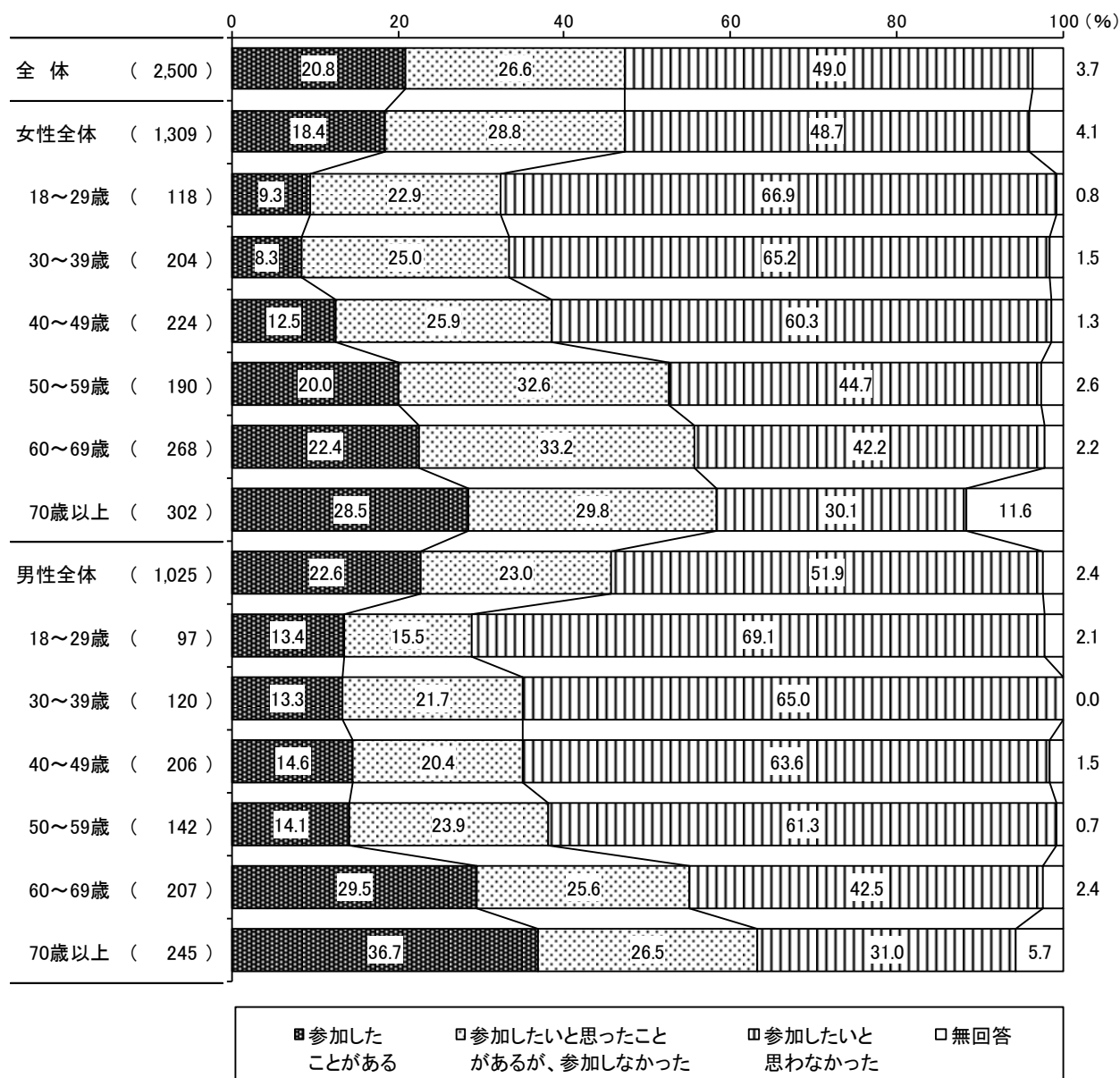


市民活動に参加した、または参加したいと思ったことについては、「参加したいと思わなかった」(49.0%)が約5割と最も多く、「参加したいと思ったことがあるが、参加しなかった」(26.6%)が2割半ば、「参加したことがある」(20.8%)は約2割となっている。

性別で見ると、「参加したことがある」は男性（22.6%）が女性（18.4%）より4.2ポイント高く、「参加したいと思ったことがあるが、参加しなかった」は女性（28.8%）が男性（23.0%）より5.8ポイント高くなっている。

性・年齢別で見ると、「参加したことがある」は男性70歳以上（36.7%）、男性60～69歳（29.5%）でおよそ3割以上と多くなっている。また、「参加したいと思ったことがあるが、参加しなかった」は女性60～69歳（33.2%）、女性50～59歳（32.6%）で3割強と多くなっている。

図表3-1-2 性・年齢別 市民活動への参加意向

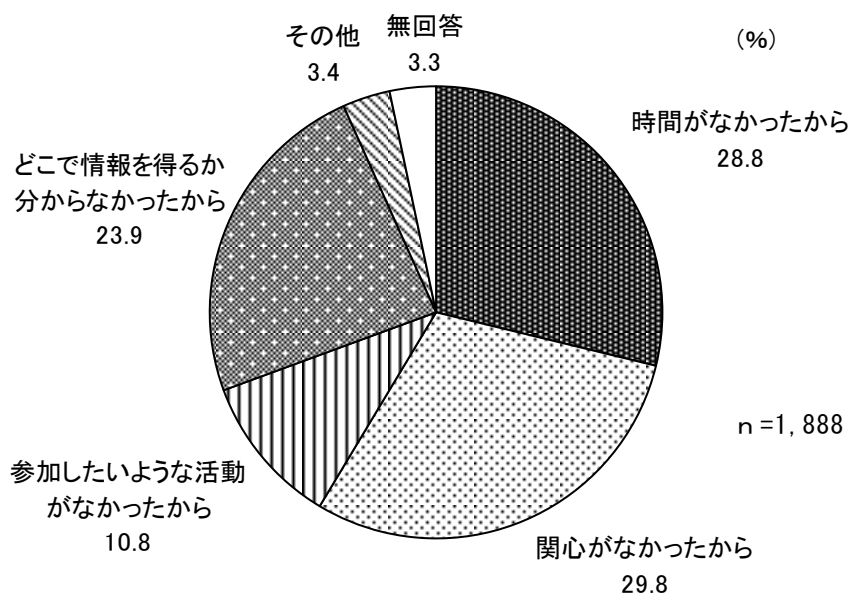


(2) 参加しない理由

◇「関心がなかったから」が最も多く、約3割

問 15-2. 問 15 で「2」（参加したいと思ったことがあるが、参加しなかった）、「3」（参加したいと思わなかった）と答えた方に伺います。参加しなかった、または参加したいと思わなかった理由は何ですか。（○は1つ）

図表 3-2-1 参加しない理由

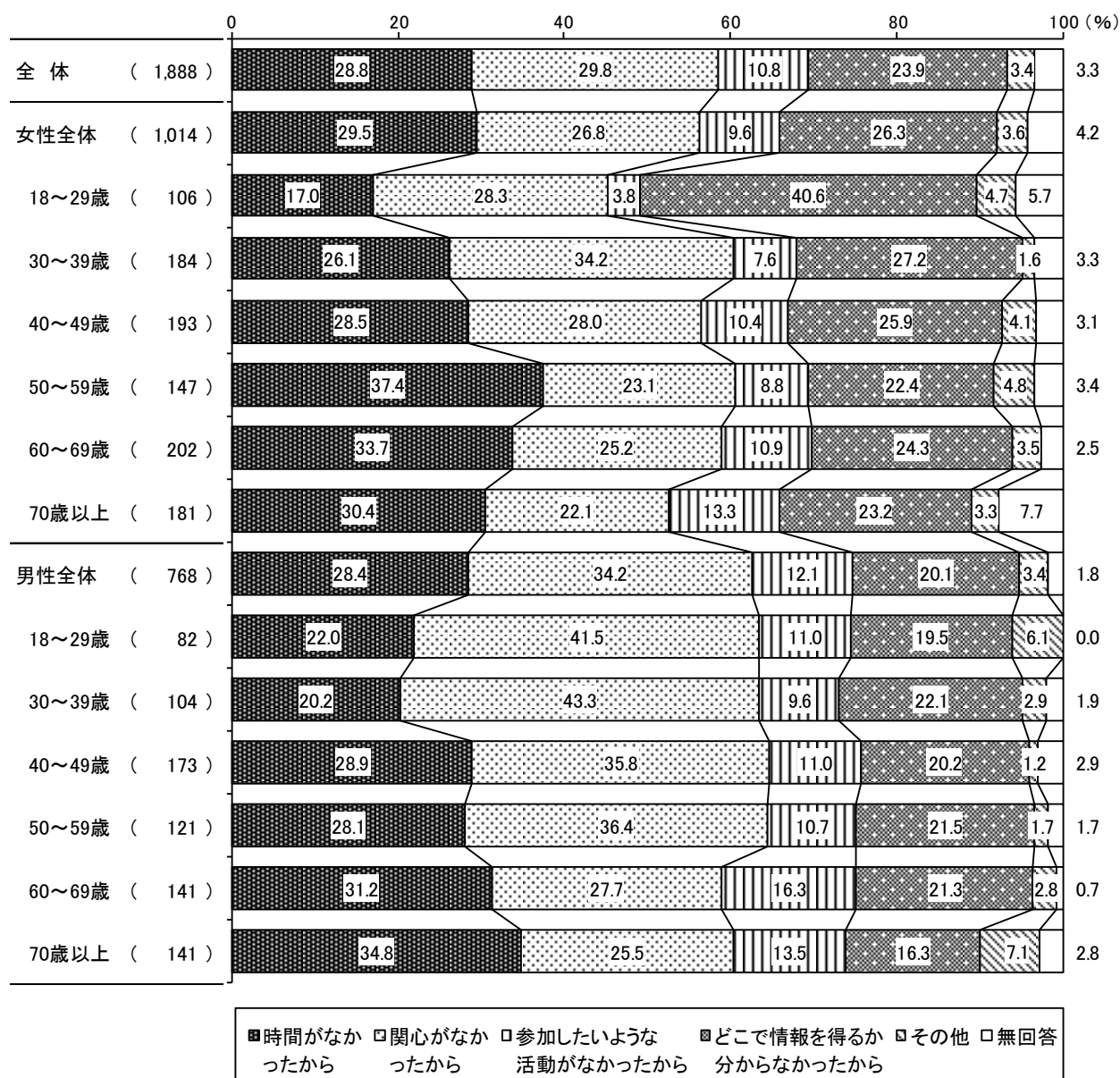


市民活動に参加したことがないと回答した1,888人に、参加しなかった、または参加したいと思わなかった理由を聞いたところ、「関心がなかったから」（29.8%）が最も多く、次いで、「時間がなかったから」（28.8%）、「どこで情報を得るか分からなかったから」（23.9%）、「参加したいような活動がなかったから」（10.8%）の順となっている。また、「その他」として「知らなかった」「健康上の理由から」「面倒だから」等が挙げられた。

性別で見ると、「関心がなかったから」は男性（34.2%）が女性（26.8%）より7.4ポイント高く、「どこで情報を得るか分からなかったから」は女性（26.3%）が男性（20.1%）より6.2ポイント高くなっている。

性・年齢別で見ると、「関心がなかったから」は男性30～39歳（43.3%）、男性18～29歳（41.5%）で4割以上と多く、「どこで情報を得るか分からなかったから」は女性18～29歳（40.6%）で約4割と多くなっている。

図表3-2-2 性・年齢別 参加しない理由

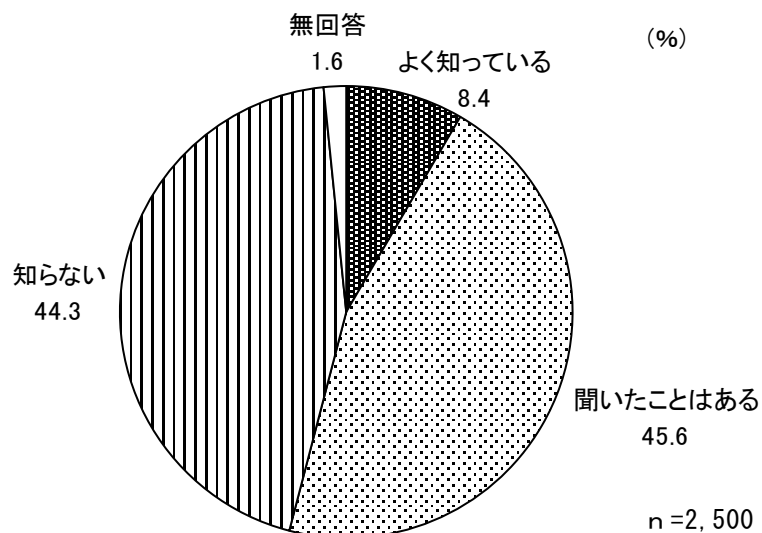


(3) 市民活動団体の認知

◇「よく知っている」は1割弱

問 16. 市民活動団体について知っていますか。(○は1つ)

図表 3-3-1 市民活動団体の認知

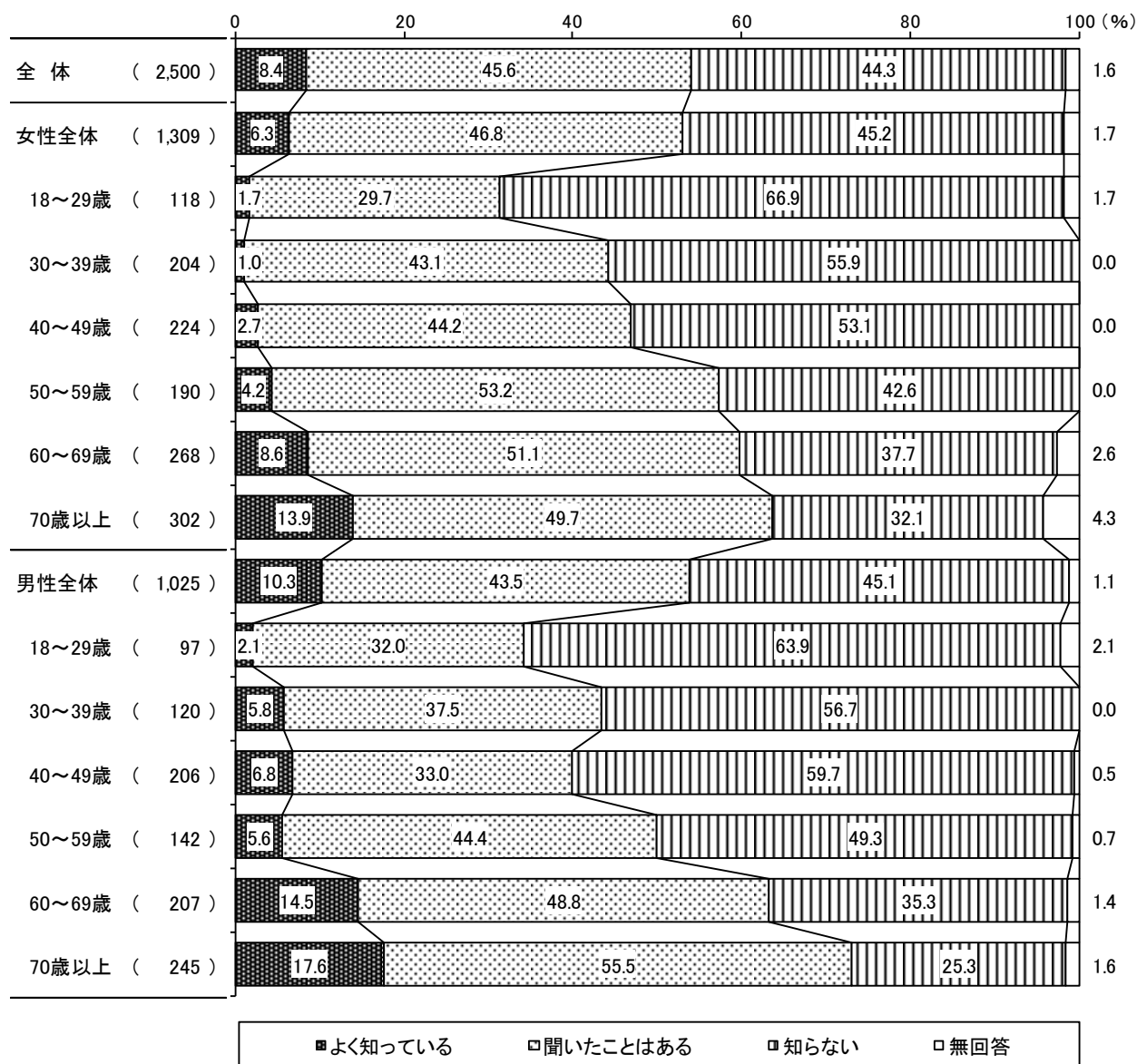


市民活動団体の認知については、「聞いたことはある」(45.6%)、「知らない」(44.3%) がともに4割半ば、「よく知っている」(8.4%) は1割弱となっている。

性別で見ると、「よく知っている」は男性（10.3%）が女性（6.3%）より4.0ポイント高く、「聞いたことはある」は女性（46.8%）が男性（43.5%）より3.3ポイント高くなっている。

性・年齢別で見ると、「よく知っている」は男性70歳以上（17.6%）、男性60～69歳（14.5%）、女性70歳以上（13.9%）で1割を超えている。

図表3-3-2 性・年齢別 市民活動団体の認知

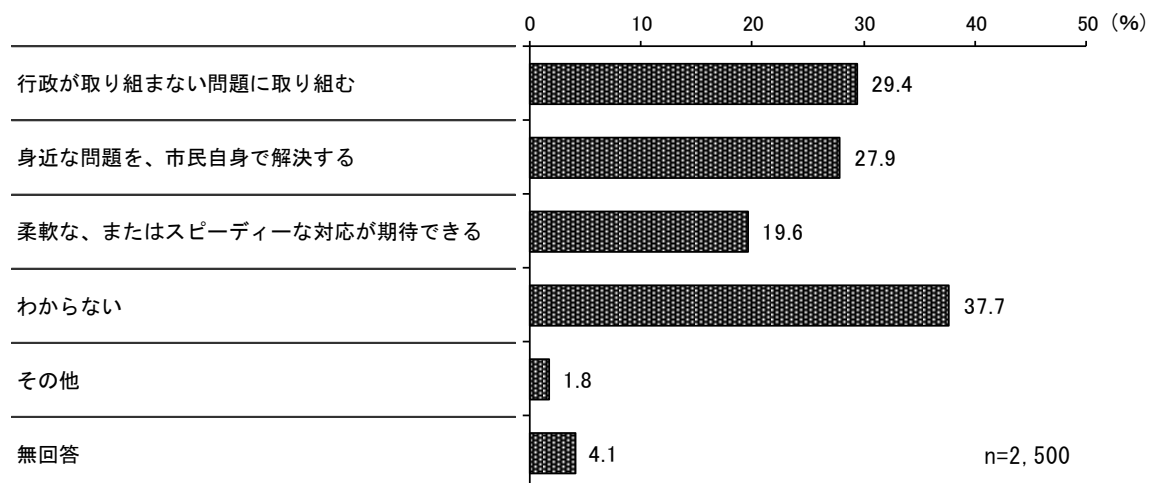


(4) 市民活動団体に期待すること

◇「行政が取り組まない問題に取り組む」が最も多く、約3割

問17. 市民活動団体に期待することはどんなことですか。(複数回答可)

図表3-4-1 市民活動団体に期待すること



市民活動団体に期待することについては、「行政が取り組まない問題に取り組む」(29.4%)が最も多く、次いで、「身近な問題を、市民自身で解決する」(27.9%)、「柔軟な、またはスピーディーな対応が期待できる」(19.6%)の順となっている。また、「その他」として「行政と市民の仲介」「期待はしない」等が挙げられた。

性別でみると、「柔軟な、またはスピーディーな対応が期待できる」は女性（20.6%）が男性（18.1%）より2.5ポイント高く、「身近な問題を、市民自身で解決する」は男性（29.5%）が女性（27.2%）より2.3ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「行政が取り組まない問題に取り組む」は女性50～59歳（40.0%）で4割と多くなっている。

図表3-4-2 性・年齢別 市民活動団体に期待すること

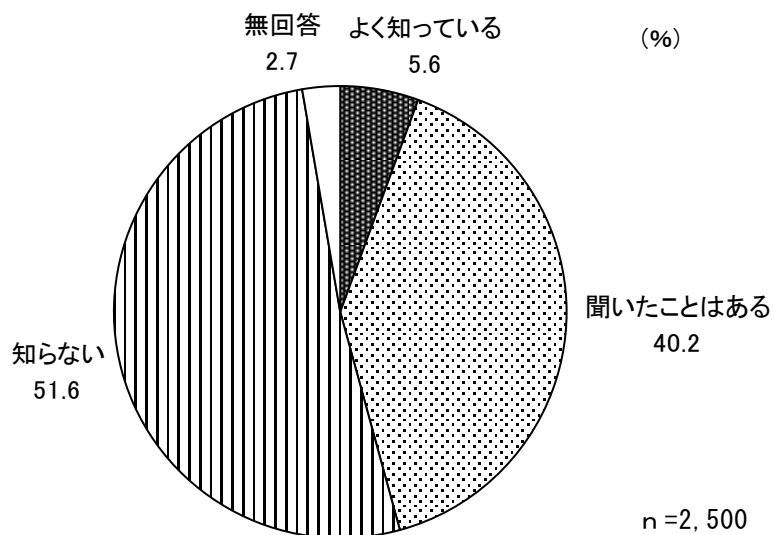
	調査数（人）	柔軟な、またはスピーディーな対応が期待できる	身近な問題を、市民自身で解決する	行政が取り組まない問題に取り組む	わからない	その他	無回答
全体	2,500	19.6	27.9	29.4	37.7	1.8	4.1
女性全体	1,309	20.6	27.2	29.8	38.7	1.2	4.4
18～29歳	118	25.4	30.5	27.1	34.7	2.5	3.4
30～39歳	204	24.0	24.5	29.4	41.7	1.0	1.5
40～49歳	224	19.6	21.0	29.5	46.9	2.7	-
50～59歳	190	23.2	30.0	40.0	31.6	1.1	2.1
60～69歳	268	23.5	30.2	31.3	33.6	1.1	5.2
70歳以上	302	13.2	28.1	23.8	41.1	-	9.9
男性全体	1,025	18.1	29.5	29.4	37.2	2.5	3.0
18～29歳	97	18.6	27.8	25.8	44.3	1.0	2.1
30～39歳	120	21.7	30.0	26.7	38.3	1.7	0.8
40～49歳	206	16.5	27.7	36.9	35.4	1.9	0.5
50～59歳	142	12.7	25.4	32.4	43.0	4.2	1.4
60～69歳	207	23.7	33.3	28.5	31.4	2.4	5.8
70歳以上	245	16.3	30.6	24.5	35.9	3.3	5.3

(5) 市民活動支援センターの認知

◇「知らない」が5割強

問 18. 市民活動支援センターについて知っていますか。(○は1つ)

図表 3-5-1 市民活動支援センターの認知

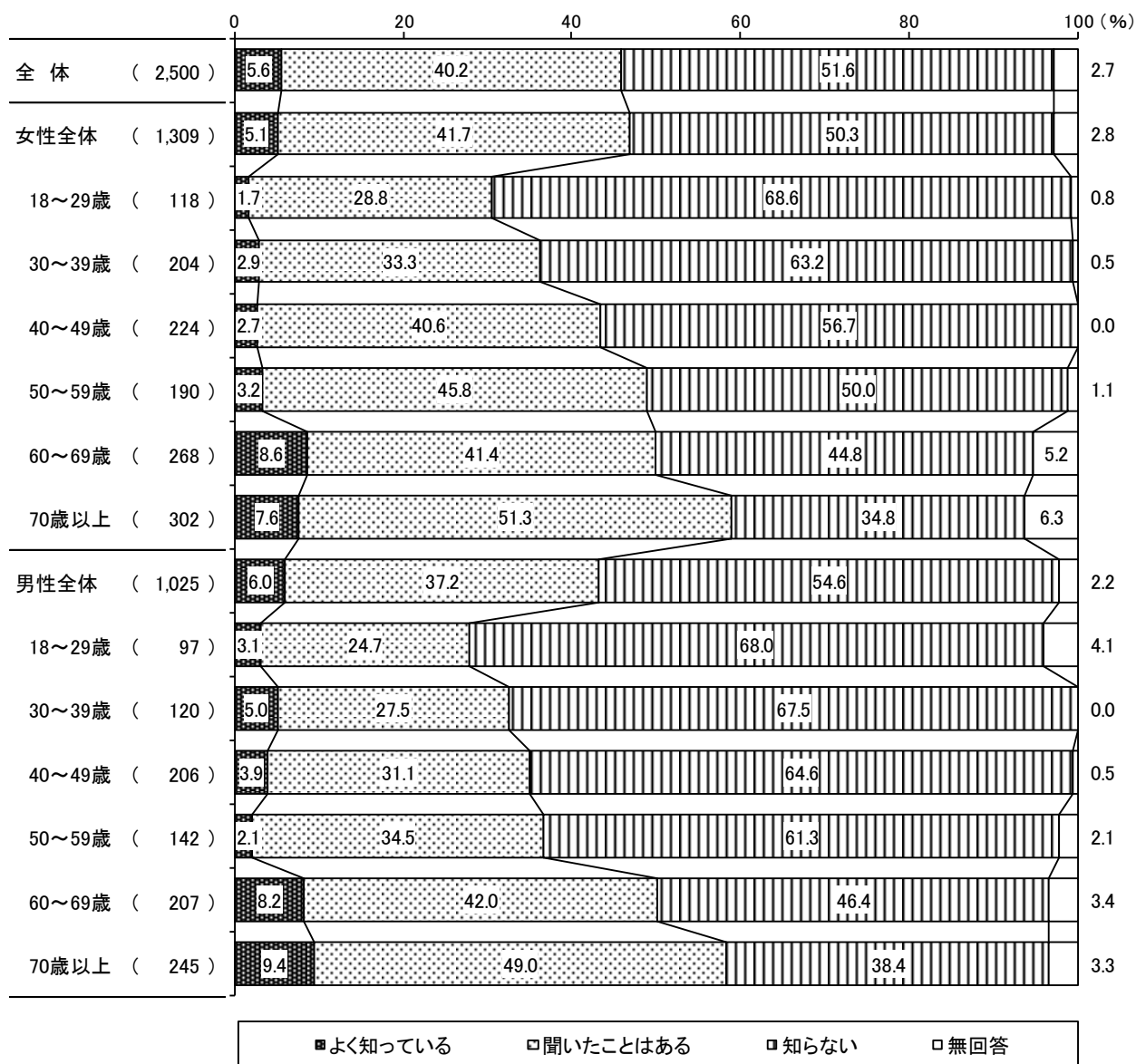


市民活動支援センターの認知については、「知らない」(51.6%)が5割強、「聞いたことはある」(40.2%)が約4割となっている。一方、「よく知っている」(5.6%)は1割に満たない結果となっている。

性別で見ると、「聞いたことはある」は女性（41.7%）が男性（37.2%）より4.5ポイント高く、「知らない」は男性（54.6%）が女性（50.3%）より4.3ポイント高くなっている。

性・年齢別で見ると、「よく知っている」は男性70歳以上（9.4%）、女性60～69歳（8.6%）、男性60～69歳（8.2%）でやや多くなっている。一方、「知らない」は女性18～29歳（68.6%）、男性18～29歳（68.0%）、男性30～39歳（67.5%）で7割弱と多くなっている。

図表3-5-2 性・年齢別 市民活動支援センターの認知

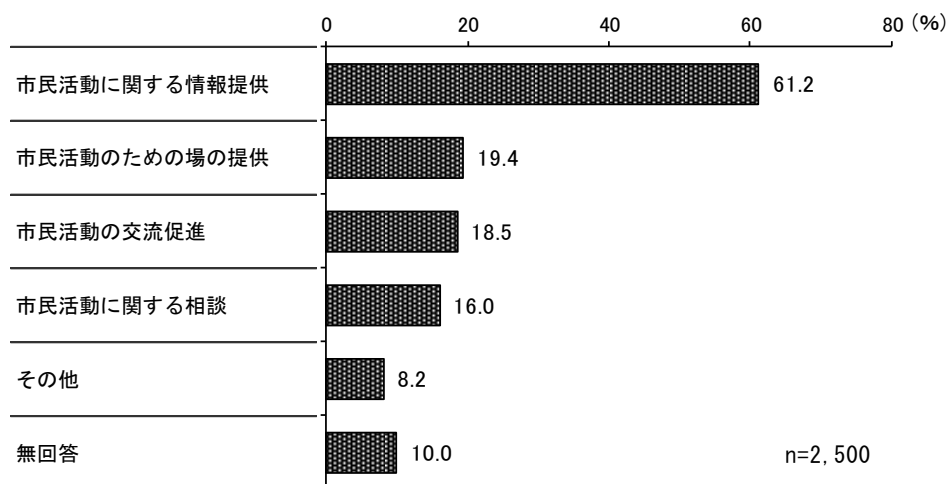


(6) 市民活動団体に特に望むこと

◇「市民活動に関する情報提供」が最も多く、約6割

問19. あなたが市民活動団体に特に望むことは何ですか。(複数回答可)

図表3-6-1 市民活動団体に特に望むこと



市民活動団体に特に望むことについては、「市民活動に関する情報提供」(61.2%)が最も多く、次いで、「市民活動のための場の提供」(19.4%)、「市民活動の交流促進」(18.5%)、「市民活動に関する相談」(16.0%)の順となっている。また、「その他」として「高齢者が明るくなれるような取組」「望むことはない」等が挙げられた。

性別で見ると、「市民活動の交流促進」は男性（20.1%）が女性（17.5%）より2.6ポイント高くなっている。

性・年齢別で見ると、「市民活動に関する情報提供」は女性30～39歳（71.1%）、女性50～59歳（70.0%）、女性40～49歳（69.2%）で約7割と多くなっている。

図表3-6-2 性・年齢別 市民活動団体に特に望むこと

	調査数（人）						（%）	
		市民活動のための場の提供	市民活動に関する情報提供	市民活動の交流促進	市民活動に関する相談	その他	無回答	
全体	2,500	19.4	61.2	18.5	16.0	8.2	10.0	
女性全体	1,309	20.2	62.3	17.5	15.6	7.7	11.3	
18～29歳	118	29.7	61.9	15.3	12.7	8.5	9.3	
30～39歳	204	24.0	71.1	24.5	16.2	8.3	7.4	
40～49歳	224	20.5	69.2	15.2	12.1	12.5	4.9	
50～59歳	190	25.8	70.0	15.8	16.8	3.7	6.8	
60～69歳	268	17.2	59.3	19.0	16.0	6.3	14.2	
70歳以上	302	12.6	49.7	15.2	17.9	7.3	19.2	
男性全体	1,025	18.8	62.0	20.1	16.7	9.4	6.7	
18～29歳	97	29.9	53.6	17.5	20.6	7.2	5.2	
30～39歳	120	27.5	59.2	30.0	16.7	7.5	5.8	
40～49歳	206	22.3	67.0	17.0	19.4	9.7	2.4	
50～59歳	142	15.5	61.3	13.4	13.4	14.8	4.2	
60～69歳	207	13.5	65.2	22.2	12.6	11.6	8.7	
70歳以上	245	12.7	59.6	20.4	18.4	6.1	11.4	

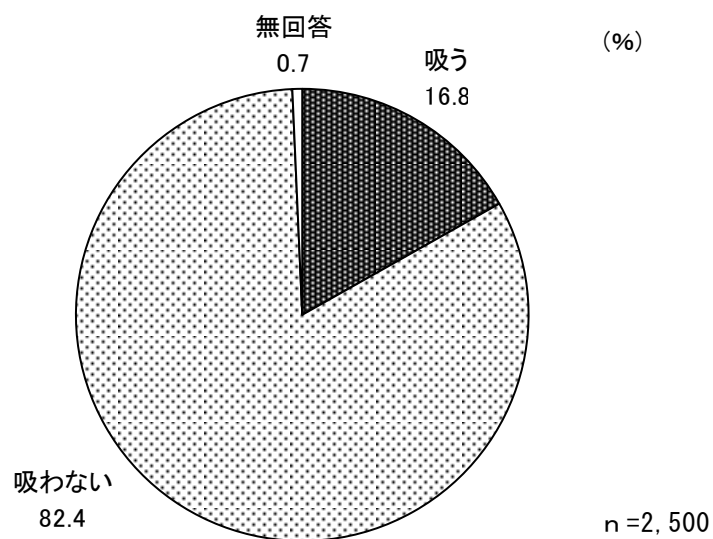
4. 路上喫煙について

(1) 喫煙の有無

◇「吸う」が1割半ば、「吸わない」が8割強

問 20. あなたは、タバコを吸いますか。(○は1つ)

図表4-1-1 喫煙の有無

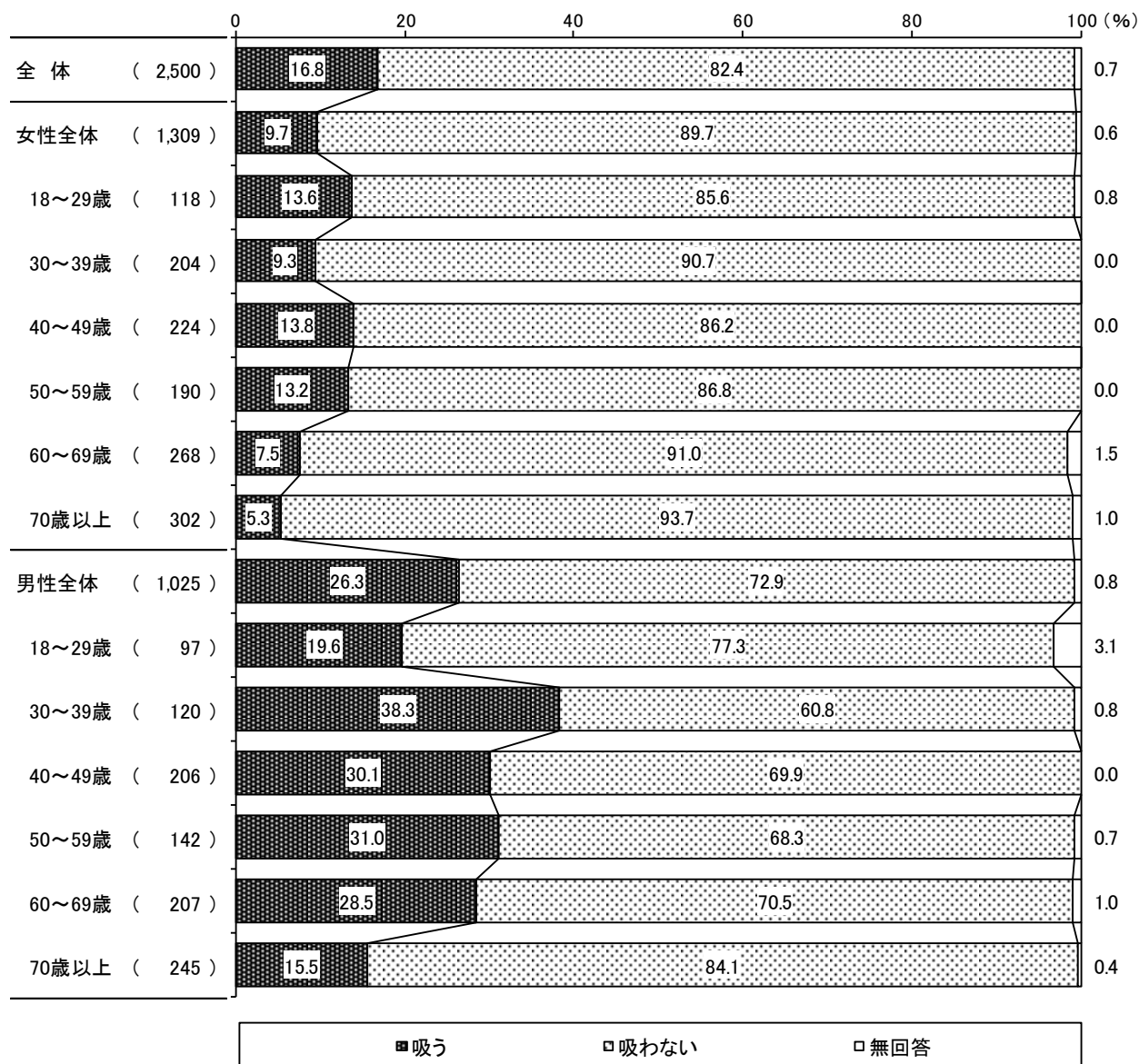


喫煙の有無については、「吸う」(16.8%)が1割半ば、「吸わない」(82.4%)が8割強となっている。

性別で見ると、「吸う」は男性（26.3%）が女性（9.7%）より16.6ポイント高く、「吸わない」は女性（89.7%）が男性（72.9%）より16.8ポイント高くなっている。

性・年齢別で見ると、「吸う」は男性30～39歳（38.3%）で4割弱と最も多くなっている。

図表4-1-2 性・年齢別 喫煙の有無

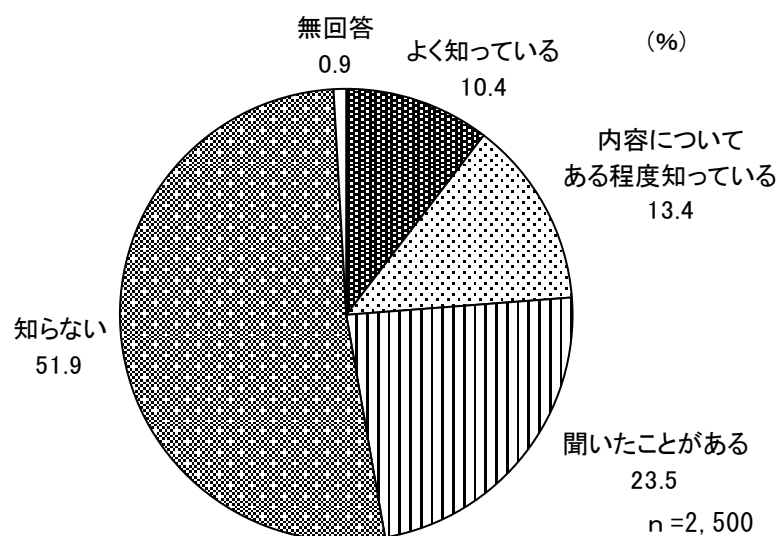


(2) 「越谷市路上喫煙の防止に関する条例」の認知

◇「知らない」が約5割

問 21. 越谷市では、喫煙マナーと環境美化に対する意識向上を図るため、平成20年4月より「越谷市路上喫煙の防止に関する条例」を施行していますが、ご存知ですか。(〇は1つ)

図表4-2-1 「越谷市路上喫煙の防止に関する条例」の認知

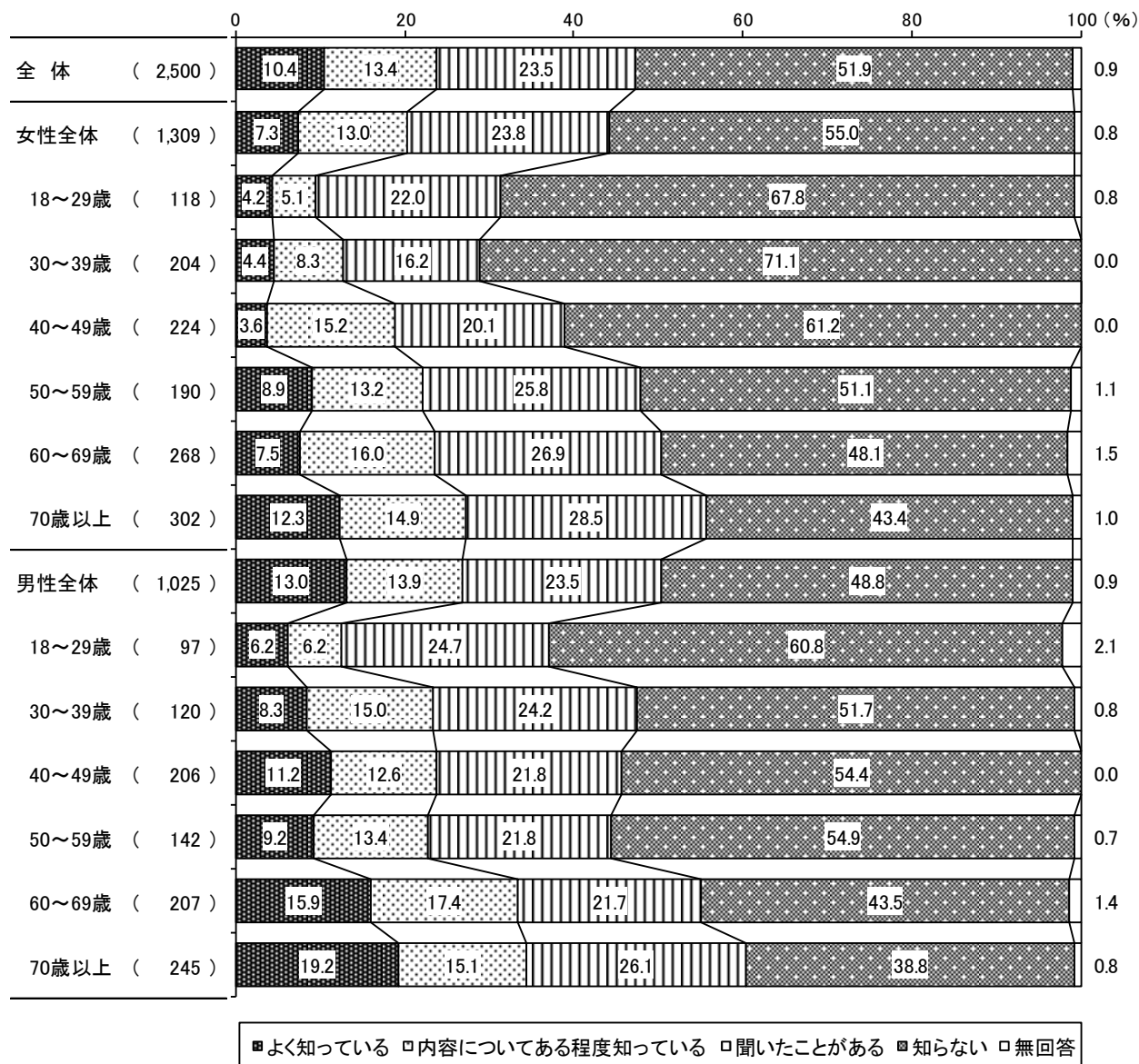


「越谷市路上喫煙の防止に関する条例」の認知については、「知らない」(51.9%)が約5割と最も多く、「聞いたことがある」(23.5%)が2割強、「内容についてある程度知っている」(13.4%)が1割強、「よく知っている」(10.4%)が約1割となっている。

性別で見ると、「よく知っている」は男性（13.0%）が女性（7.3%）より5.7ポイント高く、「知らない」は女性（55.0%）が男性（48.8%）より6.2ポイント高くなっている。

性・年齢別で見ると、「よく知っている」は男性70歳以上（19.2%）、男性60～69歳（15.9%）で1割半ばを超え多くなっている。

図表4-2-2 性・年齢別 「越谷市路上喫煙の防止に関する条例」の認知

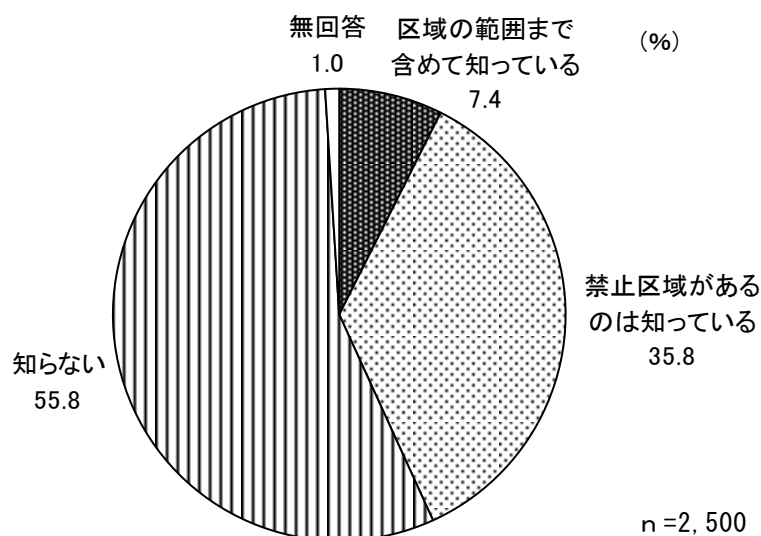


(3) 「路上喫煙禁止区域」の認知

◇「知らない」が5割半ば

問 22. 上記の条例により、市では、現在、通勤や通学等で往来の激しいJR武蔵野線南越谷駅と東武伊勢崎線新越谷駅周辺を「路上喫煙禁止区域」に指定していますが、ご存知ですか。
(〇は1つ)

図表4-3-1 「路上喫煙禁止区域」の認知

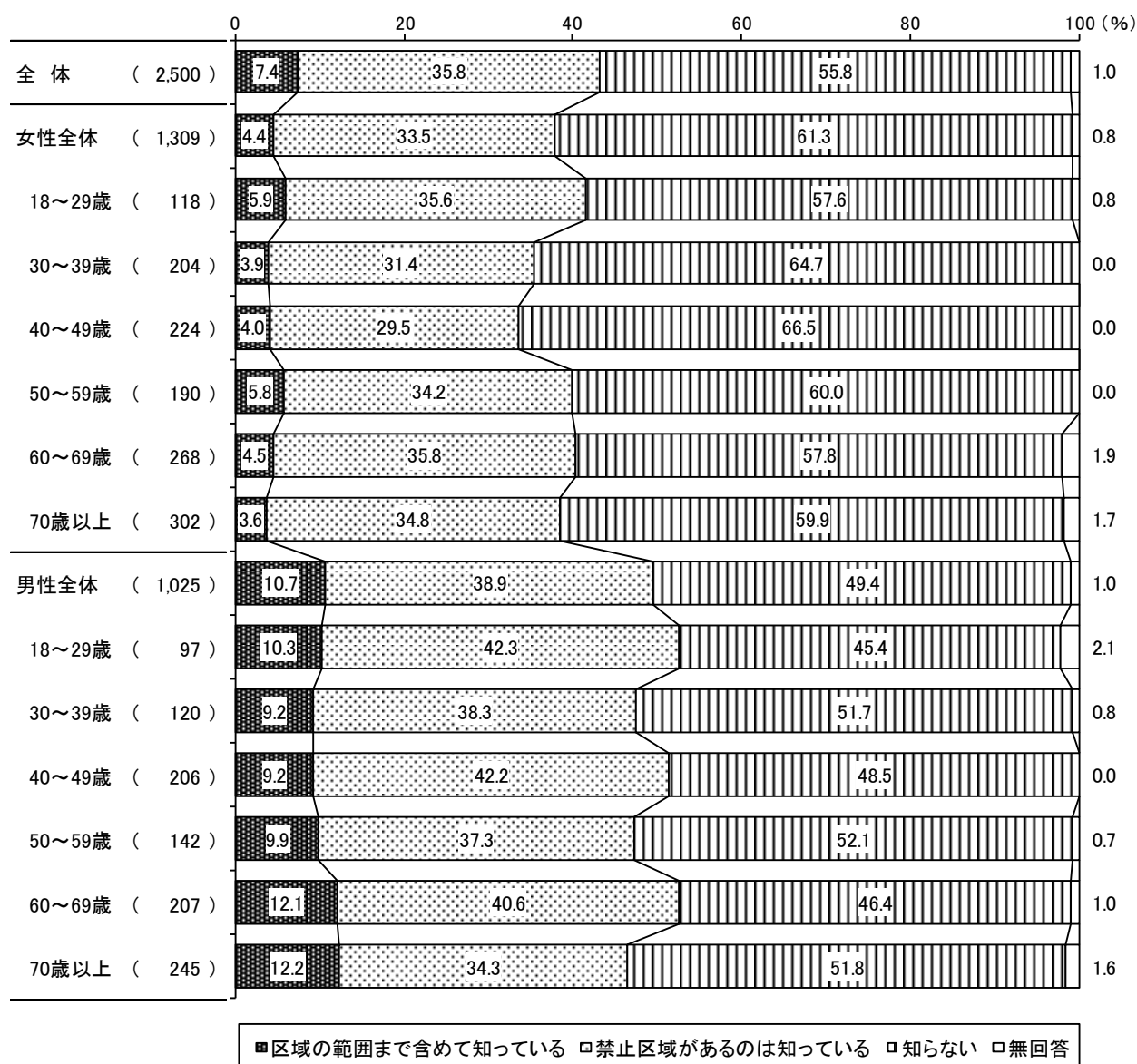


「路上喫煙禁止区域」の認知については、「知らない」(55.8%)が5割半ばと最も多く、「禁止区域があるのは知っている」(35.8%)は3割半ば、「区域の範囲まで含めて知っている」(7.4%)は1割に満たない結果となっている。

性別で見ると、「区域の範囲まで含めて知っている」は男性（10.7%）が女性（4.4%）より6.3ポイント、「禁止区域があるのは知っている」は男性（38.9%）が女性（33.5%）より5.4ポイントそれぞれ高く、一方、「知らない」は女性（61.3%）が男性（49.4%）より11.9ポイント高くなっている。

性・年齢別で見ると、「区域の範囲まで含めて知っている」は男性70歳以上（12.2%）、男性60～69歳（12.1%）で1割強と多くなっている。一方、「知らない」は女性40～49歳（66.5%）、女性30～39歳（64.7%）、女性50～59歳（60.0%）、女性70歳以上（59.9%）でおよそ6割以上と多くなっている。

図表4-3-2 性・年齢別 「路上喫煙禁止区域」の認知



(4) 路上喫煙防止のために必要な取組み

◇「喫煙者のマナー・モラル向上の啓発活動」が最も多い

問 23. 路上喫煙の防止のために必要な取組みは、何だと思えますか。自由にご記入ください。

図表 4-4-1 路上喫煙防止のために必要な取組み

内 容	件 数
喫煙者のマナー・モラル向上の啓発活動	436
取締りや見廻り、罰金・罰則を強化する	289
禁止区域、喫煙所をわかりやすくPRする	247
喫煙所を増やす	215
喫煙禁止区域を増やす	123
ポイ捨て・歩きタバコの禁止	99
公共の場での全面喫煙禁止	62
タバコの販売禁止	38
分煙化を進める	37
喫煙者の権利も認めるべき	22
タバコの値段を上げる	19
路上の美化活動を進める	19
子どもに与える害や影響を考えさせる	17
関心がない、喫煙者には言っても無駄	12
今のままでよい	11
喫煙所は迷惑・反対	8
喫煙は健康を害することをPRする	8
とくに気にならない	3
火災の危険がある	2
その他	11
計	1,678

路上喫煙の防止のために必要な取組みについては、回答のあった意見数1,678件のうち「喫煙者のマナー・モラル向上の啓発活動」(436件)が最も多く、次いで「取締りや見廻り、罰金・罰則を強化する」(289件)、「禁止区域、喫煙所をわかりやすくPRする」(247件)、「喫煙所を増やす」(215件)、「喫煙禁止区域を増やす」(123件)の順となっている。

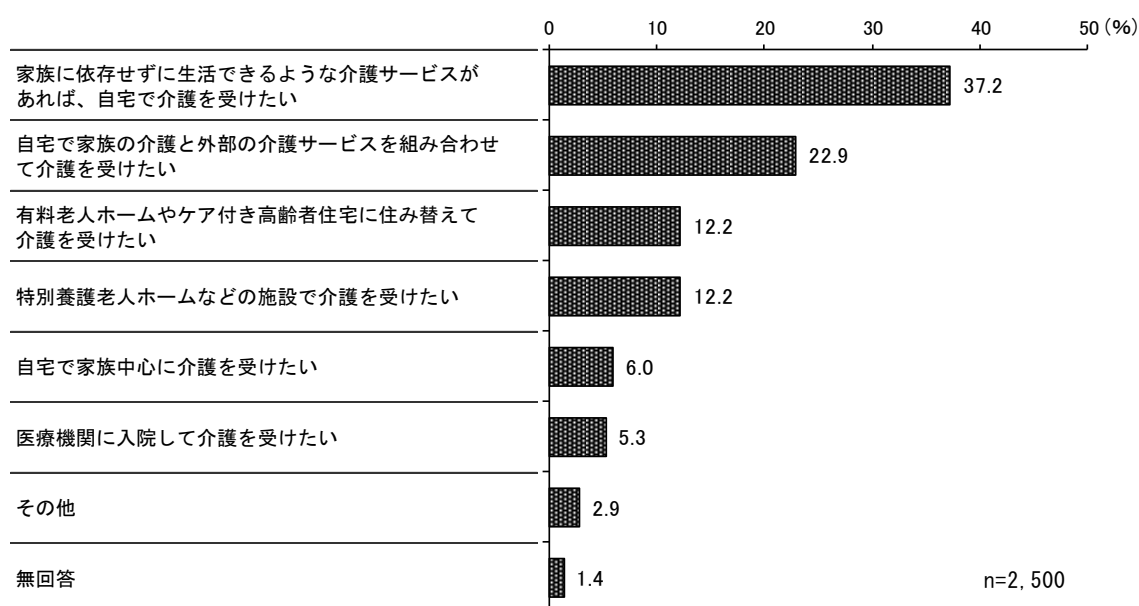
5. 在宅医療・介護ニーズについて

(1) 自分に介護が必要になった場合の希望

◇「家族に依存せずに生活できるような介護サービスがあれば、自宅で介護を受けたい」が最も多く、4割弱

問 24. あなた自身、介護が必要になった場合の、介護の希望を伺います。(○は1つ)

図表 5-1-1 自分に介護が必要になった場合の希望



自分に介護が必要になった場合の介護の希望については、「家族に依存せずに生活できるような介護サービスがあれば、自宅で介護を受けたい」(37.2%)が最も多く、次いで、「自宅で家族の介護と外部の介護サービスを組み合わせて介護を受けたい」(22.9%)、「有料老人ホームやケア付き高齢者住宅に住み替えて介護を受けたい」「特別養護老人ホームなどの施設で介護を受けたい」(ともに12.2%)、「自宅で家族中心に介護を受けたい」(6.0%)の順となっている。また、「その他」として「介護の程度による」「まだ考えられない」等が挙げられた。

性別でみると、「自宅で家族の介護と外部の介護サービスを組み合わせて介護を受けたい」は男性（27.7%）が女性（19.5%）より8.2ポイント、「自宅で家族中心に介護を受けたい」は男性（8.8%）が女性（3.6%）より5.2ポイントそれぞれ高く、「家族に依存せずに生活できるような介護サービスがあれば、自宅で介護を受けたい」は女性（40.3%）が男性（33.6%）より6.7ポイント、「有料老人ホームやケア付き高齢者住宅に住み替えて介護を受けたい」は女性（14.9%）が男性（9.5%）より5.4ポイントそれぞれ高くなっている。

性・年齢別でみると、「家族に依存せずに生活できるような介護サービスがあれば、自宅で介護を受けたい」は女性50～59歳（50.0%）、女性40～49歳（46.4%）で4割半ば以上と多く、「自宅で家族の介護と外部の介護サービスを組み合わせて介護を受けたい」は男性30～39歳（31.7%）、男性70歳以上（30.2%）で約3割と多くなっている。

図表5-1-2 性・年齢別 自分に介護が必要になった場合の希望

	調査数（人）	自宅で家族中心に介護を受けたい	介護サービスと外部の介護を組み合わせたい	自宅で家族の介護を受けたい	家族に依存せずに生活できる、 よいうな介護サービスがあれば、 自宅で介護を受けたい	高齢者住宅に住み替えて 介護を受けたい	有料老人ホームやケア付き 施設で介護を受けたい	特別養護老人ホームなどの 施設で介護を受けたい	医療機関に入院して介護を受けたい	その他	無回答
全体	2,500	6.0	22.9	37.2	12.2	12.2	5.3	2.9	1.4		
女性全体	1,309	3.6	19.5	40.3	14.9	12.4	6.0	2.4	1.0		
18～29歳	118	5.1	28.0	30.5	19.5	10.2	3.4	2.5	0.8		
30～39歳	204	1.5	22.1	37.3	24.0	11.3	2.0	2.0	-		
40～49歳	224	3.6	15.2	46.4	18.3	11.2	3.6	1.8	-		
50～59歳	190	1.1	15.8	50.0	13.2	8.9	7.9	3.2	-		
60～69歳	268	3.4	14.2	42.5	13.4	17.9	5.2	1.9	1.5		
70歳以上	302	5.6	24.8	33.4	7.0	12.3	10.9	3.3	2.6		
男性全体	1,025	8.8	27.7	33.6	9.5	11.6	4.3	3.2	1.4		
18～29歳	97	10.3	29.9	26.8	8.2	12.4	1.0	8.2	3.1		
30～39歳	120	7.5	31.7	35.8	10.8	9.2	2.5	2.5	-		
40～49歳	206	11.7	26.2	36.9	12.1	7.8	1.5	3.9	-		
50～59歳	142	7.0	21.1	37.3	11.3	14.8	3.5	3.5	1.4		
60～69歳	207	7.2	27.5	31.4	10.1	14.0	4.8	2.9	1.9		
70歳以上	245	8.2	30.2	31.8	5.3	12.2	9.0	1.2	2.0		

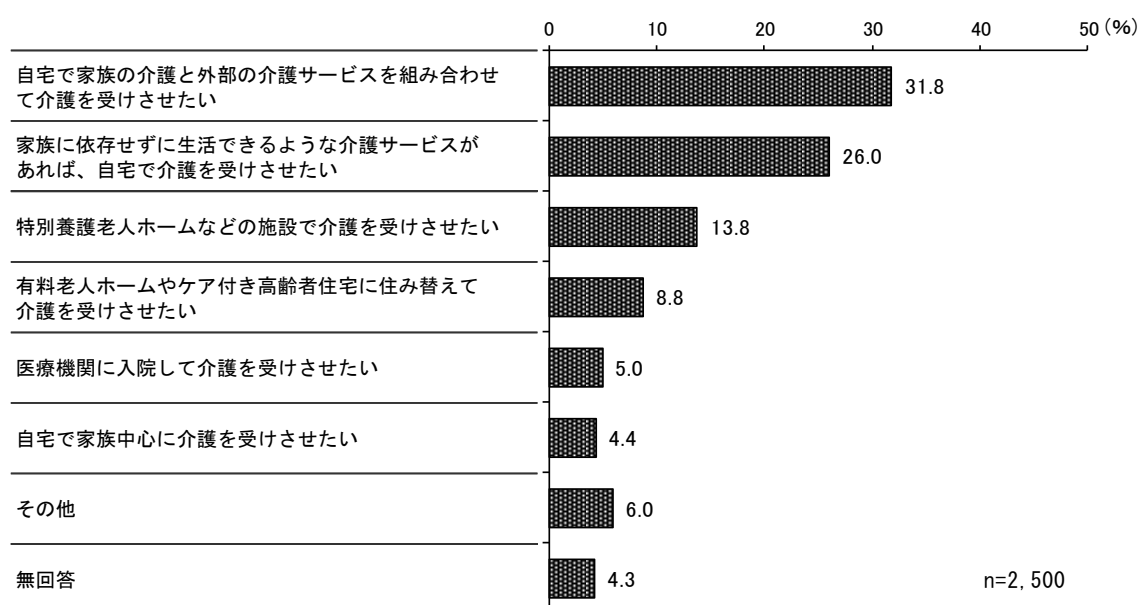
(2) 家族に介護が必要になった場合の希望

◇「自宅で家族の介護と外部の介護サービスを組み合わせて介護を受けさせたい」が最も多く、約3割

問 25. あなたの両親などの家族について、介護が必要になった場合、何を望みますか。

(○は1つ)

図表 5-2-1 家族に介護が必要になった場合の希望



家族に介護が必要になった場合の介護の希望については、「自宅で家族の介護と外部の介護サービスを組み合わせて介護を受けさせたい」(31.8%)が最も多く、次いで、「家族に依存せずに生活できるような介護サービスがあれば、自宅で介護を受けさせたい」(26.0%)、「特別養護老人ホームなどの施設で介護を受けさせたい」(13.8%)、「有料老人ホームやケア付き高齢者住宅に住み替えて介護を受けさせたい」(8.8%)、「医療機関に入院して介護を受けさせたい」(5.0%)の順となっている。また、「その他」として「本人の希望を優先させたい」「両親などの家族はいない」等が挙げられた。

性別でみると、「自宅で家族中心に介護を受けさせたい」は男性（5.8%）が女性（3.2%）より 2.6 ポイント高く、「自宅で家族の介護と外部の介護サービスを組み合わせて介護を受けさせたい」は女性（32.8%）が男性（31.0%）より 1.8 ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「自宅で家族の介護と外部の介護サービスを組み合わせて介護を受けさせたい」は女性 18～29 歳（44.1%）、女性 30～39 歳（42.6%）で 4 割強以上と多く、「家族に依存せずに生活できるような介護サービスがあれば、自宅で介護を受けさせたい」は女性 40～49 歳（32.6%）で 3 割強と最も多くなっている。また、「特別養護老人ホームなどの施設で介護を受けさせたい」は男性 60～69 歳（22.7%）で 2 割強と多くなっている。

図表 5-2-2 性・年齢別 家族に介護が必要になった場合の希望

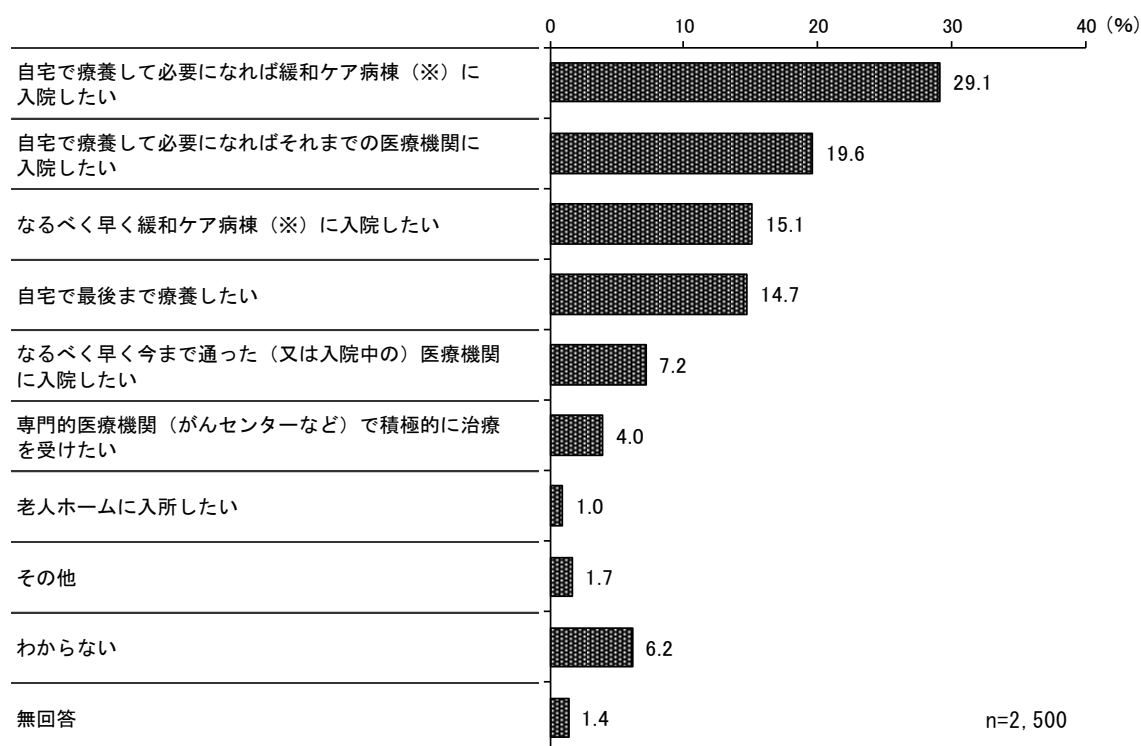
	調査数（人）	自宅で家族中心に介護を受けさせたい	介護サービスを受けさせたい	自宅で家族の介護と外部の介護サービスを組み合わせて	家族に依存せずに生活できる、 よいうな介護サービスがあれば、 自宅で介護を受けさせたい	高齢者住宅に住み替えて 介護を受けさせたい	有料老人ホームやケア付き 施設で介護を受けさせたいの 特別養護老人ホームなどの	医療機関に入院して介護を受けさせたい	その他	無回答
全体	2,500	4.4	31.8	26.0	8.8	13.8	5.0	6.0	4.3	
女性全体	1,309	3.2	32.8	26.1	9.3	12.9	5.6	5.9	4.2	
18～29歳	118	3.4	44.1	22.0	14.4	9.3	3.4	3.4	-	
30～39歳	204	2.5	42.6	26.5	17.2	8.8	1.0	1.0	0.5	
40～49歳	224	6.3	33.9	32.6	9.4	11.2	3.1	2.7	0.9	
50～59歳	190	0.5	30.5	30.0	8.4	17.9	7.4	4.7	0.5	
60～69歳	268	1.5	29.1	23.9	9.0	16.4	7.5	7.8	4.9	
70歳以上	302	4.6	25.2	22.2	3.0	12.3	8.6	11.6	12.6	
男性全体	1,025	5.8	31.0	26.4	8.7	14.9	4.5	5.7	3.0	
18～29歳	97	6.2	36.1	23.7	11.3	12.4	4.1	5.2	1.0	
30～39歳	120	6.7	35.0	30.8	10.8	12.5	1.7	2.5	-	
40～49歳	206	4.9	37.4	30.6	7.8	13.6	1.5	3.4	1.0	
50～59歳	142	7.7	27.5	28.9	14.1	15.5	3.5	2.8	-	
60～69歳	207	3.4	26.6	19.8	9.7	22.7	6.8	7.2	3.9	
70歳以上	245	6.1	27.8	25.7	3.3	11.8	7.3	9.8	8.2	

(3) 療養生活を送りたい場所

◇「自宅で療養して必要になれば緩和ケア病棟に入院したい」が最も多く、約3割

問 26. あなた自身が、治る見込みがなく死期が迫っている（6か月程度あるいはそれより短い期間を想定）と告げられた場合、療養生活をどこで送りたいですか。（○は1つ）

図表5-3-1 療養生活を送りたい場所



※「緩和ケア病棟」：終末期における症状を和らげることを目的とした病棟

療養生活を送りたい場所については、「自宅で療養して必要になれば緩和ケア病棟に入院したい」（29.1%）が最も多く、次いで、「自宅で療養して必要になればそれまでの医療機関に入院したい」（19.6%）、「なるべく早く緩和ケア病棟（終末期における症状を和らげることを目的とした病棟）に入院したい」（15.1%）、「自宅で最後まで療養したい」（14.7%）、「なるべく早く今まで通った（又は入院中の）医療機関に入院したい」（7.2%）の順となっている。また、「その他」として「自分が好きなところ」「そのときの状況による」等が挙げられた。

性別でみると、「自宅で療養して必要になれば緩和ケア病棟に入院したい」は女性（34.5%）が男性（23.7%）より10.8ポイント高く、「自宅で最後まで療養したい」は男性（18.8%）が女性（11.2%）より7.6ポイント、「自宅で療養して必要になればそれまでの医療機関に入院したい」は男性（22.6%）が女性（17.1%）より5.5ポイントそれぞれ高くなっている。

性・年齢別でみると、「なるべく早く緩和ケア病棟（終末期における症状を和らげることを目的とした病棟）に入院したい」は女性60～69歳（24.6%）で2割半ばと多く、「自宅で最後まで療養したい」は男性30～39歳（27.5%）、男性40～49歳（26.2%）、男性18～29歳（25.8%）で2割半ば以上と多くなっている。

図表5-3-2 性・年齢別 療養生活を送りたい場所

	調査数（人）	なるべく早く今までの医療機関に通院したい	なるべく早く緩和ケア病棟（※）に入院したい	自宅で療養して必要になれば入院したい	自宅で療養して必要になれば緩和ケア病棟（※）に入院したい	自宅で最後まで療養したい	専門的医療機関（がんセンターなど）で積極的に治療を受けたい	老人ホームに入所したい	その他	わからない	無回答
全体	2,500	7.2	15.1	19.6	29.1	14.7	4.0	1.0	1.7	6.2	1.4
女性全体	1,309	6.6	16.9	17.1	34.5	11.2	3.6	1.0	1.1	6.6	1.3
18～29歳	118	4.2	13.6	23.7	30.5	15.3	5.9	-	2.5	4.2	-
30～39歳	204	2.5	12.7	20.6	37.7	12.3	5.4	0.5	1.5	5.9	1.0
40～49歳	224	5.4	13.8	12.9	41.5	14.7	2.7	0.9	1.3	6.3	0.4
50～59歳	190	3.7	20.0	13.2	39.5	12.1	3.2	-	-	7.9	0.5
60～69歳	268	6.7	24.6	14.2	37.3	6.7	1.1	0.4	0.7	6.3	1.9
70歳以上	302	13.2	14.6	19.9	23.2	9.9	4.6	3.0	1.0	7.9	2.6
男性全体	1,025	7.7	13.1	22.6	23.7	18.8	4.5	1.2	2.0	5.4	1.0
18～29歳	97	9.3	10.3	15.5	21.6	25.8	3.1	1.0	3.1	8.2	2.1
30～39歳	120	4.2	7.5	26.7	17.5	27.5	5.0	0.8	2.5	8.3	-
40～49歳	206	6.3	11.7	21.8	21.8	26.2	4.9	1.0	1.5	4.4	0.5
50～59歳	142	4.9	10.6	19.7	30.3	19.0	7.7	0.7	2.8	3.5	0.7
60～69歳	207	7.2	17.9	20.3	28.5	9.2	3.9	1.9	3.4	5.8	1.9
70歳以上	245	11.8	15.9	27.8	20.8	13.9	2.9	1.2	0.4	4.5	0.8

※「緩和ケア病棟」：終末期における症状を和らげることを目的とした病棟

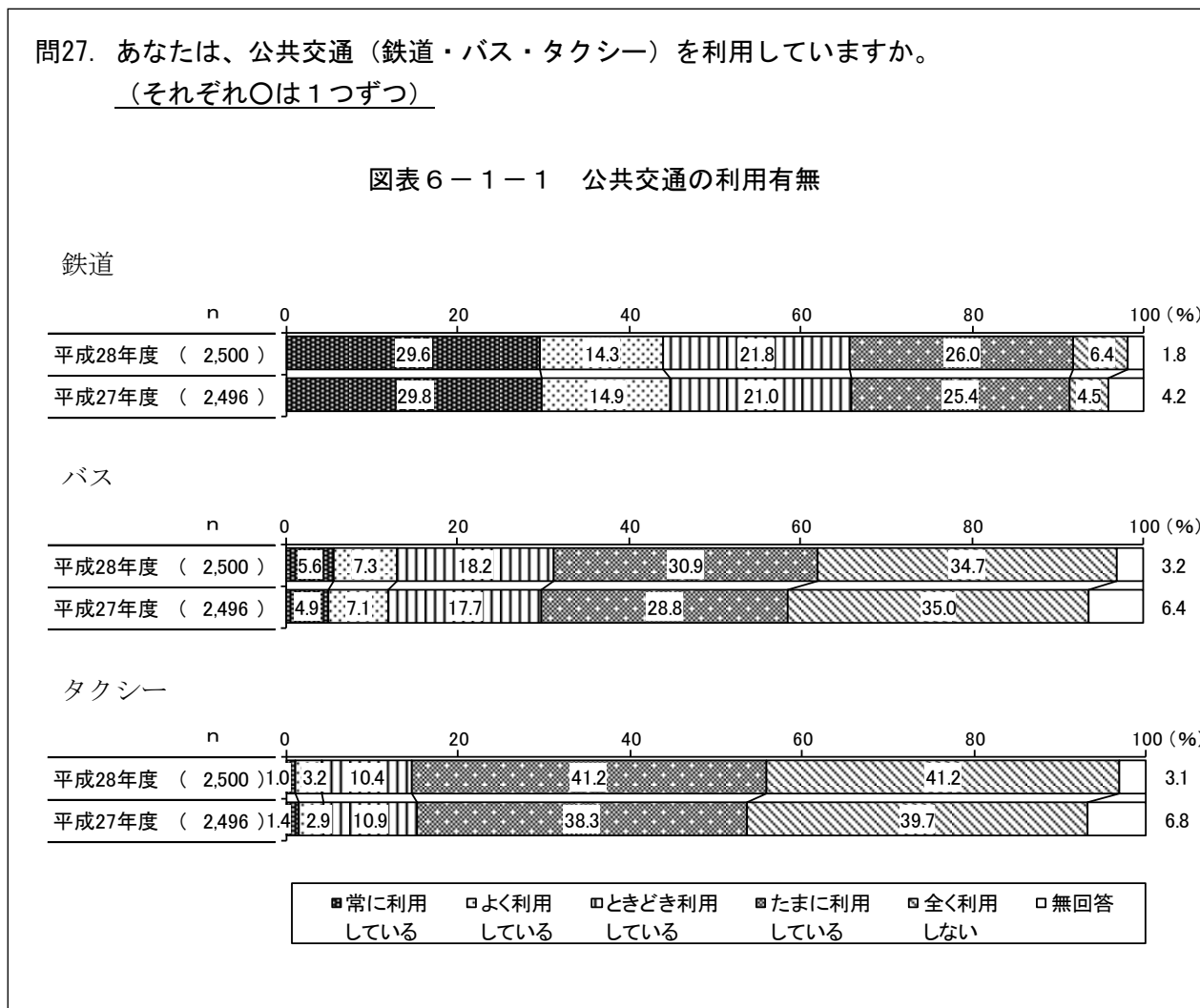
6. 市内の公共交通について

(1) 公共交通の利用有無

◇ 鉄道は「常に利用」が約3割、バスは「たまに利用」が約3割、タクシーは「たまに利用」「全く利用しない」がともに約4割

問27. あなたは、公共交通（鉄道・バス・タクシー）を利用していますか。
 （それぞれ○は1つずつ）

図表6-1-1 公共交通の利用有無



鉄道の利用については、「常に利用している」(29.6%)が最も多く、次いで、「たまに利用している」(26.0%)、「ときどき利用している」(21.8%)、「よく利用している」(14.3%)、「全く利用しない」(6.4%)の順となっている。

バスの利用については、「全く利用しない」(34.7%)が最も多く、次いで、「たまに利用している」(30.9%)、「ときどき利用している」(18.2%)、「よく利用している」(7.3%)、「常に利用している」(5.6%)の順となっている。

タクシーの利用については、「たまに利用している」「全く利用しない」(ともに41.2%)が多く、「ときどき利用している」(10.4%)、「よく利用している」(3.2%)、「常に利用している」(1.0%)の順となっている。

前回の調査と比較すると、鉄道およびバスの利用については大きな変化はみられない。また、タクシーについては、「たまに利用している」(41.2%)が平成27年度調査(38.3%)と比べ2.9ポイント増加している。

鉄道の利用について性別でみると、「常に利用している」は男性(38.8%)が女性(22.7%)より16.1ポイント高く、「ときどき利用している」は女性(25.0%)が男性(17.7%)より7.3ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「常に利用している」は男性18～29歳(55.7%)、男性30～39歳(54.2%)で5割半ばと多くなっている。

バスの利用について性別でみると、「よく利用している」は女性(7.9%)が男性(6.0%)より1.9ポイント高く、「全く利用しない」は男性(37.0%)が女性(33.4%)より3.6ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「たまに利用している」は男性60～69歳(38.6%)、女性40～49歳(38.4%)で4割弱と多くなっている。

タクシーの利用について性別でみると、「全く利用しない」は女性(43.2%)が男性(39.6%)より3.6ポイント高く、「たまに利用している」は男性(42.8%)が女性(40.6%)より2.2ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「たまに利用している」は男性30～39歳(47.5%)、男性60～69歳(47.3%)、男性50～59歳(47.2%)で5割弱と多くなっている。

図表6-1-2 性・年齢別 公共交通の利用有無

(%)

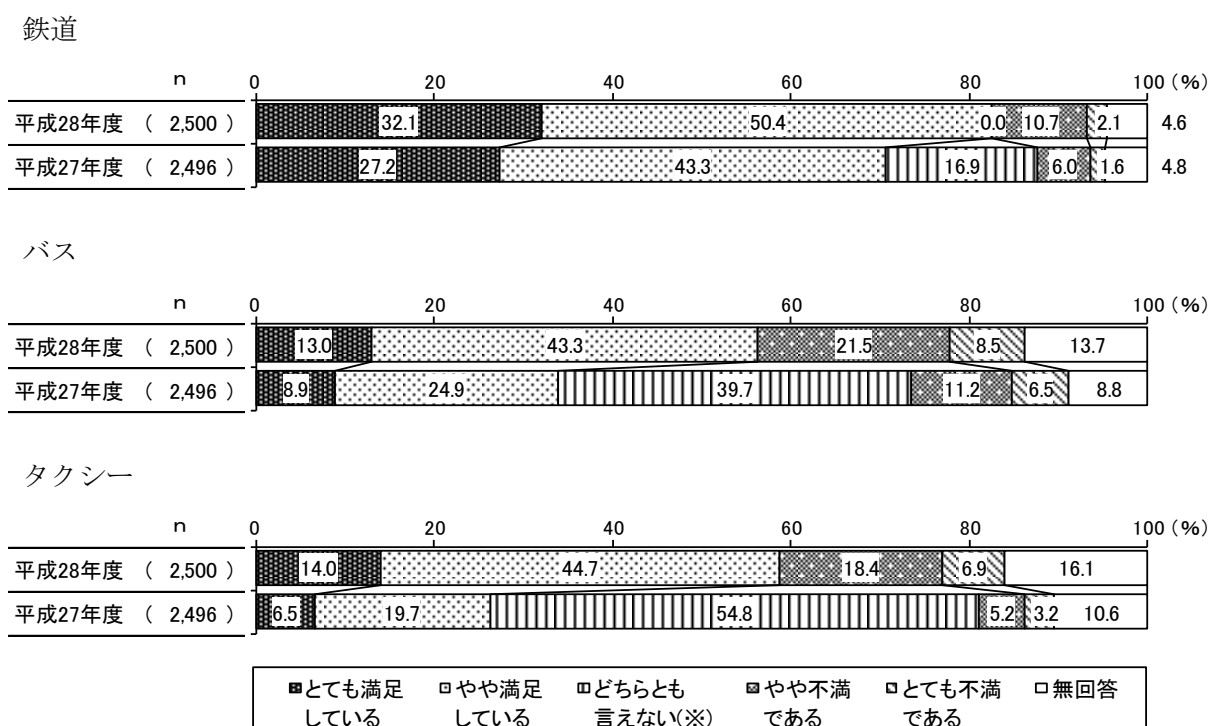
	調査数(人)	鉄道						バス						タクシー					
		常に利用している	よく利用している	ときどき利用している	たまに利用している	全く利用しない	無回答	常に利用している	よく利用している	ときどき利用している	たまに利用している	全く利用しない	無回答	常に利用している	よく利用している	ときどき利用している	たまに利用している	全く利用しない	無回答
全体	2,500	29.6	14.3	21.8	26.0	6.4	1.8	5.6	7.3	18.2	30.9	34.7	3.2	1.0	3.2	10.4	41.2	41.2	3.1
女性全体	1,309	22.7	16.4	25.0	28.0	6.0	1.9	5.7	7.9	18.3	32.0	33.4	2.7	0.8	3.1	9.9	40.6	43.2	2.5
18～29歳	118	48.3	22.0	11.0	12.7	5.9	-	10.2	10.2	16.9	22.9	39.8	-	-	2.5	8.5	39.0	50.0	-
30～39歳	204	29.9	13.2	21.6	31.4	3.4	0.5	4.4	7.8	17.6	33.8	34.3	2.0	1.0	2.5	6.9	42.6	45.1	2.0
40～49歳	224	25.4	13.8	23.7	33.9	2.7	0.4	4.9	5.4	17.0	38.4	33.5	0.9	-	1.3	5.4	36.2	56.3	0.9
50～59歳	190	19.5	16.8	29.5	29.5	4.2	0.5	1.6	6.3	16.8	34.2	39.5	1.6	-	2.6	8.9	43.2	44.2	1.1
60～69歳	268	14.6	16.8	33.2	28.4	5.2	1.9	4.9	9.0	16.4	34.7	32.5	2.6	0.7	3.4	9.0	44.8	39.2	3.0
70歳以上	302	15.2	17.9	23.2	25.8	12.3	5.6	8.6	9.3	22.8	26.2	27.2	6.0	2.0	5.3	16.9	38.1	32.1	5.6
男性全体	1,025	38.8	12.1	17.7	23.9	6.3	1.2	5.1	6.0	17.9	30.6	37.0	3.4	1.2	3.0	10.3	42.8	39.6	3.0
18～29歳	97	55.7	16.5	13.4	10.3	3.1	1.0	5.2	6.2	20.6	30.9	35.1	2.1	-	4.1	7.2	30.9	55.7	2.1
30～39歳	120	54.2	13.3	7.5	16.7	8.3	-	4.2	3.3	15.8	30.0	44.2	2.5	-	1.7	5.0	47.5	43.3	2.5
40～49歳	206	46.6	12.1	16.0	18.9	5.8	0.5	3.4	6.3	10.7	32.0	46.6	1.0	1.0	1.9	7.8	41.3	47.1	1.0
50～59歳	142	47.2	7.0	14.1	21.8	9.9	-	7.0	4.9	15.5	23.2	47.9	1.4	-	3.5	12.0	47.2	35.9	1.4
60～69歳	207	28.5	11.1	20.3	33.3	4.8	1.9	3.4	4.8	21.7	38.6	26.6	4.8	-	1.4	13.0	47.3	33.3	4.8
70歳以上	245	22.0	13.9	24.9	30.2	6.5	2.4	7.3	9.0	22.0	26.5	28.6	6.5	4.1	4.9	13.5	39.6	33.1	4.9

(2) 公共交通の満足度

◇ 『満足』は、鉄道が8割強、バスが5割半ば、タクシーが6割弱

問28. あなたは、市内の公共交通（鉄道・バス・タクシー）にどの程度満足していますか。
 （それぞれ〇は1つずつ）

図表6-2-1 公共交通の満足度



※ 「どちらとも言えない」は平成27年度のみ

鉄道の満足度については、「とても満足している」(32.1%)と「やや満足している」(50.4%)を合わせた『満足』(82.5%)は8割強となっている。

バスの満足度については、「とても満足している」(13.0%)と「やや満足している」(43.3%)を合わせた『満足』(56.3%)は5割半ばとなっている。

タクシーの満足度については、「とても満足している」(14.0%)と「やや満足している」(44.7%)を合わせた『満足』(58.7%)は6割弱となっている。

※ 経年比較については、前回調査と選択肢が異なるため記述しない

鉄道の満足度について性別で見ると、『満足』は男性（83.8%）が女性（82.1%）より1.7ポイント高くなっている。

性・年齢別で見ると、『満足』は女性60～69歳（88.5%）、男性60～69歳（87.4%）で9割弱と多くなっている。

バスの満足度について性別で見ると、『満足』は男性（58.4%）が女性（54.6%）より3.8ポイント高くなっている。

性・年齢別で見ると、『満足』は男性70歳以上（64.9%）で6割半ばと多くなっている。

タクシーの満足度について性別で見ると、『満足』は男性（60.8%）が女性（57.4%）より3.4ポイント高くなっている。

性・年齢別で見ると、『満足』は男性50～59歳（65.5%）で6割半ばと多くなっている。

図表6-2-2 性・年齢別 公共交通の満足度

		鉄道					バス					タクシー				
	調査数（人）	とても満足している	やや満足している	やや不満である	とても不満である	無回答	とても満足している	やや満足している	やや不満である	とても不満である	無回答	とても満足している	やや満足している	やや不満である	とても不満である	無回答
全体	2,500	32.1	50.4	10.7	2.1	4.6	13.0	43.3	21.5	8.5	13.7	14.0	44.7	18.4	6.9	16.1
女性全体	1,309	29.5	52.6	11.8	1.6	4.5	11.4	43.2	22.5	9.0	13.9	12.9	44.5	19.4	5.8	17.4
18～29歳	118	18.6	54.2	24.6	2.5	-	10.2	43.2	29.7	7.6	9.3	11.9	44.9	21.2	9.3	12.7
30～39歳	204	30.9	53.9	12.7	1.5	1.0	10.3	48.0	24.5	8.8	8.3	15.7	47.5	19.1	8.3	9.3
40～49歳	224	35.7	48.2	12.9	2.2	0.9	11.2	42.0	26.8	9.8	10.3	13.4	43.3	26.3	4.9	12.1
50～59歳	190	24.2	53.2	17.9	2.1	2.6	6.8	41.6	28.4	10.5	12.6	6.8	45.3	23.7	6.8	17.4
60～69歳	268	29.5	59.0	5.2	0.4	6.0	12.7	42.2	19.0	8.2	17.9	11.2	43.3	18.3	4.5	22.8
70歳以上	302	31.5	48.3	7.3	1.7	11.3	14.2	43.0	14.6	8.9	19.2	16.6	43.7	12.3	3.6	23.8
男性全体	1,025	36.0	47.8	9.9	3.0	3.3	14.0	44.4	21.4	8.5	11.8	15.4	45.4	17.9	8.5	12.9
18～29歳	97	25.8	46.4	22.7	4.1	1.0	19.6	36.1	27.8	9.3	7.2	15.5	37.1	27.8	11.3	8.2
30～39歳	120	27.5	56.7	10.0	4.2	1.7	14.2	39.2	25.8	8.3	12.5	12.5	41.7	23.3	9.2	13.3
40～49歳	206	35.4	47.6	10.7	4.4	1.9	9.7	43.2	26.7	12.1	8.3	10.7	51.0	17.0	11.7	9.7
50～59歳	142	33.1	49.3	10.6	4.9	2.1	12.0	46.5	22.5	10.6	8.5	12.0	53.5	21.1	7.7	5.6
60～69歳	207	41.5	45.9	8.2	1.9	2.4	15.0	44.4	21.3	7.2	12.1	17.9	44.0	14.5	7.2	16.4
70歳以上	245	42.0	44.5	4.9	0.8	7.8	15.5	49.4	11.8	4.9	18.4	20.8	41.6	13.1	5.7	18.8

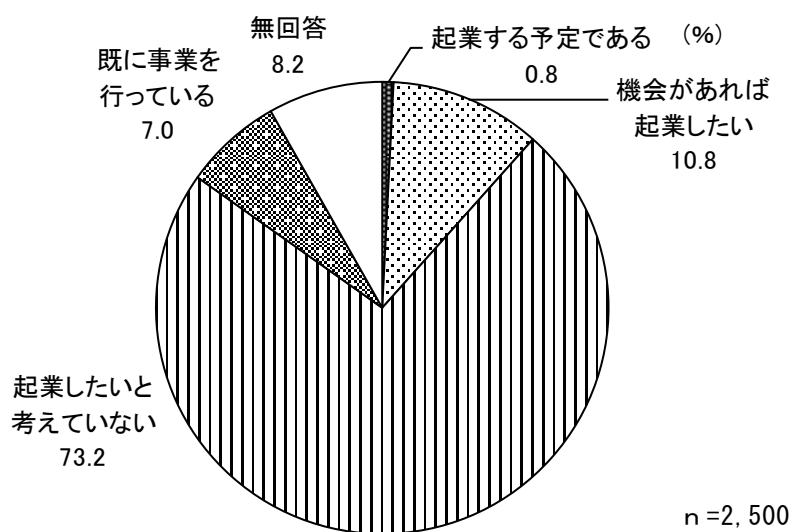
7. 起業について

(1) 起業意向

◇『起業意向あり』は約1割

問 29. あなたは、起業したいと考えていますか（自宅での起業も含む）。(○は1つ)

図表7-1-1 起業意向

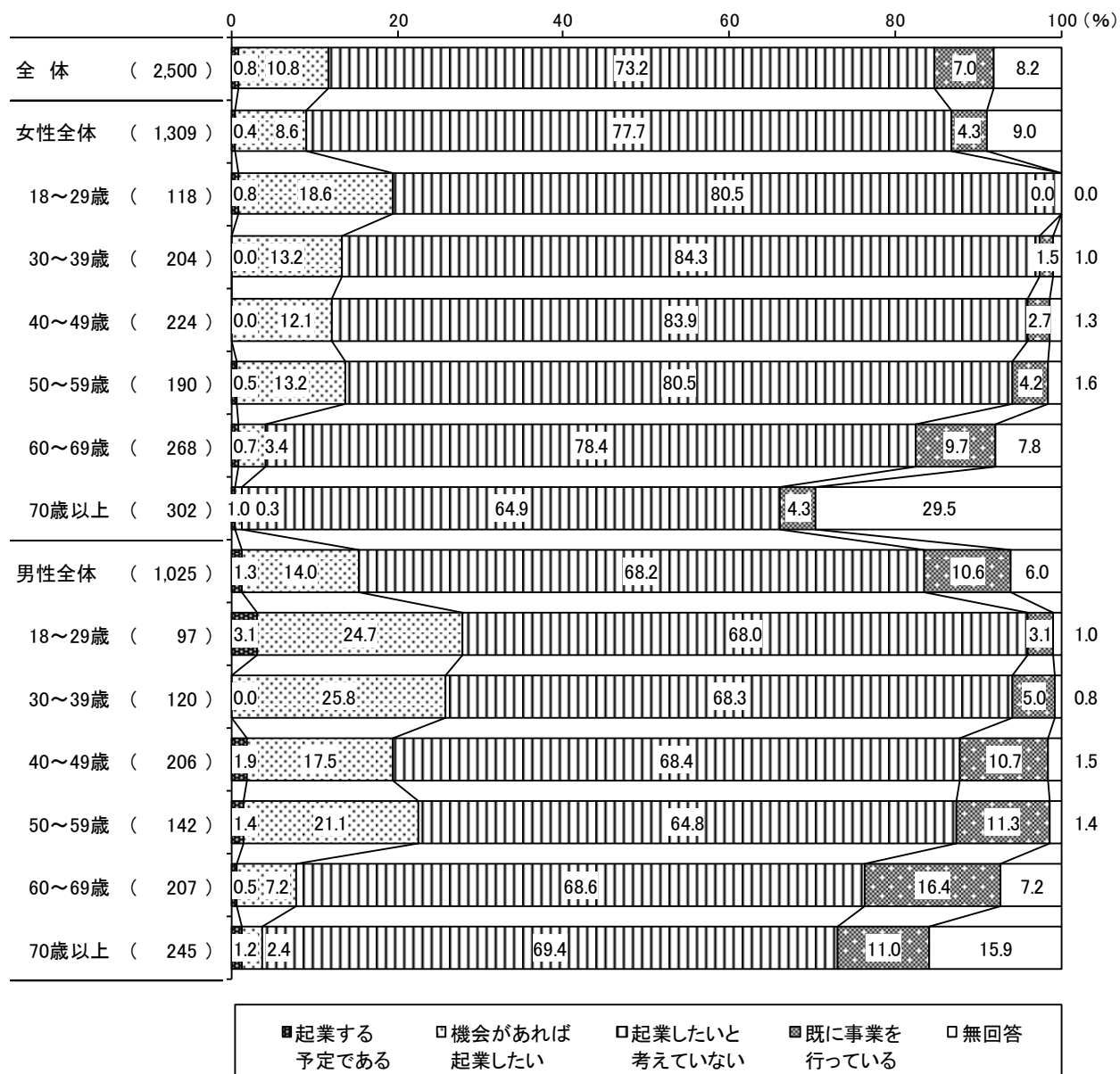


起業意向については、「起業する予定である」(0.8%)、「機会があれば起業したい」(10.8%)を合わせた『起業意向あり』(11.6%)は約1割となっている。一方、「起業したいと考えていない」(73.2%)は7割強となっている。

性別で見ると、「既に事業を行っている」は男性（10.6%）が女性（4.3%）より6.3ポイント、「機会があれば起業したい」は男性（14.0%）が女性（8.6%）より5.4ポイントそれぞれ高くなっている。「起業したいと考えていない」は女性（77.7%）が男性（68.2%）より9.5ポイント高くなっている。

性・年齢別で見ると、「機会があれば起業したい」は男性30～39歳（25.8%）、男性18～29歳（24.7%）、男性50～59歳（21.1%）で2割以上と多くなっている。

図表7-1-2 性・年齢別 起業意向

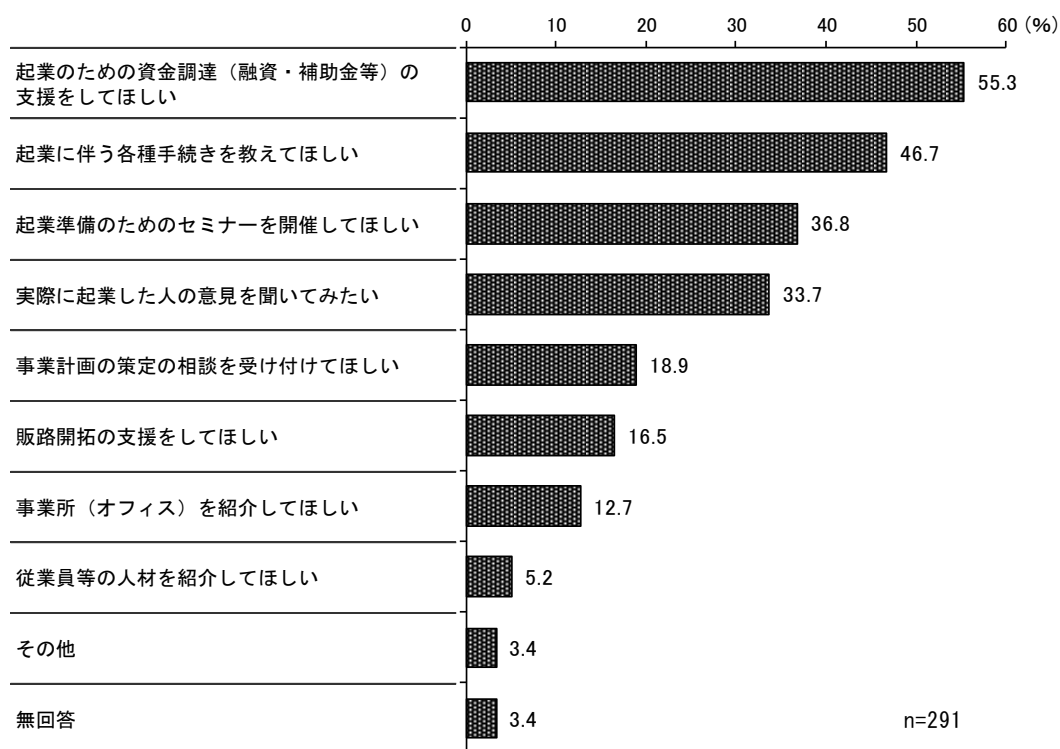


(2) 起業の際に期待する支援

◇「起業のための資金調達（融資・補助金等）の支援をしてほしい」が最も多く、5割半ば

問 29-2. 問 29 で「1. 起業する予定である」「2. 機会があれば起業したい」と答えた方に伺います。どのような支援を市に期待しますか。(複数回答可)

図表 7-2-1 起業の際に期待する支援



「起業する予定である」「機会があれば起業したい」と回答した 291 人に、起業の際に期待する支援を聞いたところ、「起業のための資金調達（融資・補助金等）の支援をしてほしい」（55.3%）が最も多く、次いで、「起業に伴う各種手続きを教えてほしい」（46.7%）、「起業準備のためのセミナーを開催してほしい」（36.8%）、「実際に起業した人の意見を聞いてみたい」（33.7%）、「事業計画の策定の相談を受け付けてほしい」（18.9%）の順となっている。また、「その他」として「低い金利で支援してほしい」「税金を優遇してほしい」等が挙げられた。

性別でみると、「事業計画の策定の相談を受け付けてほしい」は女性（23.7%）が男性（14.7%）より9.0ポイント、「起業に伴う各種手続きを教えてほしい」は女性（52.5%）が男性（44.2%）より8.3ポイントそれぞれ高く、「事業所（オフィス）を紹介してほしい」は男性（15.4%）が女性（8.5%）より6.9ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「起業のための資金調達（融資・補助金等）の支援をしてほしい」は男性40～49歳（77.5%）で8割弱と多く、「起業に伴う各種手続きを教えてほしい」は女性30～39歳（66.7%）、女性40～49歳（63.0%）で6割以上と高くなっている。

図表7-2-2 性・年齢別 起業の際に期待する支援

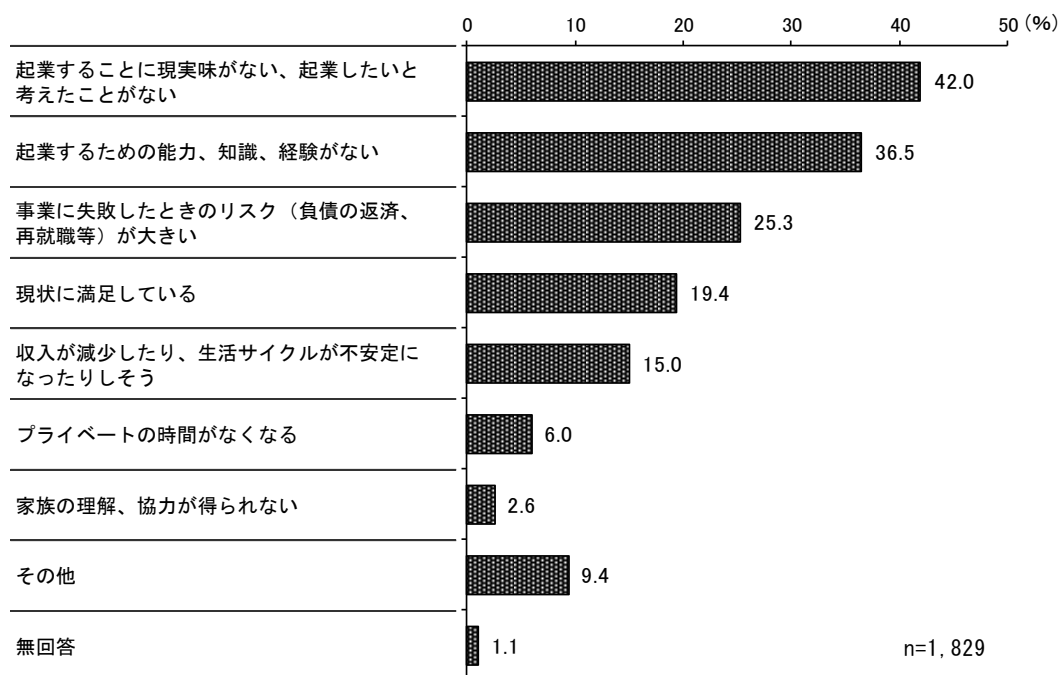
	調査数（人）	事業所（オフィス）を紹介してほしい	事業計画の策定の相談を受け付けてほしい	起業準備のためのセミナーを開催してほしい	（融資・補助金等）の支援をしてほしい	起業に伴う各種手続きを教えてほしい	販路開拓の支援をしてほしい	従業員等の人材を紹介してほしい	実際に起業した人の意見を聞いてみたい	その他	無回答
全体	291	12.7	18.9	36.8	55.3	46.7	16.5	5.2	33.7	3.4	3.4
女性全体	118	8.5	23.7	41.5	55.1	52.5	16.9	5.1	38.1	2.5	2.5
18～29歳	23	4.3	26.1	30.4	60.9	47.8	17.4	-	26.1	-	-
30～39歳	27	11.1	25.9	55.6	63.0	66.7	14.8	14.8	44.4	-	3.7
40～49歳	27	7.4	29.6	48.1	55.6	63.0	22.2	-	37.0	3.7	-
50～59歳	26	11.5	15.4	42.3	46.2	46.2	19.2	7.7	38.5	3.8	3.8
60～69歳	11	9.1	18.2	18.2	36.4	27.3	-	-	36.4	9.1	9.1
70歳以上	4	-	25.0	25.0	75.0	25.0	25.0	-	75.0	-	-
男性全体	156	15.4	14.7	35.3	54.5	44.2	16.0	4.5	32.1	4.5	3.8
18～29歳	27	18.5	25.9	55.6	66.7	55.6	25.9	3.7	48.1	-	-
30～39歳	31	12.9	12.9	29.0	45.2	54.8	6.5	3.2	35.5	3.2	3.2
40～49歳	40	15.0	7.5	42.5	77.5	45.0	12.5	5.0	27.5	7.5	2.5
50～59歳	32	15.6	15.6	31.3	40.6	46.9	18.8	-	18.8	3.1	-
60～69歳	16	18.8	12.5	18.8	43.8	18.8	31.3	12.5	37.5	-	12.5
70歳以上	9	11.1	22.2	11.1	11.1	-	-	-	22.2	22.2	22.2

(3) 起業したくない理由

◇「起業することに現実味がない、起業したいと考えたことがない」が最も多く、4割強

問 29-3. 問 29 で「3. 起業したいと考えていない」と答えた方に伺います。起業したいと考えていない理由は何ですか。(複数回答可)

図表 7-3-1 起業したくない理由



「起業したいと考えていない」と回答した1,829人に、起業したくない理由を聞いたところ、「起業することに現実味がない、起業したいと考えたことがない」(42.0%)が最も多く、次いで、「起業するための能力、知識、経験がない」(36.5%)、「事業に失敗したときのリスク（負債の返済、再就職等）が大きい」(25.3%)、「現状に満足している」(19.4%)、「収入が減少したり、生活サイクルが不安定になったりしそう」(15.0%)の順となっている。また、「その他」として「高齢だから」「病気だから」等が挙げられた。

性別でみると、「起業することに現実味がない、起業したいと考えたことがない」は女性（46.3%）が男性（37.9%）より8.4ポイント、「起業するための能力、知識、経験がない」は女性（39.8%）が男性（31.8%）より8.0ポイントそれぞれ高く、「現状に満足している」は男性（21.5%）が女性（17.4%）より4.1ポイント、「事業に失敗したときのリスク（負債の返済、再就職等）が大きい」は男性（28.2%）が女性（24.9%）より3.3ポイントそれぞれ高くなっている。

性・年齢別でみると、「事業に失敗したときのリスク（負債の返済、再就職等）が大きい」は男性18～29歳（45.5%）、男性40～49歳（41.8%）、男性30～39歳（41.5%）、女性18～29歳（40.0%）で4割以上と多くなっている。

図表7-3-2 性・年齢別 起業したくない理由

	調査数（人）	現状に満足している	収入が減少したり、生活が不安定になったり	大きな負債の返済、再就職等）が大きい	事業に失敗したときのリスク	家族の理解、協力が得られない	プライベートの時間がなくなる	起業するための能力、知識、経験がない	起業することに現実味がなく	その他	無回答
全体	1,829	19.4	15.0	25.3	2.6	6.0	36.5	42.0	9.4	1.1	
女性全体	1,017	17.4	15.4	24.9	2.0	6.4	39.8	46.3	8.3	1.3	
18～29歳	95	18.9	33.7	40.0	-	11.6	50.5	55.8	2.1	1.1	
30～39歳	172	14.0	23.3	38.4	1.2	3.5	54.1	49.4	2.9	0.6	
40～49歳	188	17.6	22.3	33.0	3.2	10.6	40.4	48.4	3.2	0.5	
50～59歳	153	14.4	15.0	34.0	4.6	9.2	43.8	46.4	3.9	-	
60～69歳	210	14.3	7.1	11.4	1.4	5.7	37.1	53.8	6.7	1.0	
70歳以上	196	24.5	2.6	5.6	1.0	1.0	21.9	29.6	26.0	3.6	
男性全体	699	21.5	15.7	28.2	4.0	5.9	31.8	37.9	10.4	0.6	
18～29歳	66	18.2	33.3	45.5	1.5	10.6	43.9	42.4	3.0	-	
30～39歳	82	22.0	28.0	41.5	7.3	3.7	40.2	39.0	2.4	-	
40～49歳	141	19.9	22.7	41.8	7.1	4.3	35.5	34.8	2.8	-	
50～59歳	92	25.0	16.3	35.9	3.3	6.5	33.7	38.0	3.3	-	
60～69歳	142	17.6	9.2	16.9	2.8	7.7	31.0	41.5	13.4	-	
70歳以上	170	25.3	2.4	9.4	2.4	4.7	20.6	34.1	25.3	2.4	

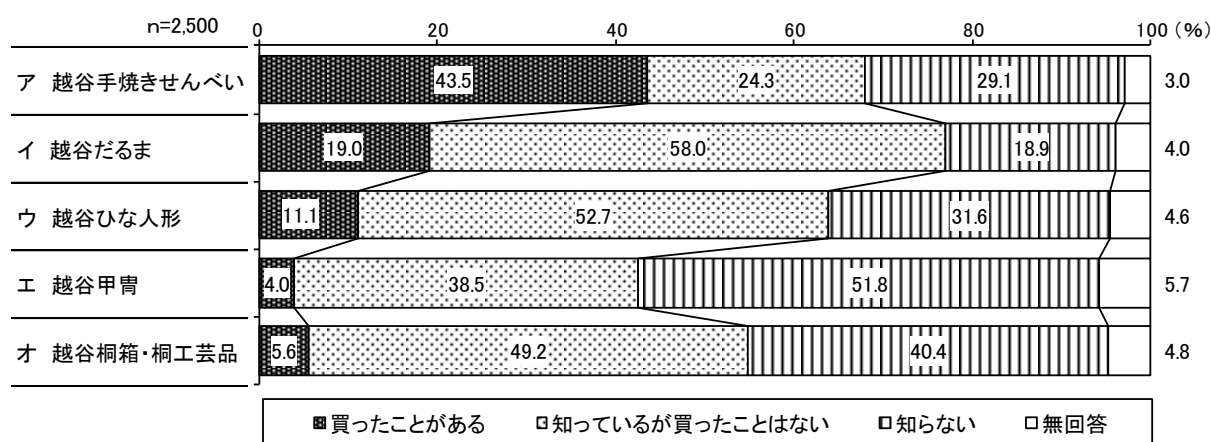
8. 越谷市の伝統的手工芸品について

(1) 越谷市の伝統的手工芸品の認知

◇認知は「越谷だるま」が8割弱、購入経験は「越谷手焼きせんべい」が4割強

問 30. 越谷市には以下のような伝統的手工芸品があることを知っていますか。また、以下の伝統的手工芸品のうち、買ったことがあるものはありますか。
(ア～オそれぞれ○は1つつ)

図表 8-1-1 越谷市の伝統的手工芸品の認知



越谷市の伝統的手工芸品について、「買ったことがある」と「知っているが買ったことはない」を合わせた『知っている』では、「イ 越谷だるま」(77.0%)が8割弱と最も多く、次いで、「ア 越谷手焼きせんべい」(67.8%)、「ウ 越谷ひな人形」(63.8%)の順となっている。また、「買ったことがある」では、「ア 越谷手焼きせんべい」(43.5%)が4割強と最も多く、次いで、「イ 越谷だるま」(19.0%)、「ウ 越谷ひな人形」(11.1%)の順となっている。一方、「知らない」では「越谷甲冑」(51.8%)が約5割と最も多くなっている。

性・年齢別でみると、「ア 越谷手焼きせんべい」では「買ったことがある」が女性70歳以上(66.6%)、女性60～69歳(63.1%)で6割半ばと多くなっている。

「イ 越谷だるま」では「買ったことがある」が男性60～69歳(23.7%)、女性60～69歳(23.1%)で2割強と多くなっている。

「ウ 越谷ひな人形」では「買ったことがある」が女性70歳以上(19.5%)、男性70歳以上(18.4%)、女性60～69歳(17.2%)で2割弱と多くなっている。

「エ 越谷甲冑」では「買ったことがある」が男性60～69歳(7.2%)、女性60～69歳(7.8%)で1割弱とやや多くなっている。

「オ 越谷桐箱・桐工芸品」では「買ったことがある」が男性70歳以上(11.0%)で約1割と多くなっている。

図表8-1-2 性・年齢別 越谷市の伝統的手工芸品の認知

(%)

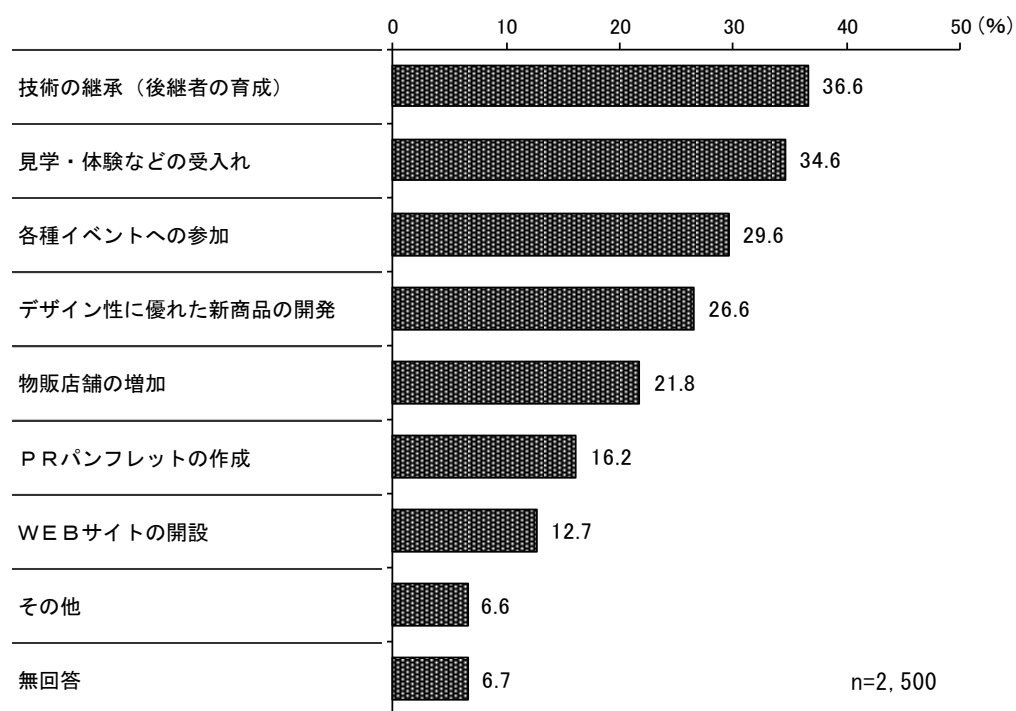
	調査数(人)	ア 越谷手焼きせんべい				イ 越谷だるま				ウ 越谷ひな人形				エ 越谷甲冑				オ 越谷桐箱・桐工芸品			
		買ったことがある	買ったことがあるが知らない	知らない	無回答	買ったことがある	買ったことがあるが知らない	知らない	無回答	買ったことがある	買ったことがあるが知らない	知らない	無回答	買ったことがある	買ったことがあるが知らない	知らない	無回答	買ったことがある	買ったことがあるが知らない	知らない	無回答
全体	2,500	43.5	24.3	29.1	3.0	19.0	58.0	18.9	4.0	11.1	52.7	31.6	4.6	4.0	38.5	51.8	5.7	5.6	49.2	40.4	4.8
女性全体	1,309	46.8	26.1	24.5	2.5	19.5	59.6	17.0	4.0	12.1	53.5	30.5	4.0	3.9	39.3	51.6	5.2	5.1	51.3	39.0	4.6
18～29歳	118	17.8	30.5	51.7	-	16.9	49.2	33.9	-	3.4	44.9	51.7	-	0.8	20.3	78.8	-	-	39.0	61.0	-
30～39歳	204	27.0	29.4	42.6	1.0	14.2	57.4	27.5	1.0	7.8	42.6	48.0	1.5	0.5	28.4	69.6	1.5	1.5	34.8	62.3	1.5
40～49歳	224	31.3	34.8	33.0	0.9	17.9	60.7	20.5	0.9	7.1	52.7	39.3	0.9	2.2	32.6	63.8	1.3	2.2	42.4	54.5	0.9
50～59歳	190	51.1	30.0	17.9	1.1	18.9	66.3	13.7	1.1	8.9	61.6	28.4	1.1	4.2	40.5	53.7	1.6	4.7	53.7	40.0	1.6
60～69歳	268	63.1	22.0	11.9	3.0	23.1	65.7	9.0	2.2	17.2	63.1	17.2	2.6	7.8	49.3	38.1	4.9	8.6	67.2	20.9	3.4
70歳以上	302	66.6	16.9	10.6	6.0	22.5	55.3	9.3	12.9	19.5	51.3	16.9	12.3	5.0	49.7	30.5	14.9	8.9	58.6	18.5	13.9
男性全体	1,025	37.6	22.6	37.0	2.8	18.0	57.2	22.0	2.8	9.9	51.9	34.5	3.7	3.9	37.2	54.5	4.4	6.0	45.3	45.2	3.6
18～29歳	97	26.8	22.7	50.5	-	18.6	54.6	26.8	-	3.1	54.6	41.2	1.0	1.0	25.8	73.2	-	1.0	28.9	70.1	-
30～39歳	120	20.8	20.0	59.2	-	10.8	50.8	38.3	-	4.2	49.2	46.7	-	-	28.3	71.7	-	1.7	30.8	67.5	-
40～49歳	206	22.3	29.1	47.1	1.5	12.1	61.2	25.7	1.0	3.9	51.0	43.7	1.5	1.5	34.0	63.1	1.5	2.9	41.3	54.4	1.5
50～59歳	142	35.2	22.5	42.3	-	16.2	61.3	22.5	-	5.6	52.8	41.5	-	4.2	31.0	64.8	-	3.5	44.4	52.1	-
60～69歳	207	44.9	18.8	32.4	3.9	23.7	52.2	20.8	3.4	15.5	47.3	32.4	4.8	7.2	41.5	46.4	4.8	9.2	51.2	35.3	4.3
70歳以上	245	57.1	21.6	13.9	7.3	21.6	59.6	10.6	8.2	18.4	55.9	15.9	9.8	6.1	48.2	32.7	13.1	11.0	57.1	21.6	10.2

(2) 越谷市伝統的手工芸品に期待する取組み

◇「技術の継承（後継者の育成）」が最も多く、3割半ば

問 31. 今後、越谷市伝統的手工芸品についてどのような取組みを期待しますか。(複数回答可)

図表 8-2-1 越谷市伝統的手工芸品に期待する取組み



越谷市伝統的手工芸品に期待する取組みについては、「技術の継承（後継者の育成）」（36.6%）が最も多く、次いで、「見学・体験などの受入れ」（34.6%）、「各種イベントへの参加」（29.6%）、「デザイン性に優れた新商品の開発」（26.6%）、「物販店舗の増加」（21.8%）の順となっている。また、「その他」として「メディアでの情報発信」「外国人観光客向けのPR」「体験イベントの開催」等が挙げられた。

性別でみると、「見学・体験などの受入れ」は女性（40.3%）が男性（29.3%）より 11.0 ポイント、「各種イベントへの参加」は女性（32.0%）が男性（27.2%）より 4.8 ポイントそれぞれ高く、「WEBサイトの開設」は男性（15.1%）が女性（11.3%）より 3.8 ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「見学・体験などの受入れ」は女性 30～39 歳（53.4%）、女性 40～49 歳（50.0%）で 5 割以上と多くなっている。「技術の継承（後継者の育成）」は男性 18～29 歳（44.3%）、女性 50～59 歳、男性 40～49 歳（ともに 43.7%）で 4 割強以上と多くなっている。

図表 8-2-2 性・年齢別 越谷市伝統的手工芸品に期待する取組み

	調査数（人）	各種イベントへの参加	見学・体験などの受入れ	PRパンフレットの作成	WEBサイトの開設	技術の継承（後継者の育成）	開発デザイン性に優れた新商品の	物販店舗の増加	その他	無回答
全 体	2,500	29.6	34.6	16.2	12.7	36.6	26.6	21.8	6.6	6.7
女性全体	1,309	32.0	40.3	15.5	11.3	35.8	26.6	22.2	5.5	7.0
18～29歳	118	36.4	46.6	11.9	16.1	39.0	32.2	22.9	5.1	2.5
30～39歳	204	42.6	53.4	12.3	19.1	37.7	29.9	21.6	4.4	2.5
40～49歳	224	34.8	50.0	12.5	11.2	33.9	32.6	19.2	7.1	2.7
50～59歳	190	30.0	37.9	18.9	17.9	43.7	30.5	17.9	4.2	4.7
60～69歳	268	27.2	33.2	17.9	8.6	38.8	23.5	30.2	5.6	7.1
70歳以上	302	26.8	29.8	17.2	2.6	27.2	17.5	20.2	6.0	15.9
男性全体	1,025	27.2	29.3	17.9	15.1	37.8	27.3	21.9	7.7	4.8
18～29歳	97	35.1	37.1	15.5	14.4	44.3	39.2	22.7	9.3	2.1
30～39歳	120	30.0	35.8	10.8	16.7	32.5	24.2	21.7	7.5	3.3
40～49歳	206	24.3	29.6	13.1	20.9	43.7	31.1	19.9	7.3	1.9
50～59歳	142	28.2	21.1	14.8	26.1	36.6	29.6	26.8	8.5	1.4
60～69歳	207	26.6	31.9	27.5	12.1	35.3	26.1	21.3	8.2	3.4
70歳以上	245	24.9	24.1	20.0	5.7	34.3	20.0	20.0	6.9	12.2

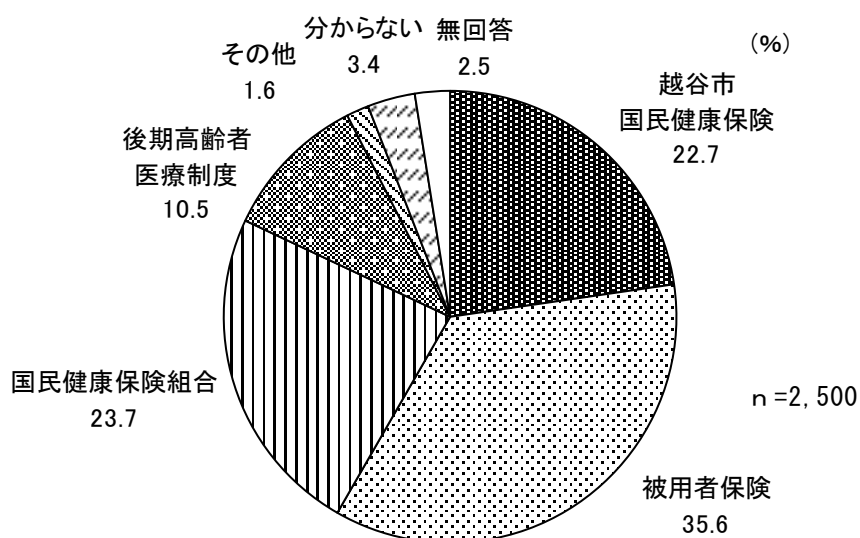
9. 医療費適正化（医療費通知）について

（1）加入保険

◇「被用者保険」が最も多く、3割半ば

問 32. あなたご自身の加入保険を教えてください。(〇は1つ)

図表 9-1-1 加入保険

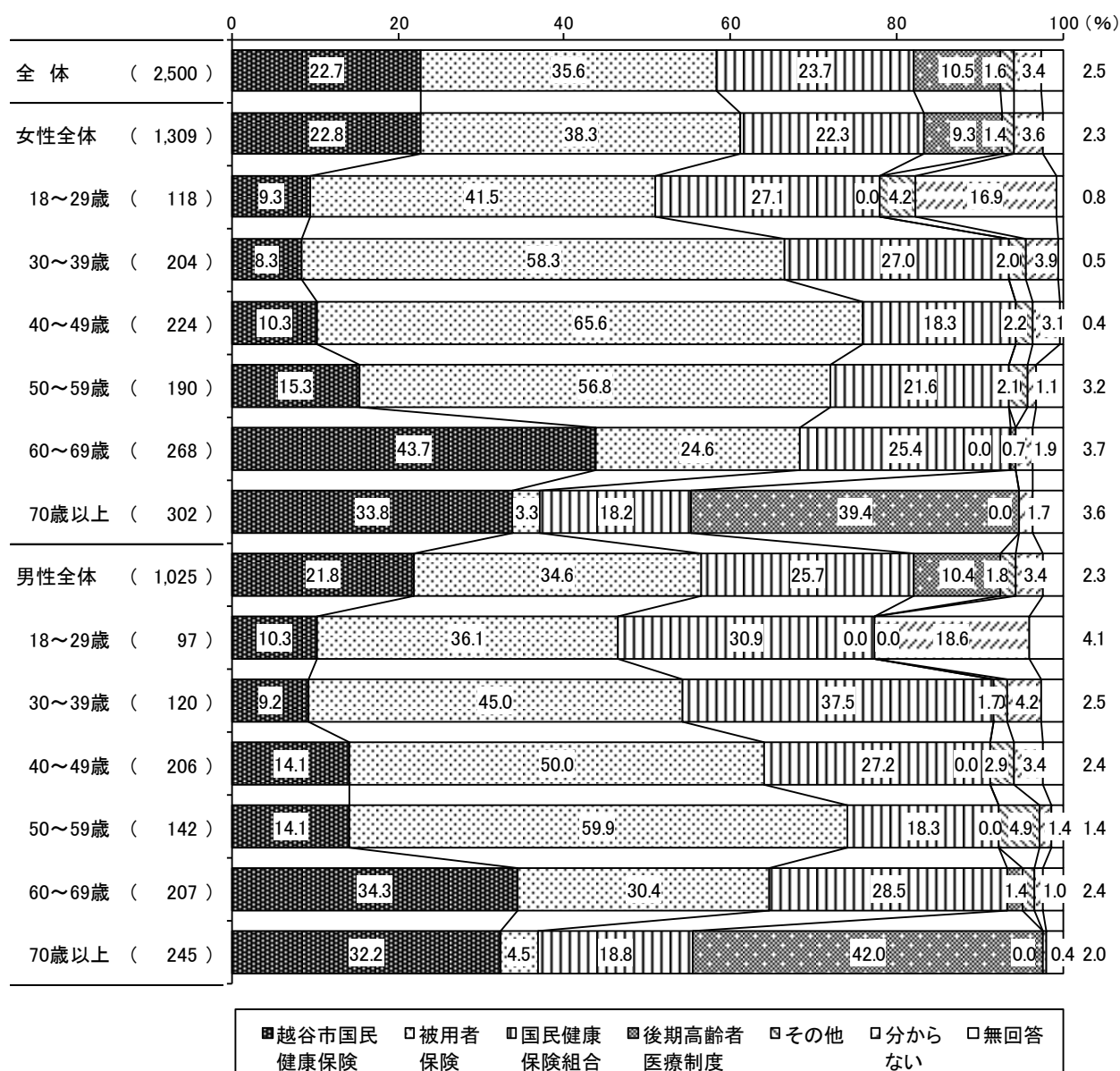


加入保険については、「被用者保険」(35.6%)が最も多く、次いで、「国民健康保険組合」(23.7%)、「越谷市国民健康保険」(22.7%)、「後期高齢者医療制度」(10.5%)の順となっている。また、「その他」として「未加入」等が挙げられた。

性別で見ると、「被用者保険」は女性（38.3%）が男性（34.6%）より3.7ポイント高く、「国民健康保険組合」は男性（25.7%）が女性（22.3%）より3.4ポイント高くなっている。

性・年齢別で見ると、「被用者保険」は女性40～49歳（65.6%）、男性50～59歳（59.9%）、女性30～39歳（58.3%）で6割弱以上と多くなっている。「越谷市国民健康保険」は、18～29歳から50～59歳までは男女ともに2割以下となっているが、60～69歳については女性（43.7%）も男性（34.3%）も多くなっている。70歳以上についても、女性（33.8%）も男性（32.2%）も3割を超えている。

図表9-1-2 性・年齢別 加入保険

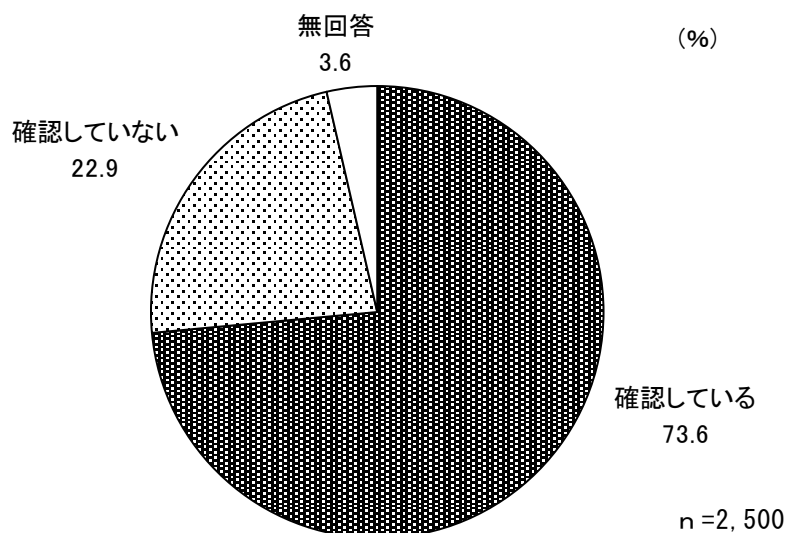


(2) 医療費通知の確認

◇「確認している」が7割強

問 33. あなたは、健康保険から届く医療費通知の内容を確認していますか。(○は1つ)

図表9-2-1 医療費通知の確認

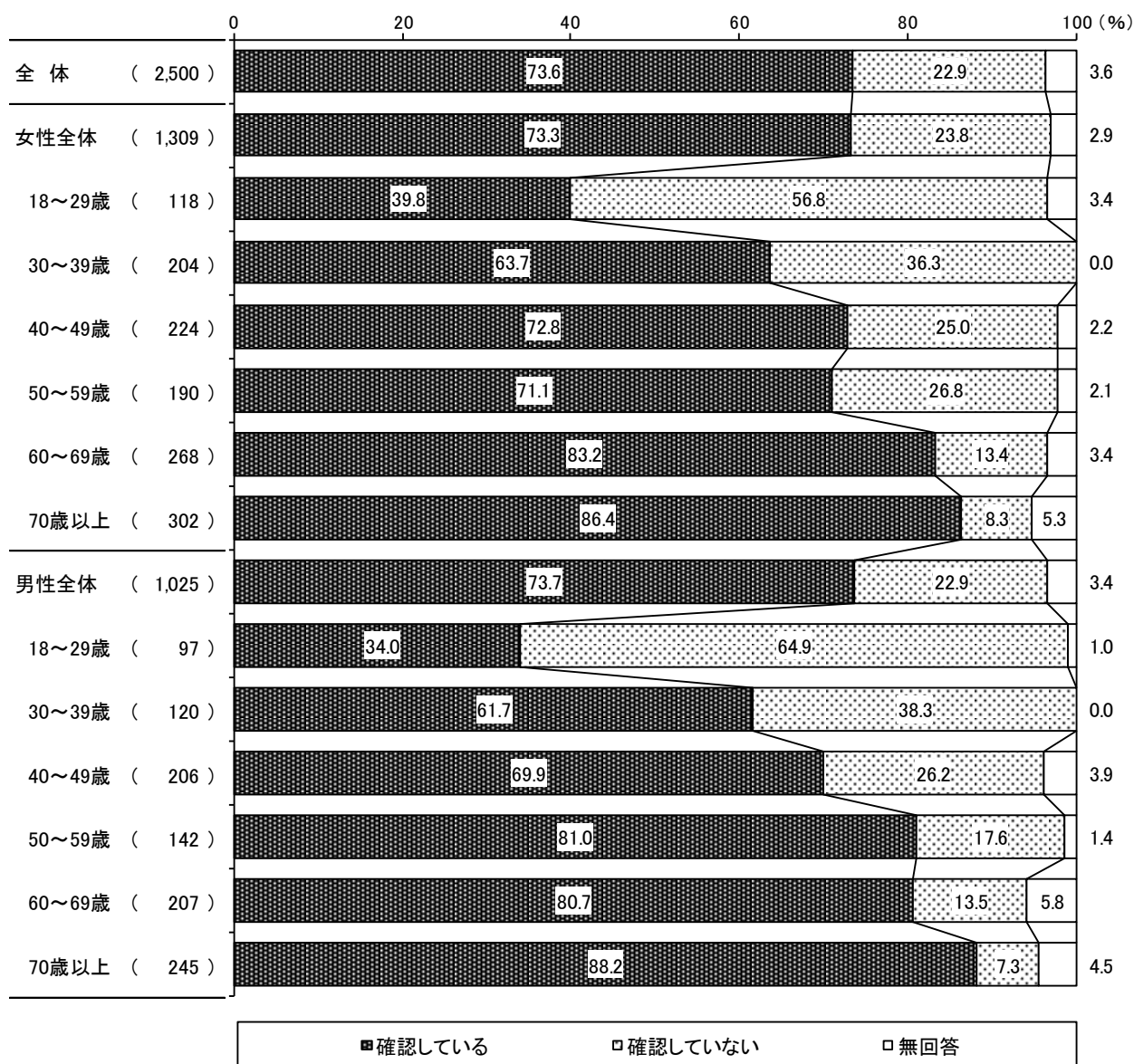


医療費通知の内容については、「確認している」(73.6%)が7割強、「確認していない」(22.9%)が2割強となっている。

性別でみると、女性・男性で大きな差異はみられない。

性・年齢別でみると、「確認している」は男性70歳以上（88.2%）、女性70歳以上（86.4%）で8割半ば以上と多くなっている。一方、「確認していない」は男性18～29歳（64.9%）で6割半ば、女性18～29歳（56.8%）で5割半ばと多くなっている。

図表9-2-2 性・年齢別 医療費通知の確認

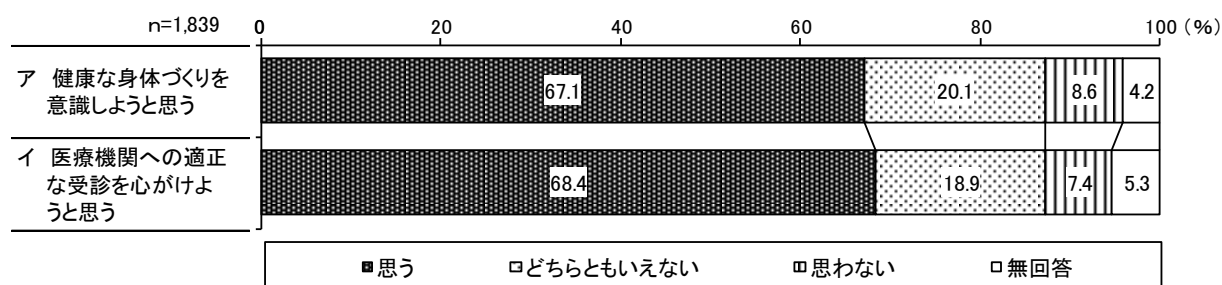


(3) 医療費通知を受け取って思うこと

◇「健康な身体づくりを意識しようと思う」「医療機関への適正な受診を心がけようと思う」がともに7割弱

問 33-2. 問 33 で「1. 確認している」と答えた方に伺います。あなたは、医療費通知を受け取ってどのように思いますか。(ア～イそれぞれ〇は1つずつ)

図表 9-3-1 医療費通知を受け取って思うこと

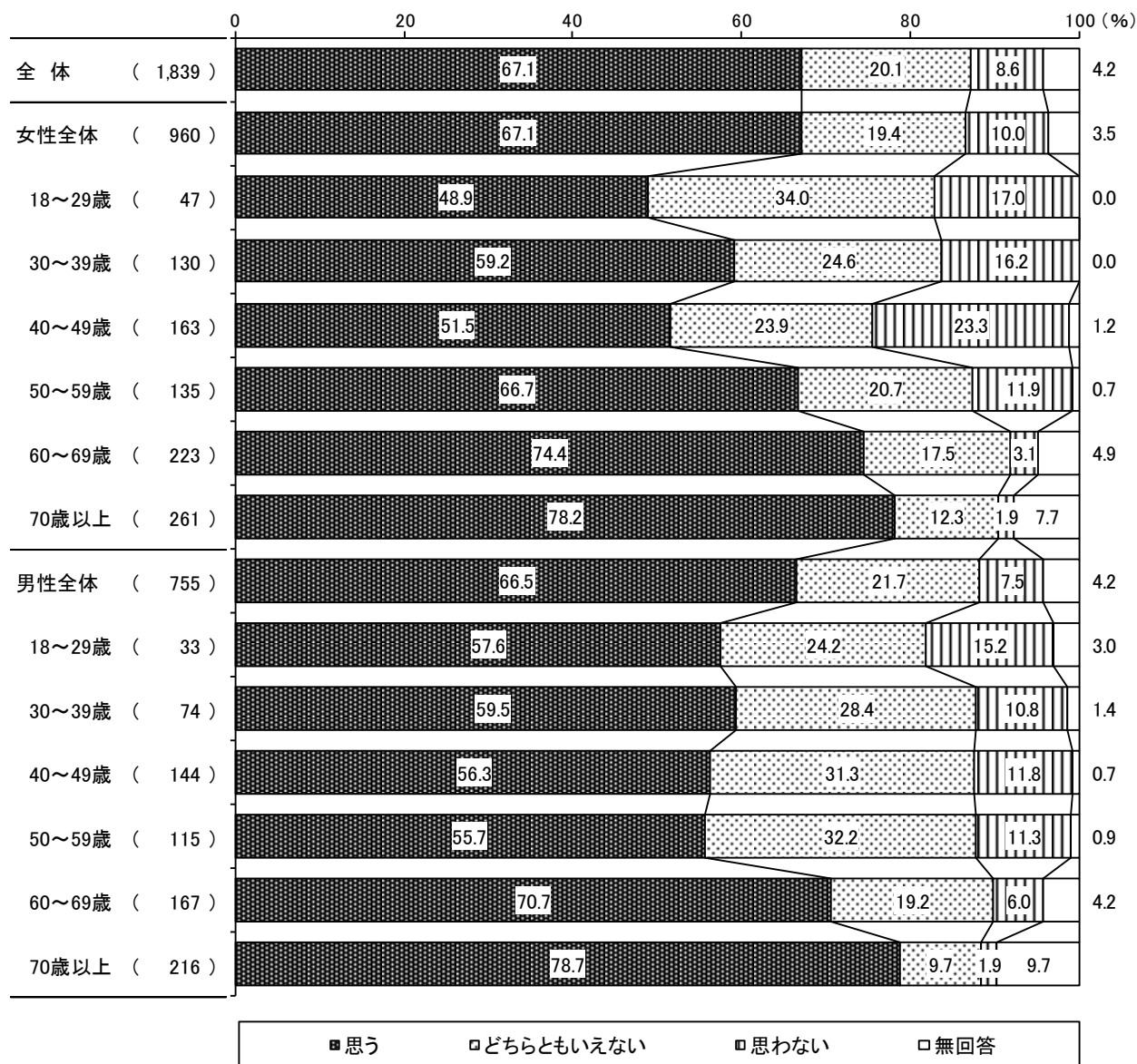


医療費通知の内容を「確認している」と回答した 1,839 人に、「ア 健康な身体づくりを意識しようと思う」か聞いたところ、「思う」(67.1%) が7割弱となっている。また、「イ 医療機関への適正な受診を心がけようと思う」か聞いたところ、こちらも「思う」(68.4%) が7割弱となっている。

性別で見ると、健康な身体づくりを意識しようと思うは女性（67.1%）・男性（66.5%）で大きな差異はみられない。

性・年齢別で見ると、健康な身体づくりを意識しようと思うは男性70歳以上（78.7%）、女性70歳以上（78.2%）で8割弱と多くなっている。

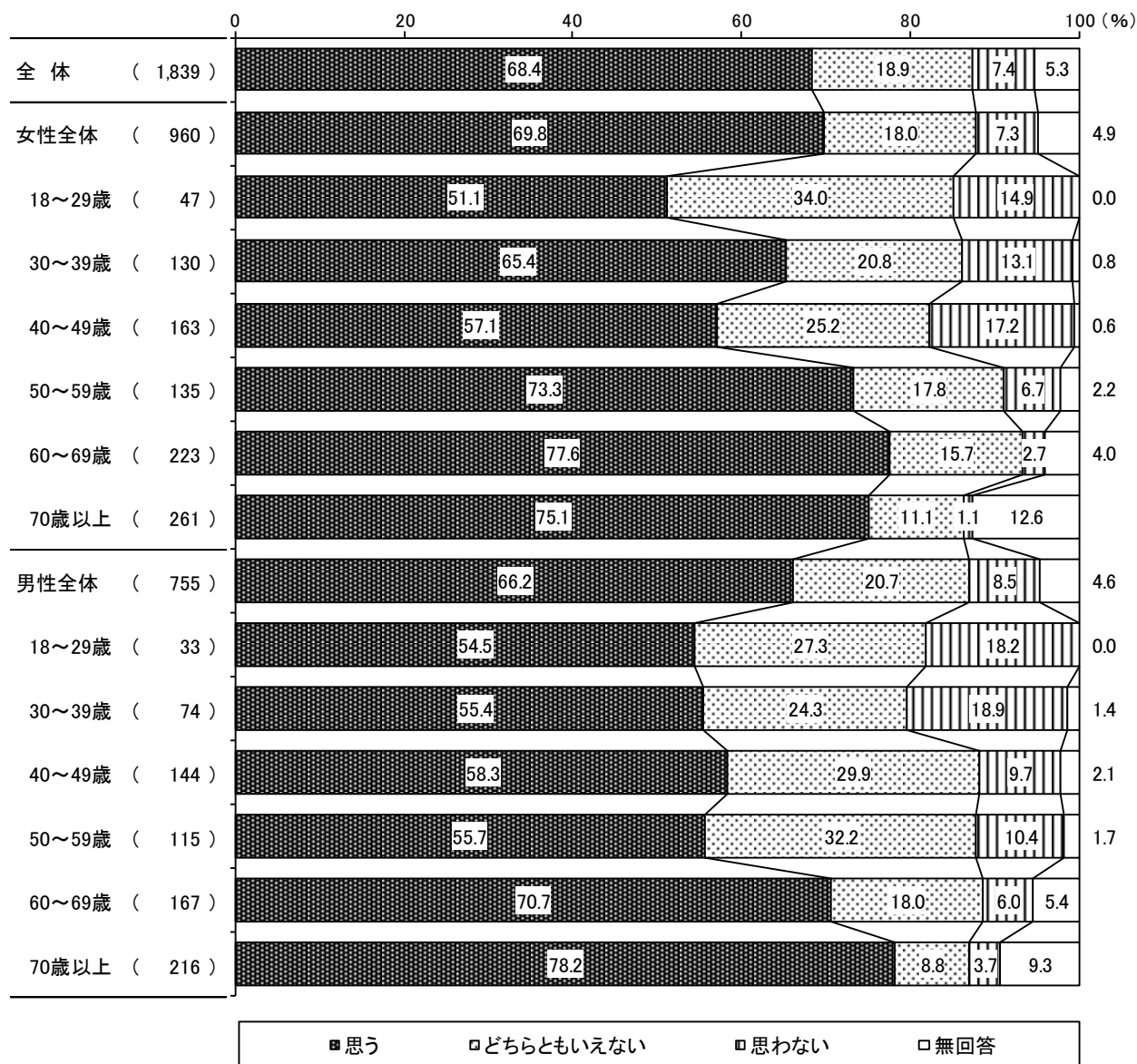
図表9-3-2 性・年齢別 医療費通知を受け取って思うこと
—ア 健康な身体づくりを意識しようと思う—



性別で見ると、医療機関への適正な受診を心がけようと思うは女性（69.8%）が男性（66.2%）より3.6ポイント高くなっている。

性・年齢別で見ると、医療機関への適正な受診を心がけようと思うは男性70歳以上（78.2%）、女性60～69歳（77.6%）で8割弱と多くなっている。

図表9-3-3 性・年齢別 医療費通知を受け取って思うこと
—イ 医療機関への適正な受診を心がけようと思う—



(4) 医療費通知に関する意見

◇「通知の必要性を感じない、無駄である、やめた方がよい」が最も多い

問 34. 医療費通知に関するご意見がありましたら、自由にご記入ください。

図表 9-4-1 医療費通知に関する意見

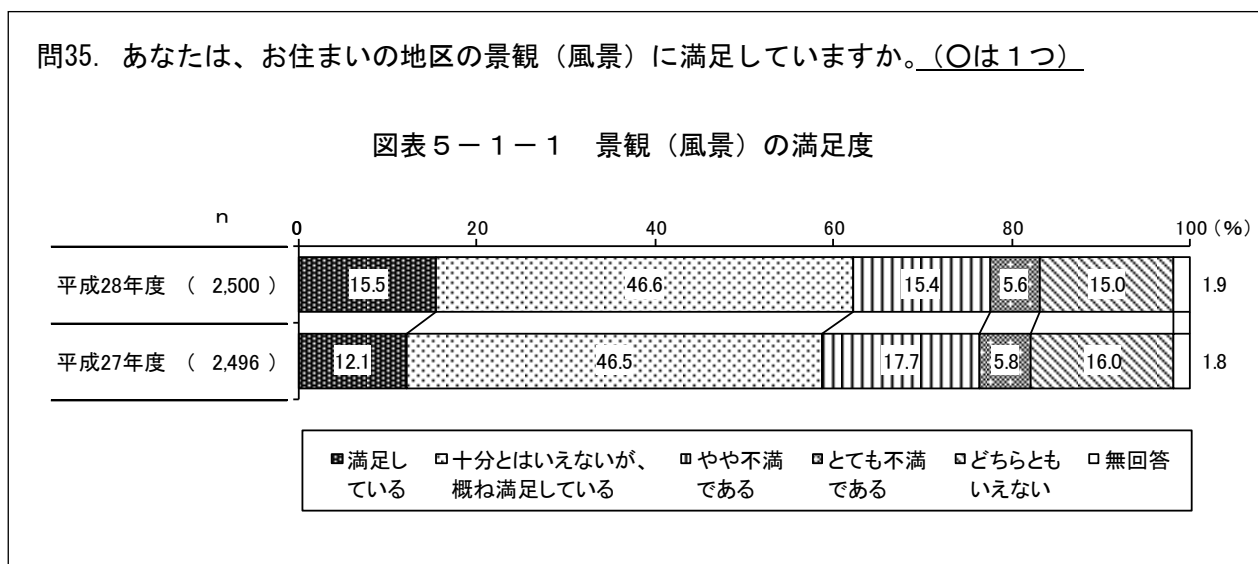
内 容	件数
通知の必要性を感じない、無駄である、やめた方がよい	44
通知はもっと早い方がよい、通知頻度を増やしてほしい	30
医療費が高い	16
内容を確認するのに必要、役立つ	16
現状のままでよい、これからも続けてほしい	14
保険制度（医療費負担が少ない）はありがたい	13
通知が届いた覚えがない、最近が届いていない	9
紙で郵送するのではなく、他の方法（webによる通知など）にして、経費を抑える	9
通知を何に使うのかわかりづらい、わからない	8
そのまま医療費控除（確定申告）の手続きに使えるとよい	8
意識が変わる、健康に気をつけるようになる	8
医療費がかなりかかっているの、申しわけなく思っている	6
受診回数が多い人や通知希望の人にだけ通知すればよい	6
医療機関に支払う内容の確認が必要、チェック体制の強化	6
通知の内容がわかりにくい	5
宛名は世帯主ではなく、本人宛がよい	4
簡単な病気（風邪など）や医療費のかかる病気の防ぎ方などのアドバイスがあるとよい	4
医療機関での待ち時間が長い	4
普段から健康には留意している	3
医療費を減らしたい	2
若い人の負担が心配	2
通知頻度はもっと少なくてもよい	2
通知頻度を事前に知らせてほしい、定期的に発行してほしい	2
意識の有無にかかわらず病気になるので、悪化するよりは病院に行ったほうがよい	2
通知書はもっと大きく見やすくしてほしい	2
わかりやすい	2
本当の価格がわかる	2
窓口で支払った金額と通知の金額が異なる時がある	2
実施期間を事前に知らせず、抜き打ちで実施すべき	2
どの程度が適切な通院なのかの見極めが難しい	2
医療費適正化が市民に浸透していない	2
目的が理解されるように様式の工夫が必要	2
高齢になると、どうしても医療費は増えてしまう	2
医療点数の仕組み・見方がわかりづらい	2
医療機関の違いによって支払いの高い・安いがある	2
その他	41
計	286

医療費通知に関する意見では、回答のあった意見数 286 件のうち「通知の必要性を感じない、無駄である、やめた方がよい」（44 件）が最も多くなっている。

10. 景観（風景）について

(1) 景観（風景）の満足度

◇『満足』が6割強

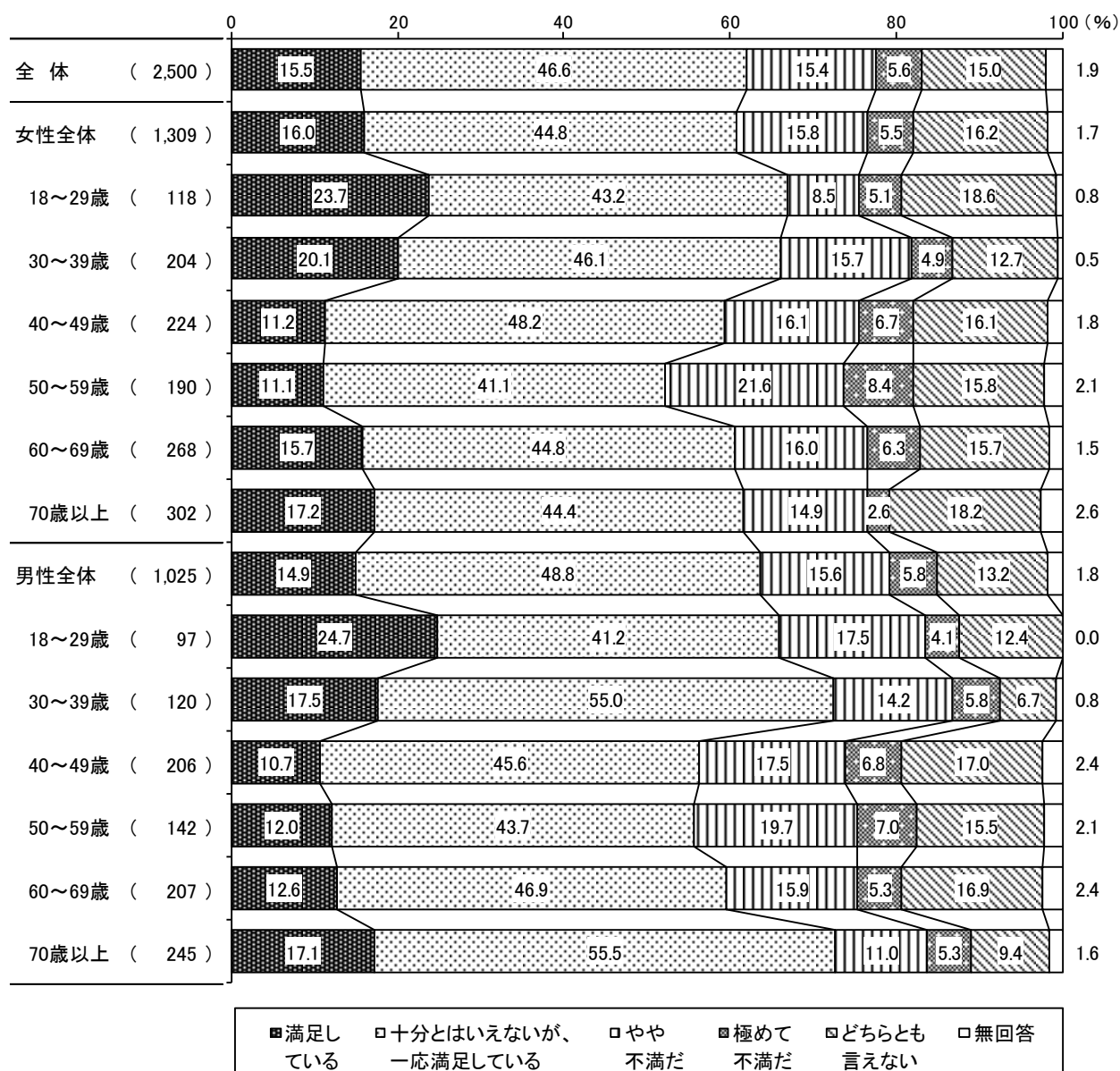


住まいの地区の景観（風景）の満足度については、「満足している」（15.5%）と「十分とはいえないが、概ね満足している」（46.6%）を合わせた『満足』（62.1%）は6割強となっている。

前回の調査と比較すると、『満足』（62.1%）は平成27年度調査（58.6%）と比べ3.5ポイント増加している。一方、「やや不満である」（15.4%）と「とても不満である」（5.6%）を合わせた『不満』（21.0%）は平成27年度調査（23.5%）と比べ2.5ポイント減少している。

性別で見ると、『満足』は男性（63.7%）が女性（60.8%）より2.9ポイント高くなっている。
 性・年齢別で見ると、『満足』は男性70歳以上（72.6%）、男性30～39歳（72.5%）で7割強と多くなっている。一方、『不満』は女性50～59歳（30.0%）で3割と多くなっている。

図表 10-1-2 性・年齢別 景観（風景）の満足度



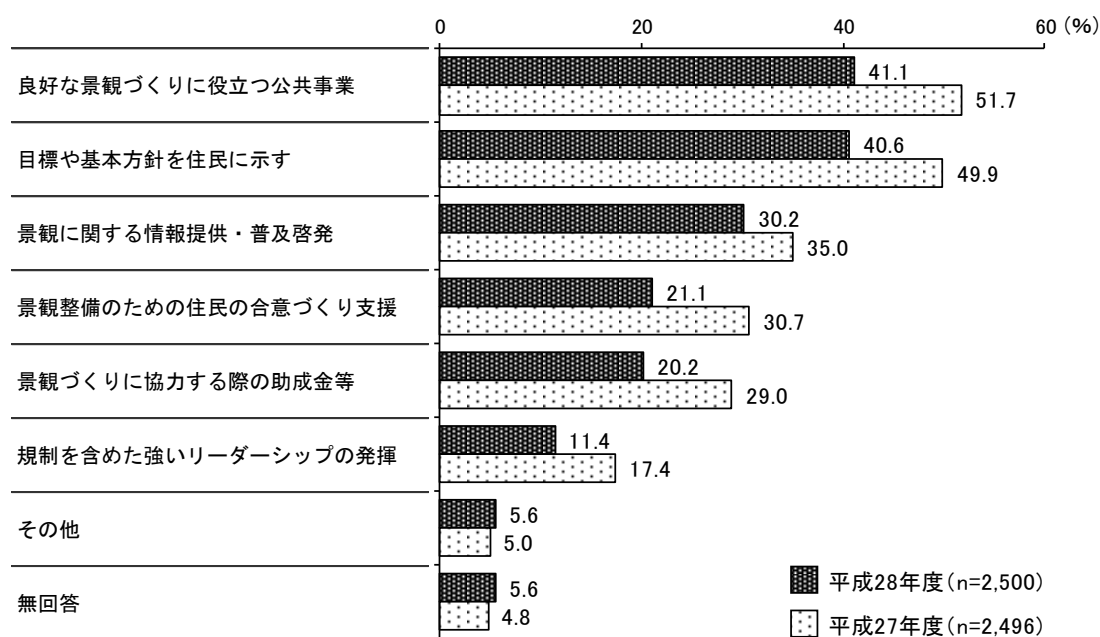
(2) 行政に望むこと

◇「良好な景観づくりに役立つ公共事業」が最も多く、約4割

問36. あなたは、良い景観（風景）のまちをつくるために行政に何を望みますか。

(○は3つまで)

図表 10-2-1 行政に望むこと



良い景観（風景）のまちをつくるため、行政に望むものについては、「良好な景観づくりに役立つ公共事業」（41.1%）が最も多く、次いで、「目標や基本方針を住民に示す」（40.6%）、「景観に関する情報提供・普及啓発」（30.2%）、「景観整備のための住民の合意づくり支援」（21.1%）、「景観づくりに協力する際の助成金等」（20.2%）の順となっている。また、「その他」として「住民への配慮」「現状でよい」等が挙げられた。

前回の調査と比較すると、「その他」を除くすべての項目で減少している。

性別でみると、「規制を含めた強いリーダーシップの発揮」は男性（14.1%）が女性（9.4%）より4.7ポイント、「景観整備のための住民の合意づくり支援」は男性（23.2%）が女性（19.3%）より3.9ポイントそれぞれ高く、「良好な景観づくりに役立つ公共事業」は女性（43.2%）が男性（40.1%）より3.1ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「良好な景観づくりに役立つ公共事業」は男性30～39歳（56.7%）で5割半ばと多く、「景観に関する情報提供・普及啓発」は女性50～59歳（39.5%）で約4割と多くなっている。

図表10-2-2 性・年齢別 行政に望むこと

	調査数（人）	目標や基本方針を住民に示す	良好な景観づくりに役立つ公共事業	規制を含めた強いリーダーシップの発揮	景観に関する情報提供・普及啓発	景観づくりに協力する際の助成金等	景観整備のための住民の合意づくり支援	その他	無回答
全体	2,500	40.6	41.1	11.4	30.2	20.2	21.1	5.6	5.6
女性全体	1,309	39.6	43.2	9.4	31.1	19.7	19.3	5.4	6.9
18～29歳	118	30.5	48.3	9.3	23.7	16.1	19.5	7.6	2.5
30～39歳	204	41.7	45.6	12.3	27.9	26.0	20.1	2.9	2.5
40～49歳	224	37.9	48.7	8.0	29.9	21.4	20.1	7.1	4.9
50～59歳	190	42.6	44.7	6.8	39.5	21.1	23.7	4.2	3.7
60～69歳	268	43.7	38.4	10.4	36.2	20.1	20.1	4.5	9.3
70歳以上	302	37.4	38.7	8.9	27.5	14.6	14.2	6.6	12.9
男性全体	1,025	41.7	40.1	14.1	29.0	21.3	23.2	5.8	3.6
18～29歳	97	39.2	49.5	6.2	25.8	25.8	19.6	6.2	3.1
30～39歳	120	44.2	56.7	9.2	22.5	14.2	23.3	4.2	1.7
40～49歳	206	39.3	37.4	17.5	27.7	23.3	23.8	5.3	3.4
50～59歳	142	35.9	36.6	13.4	31.0	21.8	22.5	8.5	1.4
60～69歳	207	42.5	38.2	17.9	31.9	23.7	22.7	7.7	3.4
70歳以上	245	46.5	34.3	13.9	29.8	17.6	24.5	3.7	6.5

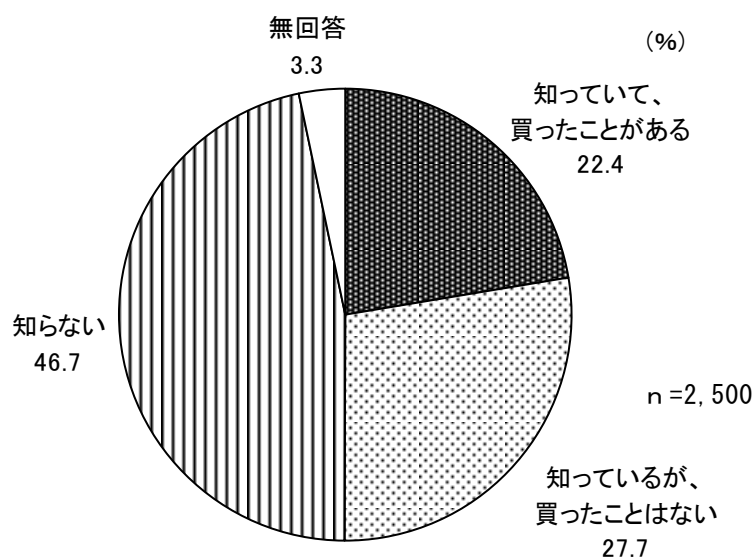
1 1. こしがやブランド認定品について

(1) こしがやブランド認定品の認知と購入経験

◇『知っている』は約5割、「知っている、買ったことがある」は2割強

問 37. こしがやブランド認定品を知っていますか。また、こしがやブランド認定品を購入したことがありますか。(○は1つ)

図表 11-1-1 こしがやブランド認定品の認知と購入経験

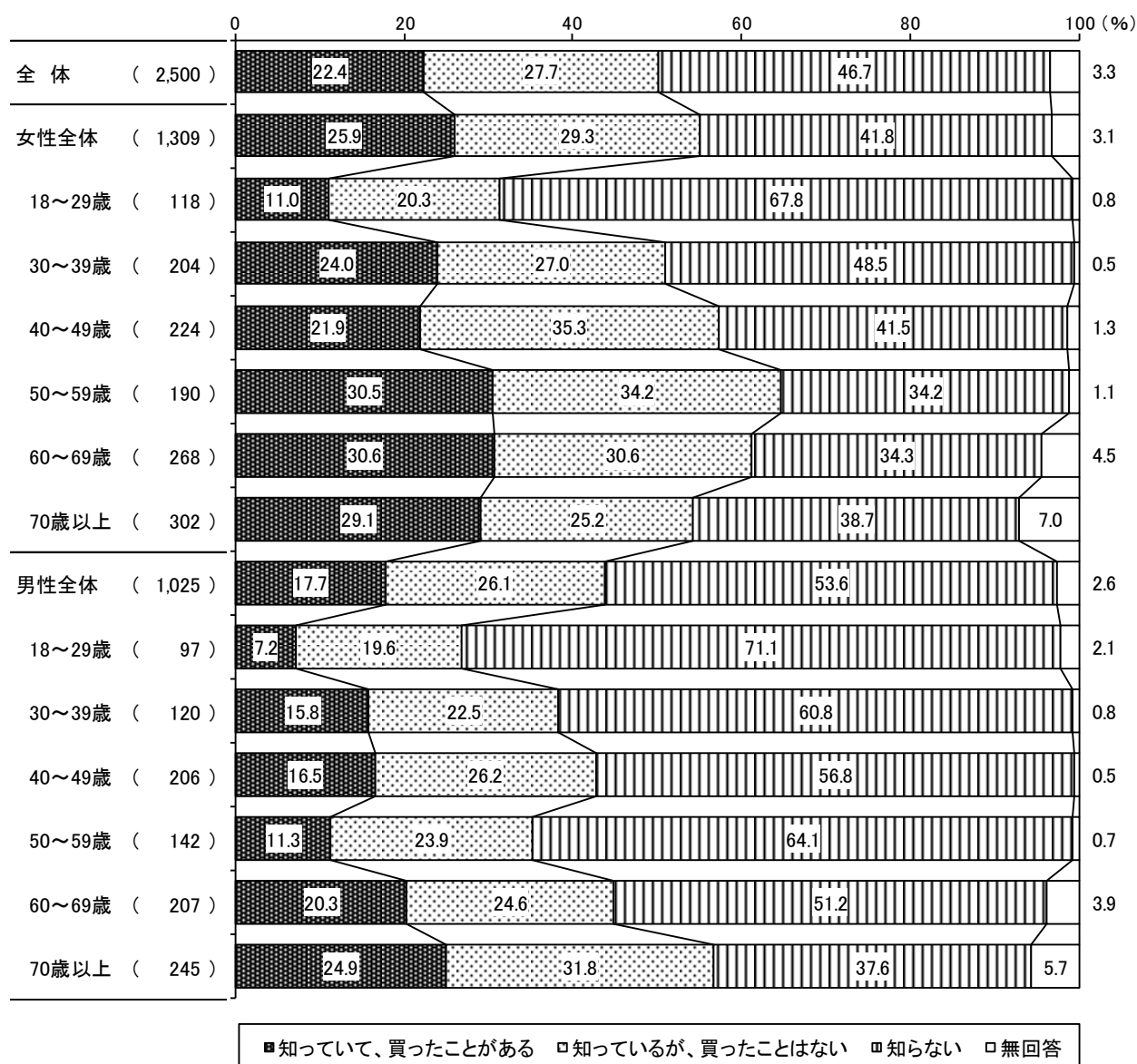


こしがやブランド認定品について、「知っている、買ったことがある」(22.4%)と「知っているが、買ったことはない」(27.7%)を合わせた『知っている』(50.1%)は約5割となっている。一方、「知らない」(46.7%)は4割半ばとなっている。

性別で見ると、「知っていて、買ったことがある」は女性（25.9%）が男性（17.7%）より8.2ポイント、「知っているが、買ったことはない」は女性（29.3%）が男性（26.1%）より3.2ポイントそれぞれ高く、「知らない」は男性（53.6%）が女性（41.8%）より11.8ポイント高くなっている。

性・年齢別で見ると、「知っていて、買ったことがある」は女性60～69歳（30.6%）、女性50～59歳（30.5%）、女性70歳以上（29.1%）で約3割と多くなっている。

図表 11-1-2 性・年齢別 こしがやブランド認定品の認知と購入経験

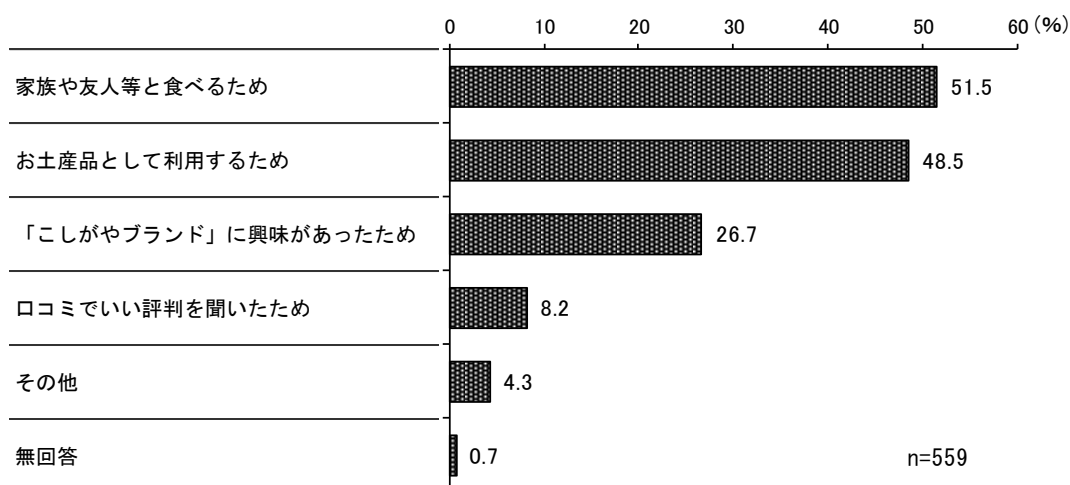


(2) こしがやブランド認定品を購入した理由

◇「家族や友人等と食べるため」が最も多く、約5割

問 37-2. 問 37 で「1. 知っていて、買ったことがある」と答えた方に伺います。購入した理由を教えてください。(複数回答可)

図表 11-2-1 こしがやブランド認定品を購入した理由



こしがやブランド認定品を「知っていて、買ったことがある」と回答した 559 人に、こしがやブランド認定品を購入した理由を聞いたところ、「家族や友人等と食べるため」(51.5%) が最も多く、次いで、「お土産品として利用するため」(48.5%)、「『こしがやブランド』に興味があったため」(26.7%)、「口コミでいい評判を聞いたため」(8.2%) の順となっている。また、「その他」として「勧められて」「知人の会社の商品なので」等が挙げられた。

性別で見ると、「家族や友人等と食べるため」は女性（54.9%）が男性（48.6%）より6.3ポイント、「『こしがやブランド』に興味があったため」は女性（27.4%）が男性（23.2%）より4.2ポイントそれぞれ高く、「お土産品として利用するため」は男性（51.4%）が女性（46.6%）より4.8ポイント高くなっている。

性・年齢別で見ると、「お土産品として利用するため」は男性40～49歳（79.4%）、女性18～29歳（76.9%）で7割半ば以上となっている。また、「家族や友人等と食べるため」は男性30～39歳（73.7%）、男性18～29歳（71.4%）、女性50～59歳（67.2%）で7割弱以上となっている。

図表 11-2-2 性・年齢別 こしがやブランド認定品を購入した理由

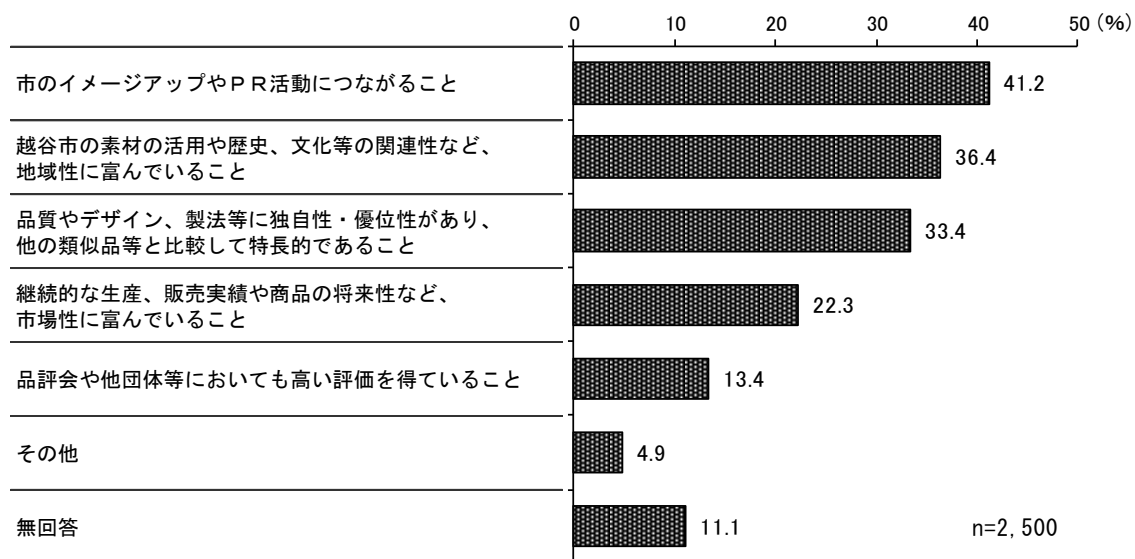
	調査数（人）	家族や友人等と食べるため	お土産品として利用するため	口コミでいい評判を聞いたため	「こしがやブランド」に興味があったため	その他	無回答
全体	559	51.5	48.5	8.2	26.7	4.3	0.7
女性全体	339	54.9	46.6	8.3	27.4	5.0	0.9
18～29歳	13	46.2	76.9	-	15.4	-	-
30～39歳	49	53.1	57.1	4.1	32.7	8.2	-
40～49歳	49	46.9	46.9	4.1	22.4	10.2	-
50～59歳	58	67.2	36.2	8.6	29.3	5.2	-
60～69歳	82	56.1	39.0	13.4	31.7	1.2	1.2
70歳以上	88	52.3	50.0	9.1	23.9	4.5	2.3
男性全体	181	48.6	51.4	8.3	23.2	3.3	-
18～29歳	7	71.4	42.9	28.6	-	-	-
30～39歳	19	73.7	42.1	-	21.1	-	-
40～49歳	34	44.1	79.4	2.9	14.7	2.9	-
50～59歳	16	56.3	37.5	6.3	37.5	6.3	-
60～69歳	42	50.0	38.1	9.5	31.0	-	-
70歳以上	61	37.7	52.5	11.5	21.3	6.6	-

(3) こしがやブランド認定品に求めるもの

◇「市のイメージアップやPR活動につながること」が最も多く、約4割

問38. あなたは、こしがやブランド認定品に何を求めますか。(複数回答可)

図表 11-3-1 こしがやブランド認定品に求めるもの



こしがやブランド認定品に求めるものについては、「市のイメージアップやPR活動につながること」(41.2%)が最も多く、次いで、「越谷市の素材の活用や歴史、文化等の関連性など、地域性に富んでいること」(36.4%)、「品質やデザイン、製法等に独自性・優位性があり、他の類似品等と比較して特長的であること」(33.4%)、「継続的な生産、販売実績や商品の将来性など、市場性に富んでいること」(22.3%)、「品評会や他団体等においても高い評価を得ていること」(13.4%)の順となっている。また、「その他」として「味のおいしさ」「品質」等が挙げられた。

性別でみると、「越谷市の素材の活用や歴史、文化等の関連性など、地域性に富んでいること」は女性（38.5%）が男性（34.7%）より3.8ポイント、「品評会や他団体等においても高い評価を得ていること」は女性（15.2%）が男性（11.7%）より3.5ポイント、「市のイメージアップやPR活動につながること」は女性（43.3%）が男性（39.9%）より3.4ポイント高くなっている。一方、「品質やデザイン、製法等に独自性・優位性があり、他の類似品等と比較して特長的であること」は男性（35.6%）が女性（32.2%）より3.4ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「市のイメージアップやPR活動につながること」は女性50～59歳（48.9%）、女性60～69歳（47.4%）で5割弱と多くなっている。また、「越谷市の素材の活用や歴史、文化等の関連性など、地域性に富んでいること」は女性18～29歳（47.5%）、女性40～49歳（44.2%）で4割半ば以上、「品質やデザイン、製法等に独自性・優位性があり、他の類似品等と比較して特長的であること」は女性30～39歳（45.6%）で4割半ばと多くなっている。

図表 11-3-2 性・年齢別 こしがやブランド認定品に求めるもの

	調査数（人）	富文化越谷市での素材の活用や歴史、関連性	等性と品質の比較	富商継続的将来性	高い品評会や他団体等においても	に市つなげるイメージアップやPR活動	その他	無回答
全体	2,500	36.4	33.4	22.3	13.4	41.2	4.9	11.1
女性全体	1,309	38.5	32.2	22.0	15.2	43.3	4.0	10.8
18～29歳	118	47.5	38.1	22.9	11.9	44.1	7.6	7.6
30～39歳	204	40.2	45.6	24.5	18.6	44.1	2.5	3.4
40～49歳	224	44.2	35.7	20.5	18.8	43.3	4.5	3.6
50～59歳	190	40.0	36.3	21.6	15.3	48.9	2.6	5.3
60～69歳	268	38.8	28.7	23.1	16.4	47.4	4.1	10.4
70歳以上	302	28.8	18.5	20.2	10.3	35.8	4.3	26.2
男性全体	1,025	34.7	35.6	23.1	11.7	39.9	6.3	9.2
18～29歳	97	32.0	41.2	13.4	13.4	36.1	5.2	5.2
30～39歳	120	37.5	34.2	21.7	6.7	43.3	5.8	6.7
40～49歳	206	40.8	43.2	22.3	16.5	40.3	5.3	4.4
50～59歳	142	33.1	40.8	21.8	9.9	37.3	13.4	3.5
60～69歳	207	33.8	36.7	28.5	8.7	45.9	6.8	8.7
70歳以上	245	30.2	23.7	24.5	12.2	35.5	3.3	20.0

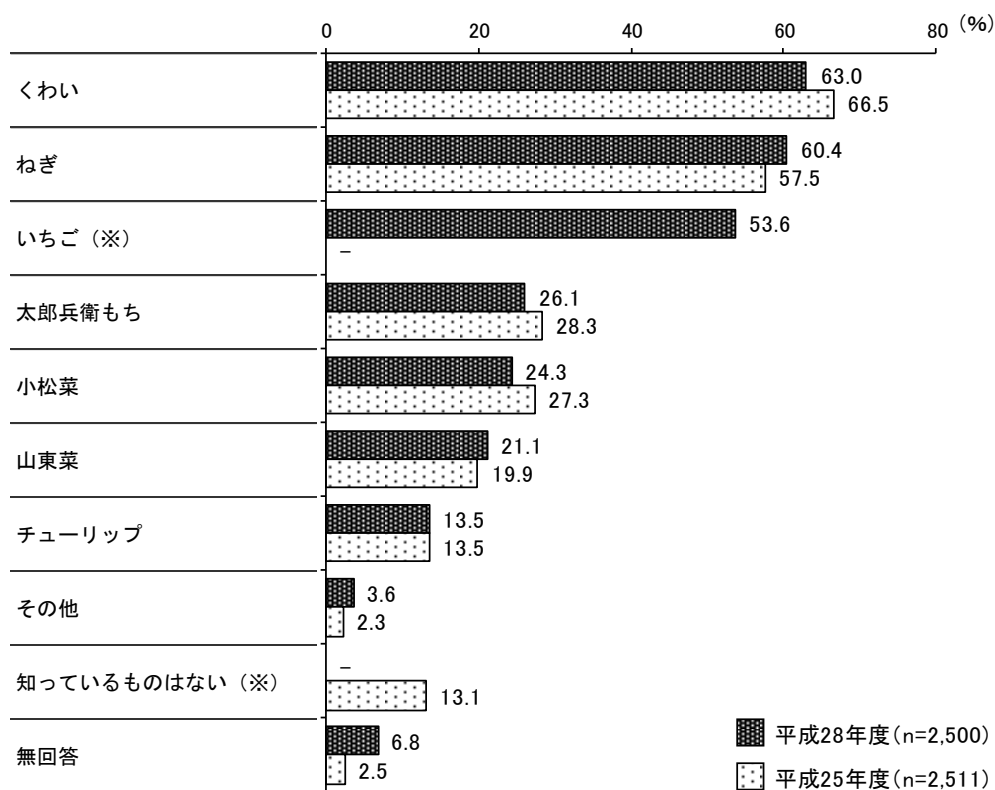
12. 地場農産物や地産地消について

(1) 越谷の農業特産物の認知

◇「くわい」が最も多く、6割強

問39. 越谷の農業特産物であると知っているものを選んでください。(複数回答可)

図表12-1-1 越谷の農業特産物の認知



※「いちご」は平成28年度のみ、また「知っているものはない」は平成25年度のみ

越谷の農業特産物の認知については、「くわい」(63.0%)が最も多く、次いで、「ねぎ」(60.4%)、「いちご」(53.6%)、「太郎兵衛もち」(26.1%)、「小松菜」(24.3%)の順となっている。また、「その他」として「トマト」「枝豆」等が挙げられた。

前回の調査と比較すると、「ねぎ」(60.4%)が平成25年度調査(57.5%)と比べ2.9ポイント、「山東菜」(21.1%)が平成25年度調査(19.9%)と比べ1.2ポイント増加している。

性別でみると、いずれの農業特産物も女性が男性より高く、とくに「くわい」は女性（70.1%）が男性（54.2%）より15.9ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「くわい」は女性60～69歳（80.6%）、女性50～59歳（75.8%）、女性70歳以上（73.5%）で7割以上と多く、「いちご」は女性70歳以上（61.3%）、女性30～39歳（60.3%）で約6割と高くなっている。

図表 12-1-2 性・年齢別 越谷の農業特産物の認知

	調査数 (人)	太郎兵衛もち	くわい	ねぎ	山東菜	いちご	チューリップ	小松菜	その他	無回答
全 体	2,500	26.1	63.0	60.4	21.1	53.6	13.5	24.3	3.6	6.8
女性全体	1,309	28.9	70.1	61.7	23.2	57.5	16.3	27.3	3.0	5.9
18～29歳	118	11.9	53.4	62.7	5.9	46.6	7.6	17.8	3.4	8.5
30～39歳	204	10.8	56.4	58.8	8.8	60.3	8.8	17.2	2.9	7.4
40～49歳	224	22.3	69.6	63.4	15.6	55.8	12.5	23.2	2.2	4.5
50～59歳	190	28.9	75.8	57.9	23.2	57.9	14.2	32.6	2.1	3.2
60～69歳	268	43.7	80.6	63.1	34.7	57.1	20.1	31.0	2.6	6.0
70歳以上	302	39.7	73.5	63.6	35.4	61.3	25.5	34.4	4.3	6.3
男性全体	1,025	21.7	54.2	58.9	18.4	49.3	9.7	20.8	4.6	7.4
18～29歳	97	12.4	51.5	54.6	6.2	29.9	6.2	23.7	4.1	12.4
30～39歳	120	14.2	33.3	53.3	11.7	50.0	9.2	14.2	5.8	11.7
40～49歳	206	12.1	43.7	59.7	14.1	51.9	8.7	18.0	3.4	9.7
50～59歳	142	14.8	50.7	58.5	14.8	50.7	7.0	21.1	7.0	3.5
60～69歳	207	27.5	65.7	57.0	24.6	55.6	8.7	21.3	5.8	5.8
70歳以上	245	36.3	66.1	64.9	27.3	47.8	14.7	24.1	2.9	4.9

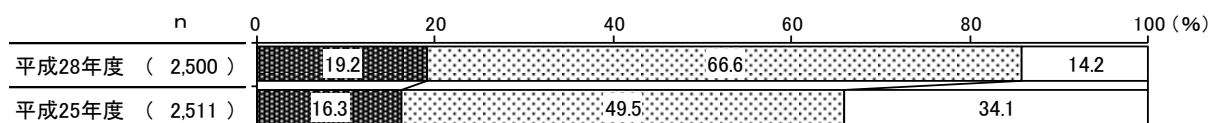
(2) 越谷の農業特産物の購入経験・購入場所

◇購入経験は「ねぎ」が6割、「小松菜」と「いちご」が4割半ば

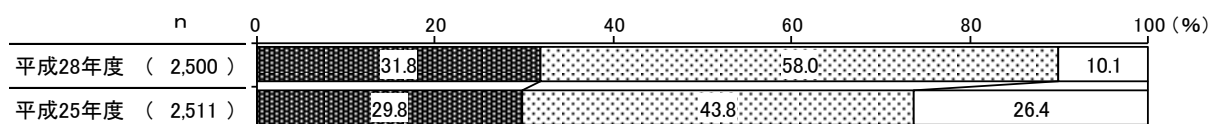
問40. 越谷の農業特産物を購入したことがありますか。ある場合は、どこで購入しましたか。
(ア～クそれぞれ複数回答可)

図表12-2-1 越谷の農業特産物の購入経験

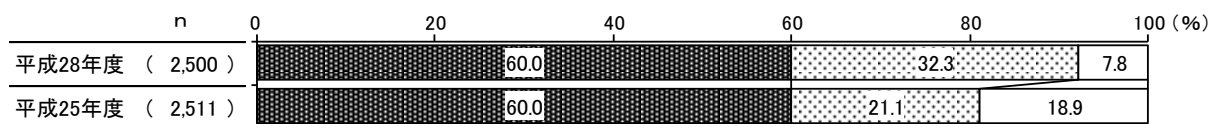
ア 太郎兵衛もち



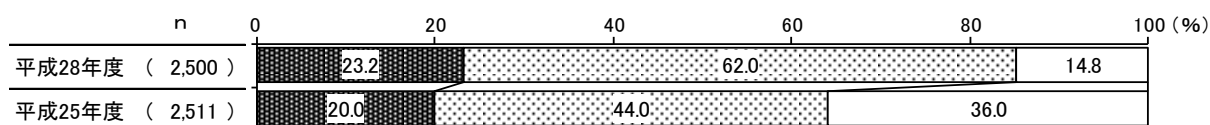
イ くわい



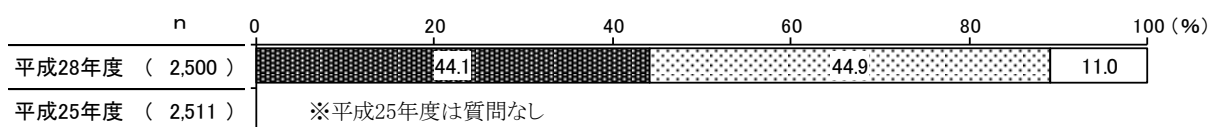
ウ ねぎ



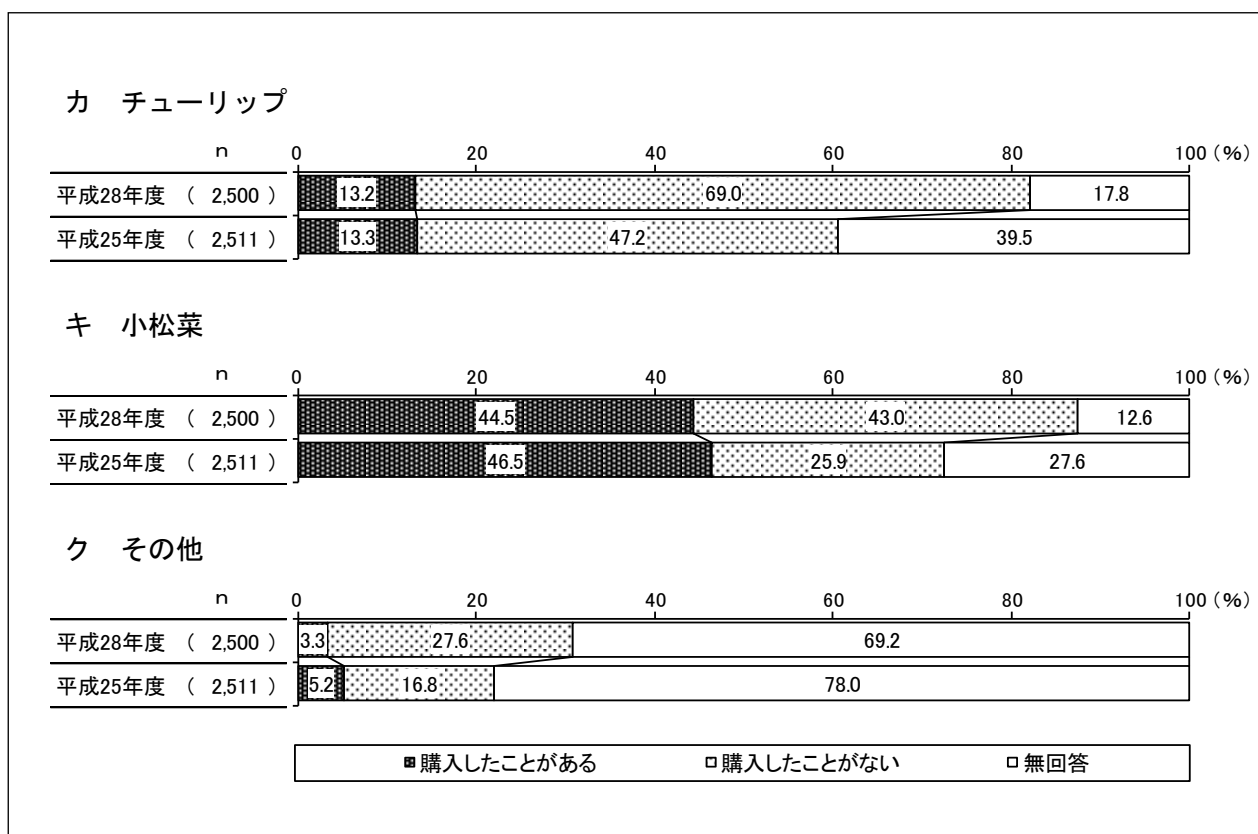
エ 山東菜



オ いちご



■ 購入したことがある □ 購入したことがない □ 無回答



越谷の農業特産物の購入経験については、「ウ ねぎ」(60.0%) が最も多く、次いで、「キ 小松菜」(44.5%)、「オ いちご」(44.1%)、「イ くわい」(31.8%)、「エ 山東菜」(23.2%) の順となっている。また、「ク その他」として「トマト」「ブロッコリー」等が挙げられた。

前回の調査と比較すると、「購入したことがある」では「エ 山東菜」(23.2%) が平成 25 年度調査(20.0%) と比べ 3.2 ポイント、「ア 太郎兵衛もち」(19.2%) が平成 25 年度調査(16.3%) と比べ 2.9 ポイント、「イ くわい」(31.8%) が平成 25 年度調査(29.8%) と比べ 2.0 ポイント増加している。

購入した場所については「ウ ねぎ」「キ 小松菜」では「市内スーパーマーケット」が最も多く、「オ いちご」では「市内スーパーマーケット」と「農産物直売所」がともに最も多くなっている。また、「ア 太郎兵衛もち」「カ チューリップ」では「市民まつりなどイベント」が最も多くなっている。

「ア 太郎兵衛もち」について性・年齢別でみると、「市民まつりなどイベント」が女性 70 歳以上 (21.5%)、男性 70 歳以上 (20.0%)、女性 60~69 歳 (19.0%) で約 2 割と多くなっている。

「イ くわい」について性・年齢別でみると、「農産物直売所」は男性 60~69 歳 (15.5%)、男性 70 歳以上 (15.5%)、女性 60~69 歳 (14.9%)、女性 50~59 歳 (14.2%) で 1 割半ばと多く、「市内スーパーマーケット」は女性 70 歳以上 (14.6%) で、「市民まつりなどイベント」も女性 70 歳以上 (14.6%) で 1 割半ばと多くなっている。

「ウ ねぎ」について性・年齢別でみると、「農産物直売所」は男性 60~69 歳 (28.0%) で 3 割弱と多くなっている。

「エ 山東菜」について性・年齢別でみると、「農産物直売所」は男性 70 歳以上 (15.1%)、男性 60~69 歳 (15.0%)、女性 60~69 歳 (14.2%) で 1 割半ばと多くなっている。

「オ いちご」について性・年齢別でみると、「農産物直売所」は女性 60~69 歳 (25.7%)、男性 60~69 歳 (24.6%)、女性 70 歳以上 (24.2%) で 2 割半ばと多くなっている。

「カ チューリップ」について性・年齢別でみると、「市民まつりなどイベント」は女性 70 歳以上 (8.3%) で 1 割弱と多くなっている。

「キ 小松菜」について性・年齢別でみると、「市内スーパーマーケット」は女性 70 歳以上 (44.4%)、女性 50~59 歳 (44.2%) で 4 割半ばと多くなっている。

図表 12-2-2 性・年齢別 越谷の農業特産物の購入経験・購入場所

	調査数(人)	ア 太郎兵衛もち								イ くわい								ウ ねぎ								エ 山東菜							
		購入したことがある				購入したことがない				購入したことがある				購入したことがない				購入したことがある				購入したことがない											
		市民まつりなどイベント	農産物直売所	市内スーパーマーケット	その他	購入したことがない	無回答	購入したことがある	農産物直売所	市内スーパーマーケット	その他	購入したことがない	無回答	購入したことがある	市民まつりなどイベント	農産物直売所	市内スーパーマーケット	その他	購入したことがない	無回答	購入したことがある	市民まつりなどイベント	農産物直売所	市内スーパーマーケット	その他	購入したことがない	無回答						
全体	2,500	19.2	11.6	4.6	1.3	3.2	66.6	14.2	31.8	9.4	9.8	9.7	5.4	58.0	10.1	60.0	9.2	18.8	35.6	4.1	32.3	7.8	23.2	1.9	9.3	9.6	4.1	62.0	14.8				
女性全体	1,309	20.0	12.4	4.4	1.2	3.3	67.2	12.8	33.6	9.6	10.7	10.3	5.9	57.8	8.6	62.4	10.3	19.3	39.4	3.1	30.9	6.6	23.3	2.0	8.9	10.6	4.0	63.7	13.0				
18~29歳	118	3.4	3.4	-	-	-	92.4	4.2	26.3	5.1	3.4	13.6	5.9	72.9	0.8	43.2	5.9	9.3	30.5	2.5	55.1	1.7	5.1	-	0.8	3.4	0.8	91.5	3.4				
30~39歳	204	8.3	4.9	2.0	-	2.0	86.8	4.9	23.5	5.4	5.9	5.9	7.8	74.5	2.0	54.4	7.4	13.2	40.2	2.0	42.6	2.9	11.3	-	2.0	5.9	4.4	84.3	4.4				
40~49歳	224	10.7	7.1	1.3	0.4	2.7	84.8	4.5	20.1	4.9	6.7	6.3	3.6	77.2	2.7	59.8	8.5	18.8	42.9	2.7	38.4	1.8	14.7	0.4	5.4	7.6	2.7	81.3	4.0				
50~59歳	190	15.8	8.4	4.7	0.5	2.1	77.9	6.3	33.2	9.5	14.2	10.5	3.2	63.2	3.7	68.9	6.3	22.1	44.7	4.2	28.9	2.1	21.6	0.5	11.1	8.9	3.7	70.5	7.9				
60~69歳	268	34.0	19.0	8.6	1.1	6.7	49.3	16.8	42.5	13.4	14.9	10.8	7.1	43.7	13.8	68.7	13.1	26.5	36.9	3.7	22.8	8.6	33.2	3.7	14.2	13.1	5.6	47.8	19.0				
70歳以上	302	31.8	21.5	6.3	3.6	3.6	40.4	27.8	46.0	14.6	13.9	14.6	7.0	35.1	18.9	67.9	15.6	19.9	38.7	3.3	16.6	15.6	37.4	4.6	13.6	17.9	5.0	35.8	26.8				
男性全体	1,025	17.3	10.2	4.3	0.9	3.2	68.9	13.9	29.6	8.9	8.8	8.5	5.3	60.6	9.9	56.9	7.6	18.0	31.9	5.1	35.7	7.4	22.0	1.3	8.5	8.8	4.3	62.6	15.4				
18~29歳	97	9.3	3.1	1.0	2.1	3.1	87.6	3.1	18.6	5.2	-	6.2	7.2	79.4	2.1	35.1	2.1	4.1	25.8	4.1	62.9	2.1	6.2	1.0	2.1	3.1	-	91.8	2.1				
30~39歳	120	9.2	3.3	3.3	0.8	1.7	87.5	3.3	20.0	5.8	4.2	8.3	2.5	78.3	1.7	50.8	4.2	14.2	33.3	1.7	46.7	2.5	9.2	1.7	2.5	2.5	2.5	85.0	5.8				
40~49歳	206	11.2	5.8	2.9	-	2.9	84.0	4.9	20.4	6.3	4.4	4.4	5.3	75.2	4.4	56.8	6.3	14.1	35.0	7.3	40.3	2.9	15.0	1.5	3.4	4.4	5.8	79.1	5.8				
50~59歳	142	10.6	6.3	1.4	1.4	2.8	78.2	11.3	23.9	6.3	4.2	12.7	2.8	66.9	9.2	55.6	7.0	10.6	36.6	5.6	41.5	2.8	19.7	-	4.2	12.7	4.2	72.5	7.7				
60~69歳	207	22.7	13.5	5.8	-	4.3	59.9	17.4	40.1	11.1	15.5	9.2	7.2	51.2	8.7	59.9	8.2	28.0	27.1	5.8	31.4	8.7	32.4	1.4	15.0	11.1	6.3	50.2	17.4				
70歳以上	245	29.4	20.0	7.8	1.6	3.7	41.6	29.0	40.0	13.5	15.5	9.8	4.9	37.1	22.9	67.3	12.7	24.5	32.7	4.1	15.5	17.1	32.2	1.6	15.1	13.1	3.7	31.4	36.3				

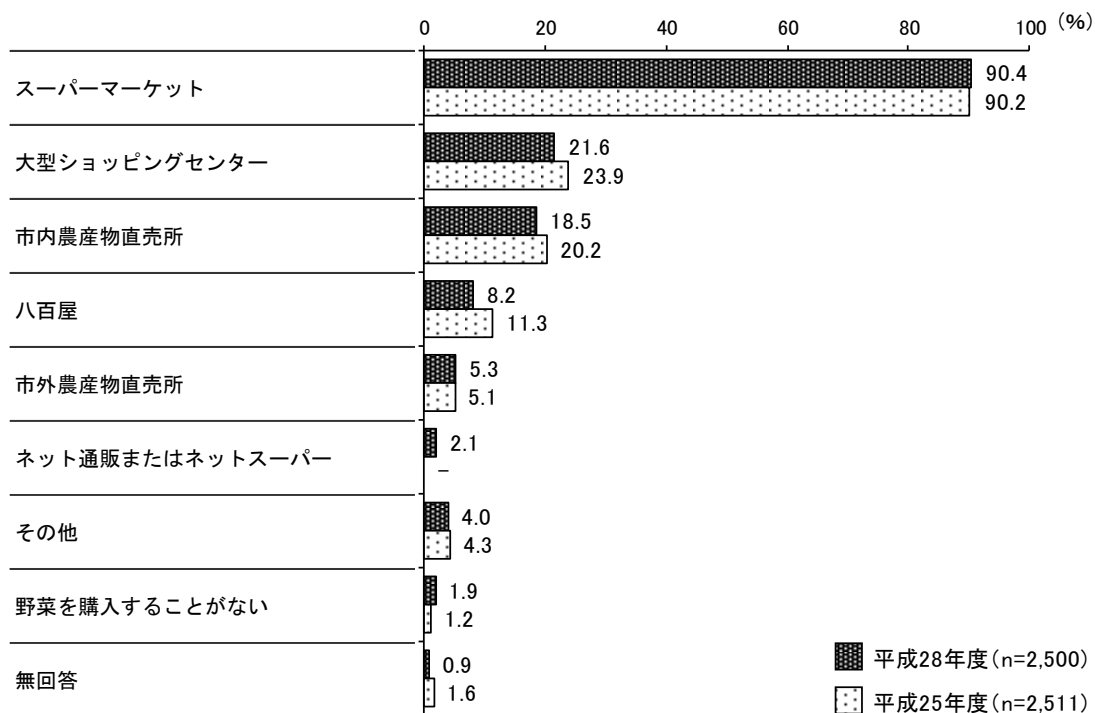
	調査数(人)	オ いちご								カ チューリップ								キ 小松菜								ク その他							
		購入したことがある				購入したことがない				購入したことがある				購入したことがない				購入したことがある				購入したことがない											
		市民まつりなどイベント	農産物直売所	市内スーパーマーケット	その他	購入したことがない	無回答	購入したことがある	農産物直売所	市内スーパーマーケット	その他	購入したことがない	無回答	購入したことがある	市民まつりなどイベント	農産物直売所	市内スーパーマーケット	その他	購入したことがない	無回答	購入したことがある	市民まつりなどイベント	農産物直売所	市内スーパーマーケット	その他	購入したことがない	無回答						
全体	2,500	44.1	3.0	19.9	19.9	5.7	44.9	11.0	13.2	4.6	3.0	2.9	3.3	69.0	17.8	44.5	2.0	11.7	32.2	2.5	43.0	12.6	3.3	0.3	1.2	1.3	0.9	27.6	69.2				
女性全体	1,309	47.2	2.9	22.1	21.6	6.5	44.1	8.7	14.2	5.5	3.4	2.9	3.4	71.4	14.4	50.4	2.2	13.3	36.8	3.2	40.0	9.6	3.7	0.2	1.5	1.5	1.1	23.6	72.7				
18~29歳	118	32.2	1.7	11.9	16.1	7.6	66.1	1.7	7.6	4.2	0.8	1.7	2.5	88.1	4.2	23.7	0.8	4.2	19.5	1.7	72.9	3.4	0.8	-	-	-	0.8	45.8	53.4				
30~39歳	204	45.1	2.5	17.6	23.0	11.8	51.5	3.4	5.9	2.9	0.5	1.0	1.5	89.7	4.4	38.7	2.0	6.9	31.4	1.5	56.9	4.4	2.0	-	0.5	-	1.5	32.8	65.2				
40~49歳	224	43.3	2.2	22.8	21.9	5.4	54.5	2.2	7.1	3.1	1.3	1.8	0.9	89.3	3.6	45.5	1.3	11.2	34.8	2.7	50.4	4.0	3.1	0.4	0.9	1.8	0.4	28.1	68.8				
50~59歳	190	46.3	1.1	23.7	20.5	5.8	51.6	2.1	15.8	5.8	4.7	2.6	3.2	76.8	7.4	59.5	0.5	17.4	44.2	3.2	37.9	2.6	4.7	-	3.7	1.6	1.6	27.9	67.4				
60~69歳	268	50.0	4.1	25.7	19.0	4.9	36.6	13.4	20.5	6.7	4.9	3.7	5.6	60.4	19.0	59.3	3.4	20.5	36.6	4.9	28.0	12.7	4.5	-	1.9	1.9	1.1	14.6	81.0				
70歳以上	302	55.6	4.3	24.2	25.8	5.3	24.5	19.9	21.2	8.3	5.6	5.0	5.0	45.7	33.1	58.9	3.6	13.9	44.4	4.0	19.9	21.2	5.3	0.7	1.7	2.6	1.3	10.6	84.1				
男性全体	1,025	40.6	3.0	17.7	17.9	5.1	47.7	11.7	11.1	3.2	2.3	2.7	2.9	69.7	19.2	36.8	1.3	9.5	26.7	1.9	49.1	14.1	2.4	0.4	0.6	1.0	0.6	34.2	63.3				
18~29歳	97	27.8	1.0	9.3	17.5	1.0	70.1	2.1	9.3	-	1.0	4.1	4.1	88.7	2.1	26.8	-	5.2	20.6	1.0	72.2	1.0	-	-	-	-	-	53.6	46.4				
30~39歳	120	36.7	0.8	13.3	16.7	8.3	58.3	5.0	10.8	3.3	0.8	2.5	4.2	83.3	5.8	30.0	1.7	6.7	20.8	0.8	65.8	4.2	1.7	0.8	-	-	0.8	51.7	46.7				
40~49歳	206	39.3	2.9	16.0	18.4	5.3	56.8	3.9	5.8	1.5	1.9	1.0	1.5	87.4	6.8	32.0	1.9	4.4	25.7	1.9	63.1	4.9	1.0	-	0.5	0.5	0.5	44.7	54.4				
50~59歳	142	33.8	1.4	12.0	17.6	5.6	56.3	9.9	8.5	2.8	1.4	3.5	0.7	80.3	11.3	40.8	0.7	6.3	31.7	3.5	51.4	7.7	5.6	1.4	2.1	0.7	1.4	37.3	57.0				
60~69歳	207	45.9	5.8	24.6	14.0	5.8	42.5	11.6	11.6	2.9	2.9	1.9	4.3	65.7	22.7	41.1	1.0	14.0	28.0	2.4	42.0	16.9	2.4	-	1.0	1.0	0.5	24.2	73.4				
70歳以上	245	47.8	3.7	21.6	20.8	3.7	25.7	26.5	18.0	6.5	4.1	4.1	3.3	37.6	44.5	42.4	1.6	15.1	29.0	1.2	24.5	33.1	3.3	0.4	-	2.4	0.4	16.3	80.4				

(3) 野菜の購入場所

◇「スーパーマーケット」が最も多く、約9割

問 41. 野菜はどこで購入することが多いですか。(複数回答可)

図表 12-3-1 野菜の購入場所



※ 「ネット通販またはネットスーパー」は平成28年度のみ

野菜の購入場所については、「スーパーマーケット」(90.4%)が最も多く、次いで、「大型ショッピングセンター」(21.6%)、「市内農産物直売所」(18.5%)、「八百屋」(8.2%)、「市外農産物直売所」(5.3%)の順となっている。また、「その他」として「生協」「宅配」「移動販売車」等が挙げられた。

前回の調査と比較すると、大きな差異はみられない。

性別でみると、「市内農産物直売所」は女性（20.5%）が男性（15.2%）より5.3ポイント、「スーパーマーケット」は女性（92.9%）が男性（88.6%）より4.3ポイントそれぞれ高くなっている。一方、「大型ショッピングセンター」は男性（23.5%）が女性（20.8%）より2.7ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「市内農産物直売所」は女性60～69歳（30.6%）、男性70歳以上（26.5%）、女性70歳以上（26.2%）で2割半ば以上と多くなっている。

図表12-3-2 性・年齢別 野菜の購入場所

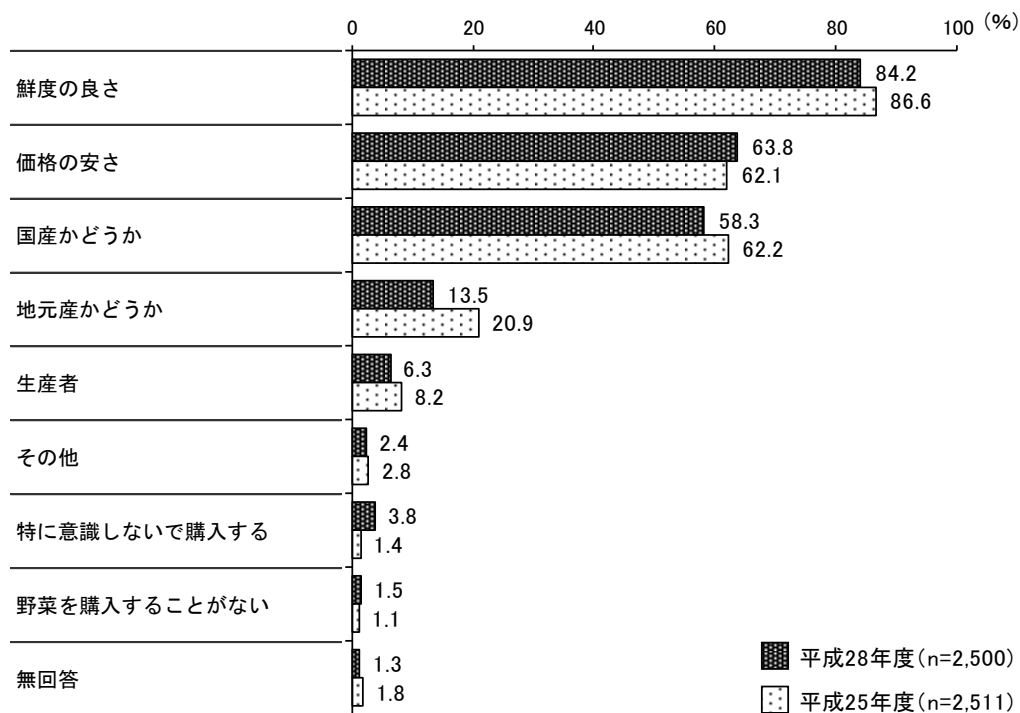
	調査数（人）	市内農産物直売所	市外農産物直売所	スーパーマーケット	八百屋	大型ショッピングセンター	ネット通販またはネットスーパー	その他	野菜を購入することがない	無回答
全体	2,500	18.5	5.3	90.4	8.2	21.6	2.1	4.0	1.9	0.9
女性全体	1,309	20.5	6.0	92.9	9.3	20.8	2.7	4.9	1.1	0.7
18～29歳	118	5.9	0.8	91.5	4.2	24.6	2.5	1.7	2.5	0.8
30～39歳	204	13.2	3.4	94.1	4.9	27.5	7.4	4.4	0.5	0.5
40～49歳	224	16.5	3.6	96.0	6.3	21.4	2.7	4.9	0.9	0.4
50～59歳	190	18.4	8.4	93.7	11.1	23.7	3.2	6.3	-	1.1
60～69歳	268	30.6	10.4	91.8	10.1	18.3	1.1	6.3	0.7	0.4
70歳以上	302	26.2	6.0	90.7	14.9	14.2	0.3	4.3	2.3	1.0
男性全体	1,025	15.2	4.7	88.6	7.0	23.5	1.5	2.6	3.0	0.7
18～29歳	97	5.2	6.2	84.5	5.2	23.7	2.1	1.0	11.3	-
30～39歳	120	11.7	1.7	94.2	6.7	25.0	2.5	-	0.8	0.8
40～49歳	206	6.8	2.9	87.9	5.3	22.8	2.4	2.4	4.9	-
50～59歳	142	7.7	2.8	92.3	6.3	24.6	1.4	2.8	2.1	0.7
60～69歳	207	22.2	8.7	88.4	6.8	23.7	-	4.8	1.0	1.4
70歳以上	245	26.5	4.9	86.5	10.2	22.0	0.8	2.4	1.6	0.8

(4) 野菜を購入するとき意識すること

◇「鮮度の良さ」が最も多く、8割半ば

問42. 野菜を購入するとき、どのようなことを意識して選びますか。(複数回答可)

図表 12-4-1 野菜を購入するとき意識すること



野菜を購入するとき意識することについては、「鮮度の良さ」(84.2%)が最も多く、次いで、「価格の安さ」(63.8%)、「国産かどうか」(58.3%)、「地元産かどうか」(13.5%)、「生産者」(6.3%)の順となっている。また、「その他」として「安全性」「生産地」等が挙げられた。

前回の調査と比較すると、「地元産かどうか」(13.5%)は平成25年度調査(20.9%)と比べ7.4ポイント減少している。

性別でみると、意識することはいずれも女性が高く、とくに「国産かどうか」は女性（64.7%）が男性（50.7%）より14.0ポイント、「鮮度の良さ」は女性（88.5%）が男性（79.6%）より8.9ポイントそれぞれ高くなっている。

性・年齢別でみると、「鮮度の良さ」は女性60～69歳（92.2%）、女性50～59歳（91.1%）、女性70歳以上（89.7%）でおおよそ9割と多くなっている。また、「価格の安さ」は女性30～39歳（78.9%）、女性40～49歳（77.2%）、女性18～29歳（77.1%）で8割弱、「国産かどうか」は女性60～69歳（73.1%）で7割強と多くなっている。

図表12-4-2 性・年齢別 野菜を購入するとき意識すること

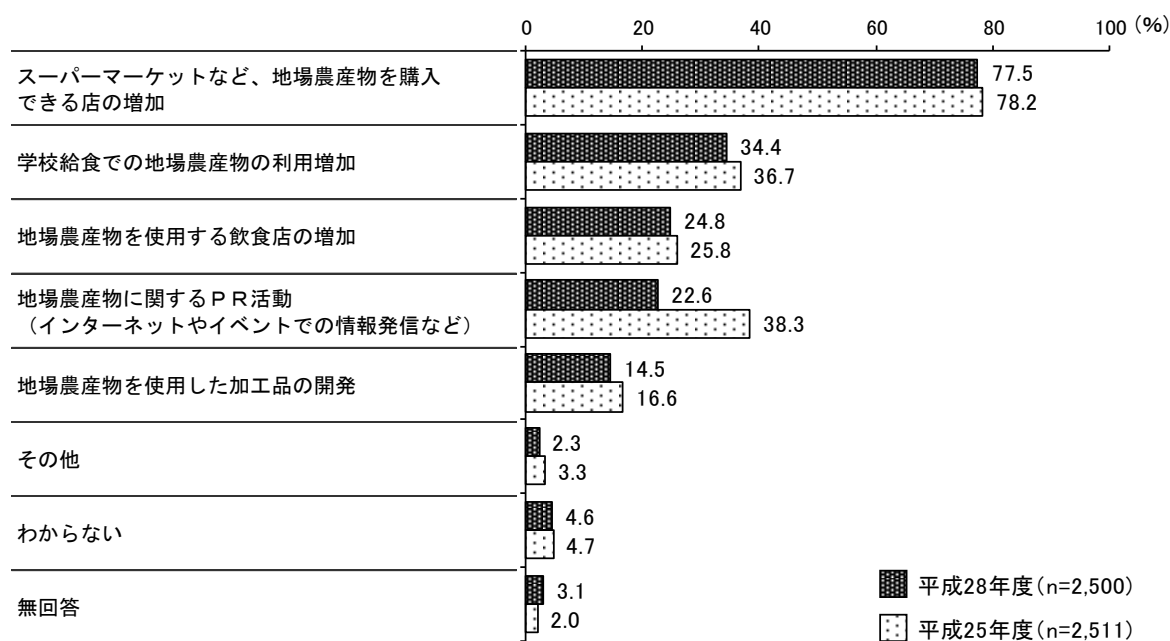
	調査数（人）	鮮度の良さ	価格の安さ	地元産かどうか	国産かどうか	生産者	その他	特に意識しないで購入する	野菜を購入することがない	無回答
全体	2,500	84.2	63.8	13.5	58.3	6.3	2.4	3.8	1.5	1.3
女性全体	1,309	88.5	66.7	15.5	64.7	7.6	2.9	2.3	1.1	0.7
18～29歳	118	75.4	77.1	5.1	43.2	3.4	4.2	2.5	5.9	0.8
30～39歳	204	86.3	78.9	7.8	63.7	4.4	1.5	2.9	0.5	0.5
40～49歳	224	88.8	77.2	11.2	62.1	6.3	5.4	2.7	-	-
50～59歳	190	91.1	67.4	13.7	68.4	9.5	4.2	1.6	-	1.1
60～69歳	268	92.2	59.0	18.7	73.1	9.0	1.5	1.9	-	0.7
70歳以上	302	89.7	53.3	26.2	65.9	10.3	1.7	2.3	2.3	1.0
男性全体	1,025	79.6	62.7	10.6	50.7	4.3	1.9	5.8	2.0	1.4
18～29歳	97	62.9	66.0	7.2	42.3	2.1	1.0	7.2	7.2	1.0
30～39歳	120	68.3	71.7	7.5	44.2	4.2	4.2	5.8	1.7	0.8
40～49歳	206	79.6	69.9	5.3	51.9	2.4	1.9	4.9	2.4	1.0
50～59歳	142	82.4	69.0	8.5	47.2	3.5	2.8	8.5	2.1	0.7
60～69歳	207	87.0	57.5	14.0	56.0	5.3	1.4	3.4	1.0	1.9
70歳以上	245	84.5	51.4	16.3	53.5	6.1	0.8	6.1	0.4	2.0

(5) 地産地消推進に必要なこと

◇「スーパーマーケットなど、地場農産物を購入できる店の増加」が最も多く、8割弱

問43. あなたが、地産地消推進のために必要だと思うことはなんですか。(複数回答可)

図表 12-5-1 地産地消推進に必要なこと



地産地消推進に必要なことについては、「スーパーマーケットなど、地場農産物を購入できる店の増加」(77.5%)が最も多く、次いで、「学校給食での地場農産物の利用増加」(34.4%)、「地場農産物を使用する飲食店の増加」(24.8%)、「地場農産物に関するPR活動(インターネットやイベントでの情報発信など)」(22.6%)、「地場農産物を使用した加工品の開発」(14.5%)の順となっている。また、「その他」として「安全性の向上」「品質の向上」「価格の安さ」等が挙げられた。

前回の調査と比較すると、「地場農産物に関するPR活動(インターネットやイベントでの情報発信など)」(22.6%)は平成25年度調査(38.3%)と比べ15.7ポイント減少している。

性別でみると、「学校給食での地場農産物の利用増加」は女性（38.3%）が男性（29.9%）より8.4ポイント、「スーパーマーケットなど、地場農産物を購入できる店の増加」は女性（80.1%）が男性（75.8%）より4.3ポイントそれぞれ高く、「地場農産物に関するPR活動（インターネットやイベントでの情報発信など）」は男性（25.5%）が女性（20.9%）より4.6ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「スーパーマーケットなど、地場農産物を購入できる店の増加」は女性40～49歳（84.8%）で8割半ばと多くなっている。また、「学校給食での地場農産物の利用増加」は女性30～39歳（47.5%）、女性40～49歳（44.2%）で4割半ば以上、「地場農産物を使用する飲食店の増加」は男性18～29歳（39.2%）で約4割と多くなっている。

図表 12-5-2 性・年齢別 地産地消推進に必要なこと

	調査数（人）	の地場農産物を購入できる店、スーパーマーケット	の地場農産物を使用する飲食店	の地場農産物を使用した加工品	学校給食での地場農産物の利用増加	で（インターネットやイベントでの情報発信など）	その他	わからない	無回答
全体	2,500	77.5	24.8	14.5	34.4	22.6	2.3	4.6	3.1
女性全体	1,309	80.1	26.2	14.8	38.3	20.9	1.8	3.8	2.8
18～29歳	118	65.3	35.6	13.6	36.4	25.4	0.8	7.6	1.7
30～39歳	204	82.4	37.3	13.7	47.5	20.6	1.5	2.5	1.0
40～49歳	224	84.8	26.8	16.1	44.2	18.8	2.7	1.3	0.4
50～59歳	190	83.7	25.3	14.2	39.5	29.5	3.2	3.7	2.1
60～69歳	268	79.5	21.6	13.8	36.6	22.0	1.9	3.7	3.0
70歳以上	302	79.1	19.5	16.6	29.5	14.9	0.7	5.0	6.6
男性全体	1,025	75.8	23.9	14.1	29.9	25.5	3.1	5.6	2.4
18～29歳	97	68.0	39.2	11.3	30.9	20.6	1.0	8.2	1.0
30～39歳	120	72.5	28.3	12.5	34.2	20.0	5.8	5.8	1.7
40～49歳	206	81.1	26.2	10.2	36.9	20.9	1.9	4.4	1.0
50～59歳	142	76.1	26.1	11.3	32.4	31.0	4.2	5.6	0.7
60～69歳	207	75.8	20.3	15.9	27.5	29.5	3.9	3.9	2.9
70歳以上	245	75.5	15.1	19.2	20.8	26.9	2.4	6.9	5.3

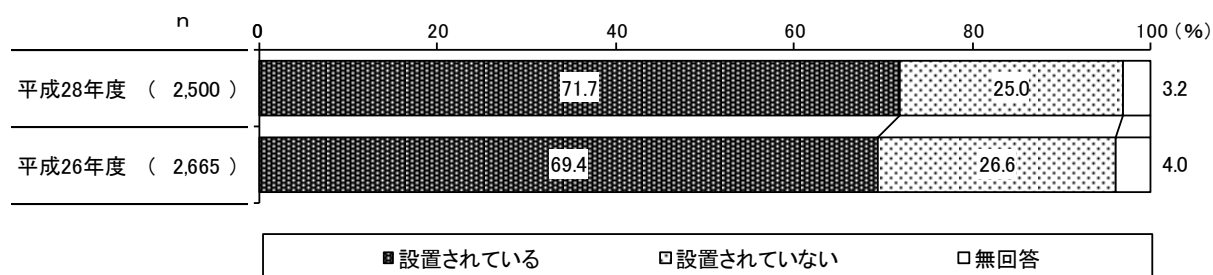
13. 住宅用火災警報器の設置状況について

(1) 住宅用火災警報器の設置

◇「設置されている」が約7割

問 44. あなたのお住まいの住居には、住宅用火災警報器を設置していますか。(○は1つ)

図表 13-1-1 住宅用火災警報器の設置



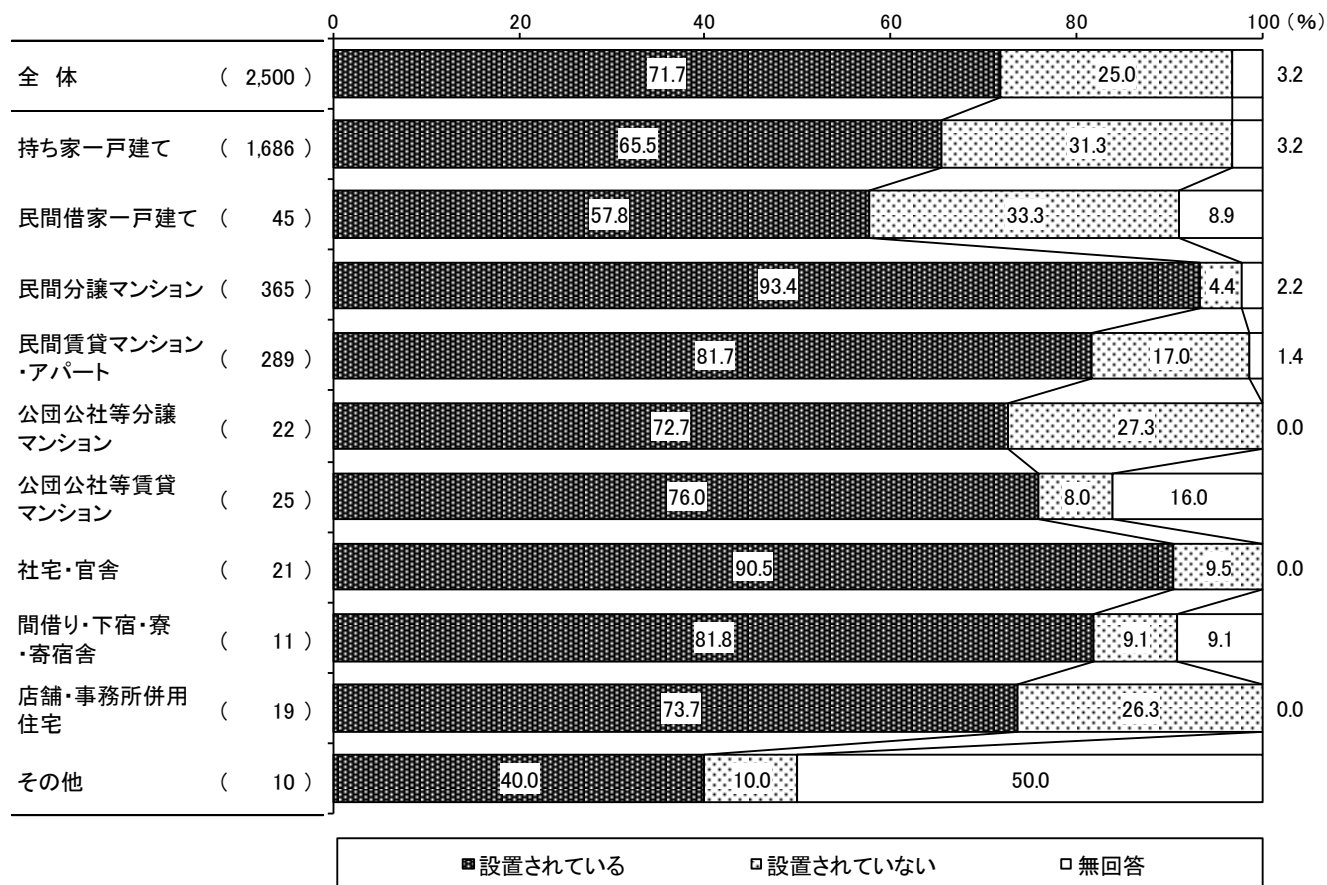
住宅用火災警報器の設置については、「設置されている」(71.7%)が約7割、「設置されていない」(25.0%)が2割半ばとなっている。

前回の調査と比較すると、「設置されている」(71.7%)は平成26年度調査(69.4%)と比べ2.3ポイント増加している。一方、「設置されていない」(25.0%)は平成26年度調査(26.6%)と比べ1.6ポイント減少している。

居住形態別でみると、「設置されている」は民間分譲マンション（93.4%）で9割強、民間賃貸マンション・アパート（81.7%）で約8割と多くなっている。

※ 調査数が少ないもの（本調査では30人未満とする）については記述の対象としない

図表 13-1-2 居住形態別 住宅用火災警報器の設置

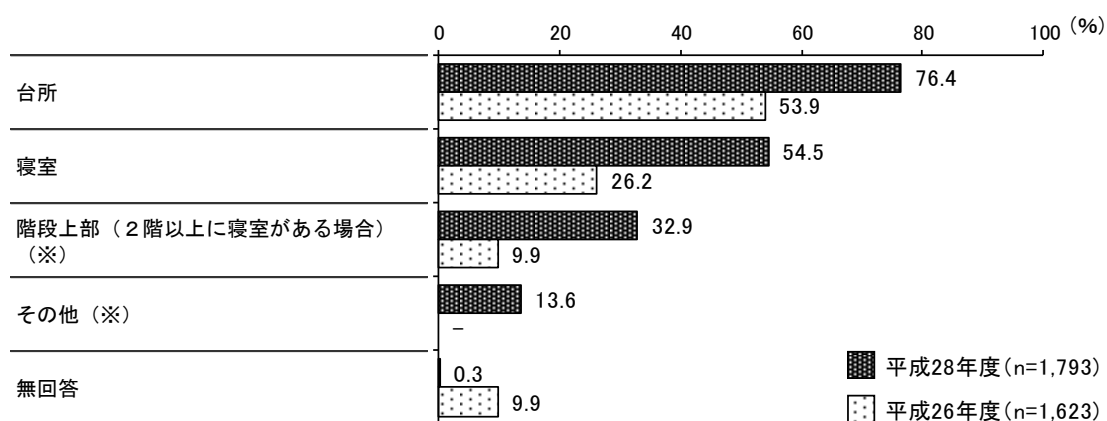


(2) 住宅用火災警報器の設置場所

◇「台所」が最も多く、7割半ば

問 44-2. 問 44 で「1. 設置されている」と答えた方に伺います。住宅用火災警報器を設置してある場所はどこですか。次の中から選んでください。(複数回答可)

図表 13-2-1 住宅用火災警報器の設置場所



※「階段上部」は平成 26 年度調査では「階段」と表記、「その他」は平成 28 年度調査のみ

お住まいの住居に住宅用火災警報器が「設置されている」と回答した 1,793 人に、住宅用火災警報器の設置場所を聞いたところ、「台所」(76.4%) が最も多く、次いで、「寝室」(54.5%)、「階段上部 (2階以上に寝室がある場合)」(32.9%) の順となっている。また、「その他」として「居間・リビング」「廊下」「押し入れ」等が挙げられた。

前回の調査と比較すると、「寝室」(54.5%) は平成 26 年度調査 (26.2%) と比べ 28.3 ポイント、「台所」(76.4%) は平成 26 年度調査 (53.9%) と比べ 22.5 ポイントそれぞれ増加している。

居住形態別にみると、「台所」では民間分譲マンション（83.0%）で8割強、「寝室」では民間賃貸マンション・アパート（61.9%）、民間分譲マンション（61.6%）で約6割と多くなっている。また、「階段上部（2階以上に寝室がある場合）」では持ち家一戸建て（49.5%）で約5割と多くなっている。

※ 調査数が少ないもの（本調査では30人未満とする）については記述の対象としない

図表 13-2-2 居住形態別 住宅用火災警報器の設置場所

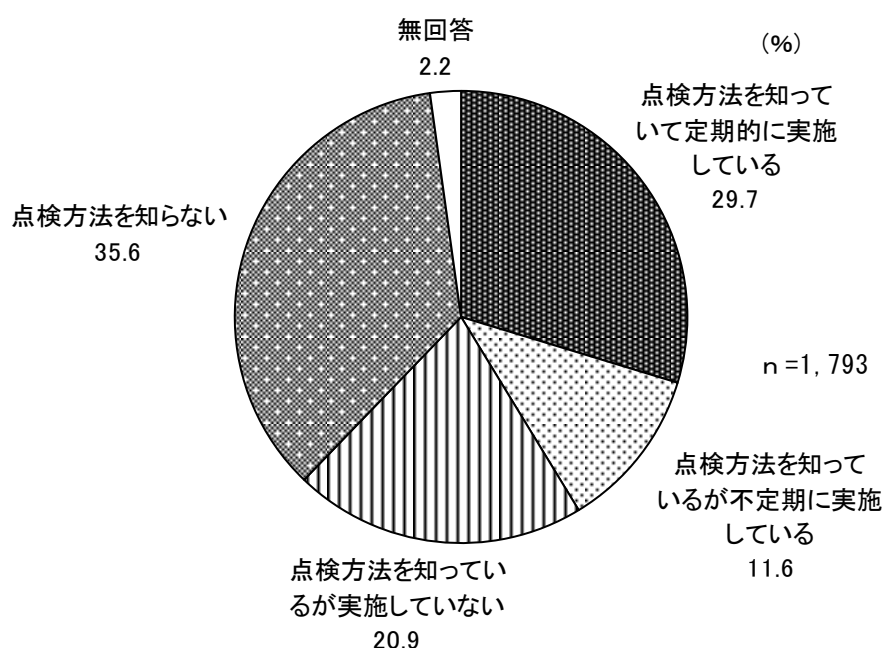
	調査数 (人)	寝室	階段 上部 がある 場合 (2階 以上 に)	台 所	そ の 他	(%) 無 回 答
全 体	1,793	54.5	32.9	76.4	13.6	0.3
持ち家一戸建て	1,105	50.7	49.5	77.8	9.6	0.2
民間借家一戸建て	26	57.7	34.6	65.4	11.5	-
民間分譲マンション	341	61.6	3.2	83.0	25.5	0.6
民間賃貸マンション・アパート	236	61.9	4.2	65.7	14.8	-
公団公社等分譲マンション	16	37.5	6.3	50.0	18.8	-
公団公社等賃貸マンション	19	73.7	-	68.4	10.5	-
社宅・官舎	19	52.6	-	78.9	21.1	-
間借り・下宿・寮・寄宿舍	9	55.6	11.1	11.1	11.1	11.1
店舗・事務所併用住宅	14	35.7	50.0	85.7	14.3	-
その他	4	100.0	50.0	50.0	-	-
無回答	4	75.0	50.0	100.0	25.0	-

(3) 住宅用火災警報器の点検

◇「点検方法を知らない」が3割半ば

問 44-3. 問 44 で「1. 設置されている」と答えた方に伺います。住宅用火災警報器の点検を実施していますか。(〇は1つ)

図表 13-3-1 住宅用火災警報器の点検



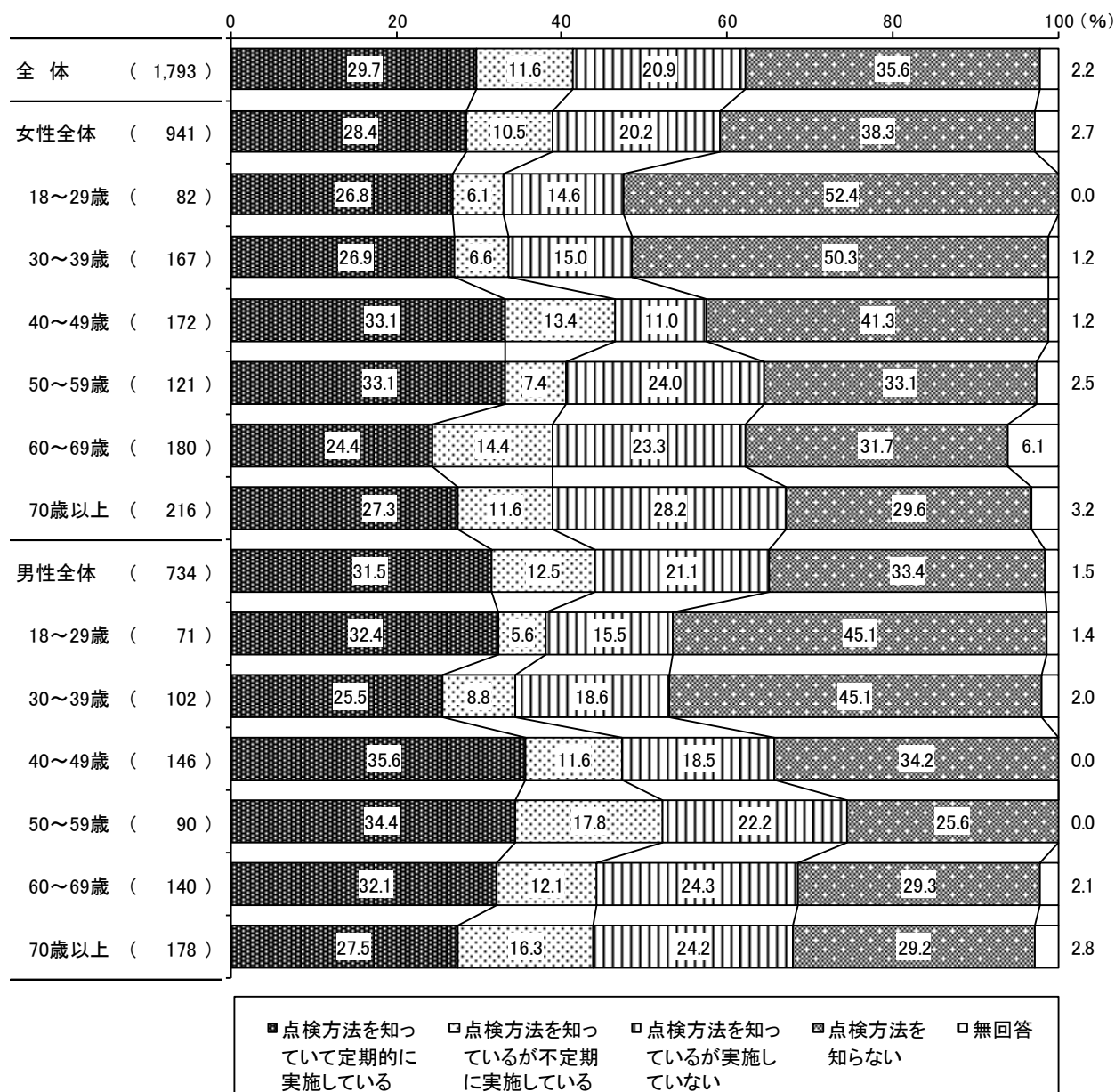
お住まいの住居に住宅用火災警報器が「設置されている」と回答した 1,793 人に、住宅用火災警報器の点検を実施しているか聞いたところ、「点検方法を知らない」(35.6%) が 3 割半ばと最も多く、次いで、「点検方法を知っていて定期的に実施している」(29.7%)、「点検方法を知っているが実施していない」(20.9%)、「点検方法を知っているが不定期に実施している」(11.6%) となっている。

なお、「点検方法を知っていて定期的に実施している」「点検方法を知っているが不定期に実施している」「点検方法を知っているが実施していない」を合わせた『点検方法を知っている』(62.2%) は 6 割強となっている。

性別でみると、『点検方法を知っている』は男性（65.1%）が女性（59.1%）より6.0ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「点検方法を知らない」は女性18～29歳（52.4%）、女性30～39歳（50.3%）で5割以上と多くなっている。

図表 13-3-2 性・年齢別 住宅用火災警報器の点検

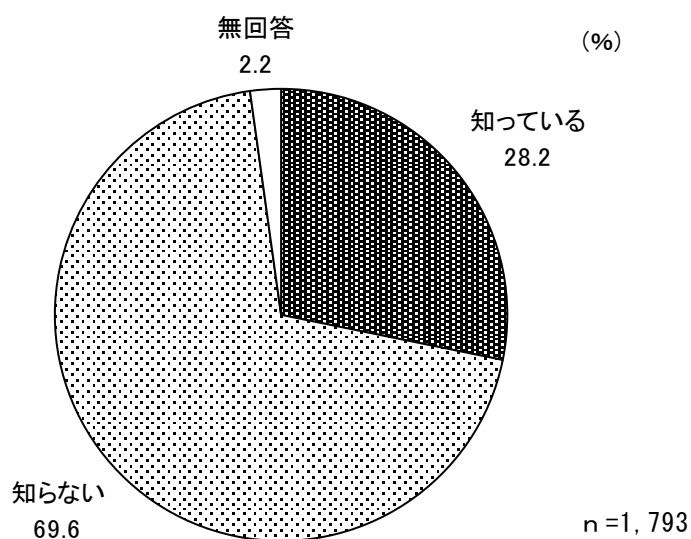


(4) 住宅用火災警報器の交換時期

◇「知っている」は3割弱

問 44-4. 問 44 で「1. 設置されている」と答えた方に伺います。住宅用火災警報器の交換時期を知っていますか。(〇は1つ)

図表 13-4-1 住宅用火災警報器の交換時期

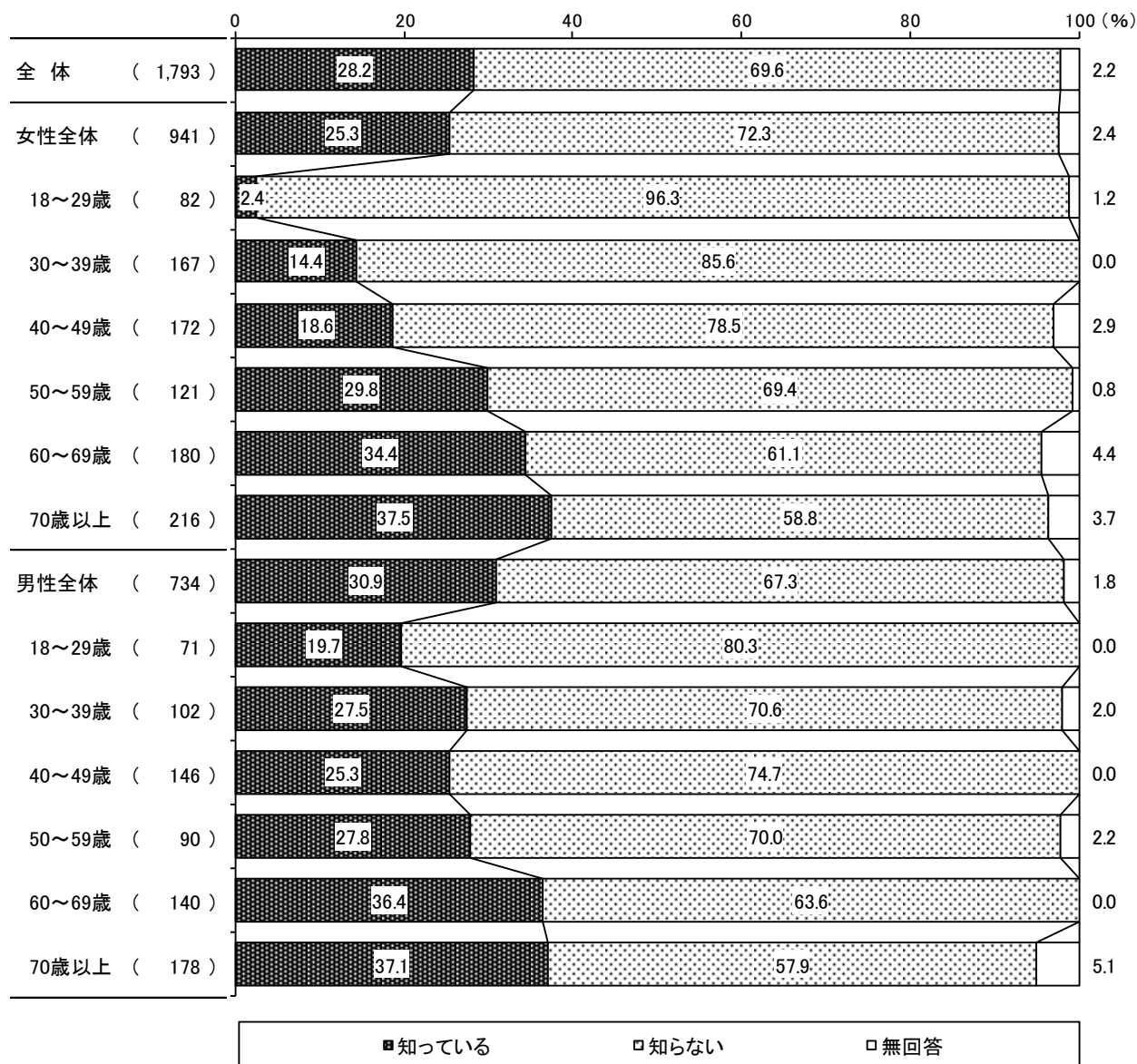


お住まいの住居に住宅用火災警報器が「設置されている」と回答した 1,793 人に、住宅用火災警報器の交換時期について聞いたところ、「知っている」(28.2%) が 3 割弱、「知らない」(69.6%) が約 7 割となっている。

性別で見ると、「知っている」は男性（30.9%）が女性（25.3%）より5.6ポイント高く、「知らない」は女性（72.3%）が男性（67.3%）より5.0ポイント高くなっている。

性・年齢別で見ると、「知らない」は女性18～29歳（96.3%）で9割半ばと最も多く、女性30～39歳（85.6%）、男性18～29歳（80.3%）でも8割以上と多くなっている。

図表 13-4-2 性・年齢別 住宅用火災警報器の交換時期



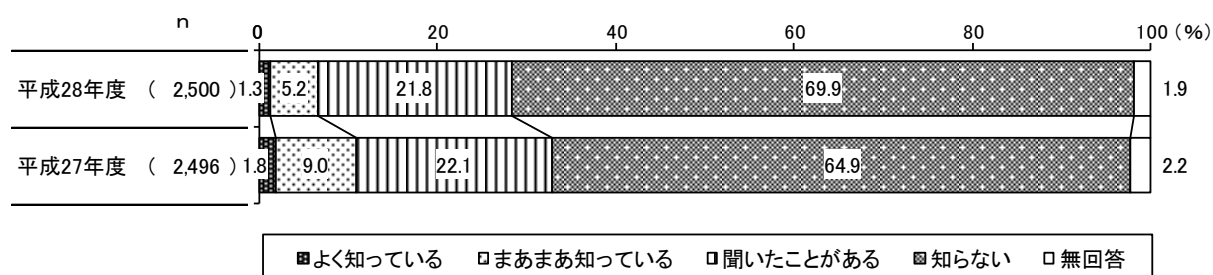
14. 自治基本条例について

(1) 「越谷市自治基本条例」の認知

◇『知っている』は1割未満

問45. 市民参加と協働のまちづくりに必要なルールなどが書かれている、「越谷市自治基本条例」を知っていますか。(〇は1つ)

図表 14-1-1 「越谷市自治基本条例」の認知



「越谷市自治基本条例」の認知については、「よく知っている」(1.3%)と「まあまあ知っている」(5.2%)を合わせた『知っている』(6.5%)は1割に満たない結果となっている。一方、「知らない」(69.9%)は約7割となっている。

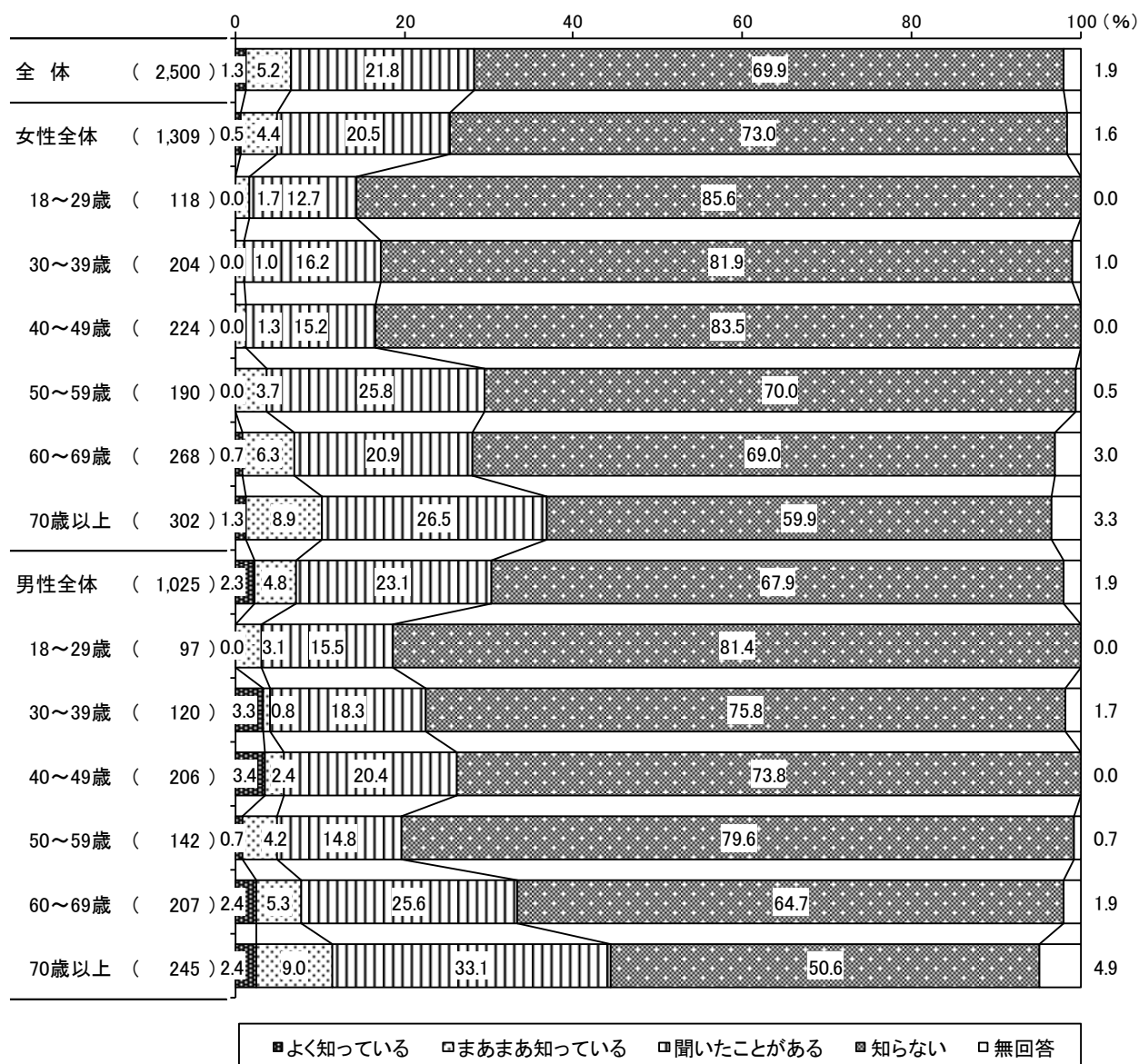
※ 経年比較については、前回調査と質問の仕方が異なるため記述しない。

平成27年度質問：越谷市では、平成21年に「自治基本条例」を制定し、参加と協働によるまちづくりに取り組んでいます。あなたはそのことを知っていますか。

性別で見ると、『知っている』は男性（7.1%）が女性（4.9%）より2.2ポイント高く、一方、「知らない」は女性（73.0%）が男性（67.9%）より5.1ポイント高くなっている。

性・年齢別で見ると、「よく知っている」は男性40～49歳（3.4%）、男性30～39歳（3.3%）でやや多く、「まあまあ知っている」は男性70歳以上（9.0%）、女性70歳以上（8.9%）で約1割となっている。一方、「知らない」は女性18～29歳（85.6%）、女性40～49歳（83.5%）、女性30～39歳（81.9%）、男性18～29歳（81.4%）で8割以上と多くなっている。

図表 14-1-2 性・年齢別 「越谷市自治基本条例」の認知

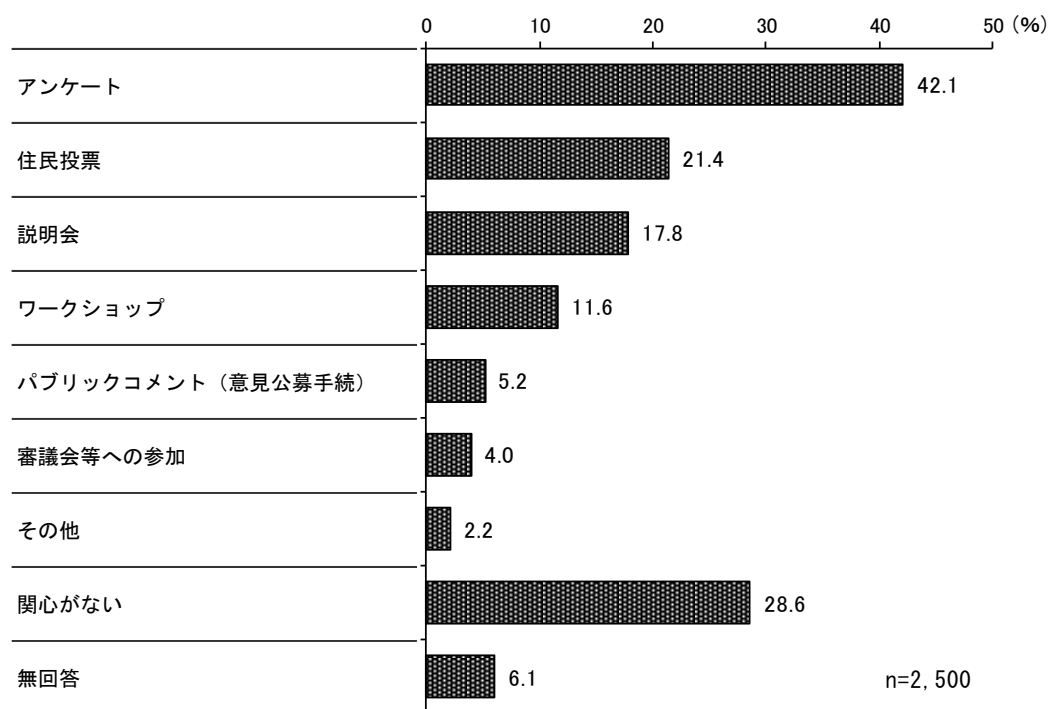


(2) 関心のある市政に参加する方法

◇「アンケート」が最も多く、4割強

問46. 関心のある市政に参加する方法を教えてください。(複数回答可)

図表 14-2-1 関心のある市政に参加する方法



関心のある市政に参加する方法については、「アンケート」(42.1%)が最も多く、次いで、「住民投票」(21.4%)、「説明会」(17.8%)、「ワークショップ」(11.6%)、「パブリックコメント(意見公募手続)」(5.2%)の順となっている。また、「その他」として「議員経由で直接意見具申」「在宅でできる方法」等が挙げられた。

性別で見ると、「説明会」は男性（21.3%）が女性（14.7%）より6.6ポイント、「住民投票」は男性（24.4%）が女性（19.4%）より5.0ポイントそれぞれ高く、「ワークショップ」は女性（14.1%）が男性（9.9%）より4.2ポイント高くなっている。

性・年齢別で見ると、「住民投票」は男性40～49歳（38.3%）で4割弱と多く、「説明会」は男性70歳以上（29.0%）で約3割と多くなっている。一方、「関心がない」は女性18～29歳（43.2%）、男性30～39歳（40.0%）で4割以上と多くなっている。

図表14-2-2 性・年齢別 関心のある市政に参加する方法

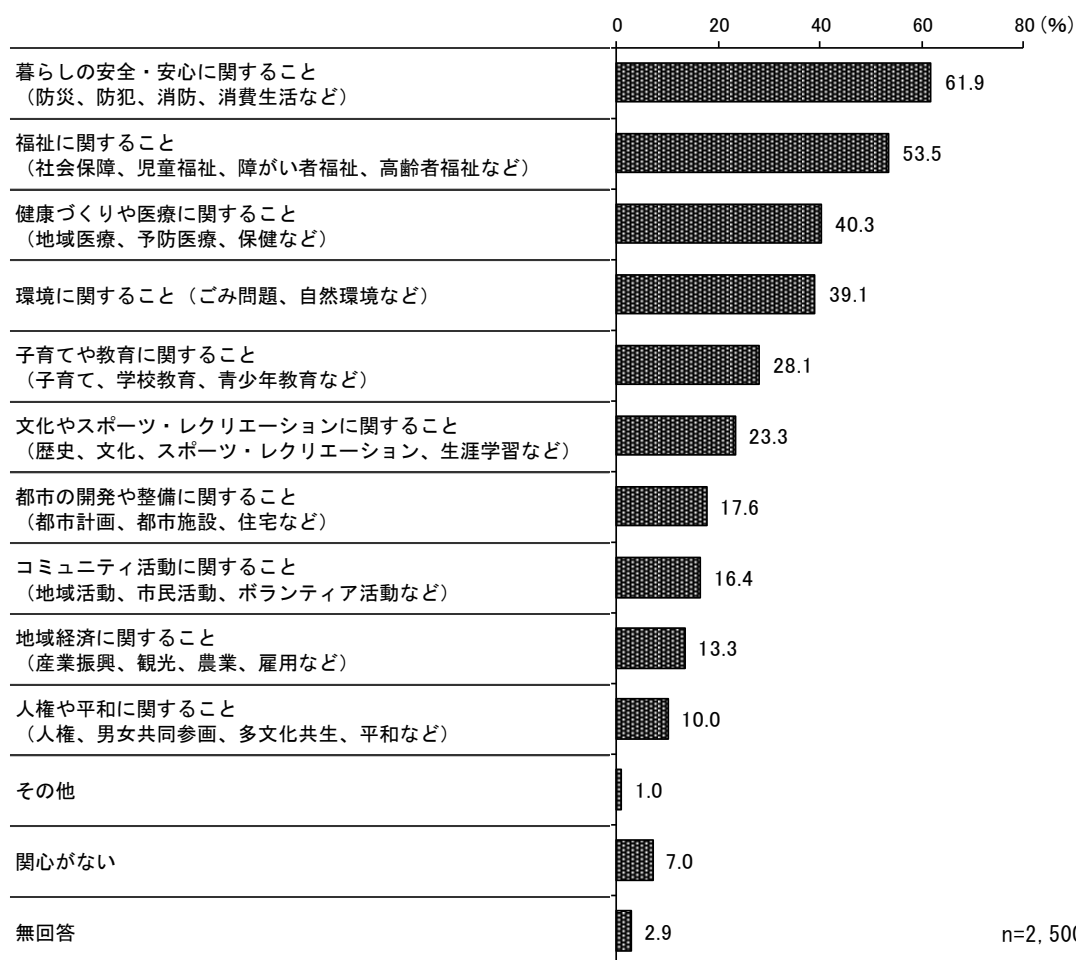
	調査数（人）	アンケート	住民投票	説明会	ワークショップ	パブリックコメント （意見公募手続）	審議会等への参加	その他	関心がない	無回答
全 体	2,500	42.1	21.4	17.8	11.6	5.2	4.0	2.2	28.6	6.1
女性全体	1,309	42.9	19.4	14.7	14.1	4.1	3.1	2.0	29.0	6.5
18～29歳	118	35.6	18.6	4.2	19.5	4.2	-	1.7	43.2	2.5
30～39歳	204	47.5	27.5	9.3	23.5	7.8	1.5	0.5	31.9	0.5
40～49歳	224	41.5	24.6	12.9	14.7	5.8	2.7	2.7	29.0	4.0
50～59歳	190	48.9	21.1	15.3	16.8	5.8	5.3	3.7	21.6	2.6
60～69歳	268	47.8	15.7	18.7	10.4	2.2	1.9	1.5	25.0	6.7
70歳以上	302	35.1	12.9	19.9	7.0	1.0	5.6	2.0	30.1	16.2
男性全体	1,025	42.4	24.4	21.3	9.9	6.5	5.5	1.9	28.5	4.1
18～29歳	97	36.1	29.9	15.5	15.5	8.2	3.1	1.0	37.1	-
30～39歳	120	34.2	26.7	14.2	11.7	4.2	3.3	1.7	40.0	2.5
40～49歳	206	41.3	38.3	13.6	9.2	9.7	3.9	1.9	26.2	1.0
50～59歳	142	43.0	24.6	20.4	9.9	4.9	5.6	2.8	32.4	1.4
60～69歳	207	46.4	17.4	26.6	10.1	8.7	9.2	2.4	24.6	5.3
70歳以上	245	45.7	14.7	29.0	6.9	2.9	5.3	1.2	22.9	9.8

(3) 関心のあるまちづくりの分野

◇「暮らしの安全・安心に関すること（防災、防犯、消防、消費生活など）」が最も多く、約6割

問 47. 関心のあるまちづくりの分野を教えてください。(複数回答可)

図表 14-3-1 関心のあるまちづくりの分野



関心のあるまちづくりの分野については、「暮らしの安全・安心に関すること（防災、防犯、消防、消費生活など）」(61.9%) が最も多く、次いで、「福祉に関すること（社会保障、児童福祉、障がい者福祉、高齢者福祉など）」(53.5%)、「健康づくりや医療に関すること（地域医療、予防医療、保健など）」(40.3%)、「環境に関すること（ごみ問題、自然環境など）」(39.1%)、「子育てや教育に関すること（子育て、学校教育、青少年教育など）」(28.1%) の順となっている。また、「その他」として「水害対策」「動物殺処分ゼロの行政」等が挙げられた。

性別でみると、「福祉に関すること（社会保障、児童福祉、障がい者福祉、高齢者福祉など）」は女性（57.6%）が男性（48.2%）より9.4ポイント、「子育てや教育に関すること（子育て、学校教育、青少年教育など）」は女性（32.0%）が男性（25.2%）より6.8ポイントそれぞれ高く、一方、「都市の開発や整備に関すること（都市計画、都市施設、住宅など）」は男性（21.8%）が女性（14.5%）より7.3ポイント、「文化やスポーツ・レクリエーションに関すること（歴史、文化、スポーツ・レクリエーション、生涯学習など）」は男性（27.5%）が女性（20.8%）より6.7ポイントそれぞれ高くなっている。

性・年齢別でみると、「暮らしの安全・安心に関すること（防災、防犯、消防、消費生活など）」は男性70歳以上（71.8%）、女性50～59歳（70.5%）で約7割と多くなっている。また、「福祉に関すること（社会保障、児童福祉、障がい者福祉、高齢者福祉など）」は女性50～59歳（67.4%）、女性60～69歳（66.8%）で6割半ば以上、「子育てや教育に関すること（子育て、学校教育、青少年教育など）」は女性30～39歳（67.2%）、女性18～29歳（60.2%）で6割以上と多くなっている。

図表 14-3-2 性・年齢別 関心のあるまちづくりの分野

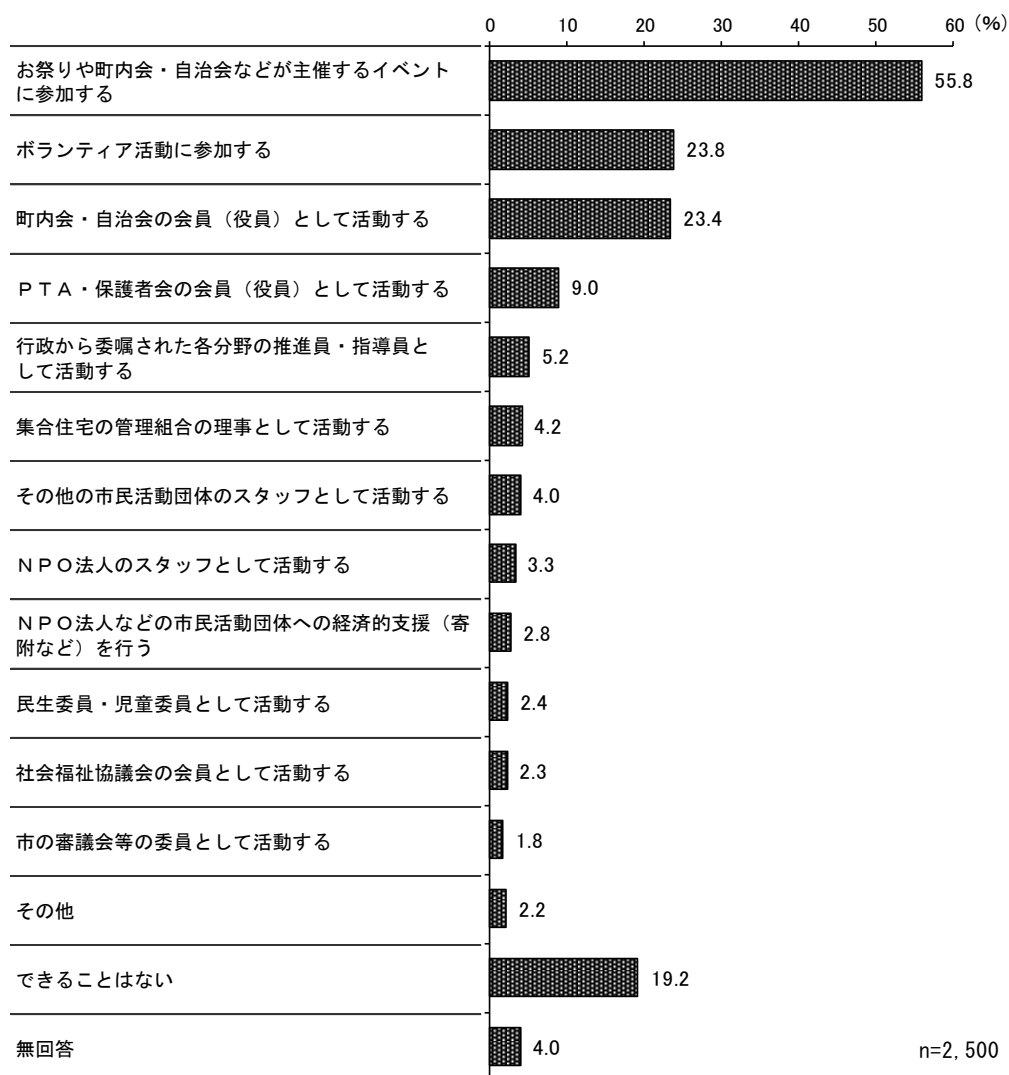
	調査数（人）	暮らしの安全・安心に関すること（防災、防犯、消防、消費生活など）	福祉に関すること（社会保障、児童福祉、障がい者福祉、高齢者福祉など）	環境に関すること（ごみ問題、自然環境など）	健康づくりや医療に関すること（地域医療、予防医療、保健など）	活動など（地域活動、市民活動、ボランティア）	子育てや教育に関すること（子育て、学校教育、青少年教育など）	都市の開発や整備に関すること（都市計画、都市施設、住宅など）	文化やスポーツ・レクリエーションに関すること（歴史、文化、スポーツ・レクリエーション、生涯学習など）	観光や農業、雇用など（産業振興、地域経済に関するもの）	男女共同参画、多文化共生、平和など（人権や平和に関するもの）	その他	関心がない	無回答
全体	2,500	61.9	53.5	39.1	40.3	16.4	28.1	17.6	23.3	13.3	10.0	1.0	7.0	2.9
女性全体	1,309	61.3	57.6	37.7	43.5	16.7	32.0	14.5	20.8	11.4	10.5	1.1	6.7	2.8
18～29歳	118	56.8	45.8	25.4	37.3	20.3	60.2	15.3	20.3	16.9	12.7	-	11.9	0.8
30～39歳	204	54.4	46.6	27.9	36.3	16.2	67.2	18.6	23.5	13.2	8.3	2.0	7.8	1.0
40～49歳	224	57.6	47.8	28.1	39.3	16.1	43.3	11.2	22.8	9.4	7.1	2.7	8.0	1.3
50～59歳	190	70.5	67.4	54.2	46.8	16.8	20.0	18.4	21.1	16.8	13.7	0.5	3.2	-
60～69歳	268	66.4	66.8	47.0	47.4	19.0	18.3	12.3	20.9	8.2	11.6	-	4.9	4.1
70歳以上	302	60.3	62.3	37.7	48.0	13.9	8.3	13.6	17.5	8.9	10.9	1.0	7.0	6.3
男性全体	1,025	63.9	48.2	41.4	37.7	15.7	25.2	21.8	27.5	16.3	8.5	0.8	7.5	2.3
18～29歳	97	53.6	32.0	41.2	29.9	14.4	27.8	26.8	28.9	18.6	12.4	2.1	13.4	1.0
30～39歳	120	60.8	39.2	34.2	31.7	11.7	53.3	21.7	30.0	21.7	5.8	2.5	11.7	0.8
40～49歳	206	60.2	43.7	37.9	31.1	18.4	36.4	25.2	29.6	12.1	6.8	0.5	7.3	0.5
50～59歳	142	59.2	44.4	37.3	33.1	7.7	21.8	23.9	24.6	16.2	9.2	1.4	9.9	2.1
60～69歳	207	67.1	54.6	46.9	40.6	16.4	12.6	18.4	26.6	18.4	7.7	-	6.8	3.4
70歳以上	245	71.8	60.0	44.5	48.6	18.8	11.8	17.6	25.3	13.5	9.4	-	2.9	4.5

(4) まちづくりのためにできること

◇「お祭りや町内会・自治会などが主催するイベントに参加する」が最も多く、5割半ば

問48. 越谷市のまちづくりのために、あなた自身ができることがあるとすれば、次のどれですか。(複数回答可)

図表 14-4-1 まちづくりのためにできること



まちづくりのためにできることについては、「お祭りや町内会・自治会などが主催するイベントに参加する」(55.8%)が最も多く、次いで、「ボランティア活動に参加する」(23.8%)、「町内会・自治会の会員(役員)として活動する」(23.4%)、「P T A・保護者会の会員(役員)として活動する」(9.0%)、「行政から委嘱された各分野の推進員・指導員として活動する」(5.2%)の順となっている。また、「その他」として「消防団への加入」「講演」等が挙げられた。

性別でみると、「PTA・保護者会の会員（役員）として活動する」は女性（13.4%）が男性（4.4%）より9.0ポイント、「ボランティア活動に参加する」は女性（27.3%）が男性（21.0%）より6.3ポイント、「お祭りや町内会・自治会などが主催するイベントに参加する」は女性（57.9%）が男性（53.9%）より4.0ポイントそれぞれ高くなっている。

性・年齢別でみると、「お祭りや町内会・自治会などが主催するイベントに参加する」は女性30～39歳（72.1%）で7割強と最も多く、女性18～29歳（66.9%）、男性30～39歳（64.2%）で6割半ばと多くなっている。また、「ボランティア活動に参加する」は女性18～29歳（46.6%）で4割半ばと最も多く、「町内会・自治会の会員（役員）として活動する」は女性50～59歳（34.7%）で3割半ばと最も多くなっている。

図表14-4-2 性・年齢別 まちづくりのためにできること

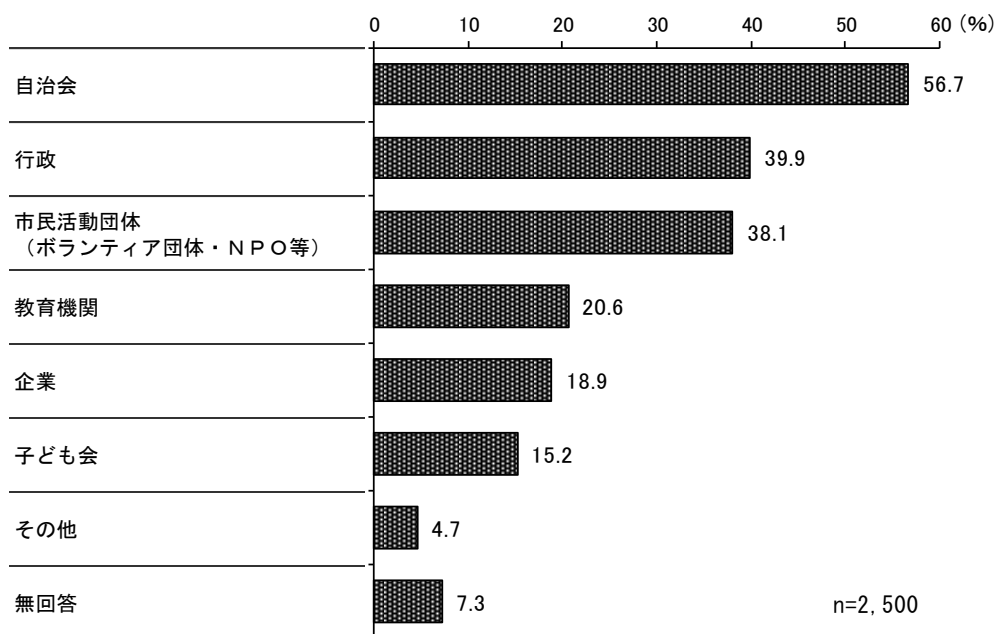
	調査数（人）	お祭りや町内会・自治会などが主催するイベントに参加する	町内会・自治会の会員（役員）として活動する	ボランティア活動に参加する	NPO法人のスタッフとして活動する	その他の市民活動団体のスタッフとして活動する	集合住宅の管理組合の理事として活動する	民生委員・児童委員として活動する	社会福祉協議会の会員として活動する	PTA・保護者会の会員（役員）として活動する	推進員・指導員として活動する	行政から委嘱された各分野の市の審議会等の委員として活動する	NPO法人などの市民活動団体への経済的支援（寄附など）を行う	その他	できることはない	無回答
全体	2,500	55.8	23.4	23.8	3.3	4.0	4.2	2.4	2.3	9.0	5.2	1.8	2.8	2.2	19.2	4.0
女性全体	1,309	57.9	24.2	27.3	2.8	3.6	3.5	2.2	2.1	13.4	3.1	0.5	2.7	1.8	17.3	4.0
18～29歳	118	66.9	10.2	46.6	4.2	0.8	-	2.5	0.8	11.0	4.2	-	3.4	1.7	14.4	0.8
30～39歳	204	72.1	21.1	27.0	3.9	2.0	3.4	1.0	1.0	30.9	2.0	-	2.5	1.5	11.3	2.0
40～49歳	224	53.6	23.7	24.1	3.6	4.0	6.3	2.7	-	31.3	3.1	0.9	3.1	2.7	13.4	2.7
50～59歳	190	58.9	34.7	30.5	4.2	5.3	6.8	3.7	1.6	13.2	3.7	1.1	3.2	1.6	10.5	0.5
60～69歳	268	55.6	30.6	28.0	1.9	4.1	2.6	2.2	4.1	1.9	2.6	0.7	2.6	1.5	18.7	5.2
70歳以上	302	49.0	19.5	19.2	1.0	4.0	1.7	1.7	3.3	-	3.3	0.3	2.0	2.0	28.8	8.9
男性全体	1,025	53.9	22.6	21.0	4.2	4.6	5.9	2.4	2.5	4.4	7.8	3.2	3.2	2.3	21.2	2.7
18～29歳	97	50.5	11.3	25.8	4.1	1.0	-	-	-	1.0	8.2	2.1	1.0	1.0	32.0	-
30～39歳	120	64.2	16.7	25.0	5.0	2.5	2.5	3.3	-	7.5	7.5	0.8	1.7	1.7	18.3	2.5
40～49歳	206	59.7	18.0	17.0	2.9	3.9	6.8	1.5	1.9	12.1	9.2	2.4	3.9	0.5	20.4	1.0
50～59歳	142	55.6	24.6	18.3	3.5	4.2	11.3	2.1	1.4	5.6	5.6	3.5	2.8	2.1	19.0	2.8
60～69歳	207	48.8	32.4	24.6	8.2	6.3	9.2	3.4	3.4	1.0	9.2	7.7	5.8	3.4	18.8	3.4
70歳以上	245	48.2	23.7	18.4	2.0	6.1	2.4	2.4	4.9	-	6.5	1.6	2.4	4.1	22.9	4.9

(5) 協働の担い手

◇「自治会」が最も多く、5割半ば

問 49. 越谷市では「それぞれがお互いの役割を認識して取り組むこと」を協働とし、まちづくりを推進しています。その担い手として、あてはまるものはどれだと思いますか。
(複数回答可)

図表 14-5-1 協働の担い手



協働の担い手については、「自治会」(56.7%)が最も多く、次いで、「行政」(39.9%)、「市民活動団体(ボランティア団体・NPO等)」(38.1%)、「教育機関」(20.6%)、「企業」(18.9%)の順となっている。また、「その他」として「老人会」「PTA」等が挙げられた。

性別でみると、「市民活動団体（ボランティア団体・NPO等）」は女性（42.0%）が男性（35.4%）より6.6ポイント、「教育機関」は女性（24.1%）が男性（17.8%）より6.3ポイントそれぞれ高くなっている。

性・年齢別でみると、「自治会」は女性60～69歳（67.2%）で7割弱と最も多く、「市民活動団体（ボランティア団体・NPO等）」は女性18～29歳（59.3%）で約6割と最も多くなっている。

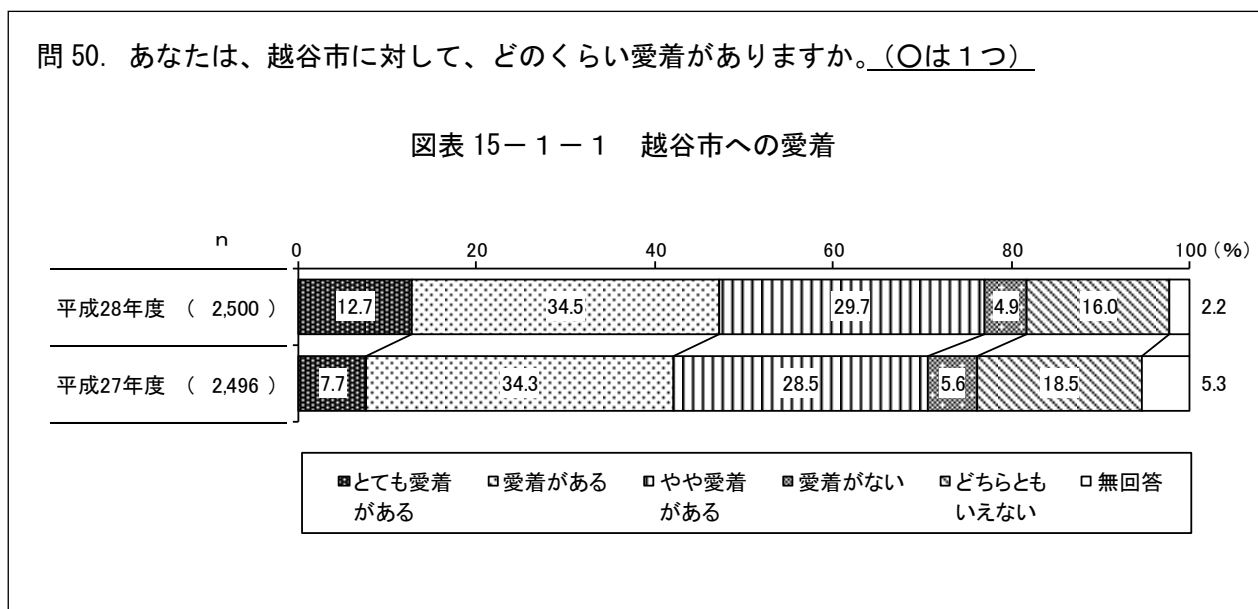
図表 14-5-2 性・年齢別 協働の担い手

	調査数（人）	市民活動団体・NPO等（ボランティア団体）	行政	企業	教育機関	自治会	子ども会	その他	無回答
全体	2,500	38.1	39.9	18.9	20.6	56.7	15.2	4.7	7.3
女性全体	1,309	42.0	39.6	19.6	24.1	56.3	16.3	4.0	7.3
18～29歳	118	59.3	39.0	25.4	36.4	47.5	25.4	3.4	5.1
30～39歳	204	45.6	42.6	27.9	37.3	50.0	27.0	3.4	3.4
40～49歳	224	41.5	51.3	27.7	34.4	45.5	15.6	3.1	4.0
50～59歳	190	47.9	52.1	25.8	24.2	59.5	13.7	1.6	4.2
60～69歳	268	39.6	35.4	10.4	17.9	67.2	12.7	2.2	6.7
70歳以上	302	32.1	25.2	9.6	8.3	60.9	10.9	8.6	15.2
男性全体	1,025	35.4	41.5	18.8	17.8	57.3	14.0	5.2	6.0
18～29歳	97	35.1	44.3	27.8	26.8	36.1	11.3	4.1	2.1
30～39歳	120	35.0	42.5	24.2	27.5	60.8	29.2	3.3	4.2
40～49歳	206	36.4	51.9	25.7	21.8	53.9	16.0	4.9	3.4
50～59歳	142	36.6	50.7	28.2	19.0	59.2	16.9	4.2	2.8
60～69歳	207	41.1	40.1	14.5	14.5	62.3	9.2	4.3	6.8
70歳以上	245	28.6	25.7	3.7	7.3	60.8	8.2	8.2	12.2

15. 越谷市への愛着度と魅力発信について

(1) 越谷市への愛着

◇『愛着がある』が7割半ば



越谷市への愛着については、「愛着がある」(34.5%)が最も多く、次いで、「やや愛着がある」(29.7%)、「どちらともいえない」(16.0%)、「とても愛着がある」(12.7%)、「愛着がない」(4.9%)の順となっている。

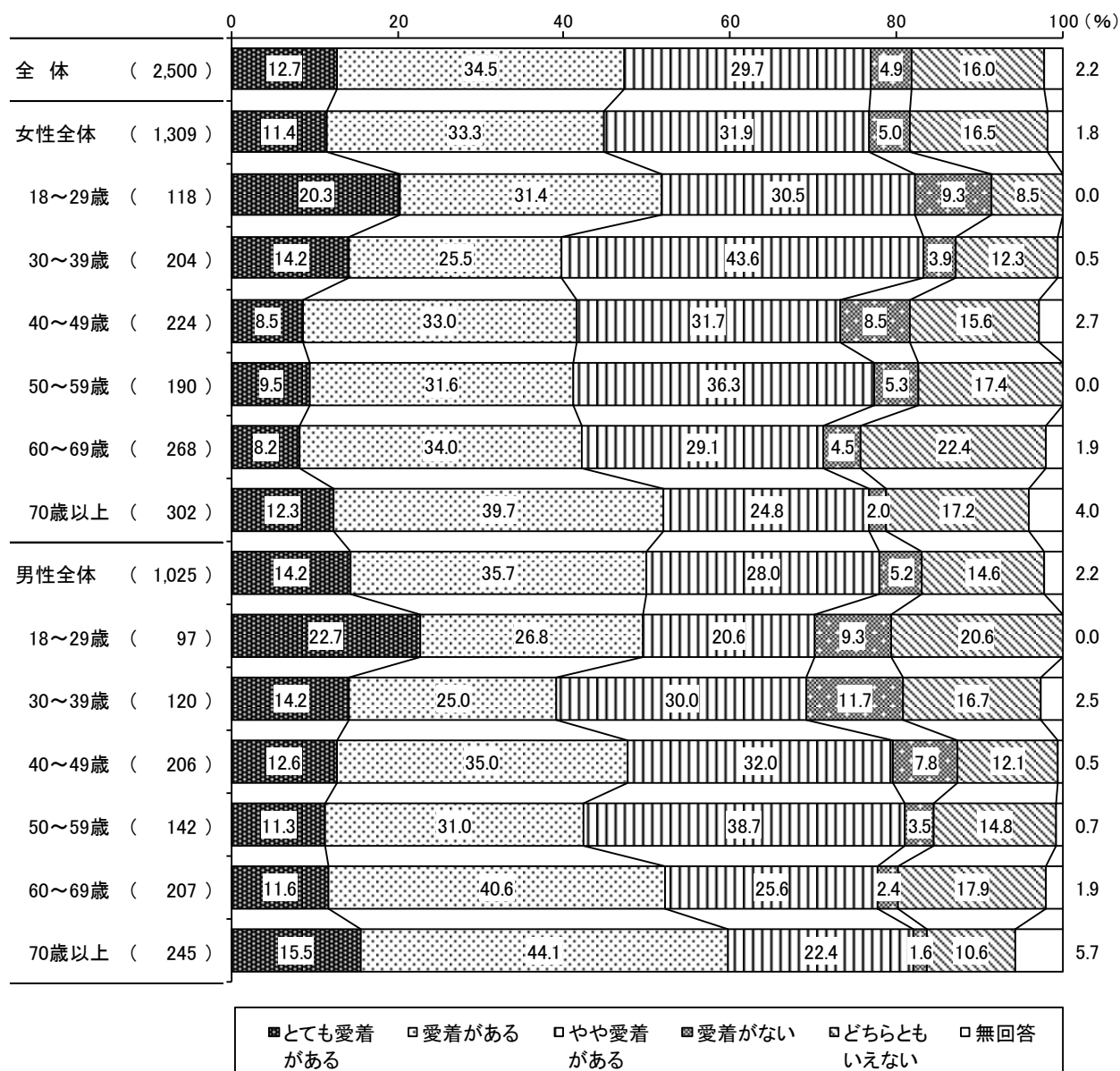
「とても愛着がある」と「愛着がある」と「やや愛着がある」を合わせた『愛着がある』(76.9%)は7割半ばとなっている。

前回の調査と比較すると、『愛着がある』(76.9%)は平成27年度調査(70.5%)と比べ6.4ポイント増加している。

性別でみると、「とても愛着がある」は男性（14.2%）が女性（11.4%）より2.8ポイント、「愛着がある」は男性（35.7%）が女性（33.3%）より2.4ポイントそれぞれ高く、「やや愛着がある」は女性（31.9%）が男性（28.0%）より3.9ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「とても愛着がある」は男性18～29歳（22.7%）、女性18～29歳（20.3%）で2割以上と多くなっている。また、『愛着がある』は女性30～39歳（83.3%）、女性18～29歳（82.2%）、男性70歳以上（82.0%）、男性50～59歳（81.0%）で8割以上と多くなっている。

図表 15-1-2 性・年齢別 越谷市への愛着



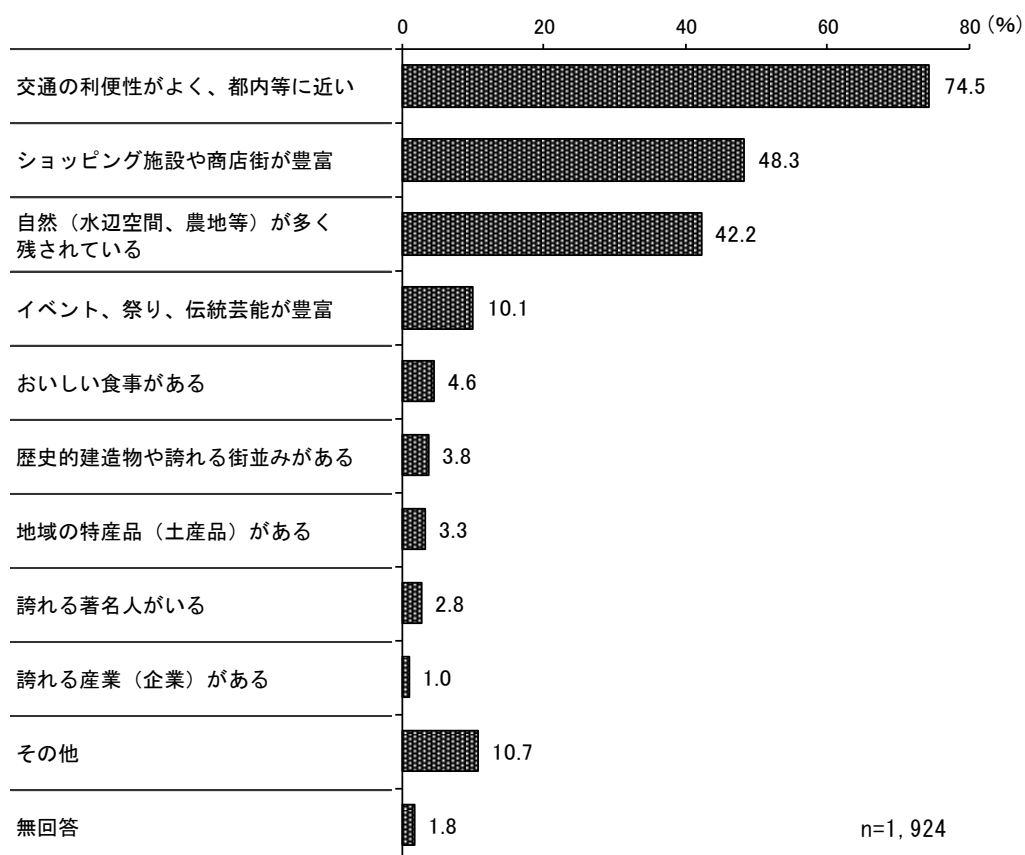
(2) 愛着がある理由

◇「交通の利便性がよく、都内等に近い」が最も多く、7割半ば

問 50-2. 問 50 で「1」から「3」(愛着がある)と答えた方に伺います。

その理由は何ですか。(複数回答可)

図表 15-2-1 愛着がある理由



越谷市に対して『愛着がある』と回答した1,924人に、愛着がある理由を聞いたところ、「交通の利便性がよく、都内等に近い」(74.5%)が最も多く、次いで、「ショッピング施設や商店街が豊富」(48.3%)、「自然(水辺空間、農地等)が多く残されている」(42.2%)、「イベント、祭り、伝統芸能が豊富」(10.1%)、「おいしい食事がある」(4.6%)の順となっている。また、「その他」として「生まれ育ったところだから」「友人や親戚がいる」「子どもが生まれ育ったところだから」等が挙げられた。

性別で見ると、「ショッピング施設や商店街が豊富」は女性（50.8%）が男性（46.8%）より4.0ポイント高くなっている。

性・年齢別で見ると、「交通の利便性がよく、都内等に近い」は女性60～69歳（85.9%）で8割半ばと最も多くなっている。また、「ショッピング施設や商店街が豊富」は女性18～29歳（63.9%）で6割強と多く、「自然（水辺空間、農地等）が多く残されている」は男性70歳以上（52.7%）、女性70歳以上（50.9%）で5割以上と多くなっている。

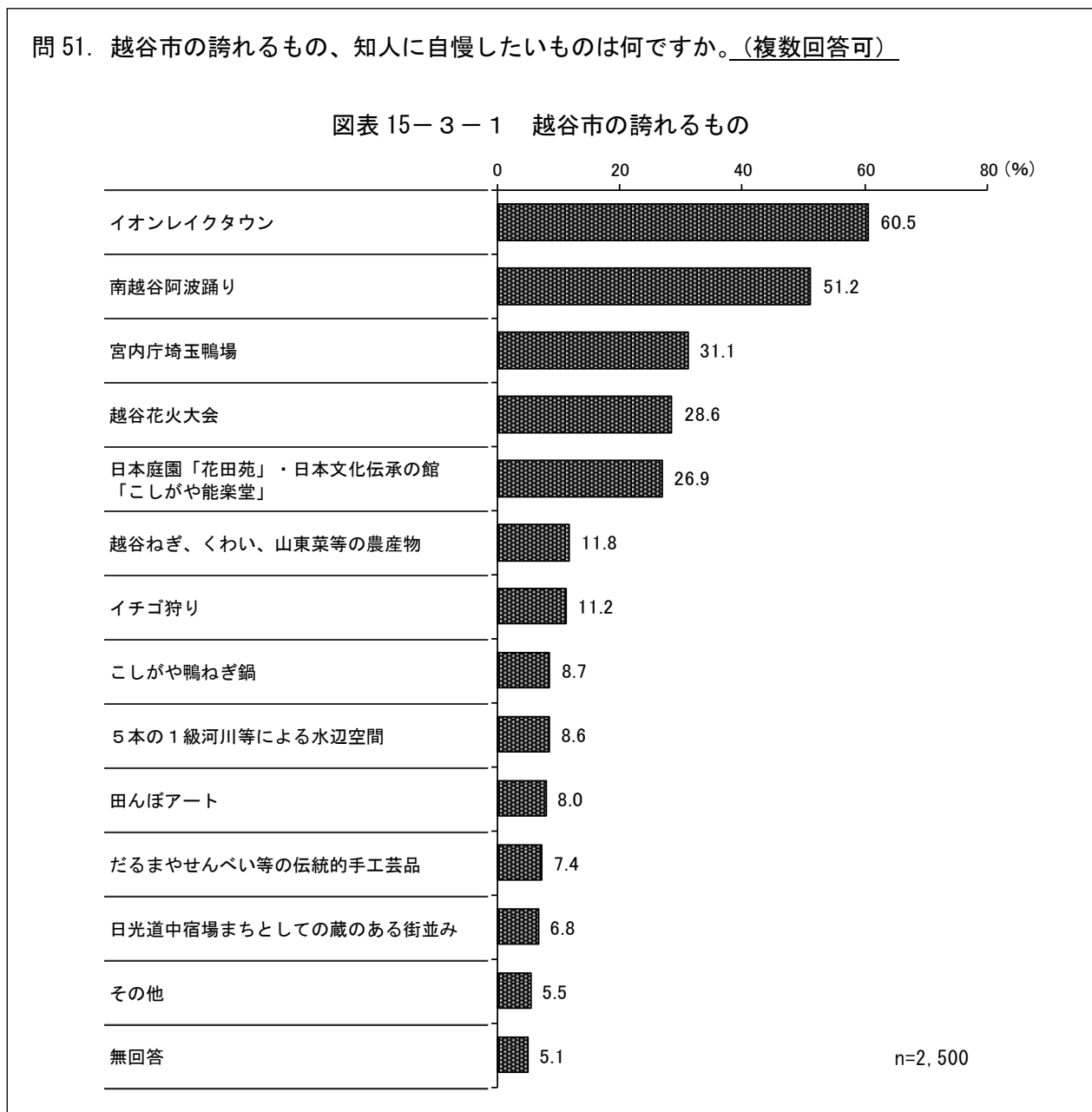
図表 15-2-2 性・年齢別 愛着がある理由

	調査数（人）	に交通の利便性がよく、都内等に	多く残されている（水辺空間、農地等）が	豊富（ショッピング施設や商店街が	豊富（イベント、祭り、伝統芸能が	歴史的建造物や誇れる街並み	おいしい食事がある	ある（地域の特産品（土産品）が	誇れる産業（企業）がある	誇れる著名人がいる	その他	無回答
全体	1,924	74.5	42.2	48.3	10.1	3.8	4.6	3.3	1.0	2.8	10.7	1.8
女性全体	1,003	74.1	41.8	50.8	10.4	4.9	4.6	3.8	0.7	3.6	11.2	1.4
18～29歳	97	73.2	28.9	63.9	12.4	6.2	5.2	5.2	-	10.3	12.4	-
30～39歳	170	62.9	32.9	58.2	13.5	1.2	2.4	1.2	1.2	1.8	16.5	0.6
40～49歳	164	70.1	32.9	51.8	9.8	6.1	4.9	3.7	-	3.0	15.2	-
50～59歳	147	71.4	49.0	52.4	7.5	6.8	4.8	2.7	-	4.8	16.3	1.4
60～69歳	191	85.9	47.6	44.5	6.3	2.6	4.2	2.6	0.5	3.1	7.3	2.1
70歳以上	232	78.0	50.9	43.5	12.5	6.9	6.0	6.9	1.7	2.2	3.9	2.6
男性全体	799	75.2	42.4	46.8	10.6	3.1	4.6	2.8	1.3	1.9	9.9	2.3
18～29歳	68	75.0	20.6	55.9	8.8	2.9	7.4	2.9	2.9	7.4	22.1	1.5
30～39歳	83	74.7	42.2	56.6	15.7	3.6	4.8	1.2	2.4	1.2	13.3	-
40～49歳	164	74.4	39.0	46.3	13.4	3.0	4.3	2.4	1.2	1.8	9.8	1.8
50～59歳	115	67.8	40.9	46.1	9.6	1.7	4.3	0.9	-	0.9	12.2	1.7
60～69歳	161	77.0	44.1	43.5	9.9	3.1	4.3	2.5	1.2	0.6	7.5	5.0
70歳以上	201	78.6	52.7	42.8	7.5	4.0	4.5	5.0	1.0	1.5	5.0	2.0

(3) 越谷市の誇れるもの

◇「イオンレイクタウン」が最も多く、約6割

問 51. 越谷市の誇れるもの、知人に自慢したいものは何ですか。(複数回答可)



越谷市の誇れるものについては、「イオンレイクタウン」(60.5%)が最も多く、次いで、「南越谷阿波踊り」(51.2%)、「宮内庁埼玉鴨場」(31.1%)、「越谷花火大会」(28.6%)、「日本庭園『花田苑』・日本文化伝承の館『こしがや能楽堂』」(26.9%)の順となっている。また、「その他」として「著名人がいる」「桜並木」「大学病院がある」等が挙げられた。

性別で見ると、「日本庭園『花田苑』・日本文化伝承の館『こしがや能楽堂』」は女性（29.8%）が男性（22.1%）より7.7ポイント、「イチゴ狩り」は女性（13.5%）が男性（9.0%）より4.5ポイント、「田んぼアート」は女性（9.5%）が男性（6.0%）より3.5ポイントそれぞれ高くなっている。

性・年齢別で見ると、「イオンレイクタウン」は女性18～29歳（83.9%）、男性18～29歳（81.4%）で8割以上と多くなっている。また、「宮内庁埼玉鴨場」は女性70歳以上（41.7%）、女性60～69歳（40.3%）で約4割と多く、「越谷花火大会」は女性18～29歳（40.7%）で約4割と多くなっている。

図表 15-3-2 性・年齢別 越谷市の誇れるもの

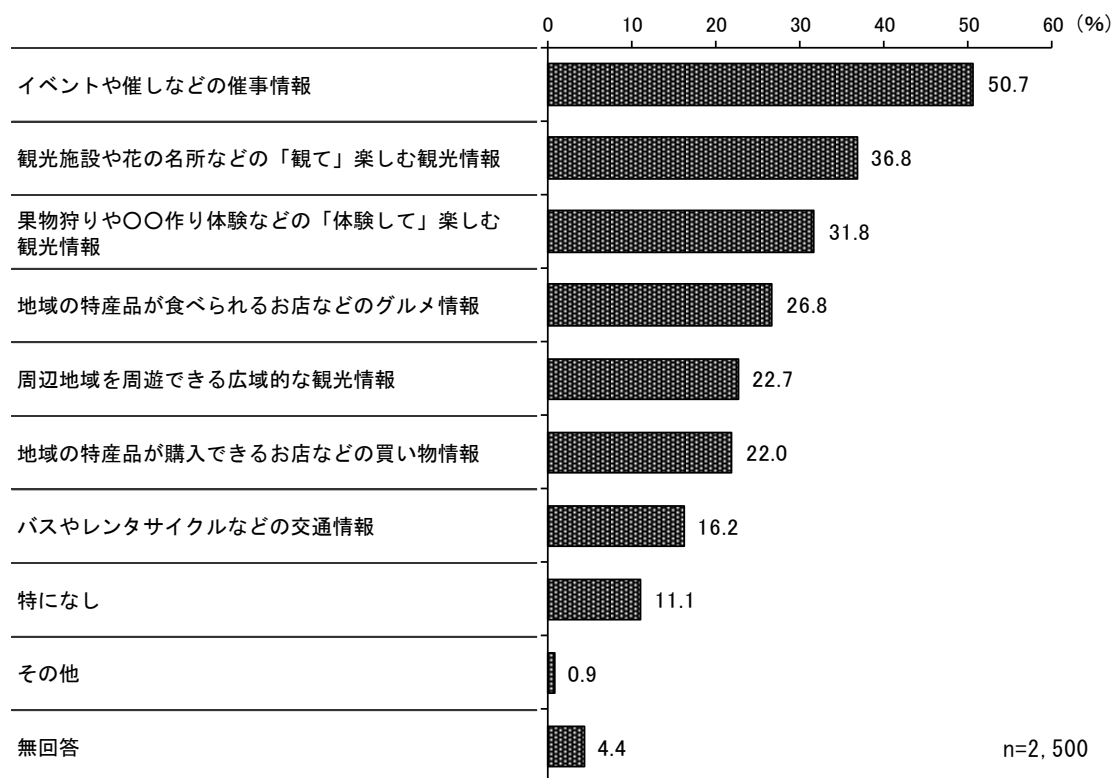
	調査数（人）	イオンレイクタウン	田んぼアート	越谷花火大会	南越谷阿波踊り	5本の1級河川等による水辺空間	イチゴ狩り	農産物	越谷ねぎ、くわい、山東菜等の	伝承の館「花田苑」・日本文化	日本庭園「こしがや能楽堂」	ある街並み	日光道中宿場まちとしての蔵の	だるまやせんべい等の伝統的	手工芸品	こしがや鴨ねぎ鍋	宮内庁埼玉鴨場	その他	無回答
全体	2,500	60.5	8.0	28.6	51.2	8.6	11.2	11.8	26.9	6.8	7.4	8.7	31.1	5.5	5.1				
女性全体	1,309	60.6	9.5	30.0	52.6	7.6	13.5	11.8	29.8	7.1	8.4	9.2	32.1	4.7	5.7				
18～29歳	118	83.9	7.6	40.7	48.3	1.7	22.0	8.5	15.3	4.2	6.8	11.9	11.0	6.8	1.7				
30～39歳	204	78.4	10.8	27.5	54.9	4.4	26.5	5.9	20.1	5.4	8.3	11.8	20.6	5.9	3.9				
40～49歳	224	67.0	10.3	23.7	52.7	2.7	10.3	7.1	22.8	3.1	5.4	7.6	25.9	7.1	4.5				
50～59歳	190	62.6	6.8	26.3	51.1	8.4	13.2	10.5	28.9	7.4	8.9	7.4	38.4	5.8	5.8				
60～69歳	268	50.0	9.0	29.1	50.4	12.3	8.2	14.6	38.8	7.8	7.5	10.4	40.3	1.5	7.1				
70歳以上	302	42.7	10.9	35.4	55.6	10.9	8.9	18.9	39.7	11.6	11.9	7.9	41.7	3.3	8.3				
男性全体	1,025	61.8	6.0	27.4	50.9	9.4	9.0	11.8	22.1	6.8	6.2	8.2	29.3	6.4	4.1				
18～29歳	97	81.4	4.1	30.9	37.1	5.2	5.2	6.2	9.3	5.2	4.1	6.2	12.4	7.2	1.0				
30～39歳	120	71.7	5.8	27.5	50.8	3.3	15.0	7.5	11.7	5.0	3.3	7.5	19.2	6.7	5.0				
40～49歳	206	71.8	3.4	25.7	52.9	4.9	14.1	9.7	14.1	6.3	7.3	11.7	29.1	6.3	2.4				
50～59歳	142	63.4	4.9	24.6	52.1	3.5	7.0	10.6	14.8	5.6	2.8	6.3	34.5	7.7	1.4				
60～69歳	207	56.0	5.8	31.9	51.7	15.9	4.8	12.6	31.4	6.8	6.3	8.7	32.9	7.2	5.8				
70歳以上	245	44.5	9.4	25.3	53.1	15.9	6.5	17.6	35.9	9.8	9.4	6.9	34.7	4.5	6.5				

(4) 観光やレジャーで知りたい情報

◇「イベントや催しなどの催事情報」が最も多く、約5割

問 52. あなたは、観光やレジャーにおいて、どのような情報を知りたいですか。(複数回答可)

図表 15-4-1 観光やレジャーで知りたい情報



観光やレジャーで知りたい情報については、「イベントや催しなどの催事情報」(50.7%)が最も多く、次いで、「観光施設や花の名所などの『観て』楽しむ観光情報」(36.8%)、「果物狩りや〇〇作り体験などの『体験して』楽しむ観光情報」(31.8%)、「地域の特産品が食べられるお店などのグルメ情報」(26.8%)、「周辺地域を周遊できる広域的な観光情報」(22.7%)の順となっている。また、「その他」として「越谷の歴史」「交通機関の運行情報」等が挙げられた。

性別でみると、「果物狩りや〇〇作り体験などの『体験して』楽しむ観光情報」は女性（36.7%）が男性（27.9%）より8.8ポイント、「観光施設や花の名所などの『観て』楽しむ観光情報」は女性（39.5%）が男性（33.7%）より5.8ポイント、「地域の特産品が購入できるお店などの買い物情報」は女性（24.3%）が男性（19.5%）より4.8ポイントそれぞれ高くなっている。

性・年齢別でみると、「イベントや催しなどの催事情報」は女性30～39歳（76.0%）で7割半ばと多くなっている。また、「果物狩りや〇〇作り体験などの『体験して』楽しむ観光情報」は女性30～39歳（63.2%）、女性18～29歳（58.5%）で6割弱以上と多く、「観光施設や花の名所などの『観て』楽しむ観光情報」は女性60～69歳（48.5%）で5割弱と多くなっている。

図表 15-4-2 性・年齢別 観光やレジャーで知りたい情報

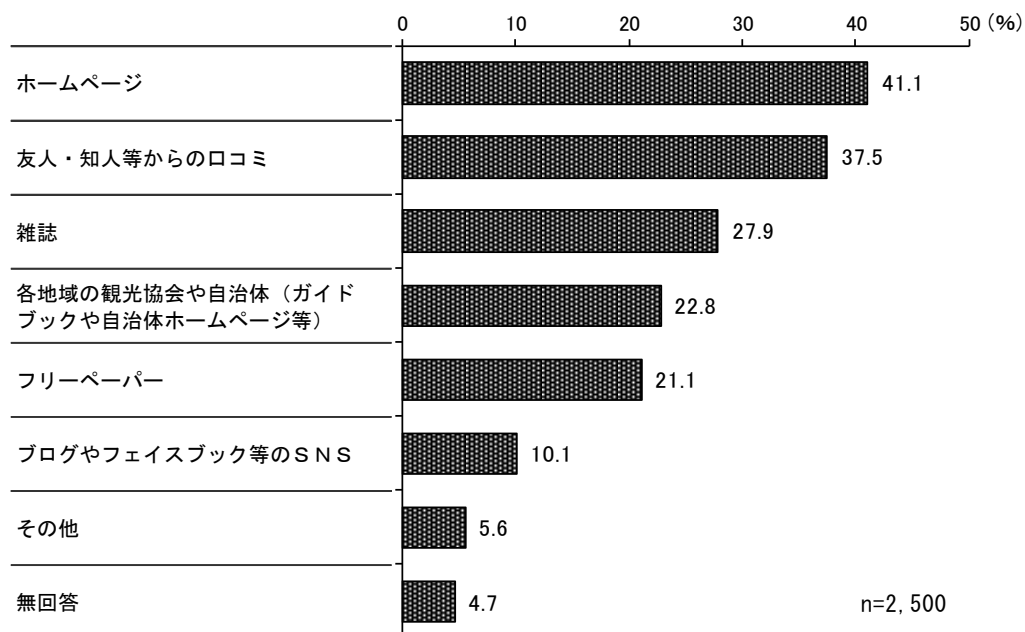
	調査数（人）	イベントや催しなどの催事情報	「観て」楽しむ観光施設や花の名所などの観光情報	「体験して」楽しむ果物狩りや〇〇作り体験などの観光情報	地域の特産品が食べられるお店などのグルメ情報	地域の特産品が購入できるお店などの買い物情報	バスやレンタサイクルなどの交通情報	周辺地域を周遊できる広域的な観光情報	特になし	その他	無回答
全体	2,500	50.7	36.8	31.8	26.8	22.0	16.2	22.7	11.1	0.9	4.4
女性全体	1,309	51.2	39.5	36.7	28.2	24.3	17.0	23.1	9.1	0.6	4.7
18～29歳	118	59.3	31.4	58.5	35.6	10.2	15.3	22.0	7.6	1.7	3.4
30～39歳	204	76.0	34.3	63.2	34.3	24.0	23.5	19.1	2.9	-	2.0
40～49歳	224	61.6	34.8	49.6	29.5	23.2	20.5	21.9	4.9	0.9	3.6
50～59歳	190	52.1	40.5	35.8	33.2	31.6	20.0	31.6	6.3	-	1.6
60～69歳	268	40.3	48.5	19.0	25.0	26.9	11.2	24.6	10.1	-	6.7
70歳以上	302	32.5	41.1	17.2	19.5	23.8	14.2	20.2	17.9	1.3	7.9
男性全体	1,025	51.5	33.7	27.9	26.3	19.5	16.5	23.0	12.5	1.4	3.4
18～29歳	97	56.7	22.7	34.0	27.8	19.6	27.8	16.5	8.2	-	3.1
30～39歳	120	55.0	34.2	38.3	35.0	19.2	22.5	25.0	10.8	1.7	3.3
40～49歳	206	55.8	27.7	37.9	29.6	14.6	17.0	17.5	14.1	1.0	1.0
50～59歳	142	54.2	29.6	23.2	26.1	21.1	21.8	23.2	14.8	1.4	2.1
60～69歳	207	52.2	38.2	21.7	24.2	19.8	15.0	27.1	13.0	1.9	3.4
70歳以上	245	42.0	40.8	18.8	20.0	22.0	5.7	25.3	11.8	1.6	6.5

(5) 観光情報を得る方法

◇「ホームページ」が最も多く、約4割

問 53. あなたは、普段からどのような方法で観光情報を得ていますか。(複数回答可)

図表 15-5-1 観光情報を得る方法



普段から観光情報を得る方法については、「ホームページ」(41.1%)が最も多く、次いで、「友人・知人等からの口コミ」(37.5%)、「雑誌」(27.9%)、「各地域の観光協会や自治体(ガイドブックや自治体ホームページ等)」(22.8%)、「フリーペーパー」(21.1%)の順となっている。また、「その他」として「テレビ」「新聞」「駅の広告」「広報誌」等が挙げられた。

性別でみると、「友人・知人等からの口コミ」は女性（42.4%）が男性（31.0%）より11.4ポイント、「フリーペーパー」は女性（24.4%）が男性（18.2%）より6.2ポイントそれぞれ高く、一方、「ホームページ」は男性（45.2%）が女性（39.6%）より5.6ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「ホームページ」は女性30～39歳（64.7%）、女性18～29歳（64.4%）、女性40～49歳（64.3%）で6割半ばと多く、男性30～39歳（63.3%）、男性40～49歳（63.1%）でも6割強と多くなっている。また、「友人・知人等からの口コミ」は女性70歳以上（53.0%）で5割強と多くなっている。

図表 15-5-2 性・年齢別 観光情報を得る方法

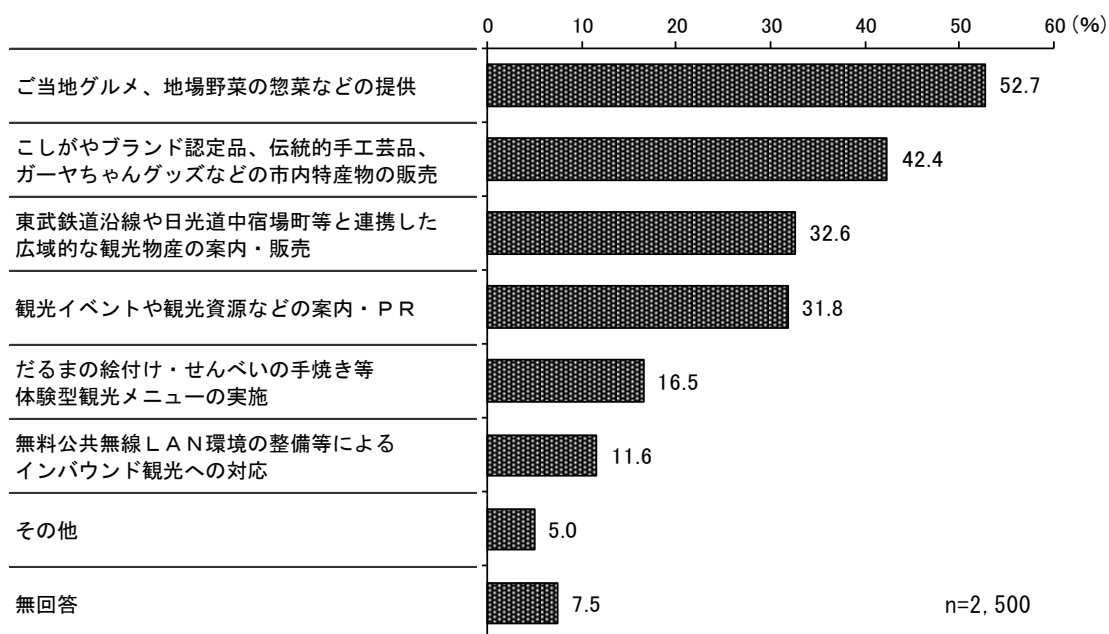
	調査数（人）	ホームページ	雑誌	フリーペーパー	友人・知人等からの口コミ	S N S ブログやフェイスブック等の	ム（各 ペー ジ等） 地域の観光協会や自治体ホームページ等）	その他	無回答
全 体	2,500	41.1	27.9	21.1	37.5	10.1	22.8	5.6	4.7
女性全体	1,309	39.6	27.1	24.4	42.4	11.5	21.7	5.1	4.1
18～29歳	118	64.4	23.7	32.2	36.4	40.7	10.2	5.1	0.8
30～39歳	204	64.7	24.0	37.3	39.7	19.6	16.2	3.9	1.0
40～49歳	224	64.3	20.5	33.5	34.4	14.7	15.2	4.0	2.7
50～59歳	190	48.9	35.8	25.8	35.8	11.1	19.5	2.6	1.1
60～69歳	268	16.4	34.0	21.3	46.6	1.5	27.6	4.5	4.9
70歳以上	302	9.3	23.5	7.9	53.0	1.3	31.1	8.9	9.9
男性全体	1,025	45.2	29.1	18.2	31.0	9.2	24.3	6.0	4.5
18～29歳	97	58.8	26.8	13.4	36.1	25.8	8.2	4.1	1.0
30～39歳	120	63.3	27.5	23.3	26.7	19.2	13.3	8.3	5.8
40～49歳	206	63.1	34.0	27.7	28.2	10.2	16.5	3.4	1.5
50～59歳	142	57.7	32.4	18.3	21.8	7.0	14.8	6.3	1.4
60～69歳	207	30.0	31.9	17.4	28.0	3.9	35.3	8.2	4.8
70歳以上	245	20.4	22.9	10.2	41.2	1.6	38.8	5.7	9.4

(6) 越谷駅東口高架下の拠点施設への期待

◇「ご当地グルメ、地場野菜の惣菜などの提供」が最も多く、5割強

問 54. 平成28年度に、観光物産を中心とした市の魅力発信の拠点施設を越谷駅東口高架下に整備します。あなたは、この施設にどのようなことを期待しますか。(複数回答可)

図表 15-6-1 越谷駅東口高架下の拠点施設への期待



越谷駅東口高架下の拠点施設への期待については、「ご当地グルメ、地場野菜の惣菜などの提供」(52.7%)が最も多く、次いで、「こしがやブランド認定品、伝統的手工芸品、ガーヤちゃんグッズなどの市内特産物の販売」(42.4%)、「東武鉄道沿線や日光道中宿場町等と連携した広域的な観光物産の案内・販売」(32.6%)、「観光イベントや観光資源などの案内・PR」(31.8%)、「だるまの絵付け・せんべいの手焼き等体験型観光メニューの実施」(16.5%)の順となっている。また、「その他」として「市役所出張所」「レンタサイクル等移動手段の整備」等が挙げられた。

性別でみると、「ご当地グルメ、地場野菜の惣菜などの提供」は女性（57.3%）が男性（48.4%）より8.9ポイント、「だるまの絵付け・せんべいの手焼き等体験型観光メニューの実施」は女性（20.6%）が男性（12.4%）より8.2ポイントそれぞれ高くなっている。一方、「東武鉄道沿線や日光道中宿場町等と連携した広域的な観光物産の案内・販売」は男性（36.1%）が女性（30.0%）より6.1ポイント、「観光イベントや観光資源などの案内・PR」は男性（34.8%）が女性（29.8%）より5.0ポイントそれぞれ高くなっている。

性・年齢別でみると、「ご当地グルメ、地場野菜の惣菜などの提供」は女性50～59歳（62.6%）、女性40～49歳（61.2%）、女性30～39歳（60.8%）で6割以上と多くなっている。また、「こしがやブランド認定品、伝統的手工芸品、ガーヤちゃんグッズなどの市内特産物の販売」は女性50～59歳（53.7%）で5割強と多くなっている。

図表 15-6-2 性・年齢別 越谷駅東口高架下の拠点施設への期待

(%)

	調査数（人）	どの市内特産物の販売	どごの当地グルメ、地場野菜の惣菜など	内観・観光イベントや観光資源などの案内	内と東武鉄道沿線や日光道中宿場町等	きだるまの絵付け・めんべいの実施	に無よる公共無線LAN環境への整備対応	その他	無回答
全体	2,500	42.4	52.7	31.8	32.6	16.5	11.6	5.0	7.5
女性全体	1,309	43.3	57.3	29.8	30.0	20.6	10.2	4.3	7.4
18～29歳	118	39.8	59.3	28.8	19.5	31.4	22.9	2.5	2.5
30～39歳	204	47.5	60.8	32.4	20.6	34.3	14.2	5.4	4.9
40～49歳	224	44.6	61.2	29.0	23.7	24.6	15.6	2.7	4.9
50～59歳	190	53.7	62.6	30.5	35.3	22.1	8.9	4.2	4.2
60～69歳	268	42.2	55.6	31.7	40.3	11.6	5.2	3.4	8.2
70歳以上	302	35.4	49.3	26.5	32.8	10.9	3.6	6.3	14.2
男性全体	1,025	42.7	48.4	34.8	36.1	12.4	13.9	6.0	6.0
18～29歳	97	34.0	46.4	29.9	32.0	13.4	34.0	7.2	1.0
30～39歳	120	48.3	51.7	30.8	22.5	16.7	15.0	3.3	5.8
40～49歳	206	42.7	51.0	33.0	30.1	13.6	16.5	8.7	3.4
50～59歳	142	44.4	51.4	37.3	40.1	7.0	11.3	5.6	2.1
60～69歳	207	44.4	49.8	40.6	42.0	14.5	12.6	6.3	6.8
70歳以上	245	40.0	41.6	33.5	41.2	8.6	4.9	4.9	11.8

S

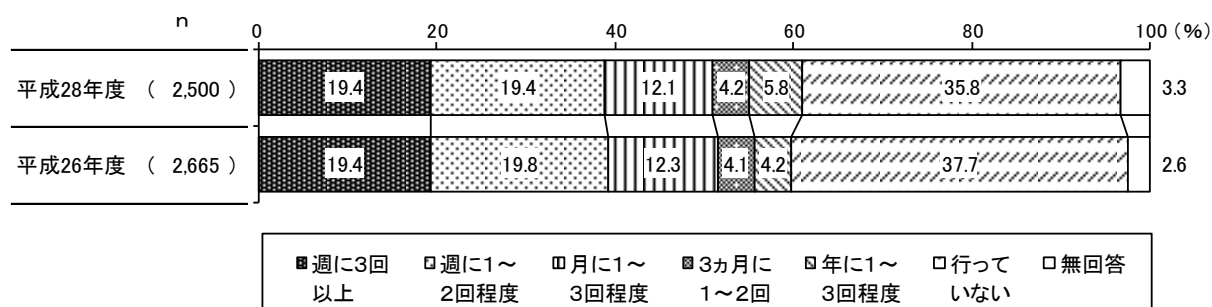
16. スポーツ・レクリエーションの実施状況について

(1) スポーツ・レクリエーション活動の実施状況

◇『週に1回以上』は4割弱

問 55. この1年間でどのくらいスポーツ・レクリエーション活動を行いましたか（ウォーキング・徒歩や軽い体操も含みます）。（○は1つ）

図表 16-1-1 スポーツ・レクリエーション活動の実施状況



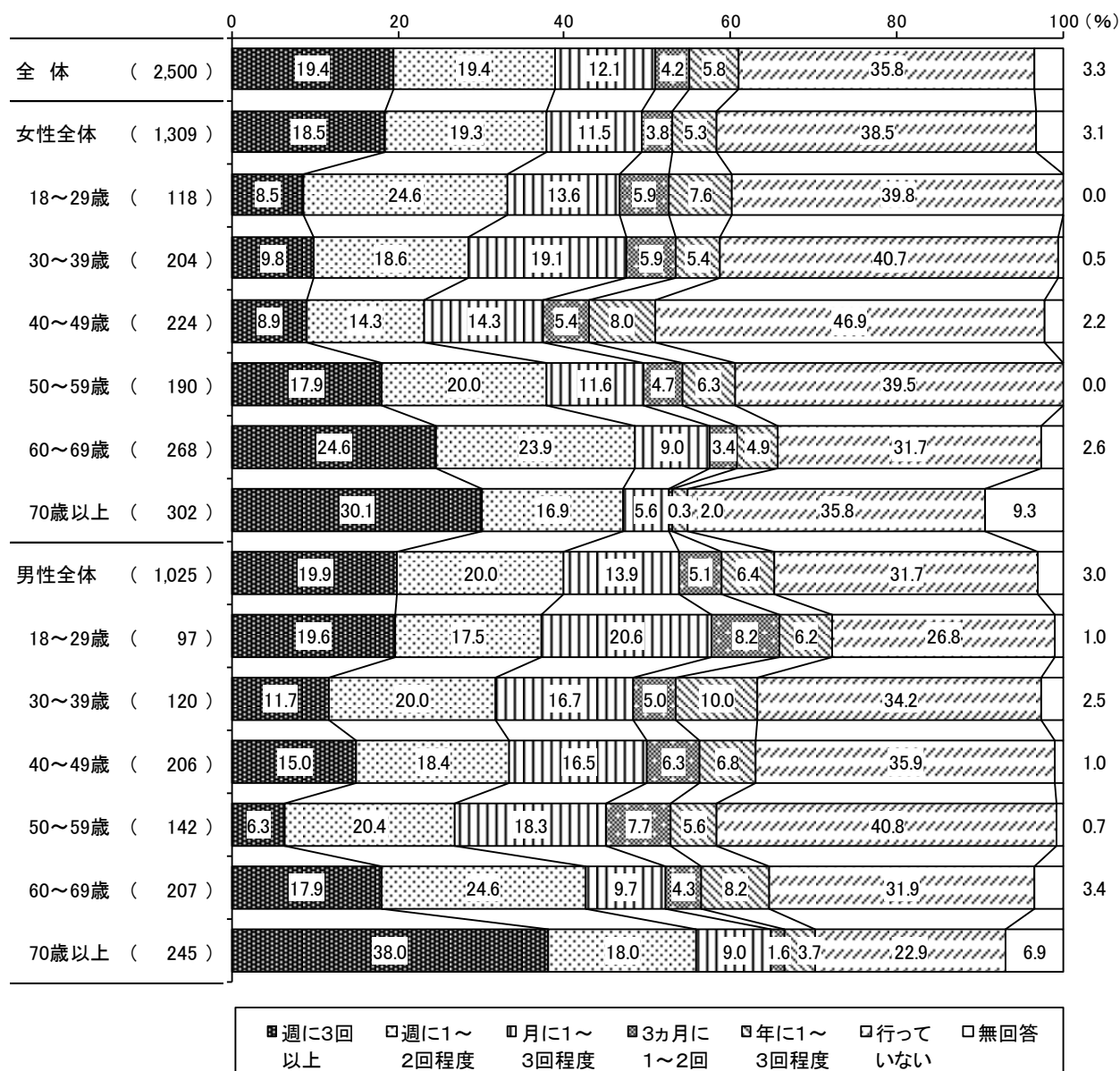
この1年間のスポーツ・レクリエーション活動の実施状況については、「週に3回以上」（19.4%）と「週に1～2回程度」（19.4%）を合わせた『週に1回以上』（38.8%）は4割弱となっている。一方、「行っていない」（35.8%）は3割半ばとなっている。

前回の調査と比較すると、大きな差異はみられない。

性別でみると、『週に1回以上』は男性（39.9%）が女性（37.8%）より2.1ポイント高く、「行っていない」は女性（38.5%）が男性（31.7%）より6.8ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、『週に1回以上』は男性70歳以上（56.0%）、女性60～69歳（48.5%）、女性70歳以上（47.0%）で5割弱以上と多くなっている。一方、「行っていない」は女性40～49歳（46.9%）で4割半ばと多くなっている。

図表 16-1-2 性・年齢別 スポーツ・レクリエーション活動の実施状況

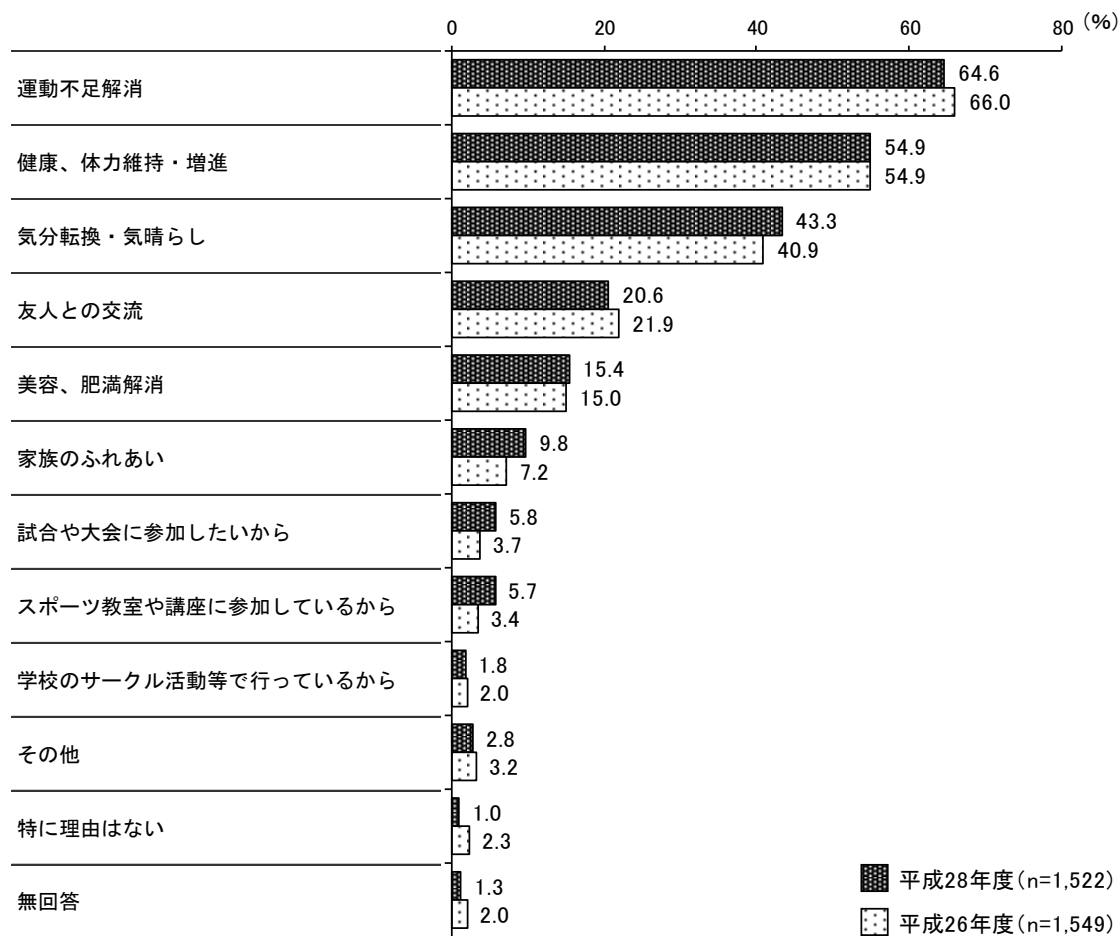


(2) スポーツ・レクリエーション活動を行った主な理由

◇「運動不足解消」が最も多く、6割半ば

問 55-2. 問 55 で「1」から「5」のいずれかと答えた方に伺います。あなたがスポーツ・レクリエーション活動を行った主な理由は何ですか。(〇は3つまで)

図表 16-2-1 スポーツ・レクリエーション活動を行った主な理由



この1年間でスポーツ・レクリエーション活動を行ったと回答した1,522人に、スポーツ・レクリエーション活動を行った主な理由を聞いたところ、「運動不足解消」(64.6%)が最も多く、次いで、「健康、体力維持・増進」(54.9%)、「気分転換・気晴らし」(43.3%)、「友人との交流」(20.6%)、「美容、肥満解消」(15.4%)の順となっている。また、「その他」として「ペットとの散歩」「自治会の活動で」等が挙げられた。

前回の調査と比較すると、「家族のふれあい」(9.8%)で平成26年度調査(7.2%)と比べ2.6ポイント、「気分転換・気晴らし」(43.3%)で平成26年度調査(40.9%)と比べ2.4ポイントそれぞれ増加している。

性別でみると、「美容、肥満解消」は女性（19.2%）が男性（12.0%）より7.2ポイント、「家族のふれあい」は女性（13.0%）が男性（6.9%）より6.1ポイントそれぞれ高く、「健康、体力維持・増進」は男性（57.1%）が女性（52.4%）より4.7ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「健康、体力維持・増進」は女性70歳以上（75.3%）、男性70歳以上（73.3%）で7割強以上と多く、「運動不足解消」も女性70歳以上（72.3%）で7割強と多くなっている。また、「気分転換・気晴らし」は男性50～59歳（59.0%）で約6割と最も多く、女性30～39歳（55.8%）、男性30～39歳（55.3%）、女性18～29歳（54.9%）でも5割半ばと多くなっている。

図表 16-2-2 性・年齢別 スポーツ・レクリエーション活動を行った主な理由

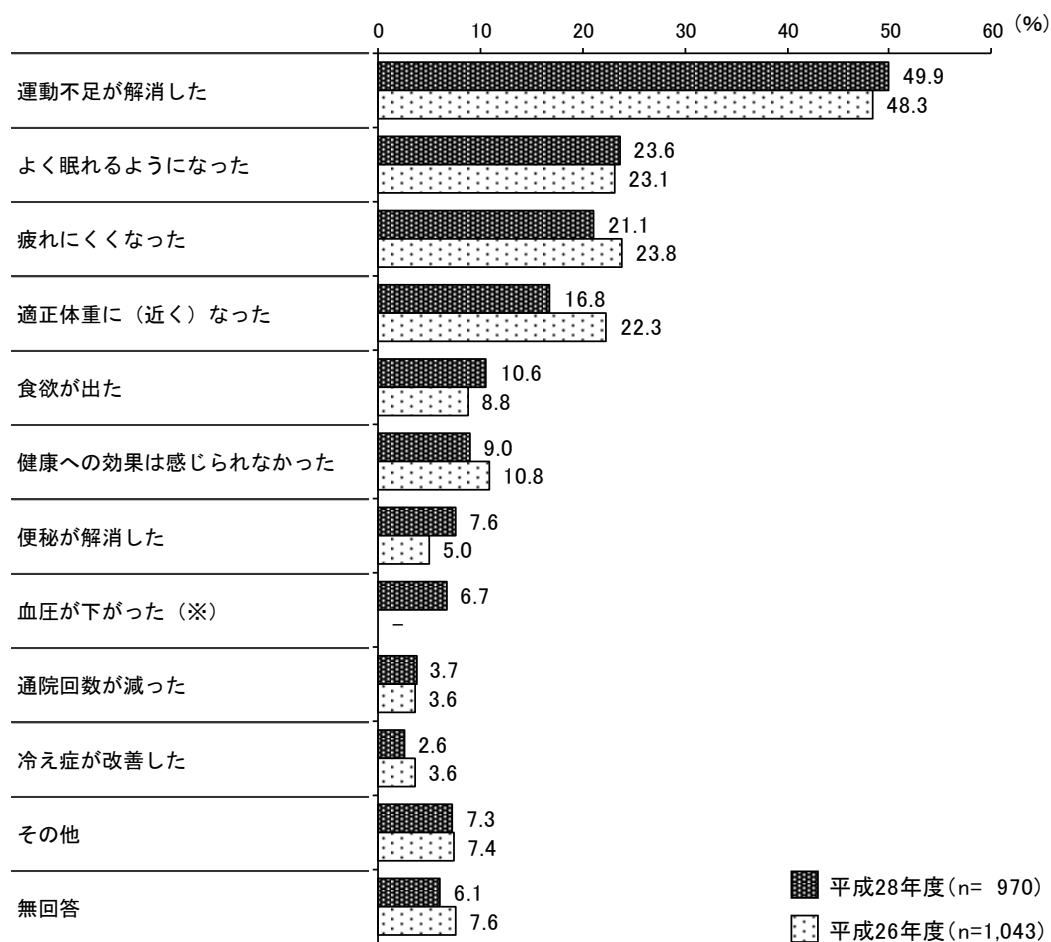
	調査数（人）	気分転換・気晴らし	運動不足解消	美容、肥満解消	家族のふれあい	友人との交流	健康、体力維持・増進	試合や大会に参加したいから	学校のサークル活動等で行っているから	スポーツ教室や講座に参加しているから	その他	特に理由はない	無回答
全体	1,522	43.3	64.6	15.4	9.8	20.6	54.9	5.8	1.8	5.7	2.8	1.0	1.3
女性全体	764	41.9	63.7	19.2	13.0	21.7	52.4	4.2	1.8	7.1	3.5	0.9	1.4
18～29歳	71	54.9	56.3	35.2	14.1	25.4	23.9	4.2	15.5	4.2	5.6	-	2.8
30～39歳	120	55.8	58.3	25.8	32.5	15.0	24.2	4.2	-	4.2	4.2	1.7	-
40～49歳	114	40.4	59.6	21.9	25.4	16.7	42.1	5.3	1.8	7.0	4.4	2.6	1.8
50～59歳	115	40.9	61.7	24.3	11.3	18.3	53.0	8.7	0.9	9.6	5.2	-	-
60～69歳	176	35.2	66.5	13.1	2.3	21.0	67.6	2.8	-	10.2	0.6	1.1	3.4
70歳以上	166	34.9	72.3	8.4	1.8	31.3	75.3	1.8	-	5.4	3.6	-	0.6
男性全体	669	44.7	65.6	12.0	6.9	18.8	57.1	7.6	1.9	4.3	2.2	0.9	1.3
18～29歳	70	47.1	51.4	14.3	1.4	28.6	42.9	12.9	12.9	4.3	7.1	2.9	-
30～39歳	76	55.3	68.4	19.7	13.2	15.8	30.3	9.2	-	3.9	2.6	5.3	3.9
40～49歳	130	44.6	59.2	18.5	16.2	16.2	52.3	6.9	2.3	3.1	1.5	-	0.8
50～59歳	83	59.0	69.9	13.3	6.0	14.5	57.8	1.2	-	6.0	1.2	-	1.2
60～69歳	134	43.3	69.4	8.2	5.2	20.9	64.2	9.7	-	3.7	-	-	0.7
70歳以上	172	32.6	69.8	5.2	1.2	18.0	73.3	6.4	0.6	5.2	2.9	-	1.7

(3) スポーツ・レクリエーション活動の効果

◇「運動不足が解消した」が最も多く、約5割

問 55-3. 問 55 で「1」または「2」と答えた方に伺います。スポーツ・レクリエーション活動をしたことで、どのような効果がありましたか。(複数回答可)

図表 16-3-1 スポーツ・レクリエーション活動の効果



※「血圧が下がった」は平成28年度調査のみ

週に1回以上、スポーツ・レクリエーション活動を行ったと回答した970人に、スポーツ・レクリエーション活動の効果を聞いたところ、「運動不足が解消した」(49.9%)が最も多く、次いで、「よく眠れるようになった」(23.6%)、「疲れにくくなった」(21.1%)、「適正体重に(近く)なった」(16.8%)、「食欲が出た」(10.6%)の順となっている。また、「その他」として「気分転換」「ストレス解消」等が挙げられた。

前回の調査と比較すると、「適正体重に(近く)なった」(16.8%)で平成26年度調査(22.3%)と比べ5.5ポイント減少している。

性別でみると、「適正体重に（近く）なった」は男性（21.8%）が女性（13.0%）より8.8ポイント、「血圧が下がった」は男性（9.5%）が女性（3.8%）より5.7ポイント、「食欲が出た」は男性（13.2%）が女性（8.1%）より5.1ポイント、「運動不足が解消した」は男性（53.1%）が女性（48.2%）より4.9ポイントそれぞれ高くなっている。

性・年齢別でみると、「運動不足が解消した」は男性18～29歳（63.9%）で6割強と最も多く、「適正体重に（近く）なった」は男性60～69歳（27.3%）で3割弱と多くなっている。一方、「健康への効果は感じられなかった」は女性30～39歳（20.7%）で約2割と多くなっている。

図表 16-3-2 性・年齢別 スポーツ・レクリエーション活動の効果

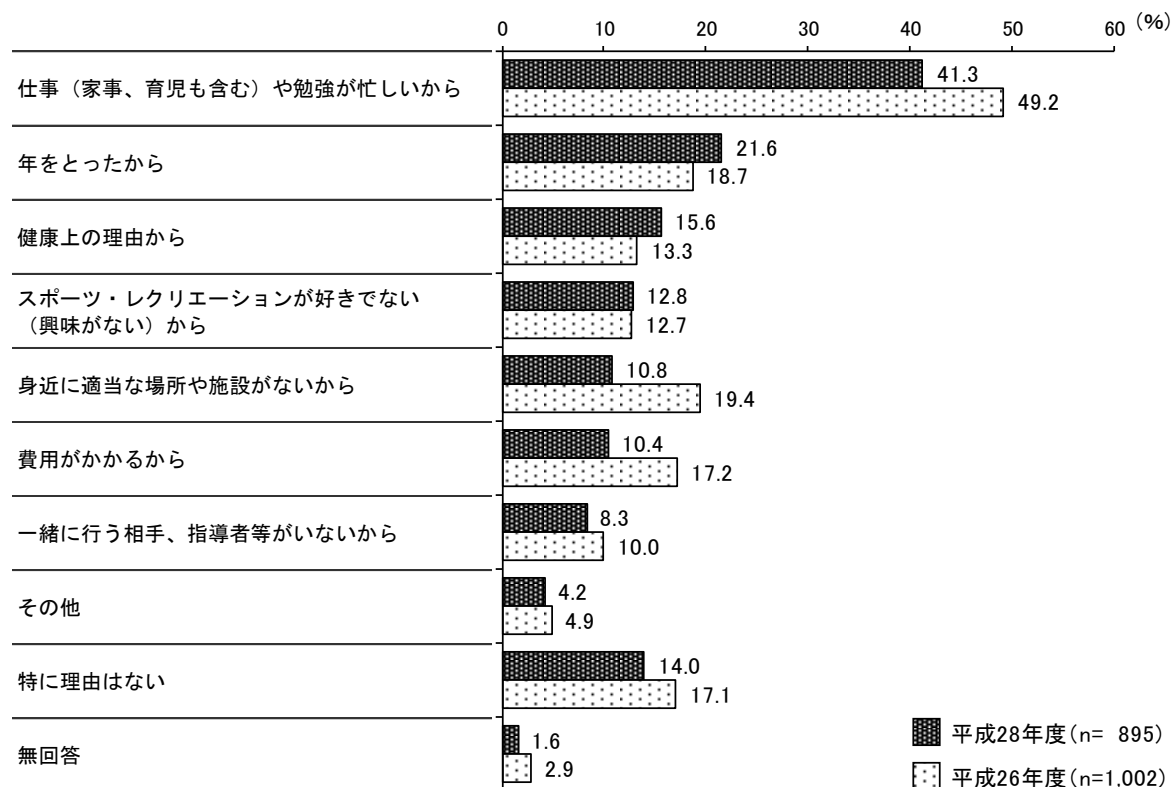
	調査数（人）	疲れにくくなった	冷え症が改善した	よく眠れるようになった	運動不足が解消した	通院回数が減った	適正体重に（近く）なった	血圧が下がった	食欲が出た	便秘が解消した	健康への効果は感じられなかった	その他	無回答
全体	970	21.1	2.6	23.6	49.9	3.7	16.8	6.7	10.6	7.6	9.0	7.3	6.1
女性全体	494	20.6	4.0	23.3	48.2	3.2	13.0	3.8	8.1	8.5	9.9	7.5	6.3
18～29歳	39	10.3	-	25.6	43.6	-	2.6	-	10.3	2.6	12.8	10.3	12.8
30～39歳	58	17.2	3.4	24.1	32.8	-	5.2	-	5.2	6.9	20.7	5.2	1.7
40～49歳	52	9.6	5.8	25.0	48.1	-	11.5	1.9	1.9	7.7	13.5	11.5	3.8
50～59歳	72	22.2	4.2	18.1	47.2	2.8	18.1	4.2	4.2	9.7	9.7	5.6	5.6
60～69歳	130	23.8	2.3	16.9	50.0	3.1	12.3	2.3	8.5	7.7	6.9	11.5	4.6
70歳以上	142	24.6	6.3	29.6	54.9	7.0	17.6	7.7	12.7	11.3	6.3	3.5	9.2
男性全体	409	20.0	0.5	24.0	53.1	3.9	21.8	9.5	13.2	6.1	7.8	7.3	5.9
18～29歳	36	19.4	-	27.8	63.9	2.8	11.1	2.8	13.9	5.6	8.3	-	-
30～39歳	38	18.4	-	31.6	57.9	-	26.3	5.3	15.8	10.5	10.5	5.3	2.6
40～49歳	69	18.8	-	15.9	52.2	2.9	23.2	2.9	5.8	7.2	8.7	11.6	7.2
50～59歳	38	21.1	-	21.1	60.5	5.3	21.1	10.5	10.5	2.6	5.3	10.5	5.3
60～69歳	88	14.8	2.3	23.9	44.3	4.5	27.3	12.5	14.8	4.5	8.0	5.7	5.7
70歳以上	137	24.8	-	25.5	53.3	5.1	19.7	13.9	14.6	6.6	6.6	8.0	8.0

(4) スポーツ・レクリエーション活動を行っていない理由

◇「仕事（家事、育児も含む）や勉強が忙しいから」が最も多く、約4割

問 55-4. 問 55 で「6」と答えた方に伺います。あなたが、スポーツ・レクリエーション活動を行っていない理由は何ですか。(〇は3つまで)

図表 16-4-1 スポーツ・レクリエーション活動を行っていない理由



この1年間にスポーツ・レクリエーション活動を「行っていない」と回答した895人に、スポーツ・レクリエーション活動を行っていない理由を聞いたところ、「仕事（家事、育児も含む）や勉強が忙しいから」（41.3%）が最も多く、次いで、「年をとったから」（21.6%）、「健康上の理由から」（15.6%）、「スポーツ・レクリエーションが好きでない（興味がない）から」（12.8%）、「身近に適切な場所や施設がないから」（10.8%）の順となっている。また、「その他」として「時間が合わない」「趣味が忙しい」「病気」等が挙げられた。

前回の調査と比較すると、「身近に適切な場所や施設がないから」（10.8%）で平成26年度調査（19.4%）と比べ8.6ポイント、「仕事（家事、育児も含む）や勉強が忙しいから」（41.3%）で平成26年度調査（49.2%）と比べ7.9ポイントそれぞれ減少している。

性別でみると、「健康上の理由から」は女性（17.1%）が男性（11.1%）より6.0ポイント、「仕事（家事、育児も含む）や勉強が忙しいから」は女性（44.8%）が男性（40.0%）より4.8ポイントそれぞれ高くなっている。

性・年齢別でみると、「仕事（家事、育児も含む）や勉強が忙しいから」は女性30～39歳（69.9%）で約7割と最も多く、女性18～29歳（66.0%）、女性40～49歳（61.9%）、男性30～39歳（61.0%）でも6割以上と多くなっている。また、「年をとったから」は女性70歳以上（67.6%）で7割弱と多くなっている。

図表 16-4-2 性・年齢別 スポーツ・レクリエーション活動を行っていない理由

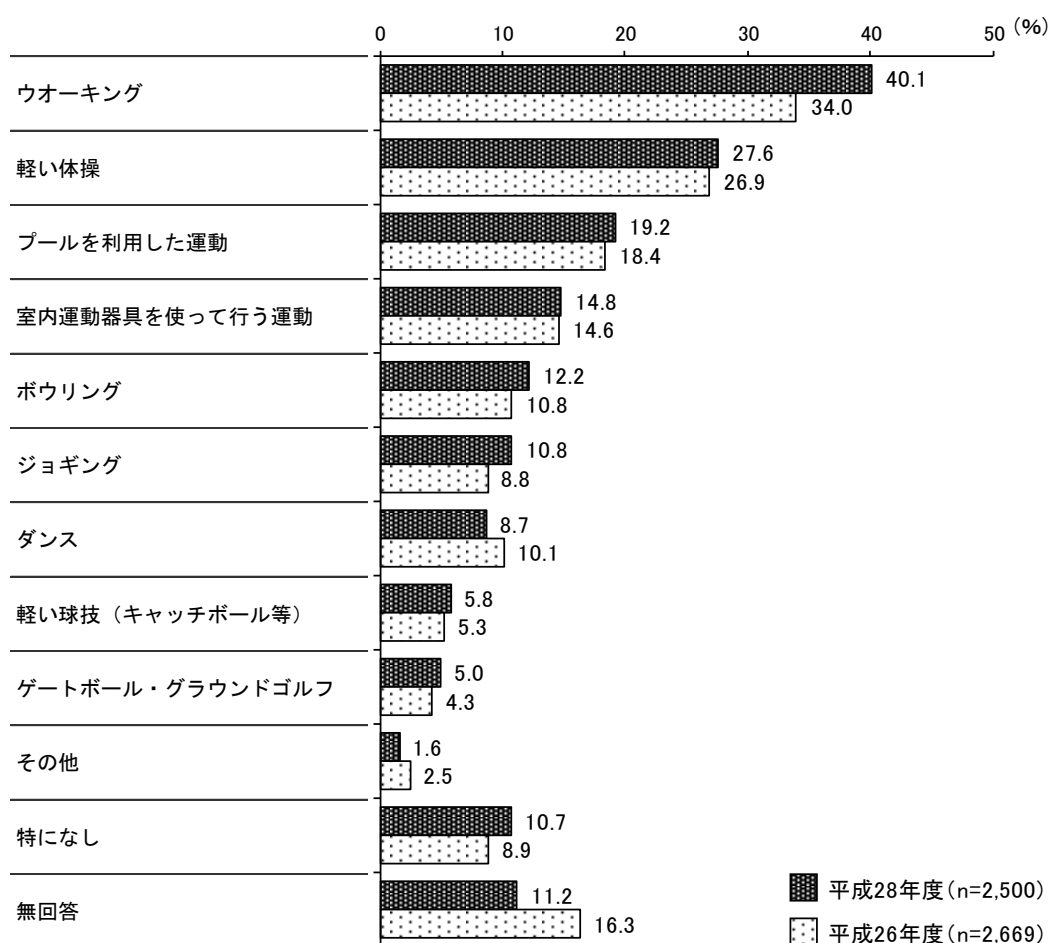
	調査数（人）	勉強が忙しいから（家事、育児も含む）や	費用がかかるから	身近に適切な場所や施設がないから	健康上の理由から	一緒にいる相手、指導者等が	年をとったから	から好きでない（興味がない）	スポーツ・レクリエーション	その他	特に理由はない	無回答
全体	895	41.3	10.4	10.8	15.6	8.3	21.6	12.8	4.2	14.0	1.6	
女性全体	504	44.8	10.9	12.3	17.1	8.3	22.4	13.1	4.6	11.9	1.0	
18～29歳	47	66.0	12.8	14.9	-	8.5	-	23.4	2.1	12.8	-	
30～39歳	83	69.9	16.9	15.7	3.6	13.3	1.2	15.7	1.2	13.3	-	
40～49歳	105	61.9	17.1	16.2	7.6	7.6	4.8	11.4	4.8	18.1	-	
50～59歳	75	56.0	12.0	9.3	22.7	9.3	10.7	18.7	5.3	5.3	-	
60～69歳	85	24.7	4.7	10.6	24.7	8.2	30.6	10.6	8.2	15.3	1.2	
70歳以上	108	8.3	3.7	7.4	34.3	4.6	67.6	6.5	4.6	6.5	3.7	
男性全体	325	40.0	10.2	9.2	11.1	8.6	19.1	12.9	4.0	16.9	1.8	
18～29歳	26	46.2	11.5	7.7	-	3.8	3.8	26.9	3.8	19.2	-	
30～39歳	41	61.0	7.3	9.8	2.4	2.4	4.9	12.2	-	12.2	2.4	
40～49歳	74	59.5	14.9	9.5	9.5	12.2	6.8	10.8	4.1	13.5	1.4	
50～59歳	58	36.2	8.6	5.2	10.3	5.2	13.8	8.6	12.1	20.7	1.7	
60～69歳	66	31.8	12.1	16.7	9.1	15.2	22.7	22.7	1.5	22.7	1.5	
70歳以上	56	7.1	3.6	5.4	28.6	5.4	55.4	3.6	1.8	12.5	3.6	

(5) 今後、行ってみたいスポーツ・レクリエーション活動—比較的軽いスポーツ—

◇「ウォーキング」が最も多く、約4割

問 56 (1). 皆さんに伺います。今後、行ってみたいと思うスポーツ・レクリエーション活動
について次の中から当てはまるものを選んでください。(複数回答可)

図表 16-5-1 今後、行ってみたいスポーツ・レクリエーション活動
 —比較的軽いスポーツ—



今後、行ってみたいスポーツ・レクリエーション活動 (比較的軽いスポーツ) については、「ウォーキング」(40.1%) が最も多く、次いで、「軽い体操」(27.6%)、「プールを利用した運動」(19.2%)、「室内運動器具を使って行う運動」(14.8%)、「ボウリング」(12.2%) の順となっている。また、「その他」として「ヨガ」「エアロビクス」「ピラティス」等が挙げられた。

前回の調査と比較すると、「ウォーキング」(40.1%) で平成26年度調査(34.0%) と比べ6.1ポイント増加している。

性別でみると、「軽い体操」は女性（33.0%）が男性（20.6%）より12.4ポイント、「ダンス」は女性（12.6%）が男性（4.3%）より8.3ポイントそれぞれ高くなっている。一方、「ジョギング」は男性（15.5%）が女性（7.9%）より7.6ポイント、「軽い球技（キャッチボール等）」は男性（9.0%）が女性（3.8%）より5.2ポイントそれぞれ高くなっている。

性・年齢別でみると、「ウォーキング」は男性70歳以上（50.6%）、女性50～59歳（49.5%）で約5割と多くなっている。また、「軽い体操」は女性60～69歳（44.0%）で4割半ばと多く、「プールを利用した運動」は女性18～29歳（39.0%）で約4割と多くなっている。

図表 16-5-2 性・年齢別 今後、行ってみたいスポーツ・レクリエーション活動
—比較的軽いスポーツ—

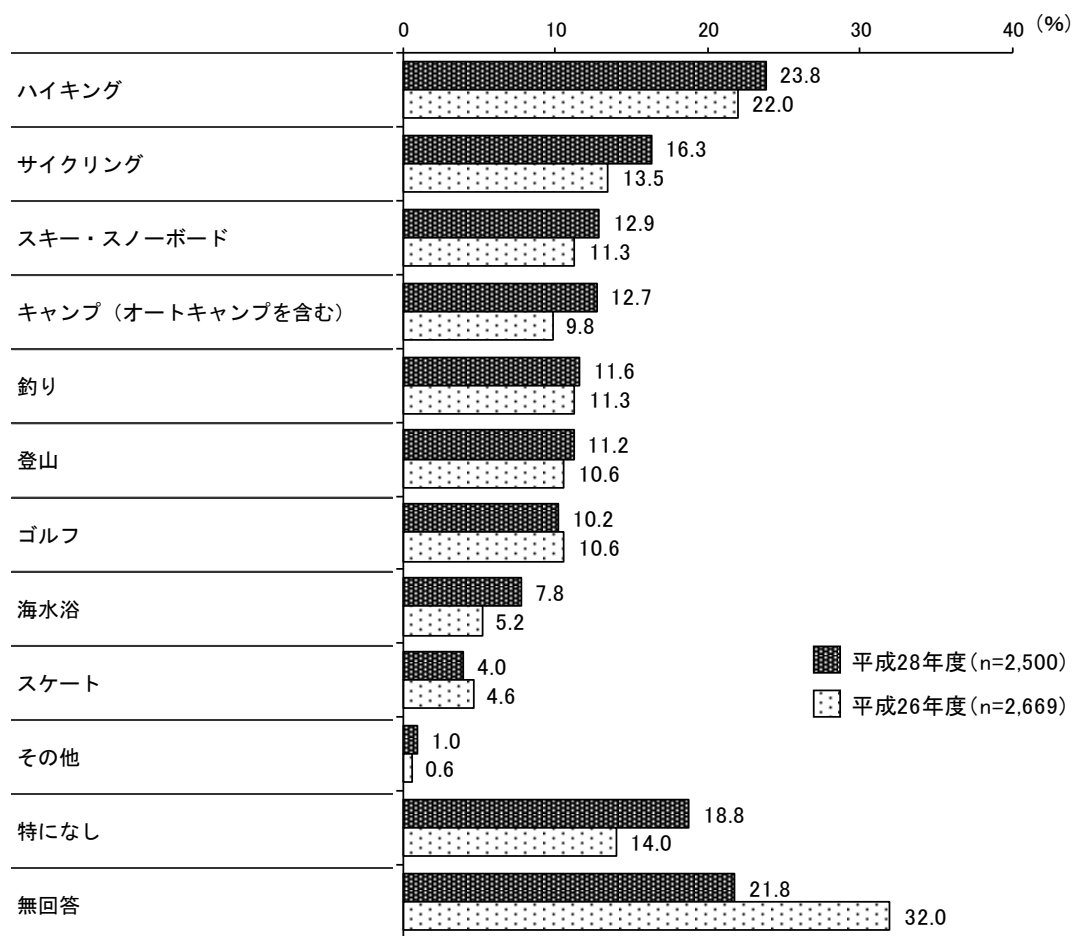
	調査数（人）	軽い体操	軽い球技（キャッチボール等）	ウォーキング	ジョギング	ゲートボール・グラウンドゴルフ	ボウリング	プールを利用した運動	ダンス	室内運動器具を使って行う運動	その他	特になし	無回答
全体	2,500	27.6	5.8	40.1	10.8	5.0	12.2	19.2	8.7	14.8	1.6	10.7	11.2
女性全体	1,309	33.0	3.8	39.9	7.9	3.6	11.6	21.0	12.6	16.5	2.4	11.2	10.1
18～29歳	118	18.6	11.0	33.9	15.3	4.2	21.2	39.0	24.6	24.6	3.4	8.5	8.5
30～39歳	204	23.0	6.9	39.7	13.7	1.5	17.6	31.9	18.1	19.6	4.9	5.9	10.3
40～49歳	224	25.9	4.5	41.5	11.6	1.8	11.6	21.9	14.7	16.5	3.1	8.9	10.7
50～59歳	190	37.9	2.6	49.5	8.9	2.6	10.5	26.3	15.3	17.9	0.5	5.3	5.8
60～69歳	268	44.0	1.5	44.4	3.0	3.4	11.2	14.6	9.0	14.6	2.2	9.7	7.1
70歳以上	302	37.4	1.0	31.1	2.0	7.0	5.0	8.3	4.3	11.6	1.3	22.5	15.6
男性全体	1,025	20.6	9.0	40.8	15.5	6.1	13.6	18.0	4.3	13.7	0.7	9.6	12.2
18～29歳	97	11.3	18.6	19.6	24.7	6.2	30.9	21.6	7.2	12.4	1.0	7.2	22.7
30～39歳	120	13.3	13.3	33.3	24.2	3.3	12.5	20.8	7.5	9.2	0.8	11.7	16.7
40～49歳	206	10.7	10.7	38.8	20.4	2.9	15.0	23.3	1.9	14.6	0.5	9.7	11.2
50～59歳	142	19.0	7.0	34.5	19.7	2.8	14.8	21.1	4.9	18.3	0.7	12.7	11.3
60～69歳	207	25.1	5.3	48.8	8.2	5.8	10.6	15.0	3.4	11.6	-	8.7	8.7
70歳以上	245	32.2	5.3	50.6	7.3	12.2	6.5	11.0	3.7	15.1	1.2	8.2	10.6

(6) 今後、行ってみたいスポーツ・レクリエーション活動—野外活動—

◇「ハイキング」が最も多く、2割強

問 56 (2). 皆さんに伺います。今後、行ってみたいと思うスポーツ・レクリエーション活動
について次の中から当てはまるものを選んでください。(複数回答可)

図表 16-5-3 今後、行ってみたいスポーツ・レクリエーション活動
 —野外活動—



今後、行ってみたいスポーツ・レクリエーション活動 (野外活動) については、「ハイキング」(23.8%) が最も多く、次いで、「サイクリング」(16.3%)、「スキー・スノーボード」(12.9%)、「キャンプ (オートキャンプを含む)」(12.7%)、「釣り」(11.6%) の順となっている。また、「その他」として「マリンスポーツ」「乗馬」「ボルダリング」等が挙げられた。

前回の調査と比較すると、「キャンプ (オートキャンプを含む)」(12.7%) で平成 26 年度調査 (9.8%) と比べ 2.9 ポイント、「サイクリング」(16.3%) で平成 26 年度調査 (13.5%) と比べ 2.8 ポイント増加している。

性別でみると、「ゴルフ」は男性(16.2%)が女性(5.4%)より10.8ポイント、「釣り」は男性(17.3%)が女性(6.9%)より10.4ポイントそれぞれ高く、「ハイキング」は女性(26.6%)が男性(20.5%)より6.1ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「スキー・スノーボード」は女性18～29歳(40.7%)、男性18～29歳(37.1%)で4割弱以上と多く、「ハイキング」は女性50～59歳(37.4%)、女性60～69歳(36.2%)で3割半ば以上と多くなっている。また、「キャンプ(オートキャンプを含む)」は男性30～39歳(30.8%)、女性30～39歳(29.9%)で約3割と多く、「サイクリング」は男性18～29歳(27.8%)、男性50～59歳(26.1%)で2割半ば以上と多くなっている。

図表 16-5-4 性・年齢別 今後、行ってみたいスポーツ・レクリエーション活動
—野外活動—

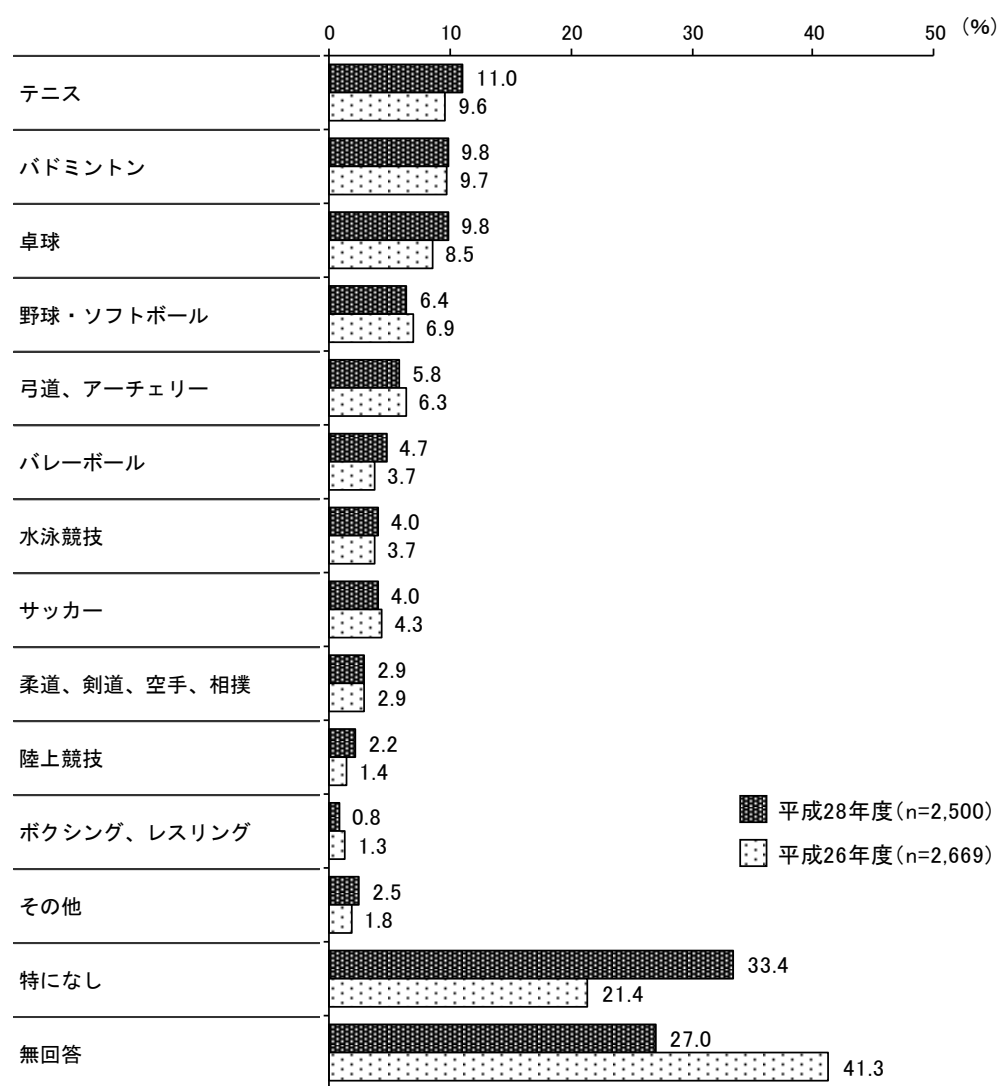
	調査数(人)	スキー・スノーボード	海水浴	スケート	登山	キャンプ(オートキャンプを含む)	ハイキング	サイクリング	ゴルフ	釣り	その他	特になし	無回答
全体	2,500	12.9	7.8	4.0	11.2	12.7	23.8	16.3	10.2	11.6	1.0	18.8	21.8
女性全体	1,309	12.2	7.2	5.1	10.5	12.5	26.6	14.9	5.4	6.9	0.7	20.9	24.5
18～29歳	118	40.7	22.9	19.5	25.4	23.7	17.8	21.2	5.9	19.5	0.8	11.9	16.1
30～39歳	204	24.5	18.6	12.3	21.1	29.9	25.0	23.5	7.4	13.2	0.5	10.8	18.6
40～49歳	224	15.2	6.7	7.1	12.1	17.9	22.3	16.5	5.8	8.5	1.8	15.2	24.1
50～59歳	190	11.1	4.7	1.1	12.1	11.6	37.4	22.1	5.3	4.7	0.5	13.7	17.9
60～69歳	268	2.2	1.1	0.4	3.4	1.9	36.2	9.3	5.2	3.0	0.4	26.9	23.1
70歳以上	302	0.3	0.7	-	1.7	2.3	18.9	6.0	4.0	1.3	0.3	34.4	37.7
男性全体	1,025	15.0	9.4	2.8	12.9	13.9	20.5	18.9	16.2	17.3	1.5	16.0	17.2
18～29歳	97	37.1	15.5	9.3	21.6	18.6	17.5	27.8	16.5	19.6	1.0	13.4	15.5
30～39歳	120	26.7	21.7	1.7	20.0	30.8	17.5	17.5	11.7	15.0	3.3	10.8	13.3
40～49歳	206	21.8	12.6	4.4	14.6	18.9	14.6	23.3	18.0	17.0	1.0	14.1	11.7
50～59歳	142	14.8	9.9	2.8	12.7	15.5	19.0	26.1	24.6	17.6	2.1	16.2	12.0
60～69歳	207	6.8	2.9	2.4	9.7	8.7	30.4	18.4	16.9	19.8	0.5	14.5	16.9
70歳以上	245	1.6	3.3	-	6.5	1.6	20.0	8.2	11.4	15.1	1.6	22.0	28.2

(7) 今後、行ってみたいスポーツ・レクリエーション活動—競技的スポーツ—

◇「テニス」が最も多く、約1割

問 56 (3). 皆さんに伺います。今後、行ってみたいと思うスポーツ・レクリエーション活動
について次の中から当てはまるものを選んでください。(複数回答可)

図表 16-5-5 今後、行ってみたいスポーツ・レクリエーション活動
 —競技的スポーツ—



今後、行ってみたいスポーツ・レクリエーション活動(競技的スポーツ)については、「テニス」(11.0%)が最も多く、次いで、「バドミントン」「卓球」(ともに9.8%)、「野球・ソフトボール」(6.4%)、「弓道、アーチェリー」(5.8%)の順となっている。また、「その他」として「バスケットボール」「合気道」「ボルダリング」「ラグビー」等が挙げられた。

前回の調査と比較すると、大きな差異はみられない。

性別で見ると、「野球・ソフトボール」は男性（12.1%）が女性（2.0%）より10.1ポイント、「サッカー」は男性（6.4%）が女性（2.3%）より4.1ポイントそれぞれ高くなっている。一方、「バドミントン」は女性（12.4%）が男性（7.2%）より5.2ポイント、「バレーボール」は女性（6.7%）が男性（2.8%）より3.9ポイントそれぞれ高くなっている。

性・年齢別で見ると、「バドミントン」は女性18～29歳（28.8%）、女性30～39歳（27.9%）で3割弱と多くなっている。「テニス」は男性18～29歳（27.8%）で3割弱と多くなっている。

図表 16-5-6 性・年齢別 今後、行ってみたいスポーツ・レクリエーション活動
—競技的スポーツ—

	調査数（人）	陸上競技	水泳競技	野球・ソフトボール	サッカー	バレーボール	バドミントン	テニス	卓球	柔道、剣道、空手、相撲	ボクシング、レスリング	弓道、アーチェリー	その他	特になし	無回答
全 体	2,500	2.2	4.0	6.4	4.0	4.7	9.8	11.0	9.8	2.9	0.8	5.8	2.5	33.4	27.0
女性全体	1,309	1.5	4.3	2.0	2.3	6.7	12.4	11.6	9.5	2.1	0.8	6.3	2.0	33.3	28.5
18～29歳	118	3.4	8.5	5.1	12.7	22.9	28.8	22.9	15.3	5.9	0.8	16.9	2.5	19.5	14.4
30～39歳	204	2.9	9.8	4.4	3.4	15.7	27.9	20.1	8.8	4.9	2.0	7.4	2.9	17.2	18.1
40～49歳	224	1.8	4.0	2.7	1.8	5.4	15.6	18.8	7.6	1.8	1.8	9.8	2.2	25.0	25.4
50～59歳	190	1.6	5.3	1.6	1.1	4.7	10.0	12.6	11.6	3.2	0.5	9.5	1.6	29.5	30.0
60～69歳	268	0.7	1.1	0.4	-	0.7	5.2	4.1	9.3	0.4	-	1.9	2.6	45.5	32.8
70歳以上	302	-	1.3	0.3	0.7	1.7	1.0	2.3	8.3	-	-	1.0	0.7	47.4	38.4
男性全体	1,025	3.4	4.1	12.1	6.4	2.8	7.2	11.5	9.9	4.2	0.9	5.7	3.0	33.4	23.2
18～29歳	97	10.3	7.2	18.6	20.6	11.3	15.5	27.8	16.5	9.3	4.1	13.4	7.2	12.4	14.4
30～39歳	120	3.3	10.8	13.3	13.3	4.2	10.8	15.8	10.0	5.0	1.7	4.2	2.5	20.8	20.8
40～49歳	206	5.3	4.4	18.4	9.2	3.9	9.2	13.1	8.7	5.8	1.0	6.8	1.9	27.7	14.6
50～59歳	142	2.1	1.4	12.0	4.9	-	11.3	18.3	12.7	3.5	0.7	7.7	4.9	30.3	21.1
60～69歳	207	2.4	3.4	11.1	1.9	1.4	3.9	5.3	7.2	4.3	-	3.4	2.4	45.9	22.7
70歳以上	245	0.8	1.2	4.9	-	-	0.8	2.9	8.2	0.8	-	3.3	2.0	44.1	36.7

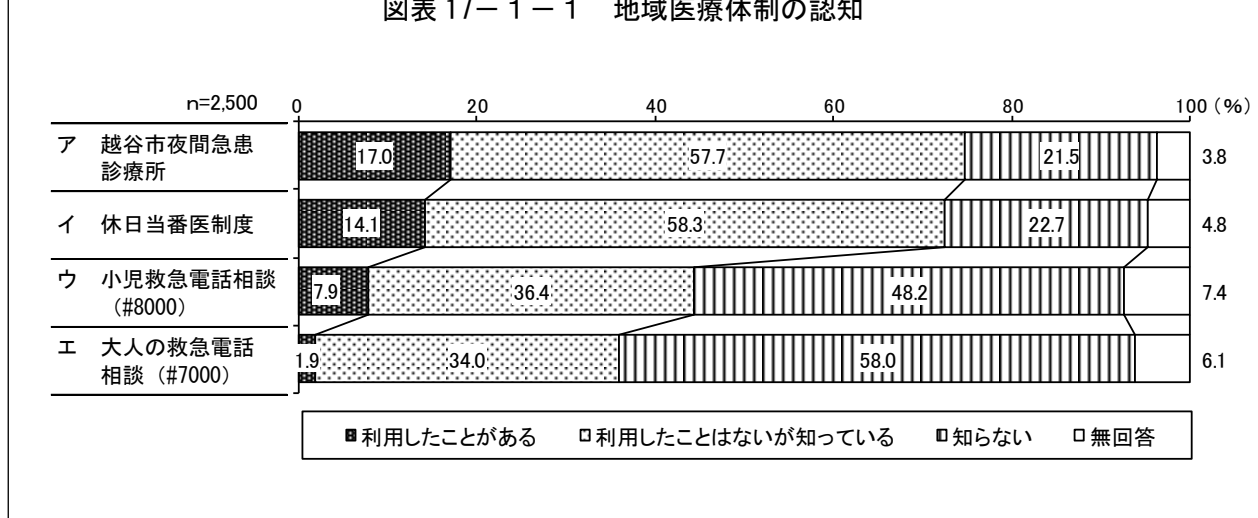
17. 地域医療体制について

(1) 地域医療体制の認知

◇認知は「越谷市夜間急患診療所」「休日当番医制度」が7割を超える

問57. あなたは、「越谷市夜間急患診療所・休日当番医制度・小児救急電話相談（#8000）・大人の救急電話相談（#7000）」を知っていますか。
 （ア～エそれぞれ○は1つずつ）

図表 17-1-1 地域医療体制の認知



地域医療体制の認知については、「利用したことがある」と「利用したことはないが知っている」を合わせた『知っている』では、「ア 越谷市夜間急患診療所」(74.7%)が最も多く、次いで、「イ 休日当番医制度」(72.4%)、「ウ 小児救急電話相談 (#8000)」(44.3%)、「エ 大人の救急電話相談 (#7000)」(35.9%)となっている。

また、「利用したことがある」では、「ア 越谷市夜間急患診療所」(17.0%)が2割弱、「イ 休日当番医制度」(14.1%)が1割半ばとなっている。

「ア 越谷市夜間急患診療所」について性別でみると、『知っている』は女性（79.0%）が男性（70.1%）より8.9ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、『知っている』は女性50～59歳（86.8%）、女性60～69歳（84.0%）で8割半ばと多くなっている。

「イ 休日当番医制度」について性別でみると、『知っている』は女性（77.3%）が男性（67.1%）より10.2ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、『知っている』は女性50～59歳（92.1%）で9割強と多くなっている。

「ウ 小児救急電話相談」について性別でみると、『知っている』は女性（48.3%）が男性（39.9%）より8.4ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、『知っている』は女性30～39歳（68.1%）で7割弱と多くなっている。

「エ 大人の救急電話相談」について性別でみると、『知っている』は女性（38.6%）が男性（33.0%）より5.6ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、『知っている』は女性30～39歳（45.6%）で4割半ばと多くなっている。

図表 17-1-2 性・年齢別 地域医療体制の認知

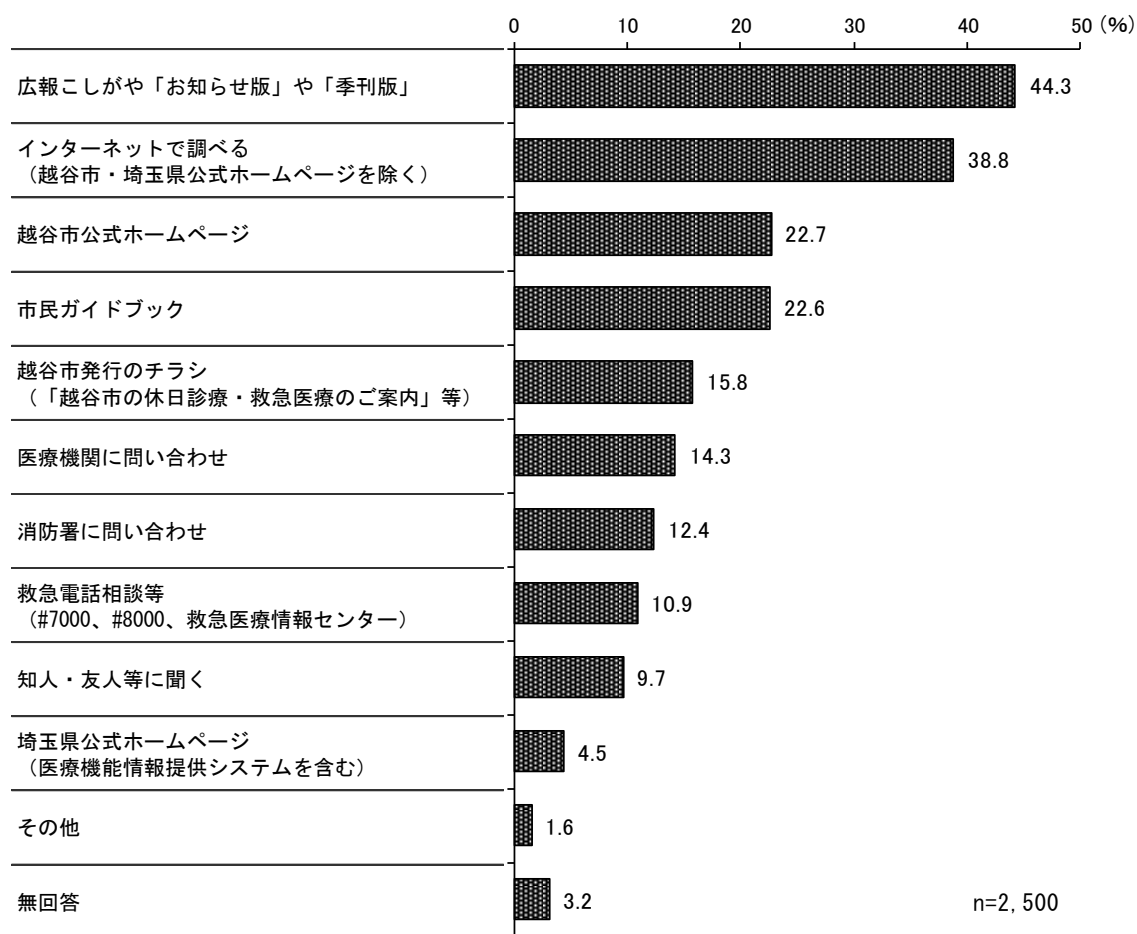
		ア「越谷市夜間急患診療所」				イ「休日当番医制度」				ウ「小児救急電話相談（#8000）」				エ「大人の救急電話相談（#7000）」			
	調査数（人）	利用したことがある	知っていることはないが	知らない	無回答	利用したことがある	知っていることはないが	知らない	無回答	利用したことがある	知っていることはないが	知らない	無回答	利用したことがある	知っていることはないが	知らない	無回答
全体	2,500	17.0	57.7	21.5	3.8	14.1	58.3	22.7	4.8	7.9	36.4	48.2	7.4	1.9	34.0	58.0	6.1
女性全体	1,309	17.4	61.6	17.3	3.7	15.4	61.9	18.6	4.1	9.5	38.8	44.9	6.8	2.1	36.5	55.6	5.8
18～29歳	118	15.3	41.5	42.4	0.8	9.3	33.9	55.9	0.8	12.7	24.6	61.9	0.8	3.4	22.9	72.9	0.8
30～39歳	204	27.9	55.9	14.7	1.5	21.1	52.5	25.0	1.5	24.5	43.6	29.9	2.0	2.5	43.1	52.0	2.5
40～49歳	224	30.4	53.1	13.8	2.7	25.9	55.4	17.0	1.8	17.9	35.7	43.8	2.7	2.2	36.2	58.9	2.7
50～59歳	190	18.4	68.4	12.1	1.1	26.3	65.8	6.8	1.1	5.8	42.6	50.0	1.6	3.2	40.5	54.7	1.6
60～69歳	268	10.1	73.9	11.2	4.9	8.6	76.9	9.0	5.6	2.2	44.8	46.3	6.7	2.6	38.4	53.0	6.0
70歳以上	302	7.6	64.6	19.9	7.9	5.6	68.2	16.6	9.6	0.3	35.8	45.4	18.5	-	33.4	52.0	14.6
男性全体	1,025	16.8	53.3	26.9	3.0	12.4	54.7	28.6	4.3	6.2	33.7	53.7	6.4	1.8	31.2	62.1	4.9
18～29歳	97	15.5	23.7	60.8	-	4.1	23.7	72.2	-	4.1	16.5	78.4	1.0	1.0	20.6	78.4	-
30～39歳	120	17.5	48.3	33.3	0.8	15.8	40.8	41.7	1.7	18.3	33.3	47.5	0.8	1.7	34.2	63.3	0.8
40～49歳	206	25.7	49.5	23.8	1.0	19.9	49.5	29.6	1.0	11.2	33.0	54.9	1.0	2.4	30.6	66.0	1.0
50～59歳	142	21.1	51.4	26.1	1.4	16.9	55.6	26.1	1.4	5.6	29.6	63.4	1.4	1.4	24.6	72.5	1.4
60～69歳	207	14.0	59.9	22.7	3.4	12.6	65.2	17.4	4.8	1.9	39.6	51.2	7.2	1.4	33.3	58.5	6.8
70歳以上	245	8.2	66.1	18.0	7.8	4.1	69.0	15.5	11.4	0.4	38.4	42.9	18.4	2.0	35.5	49.8	12.7

(2) 医療機関の情報の入手方法

◇「広報こしがや『お知らせ版』や『季刊版』」が最も多く、4割半ば

問 58. あなたは、夜間や休日に利用できる医療機関の情報が必要な場合、どこから情報を入手しますか。次の中から選んでください。(複数回答可)

図表 17-2-1 医療機関の情報の入手方法



医療機関の情報の入手方法については、「広報こしがや『お知らせ版』や『季刊版』」(44.3%)が最も多く、次いで、「インターネットで調べる(越谷市・埼玉県公式ホームページを除く)」(38.8%)、「越谷市公式ホームページ」(22.7%)、「市民ガイドブック」(22.6%)、「越谷市発行のチラシ(「越谷市の休日診療・救急医療のご案内」等)」(15.8%)の順となっている。また、「その他」として「新聞」「メール」等が挙げられた。

性別でみると、「広報こしがや『お知らせ版』や『季刊版』」は女性（46.8%）が男性（41.0%）より5.8ポイント、「知人・友人等に聞く」は女性（11.5%）が男性（7.0%）より4.5ポイント、「救急電話相談等（#7000、#8000、救急医療情報センター）」は女性（12.9%）が男性（9.1%）より3.8ポイントそれぞれ高くなっている。一方、「インターネットで調べる（越谷市・埼玉県公式ホームページを除く）」は男性（43.1%）が女性（37.3%）より5.8ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「インターネットで調べる（越谷市・埼玉県公式ホームページを除く）」は男性18～29歳（75.3%）、女性18～29歳（72.0%）、男性30～39歳（70.8%）で7割以上、女性30～39歳（64.7%）で6割半ばと多くなっている。また、「広報こしがや『お知らせ版』や『季刊版』」は女性60～69歳（63.1%）で6割強と多くなっている。

図表 17-2-2 性・年齢別 医療機関の情報の入手方法

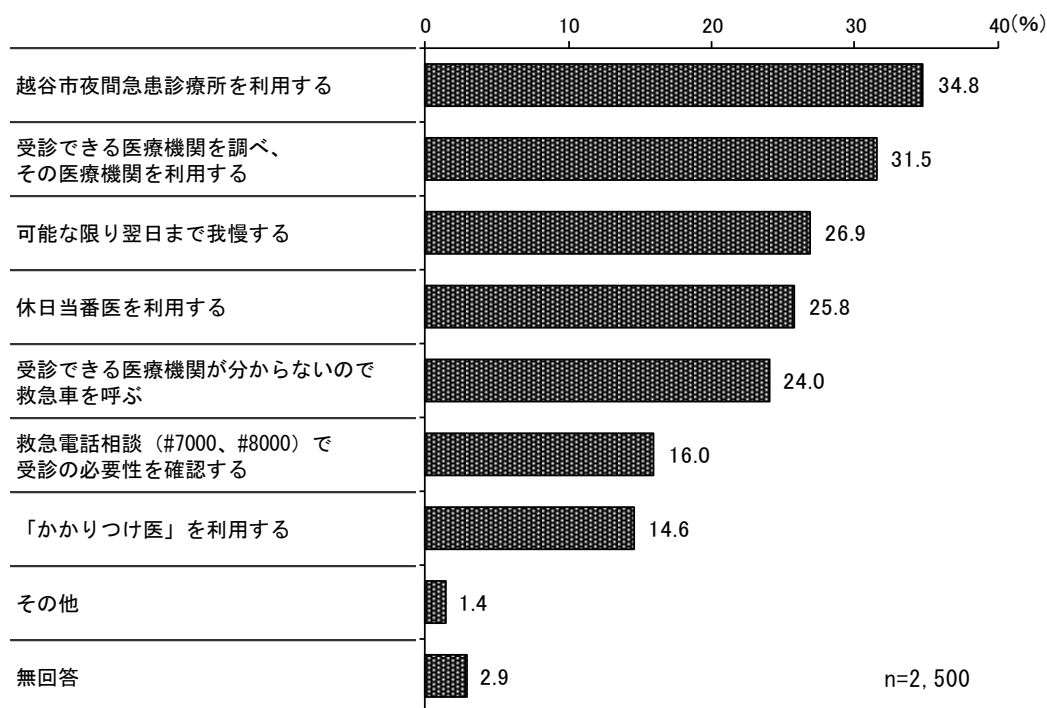
	調査数（人）	「広報こしがや『季刊版』」や「お知らせ版」	市民ガイドブック	越谷市公式ホームページ	日診療・救急医療のご案内（越谷市の休日診療・救急医療のご案内）	越谷市発行のチラシ（「越谷市の休日診療・救急医療のご案内」等）	埼玉県公式ホームページ（医療機能情報システムを含む）	埼玉県公式ホームページ（越谷市・インターネットで調べる（越谷市・埼玉県公式ホームページを除く））	000、救急電話相談等（#7000、#8000、救急医療情報センター）	消防署に問い合わせ	医療機関に問い合わせ	知人・友人等に聞く	その他	無回答
全体	2,500	44.3	22.6	22.7	15.8	4.5	38.8	10.9	12.4	14.3	9.7	1.6	3.2	
女性全体	1,309	46.8	22.4	22.8	16.8	4.0	37.3	12.9	12.8	13.9	11.5	1.7	3.0	
18～29歳	118	20.3	10.2	33.1	5.9	8.5	72.0	11.0	5.9	13.6	17.8	0.8	0.8	
30～39歳	204	27.5	18.1	36.3	14.7	4.9	64.7	20.6	3.4	14.2	10.3	-	1.5	
40～49歳	224	39.7	21.4	36.6	15.2	4.5	51.8	7.6	8.0	10.3	7.6	1.8	2.2	
50～59歳	190	55.8	24.7	34.7	14.2	5.3	42.1	13.2	15.8	13.7	8.9	1.1	1.6	
60～69歳	268	63.1	24.3	9.3	23.5	3.4	20.9	11.9	15.3	17.2	8.2	1.5	3.4	
70歳以上	302	55.3	27.8	4.0	19.5	1.0	5.6	12.9	21.2	13.9	17.2	3.6	6.0	
男性全体	1,025	41.0	22.9	24.7	14.6	5.2	43.1	9.1	11.8	14.4	7.0	1.4	2.4	
18～29歳	97	11.3	4.1	29.9	2.1	11.3	75.3	7.2	2.1	14.4	10.3	3.1	-	
30～39歳	120	24.2	15.8	35.8	9.2	7.5	70.8	9.2	3.3	7.5	4.2	0.8	0.8	
40～49歳	206	38.8	19.9	31.6	13.1	9.7	62.1	6.8	8.3	13.1	3.9	1.0	1.0	
50～59歳	142	43.0	21.1	35.9	7.7	3.5	45.1	4.2	14.1	14.1	2.8	2.1	1.4	
60～69歳	207	53.1	28.0	19.8	17.9	2.9	27.1	9.7	17.4	15.5	8.2	1.4	2.9	
70歳以上	245	51.4	33.1	8.6	25.3	0.4	13.1	13.5	15.9	18.4	11.4	0.8	5.7	

(3) 夜間や休日の急病の対応

◇「越谷市夜間急患診療所を利用する」が最も多く、3割半ば

問 59. あなたは、夜間や休日に急病になったとき、どのように対応しますか。(複数回答可)

図表 17-3-1 夜間や休日の急病の対応



夜間や休日の急病の対応については、「越谷市夜間急患診療所を利用する」(34.8%)が最も多く、次いで、「受診できる医療機関を調べ、その医療機関を利用する」(31.5%)、「可能な限り翌日まで我慢する」(26.9%)、「休日当番医を利用する」(25.8%)、「受診できる医療機関が分からないので救急車を呼ぶ」(24.0%)の順となっている。また、「その他」として「友人に連絡」「家族に任せる」等が挙げられた。

性別でみると、「救急電話相談（#7000、#8000）で受診の必要性を確認する」は女性（19.2%）が男性（12.2%）より7.0ポイント、「可能な限り翌日まで我慢する」は女性（30.3%）が男性（23.7%）より6.6ポイントそれぞれ高く、「受診できる医療機関が分からないので救急車を呼ぶ」は男性（28.4%）が女性（19.8%）より8.6ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「受診できる医療機関を調べ、その医療機関を利用する」は女性18～29歳（49.2%）、女性30～39歳（48.5%）で約5割と多く、「越谷市夜間急患診療所を利用する」は女性50～59歳（44.2%）で4割半ばと多くなっている。また、「可能な限り翌日まで我慢する」は女性30～39歳（46.1%）で4割半ばと多く、「受診できる医療機関が分からないので救急車を呼ぶ」は男性70歳以上（40.8%）で約4割と多くなっている。

図表 17-3-2 性・年齢別 夜間や休日の急病の対応

	調査数（人）	「かかりつけ医」を利用する	休日当番医を利用する	越谷市夜間急患診療所を利用する	0 救急電話相談（#7000、#8000）で受診の必要性を確認する	医療機関を利用する	受診できる医療機関を調べ、その	で救急車を呼ぶ	受診できる医療機関が分からないの	可能な限り翌日まで我慢する	その他	無回答
全 体	2,500	14.6	25.8	34.8	16.0	31.5	24.0	26.9	1.4	2.9		
女性全体	1,309	13.8	28.0	37.6	19.2	34.7	19.8	30.3	1.1	2.8		
18～29歳	118	15.3	12.7	26.3	15.3	49.2	6.8	41.5	-	0.8		
30～39歳	204	8.8	23.0	38.2	27.5	48.5	4.9	46.1	0.5	1.0		
40～49歳	224	11.6	34.4	41.5	14.7	41.1	12.1	35.7	1.3	3.6		
50～59歳	190	8.4	40.0	44.2	18.4	40.0	17.4	30.5	0.5	0.5		
60～69歳	268	13.8	29.1	41.0	18.7	28.0	28.4	22.0	0.7	4.5		
70歳以上	302	21.5	23.8	31.8	18.9	17.5	34.8	18.2	2.6	4.3		
男性全体	1,025	15.2	23.8	32.5	12.2	29.3	28.4	23.7	1.9	2.2		
18～29歳	97	13.4	9.3	20.6	6.2	34.0	22.7	38.1	1.0	1.0		
30～39歳	120	10.0	18.3	21.7	10.0	40.8	15.0	40.8	1.7	1.7		
40～49歳	206	10.7	27.2	36.9	12.1	33.0	20.9	28.6	1.0	0.5		
50～59歳	142	9.2	32.4	40.1	7.0	30.3	23.9	21.1	1.4	1.4		
60～69歳	207	16.4	31.9	31.9	13.0	29.0	33.8	16.4	3.9	1.9		
70歳以上	245	24.5	17.6	33.5	18.0	18.8	40.8	13.1	1.6	5.3		

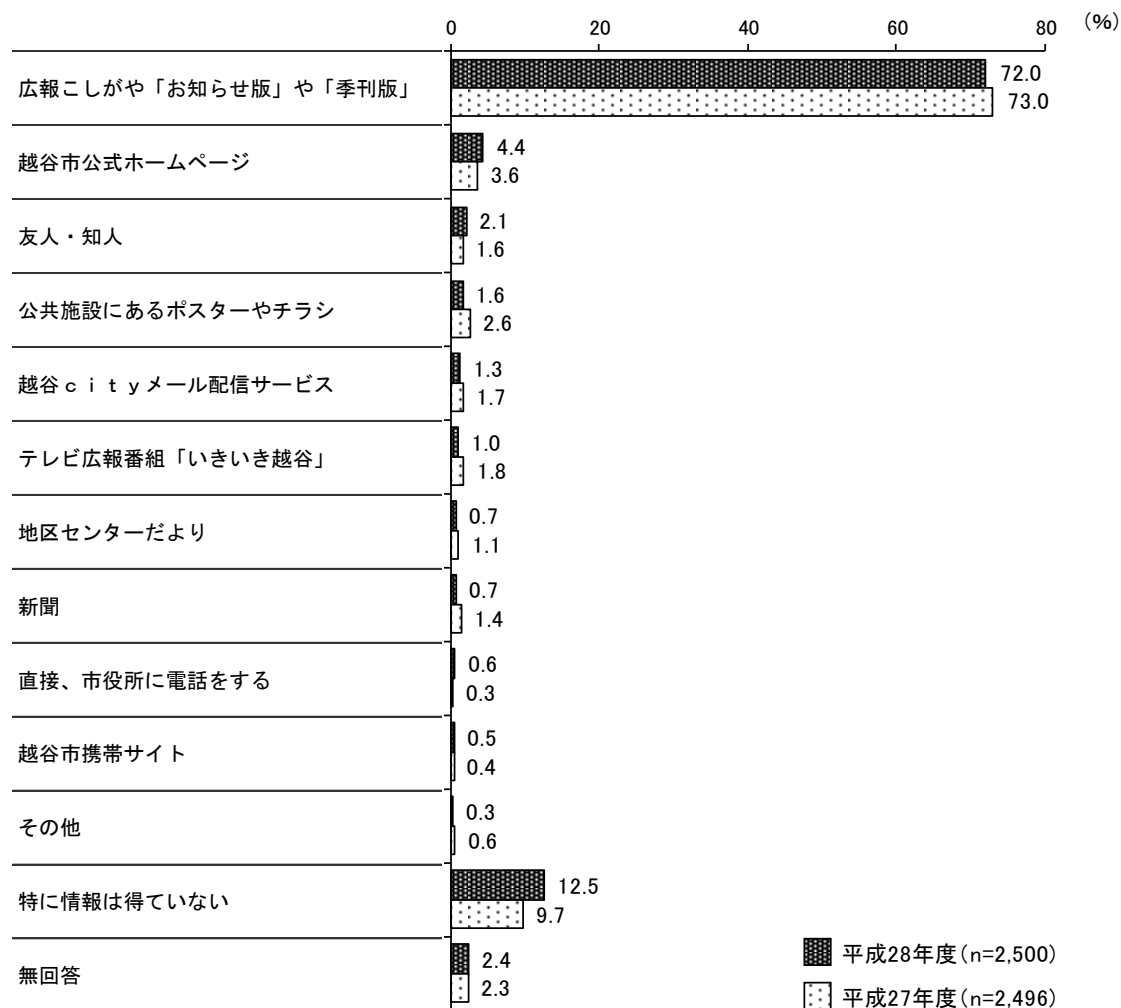
18. 広報について

(1) 市政情報を得ているもの

◇「広報こしがや『お知らせ版』や『季刊版』」が7割強

問60. あなたは、市政情報を主に何から得ていますか。(〇は1つ)

図表 18-1-1 市政情報を得ているもの



市政情報を主に得ているものについては、「広報こしがや『お知らせ版』や『季刊版』」(72.0%)が最も多く、次いで、「越谷市公式ホームページ」(4.4%)、「友人・知人」(2.1%)、「公共施設にあるポスターやチラシ」(1.6%)、「越谷cityメール配信サービス」(1.3%)の順となっている。また、「その他」として「ツイッター」「SNS」等が挙げられた。

前回の調査と比較すると、大きな差異はみられない。

性別でみると、「広報こしがや『お知らせ版』や『季刊版』」は女性（74.9%）が男性（67.8%）より7.1ポイント高くなっている。一方、「特に情報は得ていない」は男性（16.0%）が女性（10.0%）より6.0ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「広報こしがや『お知らせ版』や『季刊版』」は女性60～69歳（86.9%）、女性50～59歳（84.2%）で8割半ばと多くなっている。

図表 18-1-2 性・年齢別 市政情報を得ているもの

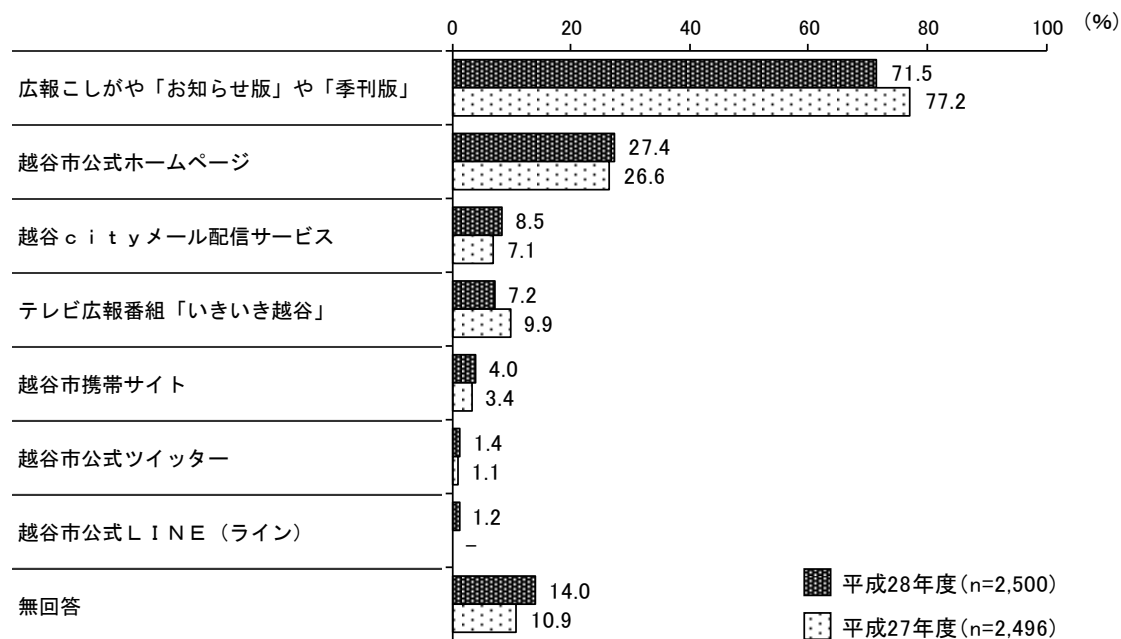
	調査数（人）	「広報こしがや『季刊版』」	テレビ広報番組「いきいき越谷」	越谷市公式ホームページ	越谷市携帯サイト	越谷cityメール配信サービス	地区センターだより	公共施設にあるポスターやチラシ	直接、市役所に電話をする	友人・知人	新聞	その他	特に情報は得ていない	無回答
全体	2,500	72.0	1.0	4.4	0.5	1.3	0.7	1.6	0.6	2.1	0.7	0.3	12.5	2.4
女性全体	1,309	74.9	0.9	3.5	0.6	1.7	0.8	1.7	0.4	2.4	0.5	0.4	10.0	2.2
18～29歳	118	40.7	-	3.4	1.7	2.5	0.8	5.9	-	5.9	1.7	-	34.7	2.5
30～39歳	204	59.3	1.0	8.3	1.0	5.4	-	3.9	-	3.4	-	0.5	16.2	1.0
40～49歳	224	73.2	0.4	6.7	1.3	1.8	-	1.3	-	1.8	0.4	0.4	9.8	2.7
50～59歳	190	84.2	1.1	4.2	0.5	0.5	0.5	-	0.5	1.6	1.1	-	5.3	0.5
60～69歳	268	86.9	1.5	0.7	-	0.7	0.7	0.7	0.4	1.5	0.4	1.1	2.6	2.6
70歳以上	302	83.8	1.0	-	-	0.3	2.0	0.3	1.0	2.0	0.3	-	6.0	3.3
男性全体	1,025	67.8	1.2	5.8	0.5	1.0	0.7	1.7	0.8	1.6	1.1	0.1	16.0	2.0
18～29歳	97	24.7	2.1	12.4	1.0	1.0	-	7.2	-	3.1	3.1	-	45.4	-
30～39歳	120	45.8	3.3	9.2	0.8	3.3	0.8	4.2	-	2.5	-	0.8	28.3	0.8
40～49歳	206	68.9	1.0	7.3	-	0.5	-	1.5	1.0	1.5	1.0	-	17.0	0.5
50～59歳	142	69.0	-	9.2	-	0.7	0.7	0.7	-	0.7	-	-	16.2	2.8
60～69歳	207	82.1	-	2.9	1.0	1.0	1.0	-	1.4	1.0	1.0	-	7.2	1.4
70歳以上	245	82.0	1.2	0.8	0.4	-	1.2	0.4	1.2	1.6	1.6	-	4.9	4.5

(2) 市政情報を得るために活用したことがあるもの

◇「広報こしがや『お知らせ版』や『季刊版』」が約7割

問61. 市政情報を得るために活用したことがあるものを、次の中から選んでください。
(複数回答可)

図表 18-2-1 市政情報を得るために活用したことがあるもの



※ 「越谷市公式LINE (ライン)」は平成28年度のみ

市政情報を得るために活用したことがあるものについては、「広報こしがや『お知らせ版』や『季刊版』」(71.5%)が最も多く、次いで、「越谷市公式ホームページ」(27.4%)、「越谷cityメール配信サービス」(8.5%)、「テレビ広報番組『いきいき越谷』」(7.2%)、「越谷市携帯サイト」(4.0%)の順となっている。

前回の調査と比較すると、「広報こしがや『お知らせ版』や『季刊版』」(71.5%)で平成27年度調査(77.2%)と比べ5.7ポイント減少している。

性別でみると、「越谷cityメール配信サービス」は女性（11.3%）が男性（5.2%）より6.1ポイント高く、「越谷市公式ホームページ」は男性（30.9%）が女性（25.7%）より5.2ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「広報こしがや『お知らせ版』や『季刊版』」は女性60～69歳（84.3%）で8割半ばと最も多くなっている。また、「越谷市公式ホームページ」は女性30～39歳（45.1%）で4割半ばと多くなっている。

図表 18-2-2 性・年齢別 市政情報を得るために活用したことがあるもの

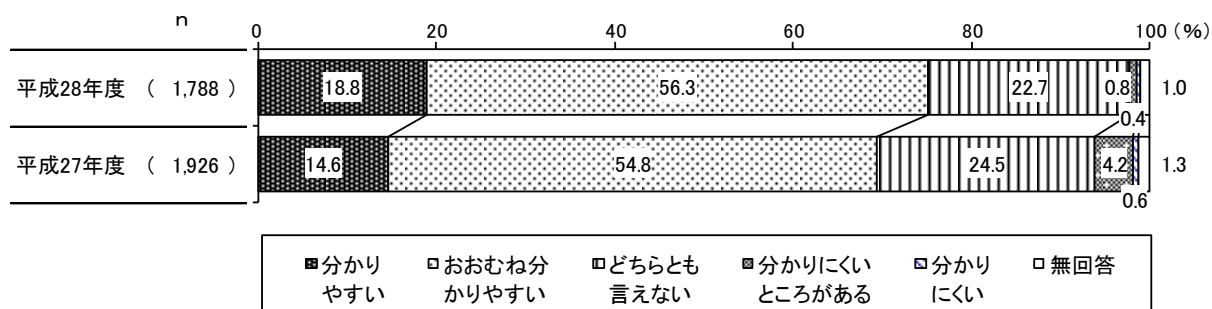
	調査数（人）	「広報こしがや『季刊版』」や「お知らせ版」	テレビ広報番組「いきいき越谷」	越谷市公式ホームページ	越谷市携帯サイト	越谷cityメール配信サービス	越谷市公式ツイッター	越谷市公式LINE（ライン）	無回答
全体	2,500	71.5	7.2	27.4	4.0	8.5	1.4	1.2	14.0
女性全体	1,309	72.7	6.6	25.7	4.8	11.3	1.3	1.4	14.1
18～29歳	118	42.4	2.5	39.0	8.5	12.7	4.2	4.2	26.3
30～39歳	204	63.2	4.9	45.1	12.3	25.5	3.9	2.9	12.3
40～49歳	224	70.1	3.1	40.6	8.0	23.7	0.9	1.8	9.8
50～59歳	190	82.1	7.9	35.8	2.6	9.5	1.1	1.6	7.4
60～69歳	268	84.3	7.8	12.7	1.1	3.0	-	-	10.8
70歳以上	302	76.8	9.9	1.7	0.7	0.7	-	-	20.9
男性全体	1,025	70.2	7.2	30.9	3.3	5.2	1.8	1.0	13.1
18～29歳	97	38.1	5.2	42.3	5.2	2.1	5.2	-	22.7
30～39歳	120	52.5	5.0	35.0	5.8	12.5	5.0	3.3	20.8
40～49歳	206	69.9	5.8	43.2	4.9	7.8	1.9	1.0	9.2
50～59歳	142	68.3	5.6	42.3	2.8	7.7	0.7	0.7	9.2
60～69歳	207	81.2	10.1	26.6	1.4	1.4	0.5	1.0	9.7
70歳以上	245	83.7	7.8	11.0	1.6	1.6	-	-	13.9

(3) 広報こしがや「お知らせ版」の感想

◇『分かりやすい』が7割半ば

問62. 広報こしがや「お知らせ版」について伺います。「お知らせ版」の感想を選んでください。(〇は1つ)

図表 18-3-1 広報こしがや「お知らせ版」の感想

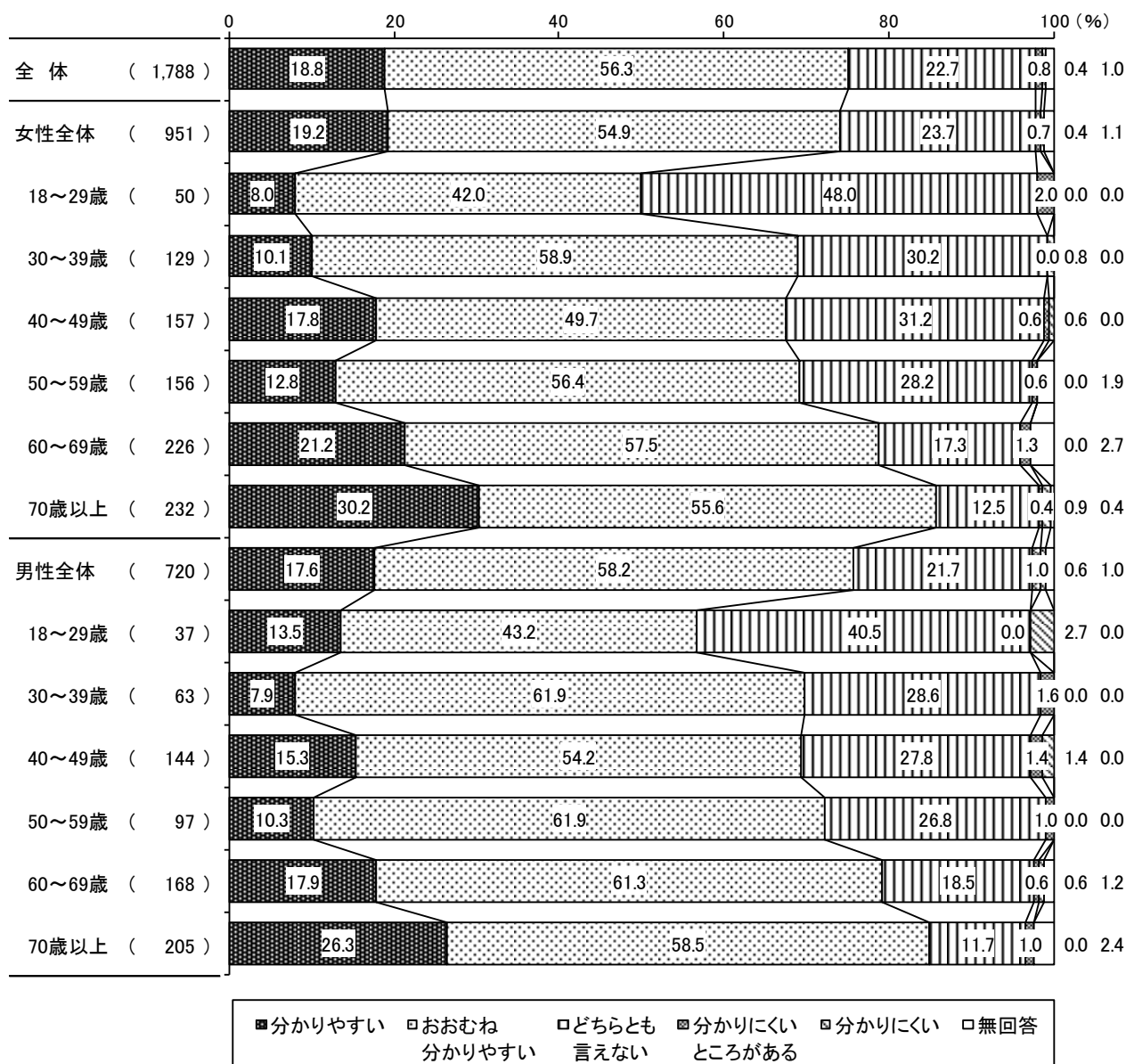


広報こしがや「お知らせ版」の感想については、「分かりやすい」(18.8%)と「おおむね分かりやすい」(56.3%)を合わせた『分かりやすい』(75.1%)が7割半ばとなっている。

前回の調査と比較すると、『分かりやすい』(75.1%)は平成27年度調査(69.4%)と比べ5.7ポイント増加している。一方、「分かりにくいところがある」(0.8%)と「分かりにくい」(0.4%)を合わせた『分かりにくい』(1.2%)は、平成27年度調査(4.8%)と比べ3.6ポイント減少している。

性別でみると、『分かりやすい』は男性（75.8%）が女性（74.1%）より1.7ポイント高くなっている。
 性・年齢別でみると、『分かりやすい』は女性70歳以上（85.8%）、男性70歳以上（84.8%）で8割半ばと多くなっている。

図表 18-3-2 性・年齢別 広報こしがや「お知らせ版」の感想



(4) 広報こしがや「お知らせ版」で分かりにくい点

◇「文字が小さい、細かすぎる」が最も多い

問 62-2. 問 62 で「4. 分かりにくいところがある」「5. 分かりにくい」と答えた方に伺います。
どのような点についてそう感じましたか。

図表 18-4-1 広報こしがや「お知らせ版」で分かりにくい点

内 容	件数
文字が小さい、細かすぎる	6
レイアウトやデザインが見にくい	5
情報量が少ない	3
内容がはっきりしない、バラバラな印象がある	3
同じような記事が多い	2
必要な情報を分かりやすく、不必要な情報が多い	2
身近な情報が少ない	1
文字が多すぎる	1
片手で読めない	1
具体的に	1
箇条書きに	1
意味が分からないことがある	1
宣伝不足	1
年度単位で利用できるようにしてほしい	1
インターネットがあれば紙はいらない	1
計	30

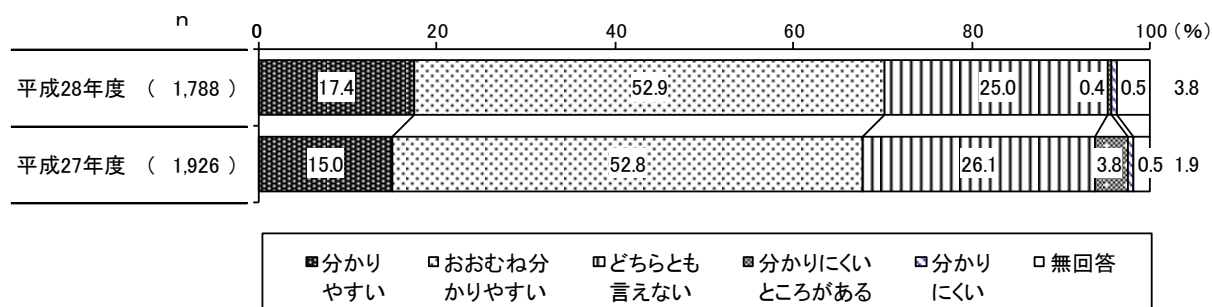
広報こしがや「お知らせ版」が「分かりにくい」と回答した 22 人に、そう感じた点を聞いたところ、回答のあった意見数 30 件のうち「文字が小さい、細かすぎる」(6 件) が最も多く、次いで、「レイアウトやデザインが見にくい」(5 件)、「情報量が少ない」「内容がはっきりしない、バラバラな印象がある」(ともに 3 件) などの順となっている。

(5) 広報こしがや「季刊版」の感想

◇『分かりやすい』が約7割

問63. 広報こしがや「季刊版」について伺います。「季刊版」の感想を選んでください。
 (○は1つ)

図表 18-5-1 広報こしがや「季刊版」の感想



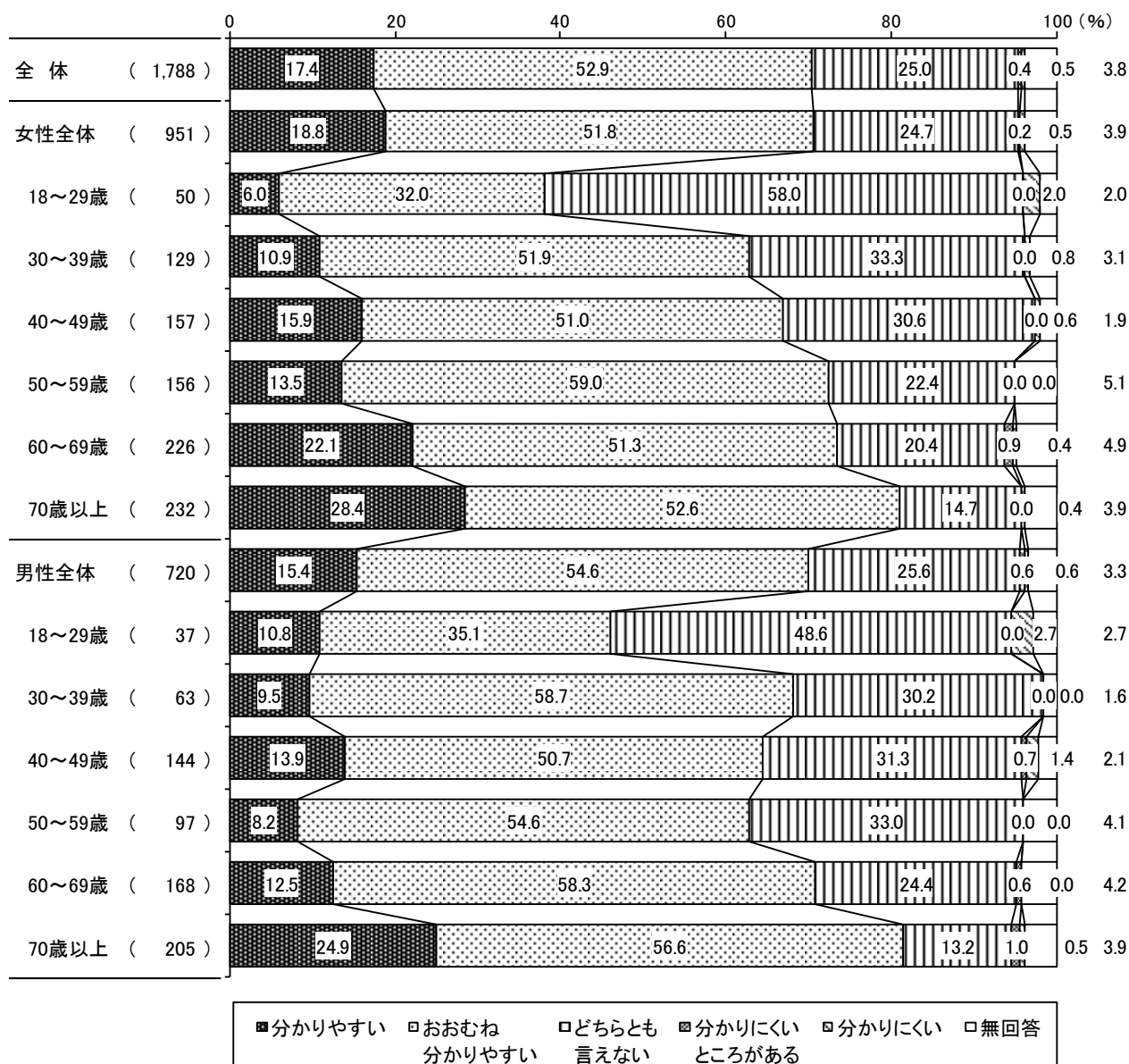
広報こしがや「季刊版」の感想については、「分かりやすい」(17.4%)と「おおむね分かりやすい」(52.9%)を合わせた『分かりやすい』(70.3%)が約7割となっている。

前回の調査と比較すると、『分かりやすい』(70.3%)は平成27年度調査(67.8%)と比べ2.5ポイント増加している。一方、「分かりにくいところがある」(0.4%)と「分かりにくい」(0.5%)を合わせた『分かりにくい』(0.9%)は、平成27年度調査(4.3%)と比べ3.4ポイント減少している。

性別でみると、「分かりやすい」は女性（18.8%）が男性（15.4%）より3.4ポイント高く、「おおむね分かりやすい」は男性（54.6%）が女性（51.8%）より2.8ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、『分かりやすい』は男性70歳以上（81.5%）、女性70歳以上（81.0%）で約8割と多くなっている。

図表 18-5-2 性・年齢別 広報こしがや「季刊版」の感想



(6) 広報こしがや「季刊版」で分かりにくい点

◇「文字が小さい」が最も多い

問 63-2. 問 63 で「4. 分かりにくいところがある」「5. 分かりにくい」と答えた方に伺います。
どのような点についてそう感じましたか。

図表 18-6-1 広報こしがや「季刊版」で分かりにくい点

内 容	件数
文字が小さい	5
情報量が少ない	4
内容がはっきりしない、伝わらない	3
レイアウトが見にくい	2
片手で読めない	1
分かりやすい工夫をする	1
細かい点が分からない	1
読む気にならない	1
インターネットがあれば紙はいらない	1
「お知らせ版」があれば「季刊版」は必要ない	1
その他	1
計	21

広報こしがや「季刊版」が「分かりにくい」と回答した 16 人に、そう感じた点を聞いたところ、回答のあった意見数 21 件のうち「文字が小さい」(5 件) が最も多く、次いで、「情報量が少ない」(4 件)、「内容がはっきりしない、伝わらない」(3 件) などの順となっている。

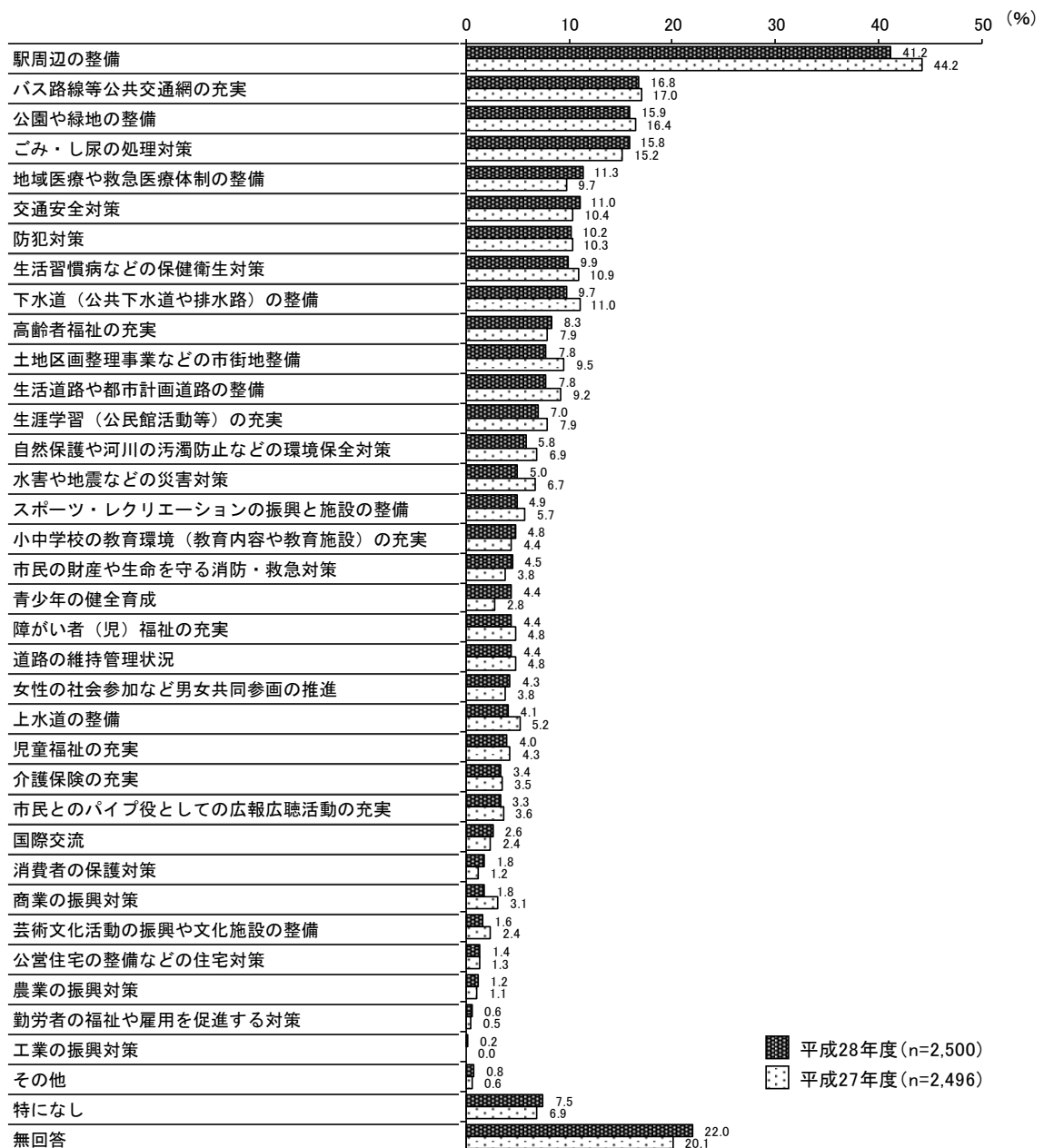
19. 越谷市の施策について

(1) よくなってきたと感じるもの

◇「駅周辺の整備」が約4割

問64. 市では様々な施策を進めていますが、ここ数年のうちで「よくなってきたと感じるもの」また、今後の市政の中で「特に力を入れるべきだと思われるもの」を、次の中からそれぞれ5つまで選び、下の口内に番号をご記入ください。

図表 19-1-1 よくなってきたと感じるもの



市の施策に対して、ここ数年のうちで「よくなってきたと感じるもの」については、「駅周辺の整備」(41.2%)が最も多く、次いで、「バス路線等公共交通網の充実」(16.8%)、「公園や緑地の整備」(15.9%)、「ごみ・し尿の処理対策」(15.8%)、「地域医療や救急医療体制の整備」(11.3%)の順となっている。

前回の調査と比較すると、「駅周辺の整備」(41.2%)は平成27年度調査(44.2%)と比べ3.0ポイント減少している。

性別でみると、2位は女性が「バス路線等公共交通網の充実」(16.9%)、男性が「公園や緑地の整備」(17.1%)、5位は女性が「地域医療や救急医療体制の整備」(11.1%)、男性が「交通安全対策」(12.8%)となっている。

性・年齢別でみると、「駅周辺の整備」はすべての性・年齢で最も多く、特に男性30～39歳(51.7%)、女性50～59歳(50.0%)で5割以上と多くなっている。

図表 19-1-2 性・年齢別 よくなってきたと感じるもの

調査数 (人)	1位	2位	3位	4位	5位
全 体 (2,500)	駅周辺の整備 41.2	バス路線等公共交通網の充実 16.8	公園や緑地の整備 15.9	ごみ・し尿の処理対策 15.8	地域医療や救急医療体制の整備 11.3
女性全体 (1,309)	駅周辺の整備 40.6	バス路線等公共交通網の充実 16.9	公園や緑地の整備 15.7	ごみ・し尿の処理対策 15.4	地域医療や救急医療体制の整備 11.1
18～29歳 (118)	駅周辺の整備 44.1	公園や緑地の整備 17.8	交通安全対策 12.7	バス路線等公共交通網の充実 11.0	防犯対策 10.2
30～39歳 (204)	駅周辺の整備 41.2	公園や緑地の整備 19.1	地域医療や救急医療体制の整備 11.8	バス路線等公共交通網の充実 10.8	交通安全対策 小中学校の教育環境(教育内容 や教育施設)の充実 8.8
40～49歳 (224)	駅周辺の整備 42.9	バス路線等公共交通網の充実 16.5	防犯対策 11.6	公園や緑地の整備 11.2	地域医療や救急医療体制の整備 10.7
50～59歳 (190)	駅周辺の整備 50.0	バス路線等公共交通網の充実 19.5	公園や緑地の整備 18.9	地域医療や救急医療体制の整備 15.8	ごみ・し尿の処理対策 15.3
60～69歳 (268)	駅周辺の整備 41.8	ごみ・し尿の処理対策 22.8	バス路線等公共交通網の充実 21.6	生活習慣病などの保健衛生対策 19.4	公園や緑地の整備 17.9
70歳以上 (302)	駅周辺の整備 29.8	ごみ・し尿の処理対策 24.8	バス路線等公共交通網の充実 17.9	生活習慣病などの保健衛生対策 14.9	高齢者福祉の充実 13.6
男性全体 (1,025)	駅周辺の整備 43.8	公園や緑地の整備 17.1	バス路線等公共交通網の充実 16.0	ごみ・し尿の処理対策 15.4	交通安全対策 12.8
18～29歳 (97)	駅周辺の整備 46.4	公園や緑地の整備 21.6	交通安全対策 17.5	防犯対策 ごみ・し尿の処理対策	13.4
30～39歳 (120)	駅周辺の整備 51.7	公園や緑地の整備 17.5	バス路線等公共交通網の充実 14.2	防犯対策 土地区画整理事業などの市街地整備 生活道路や都市計画道路の整備 下水道(公共下水道や排水路)の整備 ごみ・し尿の処理対策	10.8
40～49歳 (206)	駅周辺の整備 48.1	公園や緑地の整備 19.4	土地区画整理事業などの市街地 整備 16.0	生活道路や都市計画道路の整備 13.6	バス路線等公共交通網の充実 11.7
50～59歳 (142)	駅周辺の整備 40.1	バス路線等公共交通網の充実 16.2	公園や緑地の整備 12.7	ごみ・し尿の処理対策 12.0	交通安全対策 地域医療や救急医療体制の整備 高齢者福祉の充実 10.6
60～69歳 (207)	駅周辺の整備 44.4	バス路線等公共交通網の充実 20.8	ごみ・し尿の処理対策 17.4	地域医療や救急医療体制の整備 公園や緑地の整備 下水道(公共下水道や排水路)の整備	16.4
70歳以上 (245)	駅周辺の整備 36.7	ごみ・し尿の処理対策 22.9	バス路線等公共交通網の充実 19.2	交通安全対策 18.8	防犯対策 下水道(公共下水道や排水路) の整備 16.7

居住地区別にみると、「駅周辺の整備」はすべての地区で最も多く、蒲生地区（46.2%）、越ヶ谷地区（45.0%）で4割半ばと多くなっている。

図表 19-1-3 居住地区別 よくなってきたと感じるもの

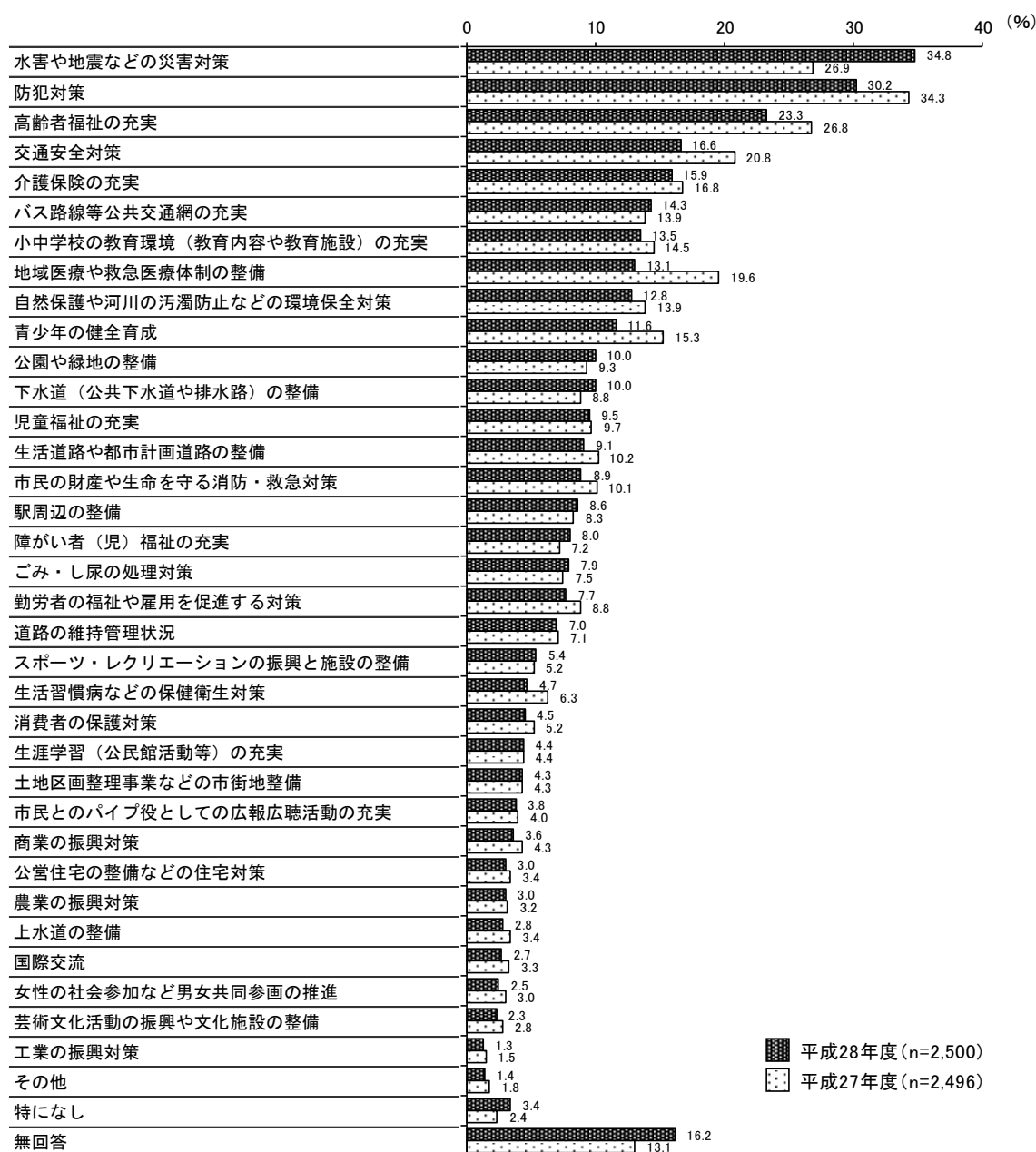
調査数 (人)	1位	2位	3位	4位	5位
全 体 (2,500)	駅周辺の整備 41.2	バス路線等公共交通網の充実 16.8	公園や緑地の整備 15.9	ごみ・し尿の処理対策 15.8	地域医療や救急医療体制の整備 11.3
桜井地区 (263)	駅周辺の整備 35.0	バス路線等公共交通網の充実 17.9	ごみ・し尿の処理対策 16.0	公園や緑地の整備 15.6	防犯対策 12.2
新方地区 (115)	駅周辺の整備 38.3	バス路線等公共交通網の充実 32.2	ごみ・し尿の処理対策 26.1	生活習慣病などの保健衛生対策 16.5	公園や緑地の整備 15.7
増林地区 (172)	駅周辺の整備 41.9	バス路線等公共交通網の充実 25.6	公園や緑地の整備 21.5	ごみ・し尿の処理対策 15.7	地域医療や救急医療体制の整備 13.4
大袋地区 (376)	駅周辺の整備 38.8	公園や緑地の整備 18.1	ごみ・し尿の処理対策 15.7	交通安全対策 12.8	地域医療や救急医療体制の整備 10.4
荻島地区 (88)	駅周辺の整備 43.2	ごみ・し尿の処理対策 19.3	高齢者福祉の充実 13.6	生活習慣病などの保健衛生対策 地域医療や救急医療体制の整備	11.4
出羽地区 (200)	駅周辺の整備 42.5	地域医療や救急医療体制の整備 15.5	交通安全対策 バス路線等公共交通網の充実	15.0	ごみ・し尿の処理対策 13.5
蒲生地区 (290)	駅周辺の整備 46.2	バス路線等公共交通網の充実 ごみ・し尿の処理対策	15.9	公園や緑地の整備 14.5	交通安全対策 12.8
川柳地区 (54)	駅周辺の整備 42.6	ごみ・し尿の処理対策 14.8	高齢者福祉の充実 バス路線等公共交通網の充実 公園や緑地の整備		13.0
大相模地区 (186)	駅周辺の整備 40.9	公園や緑地の整備 19.4	土地区画整理事業などの市街地 整備 14.0	ごみ・し尿の処理対策 12.4	生活習慣病などの保健衛生対策 バス路線等公共交通網の充実 10.8
大沢地区 (165)	駅周辺の整備 42.4	バス路線等公共交通網の充実 22.4	公園や緑地の整備 ごみ・し尿の処理対策	17.6	地域医療や救急医療体制の整備 16.4
北越谷地区 (88)	駅周辺の整備 43.2	ごみ・し尿の処理対策 20.5	公園や緑地の整備 19.3	地域医療や救急医療体制の整備 15.9	防犯対策 生活習慣病などの保健衛生対策 12.5
越ヶ谷地区 (262)	駅周辺の整備 45.0	バス路線等公共交通網の充実 18.7	ごみ・し尿の処理対策 15.3	公園や緑地の整備 14.5	交通安全対策 13.0
南越谷地区 (230)	駅周辺の整備 38.7	バス路線等公共交通網の充実 20.4	公園や緑地の整備 13.5	ごみ・し尿の処理対策 12.2	地域医療や救急医療体制の整備 10.4

(2) 特に力を入れるべきだと思われるもの

◇「水害や地震などの災害対策」が3割半ば

問64. 市では様々な施策を進めています、ここ数年のうちで「よくなってきたと感じるもの」また、今後の市政の中で「特に力を入れるべきだと思われるもの」を、次の中からそれぞれ5つまで選び、下の口内に番号をご記入ください。

図表 19-2-1 特に力を入れるべきだと思われるもの



市の施策に対して、今後の市政の中で「特に力を入れるべきだと思われるもの」については、「水害や地震などの災害対策」(34.8%)が最も多く、次いで、「防犯対策」(30.2%)、「高齢者福祉の充実」(23.3%)、「交通安全対策」(16.6%)、「介護保険の充実」(15.9%)の順となっている。

前回の調査と比較すると、「水害や地震などの災害対策」(34.8%)は平成27年度調査(26.9%)と比べ7.9ポイント増加している。

性別でみると、4位は女性が「介護保険の充実」(17.0%)、男性が「交通安全対策」(18.9%)、5位は女性が「バス路線等公共交通網の充実」(16.1%)、男性が「介護保険の充実」「自然保護や河川の汚濁防止などの環境保全対策」(ともに14.5%)となっている。

性・年齢別でみると、「水害や地震などの災害対策」は男性40～49歳(43.2%)、女性50～59歳(40.0%)で4割以上と多くなっている。また、「防犯対策」でも男性40～49歳(39.8%)が約4割と多くなっている。

図表 19-2-2 性・年齢別 特に力を入れるべきだと思われるもの

調査数 (人)	1位	2位	3位	4位	5位
全 体 (2,500)	水害や地震などの災害対策 34.8	防犯対策 30.2	高齢者福祉の充実 23.3	交通安全対策 16.6	介護保険の充実 15.9
女性全体 (1,309)	水害や地震などの災害対策 35.8	防犯対策 29.7	高齢者福祉の充実 22.5	介護保険の充実 17.0	バス路線等公共交通網の充実 16.1
18～29歳 (118)	水害や地震などの災害対策 33.1	防犯対策 30.5	交通安全対策 18.6	高齢者福祉の充実 16.1	バス路線等公共交通網の充実 14.4
30～39歳 (204)	水害や地震などの災害対策 32.8	防犯対策 30.9	小中学校の教育環境(教育内容 や教育施設)の充実 28.9	バス路線等公共交通網の充実 19.6	公園や緑地の整備 17.2
40～49歳 (224)	防犯対策 36.6	水害や地震などの災害対策 34.4	小中学校の教育環境(教育内容 や教育施設)の充実 29.9	バス路線等公共交通網の充実 21.9	交通安全対策 21.4
50～59歳 (190)	水害や地震などの災害対策 40.0	防犯対策 32.6	高齢者福祉の充実 26.3	介護保険の充実 22.6	交通安全対策 地域医療や救急医療体制の整備 17.4
60～69歳 (268)	水害や地震などの災害対策 38.1	防犯対策 28.4	高齢者福祉の充実 27.2	地域医療や救急医療体制の整備 19.4	介護保険の充実 17.5
70歳以上 (302)	水害や地震などの災害対策 35.1	高齢者福祉の充実 27.8	防犯対策 22.8	介護保険の充実 21.5	自然保護や河川の汚濁防止など の環境保全対策 13.6
男性全体 (1,025)	水害や地震などの災害対策 34.8	防犯対策 31.5	高齢者福祉の充実 24.5	交通安全対策 18.9	介護保険の充実 自然保護や河川の汚濁防止など の環境保全対策 14.5
18～29歳 (97)	防犯対策 28.9	水害や地震などの災害対策 26.8	交通安全対策 23.7	バス路線等公共交通網の充実 自然保護や河川の汚濁防止など の環境保全対策 18.6	
30～39歳 (120)	防犯対策 34.2	水害や地震などの災害対策 28.3	交通安全対策 25.8	小中学校の教育環境(教育内容 や教育施設)の充実 19.2	青少年の健全育成 18.3
40～49歳 (206)	水害や地震などの災害対策 43.2	防犯対策 39.8	高齢者福祉の充実 20.4	交通安全対策 18.9	小中学校の教育環境(教育内容 や教育施設)の充実 18.0
50～59歳 (142)	水害や地震などの災害対策 38.0	防犯対策 34.5	高齢者福祉の充実 23.9	介護保険の充実 22.5	交通安全対策 20.4
60～69歳 (207)	防犯対策 32.4	水害や地震などの災害対策 31.9	高齢者福祉の充実 29.5	介護保険の充実 17.9	交通安全対策 16.9
70歳以上 (245)	水害や地震などの災害対策 35.5	高齢者福祉の充実 33.9	防犯対策 20.4	自然保護や河川の汚濁防止など の環境保全対策 15.5	交通安全対策 15.1

居住地区別にみると、南越谷地区では「防犯対策」(40.4%)が最も多く、川柳地区では「自然保護や河川の汚濁防止などの環境保全対策」(29.6%)が最も多いが、それ以外の地区はすべて「水害や地震などの災害対策」が最も多くなっている。

図表 19-2-3 居住地区別 特に力を入れるべきだと思われるもの

調査数 (人)	1位	2位	3位	4位	5位
全 体 (2,500)	水害や地震などの災害対策 34.8	防犯対策 30.2	高齢者福祉の充実 23.3	交通安全対策 16.6	介護保険の充実 15.9
桜井地区 (263)	水害や地震などの災害対策 36.1	防犯対策 30.8	高齢者福祉の充実 25.1	交通安全対策 介護保険の充実 16.3	
新方地区 (115)	水害や地震などの災害対策 50.4	高齢者福祉の充実 25.2	防犯対策 23.5	介護保険の充実 22.6	自然保護や河川の汚濁防止などの環境保全対策 19.1
増林地区 (172)	水害や地震などの災害対策 34.9	防犯対策 26.7	高齢者福祉の充実 20.3	交通安全対策 介護保険の充実 16.3	
大袋地区 (376)	水害や地震などの災害対策 34.8	防犯対策 28.2	高齢者福祉の充実 20.2	交通安全対策 17.3	バス路線等公共交通網の充実 17.0
荻島地区 (88)	水害や地震などの災害対策 42.0	防犯対策 31.8	高齢者福祉の充実 25.0	バス路線等公共交通網の充実 19.3	交通安全対策 18.2
出羽地区 (200)	水害や地震などの災害対策 33.0	防犯対策 30.0	交通安全対策 バス路線等公共交通網の充実 18.5		高齢者福祉の充実 16.5
蒲生地区 (290)	水害や地震などの災害対策 35.2	防犯対策 33.4	高齢者福祉の充実 23.8	交通安全対策 16.9	介護保険の充実 15.9
川柳地区 (54)	自然保護や河川の汚濁防止などの環境保全対策 29.6	水害や地震などの災害対策 24.1	バス路線等公共交通網の充実 22.2	防犯対策 下水道（公共下水道や排水路）の整備 20.4	
大相模地区 (186)	水害や地震などの災害対策 33.3	防犯対策 28.0	高齢者福祉の充実 24.2	交通安全対策 21.0	バス路線等公共交通網の充実 20.4
大沢地区 (165)	水害や地震などの災害対策 38.8	防犯対策 33.9	高齢者福祉の充実 29.7	介護保険の充実 18.8	地域医療や救急医療体制の整備 17.0
北越谷地区 (88)	水害や地震などの災害対策 37.5	防犯対策 30.7	高齢者福祉の充実 28.4	介護保険の充実 23.9	交通安全対策 自然保護や河川の汚濁防止など 15.9
越ヶ谷地区 (262)	水害や地震などの災害対策 28.2	高齢者福祉の充実 27.9	防犯対策 26.7	介護保険の充実 16.8	小中学校の教育環境（教育内容や教育施設）の充実 15.3
南越谷地区 (230)	防犯対策 40.4	水害や地震などの災害対策 31.3	高齢者福祉の充実 22.6	交通安全対策 17.4	青少年の健全育成 14.8

(3) 自由回答

問65. 問64で選ばれた「特に力を入れるべきだと思われるもの」について、どのような対応（対策）を望まれますか。また、市政に関するご意見やご要望など、自由にご記入ください。

市政に関する意見や要望の回答件数は1,066件（意見等合計2,107件）であった。
これを下記のとおり「第4次越谷市総合振興計画後期基本計画」の項目ごとに整理した。

図表 19-3-1 自由回答

		件数
大綱1. 市民とつくる住みよい自治のまちづくり	市民参加と協働による市政を進める	67
	互いに認め合い人権を尊重する社会づくりを進める	17
	健全で開かれた都市経営を進める	98
大綱2. だれもが健康で生きがいをもって安心して暮らせるまちづくり	ともに支え合いながら暮らせる地域をつくる	17
	予防と助け合いのもとで、充実した地域医療体制をつくる	84
	伸びやかに子どもが育ち、次の世代につなげる、子育てしやすいまちをつくる	111
	障がい者（児）が生活しやすい環境をつくる	65
	高齢者が敬愛され生きがいをもてるまちをつくる	150
	市民生活を支える支援制度や体制の充実を図る	3
大綱3. 自然と調和し質の高い都市機能を備えたまちづくり	自然と調和した安全で活気ある都市をつくる	135
	越谷らしい景観をつくる	8
	地域を支える道路・交通環境をつくる	235
	水と緑を活かしたやすらぎのある空間をつくる	100
	安全で良好な水環境をつくる	198
	安心して住むことができる住宅環境をつくる	14
大綱4. 人や環境にやさしく安全・安心な生活を育むまちづくり	環境にやさしい持続可能な社会をつくる	99
	安全・安心に暮らせるまちにする	361
	生命・身体・財産を守る消防体制を整える	32
大綱5. 安心して働ける環境を育む持続的で躍動するまちづくり	地域社会を支える持続性のある産業を育成し、活性化を図る	8
	にぎわいと活力を創出する商業・観光の振興を図る	35
	地域社会と融合した持続的経営力を持つ工業を育成し、活性化を図る	2
	持続的に農業が行われる環境をつくる	10
	地域に根ざした雇用対策を拡充し、働きやすい環境をつくる	23
大綱6. いきいきとだれもが学べる心豊かなまちづくり	生きる力を育む学校教育を進める	107
	生涯にわたる学びを充実し、地域の文化を創造する	19
	生涯にわたりスポーツ・レクリエーションに親しめる環境をつくる	31
その他		78

総計 2,107

大綱	区分	内容	件数
1	市民参加と協働による市政を進める	市政への市民参加を進める	9
		市民との協働のまちづくりを進める	5
		情報を提供し、市民との共有を図る	53
		計	67
	互いに認め合い人権を尊重する社会づくりを進める	相手を思いやる人権意識を高める	3
		人権教育を進める	0
		男女共同参画社会を進める	5
		多文化共生社会の形成と国際交流を進める	9
		平和への意識を高める	0
	計	17	
	健全で開かれた都市経営を進める	効率的かつ効果的な行政運営を進める	38
		行財政運営の健全化を進める	58
		都市間の連携強化を進める	2
		計	98

大綱	区分	内容	件数
2	ともに支え合いながら暮らせる地域をつくる	地域福祉体制の充実を図る	17
		計	17
	予防と助け合いのもとで、充実した地域医療体制をつくる	地域医療体制の充実を図る	64
		市民の健康づくりを推進する	14
		保健衛生体制の充実を図る	6
		計	84
	伸びやかに子どもが育ち、次の世代につなげる、子育てしやすいまちをつくる	地域の中で子育てを支える	19
		地域の中で子どもが自ら育つ環境をつくる	56
		次世代を担う子どもたちのために育てやすい環境をつくる	36
		計	111
	障がい者（児）が生活しやすい環境をつくる	障がいの早期発見と療育環境を整える	13
		在宅サービスを受ける人、支える人のすべてを支援し、自立できる社会をつくる	26
		地域生活を支え社会参加を促進する	15
		円滑な移動を可能とする人にやさしい環境をつくる	11
		計	65
	高齢者が敬愛され生きがいをもてるまちをつくる	生きがいづくりを支援する	4
		健康づくりと介護予防を進める	7
		介護保険制度の充実を図る	27
		高齢者を支える地域をつくる	112
計		150	
市民生活を支える支援制度や体制の充実を図る	生活に困窮している方へのサポート体制の充実に努める	2	
	医療保険制度の充実を図る	1	
	安定した生活を送るため年金制度を支援する	0	
	計	3	

大綱	区分	内容	件数
3	自然と調和した安全で活気ある都市をつくる	総合的な土地利用を進める	40
		活気ある市街地をつくる	67
		災害に強い都市をつくる	28
		計	135
	越谷らしい景観をつくる	景観に配慮したまちづくりを推進する	6
		協働による景観創造の仕組みをつくる	2
		計	8
	地域を支える道路・交通環境をつくる	道路の整備を図る	116
		道路施設等の適正管理を行う	8
		公共交通網の充実を図る	111
		計	235
	水と緑を活かしたやすらぎのある空間をつくる	身近な緑を守り育てる	14
		だれもが利用しやすく安全な公園をつくる	56
		水辺を活かした快適な空間をつくる	30
		計	100
	安全で良好な水環境をつくる	雨水災害の対策を進める	141
		水質を保全し快適な生活環境をつくる	53
		安全な水を安定して確保する	4
		計	198
	安心して住むことができる住宅環境をつくる	安心して暮らせる住まいづくりを支援する	1
住宅ストックの有効活用と快適な住宅環境の実現を図る		13	
計		14	

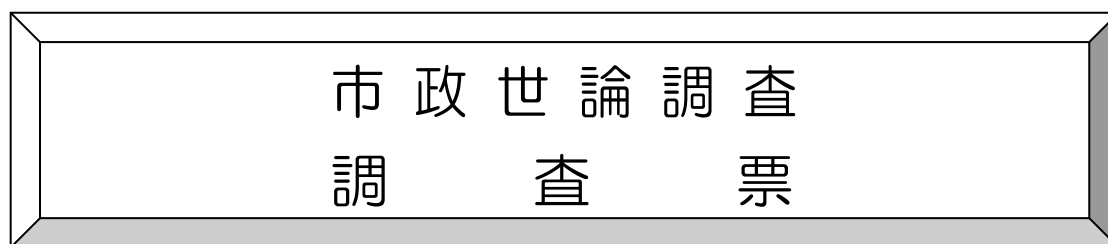
大綱	区分	内容	件数
4	環境にやさしい持続可能な社会をつくる	環境に配慮した仕組みをつくる	43
		廃棄物の減量と適正な処理を進める	38
		やすらぎとうるおいのある環境を守り育てる	18
		計	99
	安全・安心に暮らせるまちにする	危機管理対策の充実を図る	14
		災害対策を進める	105
		地域の防犯力を高める	171
		交通事故防止対策を進める	66
		消費者の自立を支援し、消費者意識の高揚を図る	5
		計	361
	生命・身体・財産を守る消防体制を整える	火災を予防する活動を展開する	2
		消防力の充実・強化を図る	1
		災害への対応力を強化する	0
		救急体制を充実させる	29
		消防団の充実・強化を図る	0
		計	32

大綱	区分	内容	件数
5	地域社会を支える持続性のある産業を育成し、活性化を図る	既存産業の活性化を図る	2
		新たな産業を育成する	6
		計	8
	にぎわいと活力を創出する商業・観光の振興を図る	魅力ある商店街の振興を図る	20
		にぎわいを生み出す観光を進める	15
		計	35
	地域社会と融合した持続的経営力を持つ工業を育成し、活性化を図る	魅力あるものづくりを育て継承する	2
		計	2
	持続的に農業が行われる環境をつくる	首都近郊という地理的優位性を活かした都市農業の展開を支援する	5
		豊かな実りを生む農業の基盤を整える	2
		持続的に農業経営を担う人材を育成する	1
		市民が農業を支える仕組みをつくる	2
		計	10
地域に根ざした雇用対策を拡充し、働きやすい環境をつくる	雇用対策の充実を図る	21	
	勤労者福利厚生を支援する	2	
	計	23	

大綱	区分	内容	件数
6	生きる力を育む学校教育を進める	自立して生きていくための基礎となる確かな学力を育む	24
		自立して生きていくための基礎となる健康な心と体を育む	16
		信頼される、質の高い教育環境をつくる	67
		計	107
	生涯にわたる学びを充実し、地域の文化を創造する	生涯を通じた学習活動を推進する	5
		芸術文化活動を推進し、伝統文化を継承する	14
		計	19
	生涯にわたりスポーツ・レクリエーションに親しめる環境をつくる	健康ライフスタイルづくりを支援する	12
		スポーツ・レクリエーション活動を支援する体制の充実を図る	0
		スポーツ・レクリエーション施設の充実を図る	19
		計	31

大綱	区分	内容	件数
その他		アンケートについての意見・要望・感謝	26
		市政への激励	4
		市政へ関心を持つとうという自覚の再認識	5
		住みよい街でうれしい・感謝	14
		その他	29
		計	78

第5章 調査票



平成28年6月

●ご記入にあたってのお願い

1. あて名のご本人がお答えください。(住所、氏名を記入する必要はありません。)

ご本人によるご記入が困難な場合には、身近な方による代筆をお願いします。

2. ご記入は鉛筆、ボールペン、万年筆などで、黒または青色でお書きください。

3. 最初から1問ずつ、該当する全ての質問にお答えください。

お答えは、あなたのお考えに最も近いと思われる回答を設問文中に示された数の範囲で選び、その番号に○をつけるか番号を□の中にご記入ください。

4. 「その他〔 〕」に○をつけたときは、〔 〕内に具体的な内容をご記入ください。

ご記入いただきましたこの調査票は、同封の返信用封筒に入れて7月8日(金)までに、郵便ポストにご投函ください。(切手は不要です。)

この調査に関してのお問い合わせは、下記までお願いします。

越谷市 市長公室 広報広聴課

電話 048-963-9117(直通)

FAX 048-965-0943

あなたの暮らしや居住意向についておたずねします。

問8. あなたは現在の暮らし向きについて、どのように思っていますか。(〇は1つ)

1. 十分満足している	4. まだまだ不満だ
2. 十分とはいえないが、一応満足している	5. 極めて不満だ
3. ふつう	6. わからない

問9. あなたは今後も、現在のところに住み続けたいと思いますか。(〇は1つ)

1. ずっと住み続けたい	4. 引っ越したい
2. どちらかといえば住み続けたい	5. わからない
3. どちらかといえば引っ越したい	

問9-2. 問9で「3」または「4」と答えた方(引っ越したいと答えた方)に伺います。引っ越したいと思われる主な理由は何ですか。(〇は1つ)

1. 商業や事業に不利なので	8. 買い物が不便なので
2. 交通の便が悪いので	9. 医療機関が近くにない
3. 現在、住んでいる住宅が狭いので	10. このまちに愛着がないから
4. 付近の生活環境が悪いので	11. 地域になじめないから
5. 仕事の関係で	12. 家族の介護の関係で
6. 賃貸住宅に住んでおり、持ち家がほしいため	13. その他〔 〕
7. こどもの教育のため	14. 特に理由はない

男女共同参画についておたずねします。

問10. 次に掲げる「ことば」や「ことがら」を知っていますか。

(ア～ケ それぞれ横に〇は1つずつ)

	知っている	聞いたことはあるが、内容は知らない	知らない
ア 越谷市男女共同参画推進条例	1	2	3
イ 第3次越谷市男女共同参画計画	1	2	3
ウ 越谷市男女共同参画支援センター「ほっと越谷」	1	2	3
エ 越谷市男女共同参画苦情処理委員	1	2	3
オ 男女共同参画社会	1	2	3
カ ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)	1	2	3
キ DV(ドメスティック・バイオレンス)	1	2	3
ク デートDV	1	2	3
ケ LGBT(同性愛者、両性愛者、心身の性別が一致しない者)	1	2	3

問11. 「男は仕事、女は家庭」という考え方がありますが、あなたはどのように思いますか。(〇は1つ)

1. 賛成	4. 反対
2. どちらかといえば賛成	5. わからない
3. どちらかといえば反対	

問 12. 次の分野で、男女は平等になっていると思いますか。

(ア～オ それぞれ横に○は1つずつ)	っ 平 等 に な っ て い る	い っ 平 等 に な っ て い な い	い も い え な ど ち ら と	い わ か ら な い
	ア 家庭の中で	1	2	3
イ 教育の中で	1	2	3	4
ウ 職場の中で	1	2	3	4
エ 社会通念や風潮において	1	2	3	4
オ 法律や制度上で	1	2	3	4

問 13. 女性の働き方について、あなたはどのように思いますか。「理想」と「現実（あなた自身やあなたの家庭の状況）」について、次の中からそれぞれ**1つずつ**選んでください。

理想	現実
----	----

1. 結婚や出産にかかわらず仕事を続ける（ている・ていた）
 2. 子育ての時期だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続ける（ている・ていた）
 3. 子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける（ている・ていた）
 4. 子どもができるまで仕事をもち、子どもができたから家事や子育てに専念する（している・していた）
 5. 結婚するまで仕事をもち、結婚後は家事に専念する（している・していた）
 6. 仕事はもたない（もっていない）
 7. その他 []
 8. わからない

問 14. 仕事をしていく上で、能力に男女差があると思いますか（身体的な差を除く）。(○は1つ)

1. あると思う	2. そうは思わない	3. わからない
----------	------------	----------

市民活動についておたずねします。

問 15. 市民活動に参加した、または参加したいと思ったことはありますか。(○は1つ)

1. 参加したことがある
 2. 参加したいと思ったことがあるが、参加しなかった
 3. 参加したいと思わなかった

問 15-2. 問 15 で「2」（参加したいと思ったことがあるが、参加しなかった）、「3」（参加したいと思わなかった）と答えた方に伺います。参加しなかった、または参加したいと思わなかった理由は何ですか。(○は1つ)

- | | |
|----------------------|-----------------------|
| 1. 時間がなかったから | 4. どこで情報を得るか分からなかったから |
| 2. 関心がなかったから | 5. その他 |
| 3. 参加したいような活動がなかったから | [] |

問 16. 市民活動団体について知っていますか。(○は1つ)

1. よく知っている	2. 聞いたことはある	3. 知らない
------------	-------------	---------

問 17. 市民活動団体に期待することはどんなことですか。(複数回答可)

- | | |
|---------------------------|----------|
| 1. 柔軟な、またはスピーディーな対応が期待できる | 4. わからない |
| 2. 身近な問題を、市民自身で解決する | 5. その他 |
| 3. 行政が取り組まない問題に取り組む | { } |

問 18. 市民活動支援センターについて知っていますか。(〇は1つ)

- | | | |
|------------|-------------|---------|
| 1. よく知っている | 2. 聞いたことはある | 3. 知らない |
|------------|-------------|---------|

問 19. あなたが市民活動団体に特に望むことは何ですか。(複数回答可)

- | | |
|-----------------|---------------|
| 1. 市民活動のための場の提供 | 4. 市民活動に関する相談 |
| 2. 市民活動に関する情報提供 | 5. その他 |
| 3. 市民活動の交流促進 | { } |

路上喫煙についておたずねします。

問 20. あなたは、タバコを吸いますか。(〇は1つ)

- | | |
|-------|---------|
| 1. 吸う | 2. 吸わない |
|-------|---------|

問 21. 越谷市では、喫煙マナーと環境美化に対する意識向上を図るため、平成20年4月より「越谷市路上喫煙の防止に関する条例」を施行していますが、ご存知ですか。(〇は1つ)

- | | |
|--------------------|-------------|
| 1. よく知っている | 3. 聞いたことがある |
| 2. 内容についてある程度知っている | 4. 知らない |

問 22. 上記の条例により、市では、現在、通勤や通学等で往来の激しいJR武蔵野線南越谷駅と東武伊勢崎線新越谷駅周辺を「路上喫煙禁止区域」に指定していますが、ご存知ですか。(〇は1つ)

- | | |
|--------------------|---------|
| 1. 区域の範囲まで含めて知っている | 3. 知らない |
| 2. 禁止区域があるのは知っている | |

問 23. 路上喫煙の防止のために必要な取り組みは、何だと思えますか。自由にご記入ください。

(例：喫煙者のマナー・モラルの向上に向けての啓発活動、路上喫煙禁止区域の指定など)

--

在宅医療・介護ニーズについておたずねします。

問 24. あなた自身、介護が必要になった場合の、介護の希望を伺います。(〇は1つ)

- | |
|--|
| 1. 自宅で家族中心に介護を受けたい |
| 2. 自宅で家族の介護と外部の介護サービスを組み合わせて介護を受けたい |
| 3. 家族に依存せずに生活できるような介護サービスがあれば、自宅で介護を受けたい |
| 4. 有料老人ホームやケア付き高齢者住宅に住み替えて介護を受けたい |
| 5. 特別養護老人ホームなどの施設で介護を受けたい |
| 6. 医療機関に入院して介護を受けたい |
| 7. その他 { } |

問 25. あなたの両親などの家族について、介護が必要になった場合、何を望みますか。(〇は1つ)

1. 自宅で家族中心に介護を受けさせたい 2. 自宅で家族の介護と外部の介護サービスを組み合わせて介護を受けさせたい 3. 家族に依存せずに生活できるような介護サービスがあれば、自宅で介護を受けさせたい 4. 有料老人ホームやケア付き高齢者住宅に住み替えて介護を受けさせたい 5. 特別養護老人ホームなどの施設で介護を受けさせたい 6. 医療機関に入院して介護を受けさせたい 7. その他 []
--

問 26. あなた自身が、治る見込みがなく死期が迫っている（6か月程度あるいはそれより短い期間を想定）と告げられた場合、療養生活をどこで送りたいですか。(〇は1つ)

1. なるべく早く今まで通った（又は入院中の）医療機関に入院したい 2. なるべく早く緩和ケア病棟（終末期における症状を和らげることを目的とした病棟）に入院したい 3. 自宅で療養して必要になればそれまでの医療機関に入院したい 4. 自宅で療養して必要になれば緩和ケア病棟に入院したい 5. 自宅で最後まで療養したい 6. 専門的医療機関（がんセンターなど）で積極的に治療を受けたい 7. 老人ホームに入所したい 8. その他 [] 9. わからない
--

市内の公共交通についておたずねします。

問 27. あなたは、公共交通（鉄道・バス・タクシー）を利用していますか。(それぞれ〇は1つずつ)

鉄道	バス	タクシー
1. 常に利用している	1. 常に利用している	1. 常に利用している
2. よく利用している	2. よく利用している	2. よく利用している
3. ときどき利用している	3. ときどき利用している	3. ときどき利用している
4. たまに利用している	4. たまに利用している	4. たまに利用している
5. 全く利用しない	5. 全く利用しない	5. 全く利用しない

問 28. あなたは、市内の公共交通（鉄道・バス・タクシー）にどの程度満足していますか。

(それぞれ〇は1つずつ)

鉄道	バス	タクシー
1. とても満足している	1. とても満足している	1. とても満足している
2. やや満足している	2. やや満足している	2. やや満足している
3. やや不満である	3. やや不満である	3. やや不満である
4. とても不満である	4. とても不満である	4. とても不満である

起業についておたずねします。

問 29. あなたは、起業したいと考えていますか（自宅での起業も含む）。（〇は1つ）

1. 起業する予定である	3. 起業したいと考えていない
2. 機会があれば起業したい	4. 既に事業を行っている

問 29-2. 問 29 で「1. 起業する予定である」「2. 機会があれば起業したい」と答えた方に伺います。どのような支援を市に期待しますか。（複数回答可）

1. 事業所（オフィス）を紹介してほしい	5. 起業に伴う各種手続きを教えてほしい
2. 事業計画の策定の相談を受け付けてほしい	6. 販路開拓の支援をしてほしい
3. 起業準備のためのセミナーを開催してほしい	7. 従業員等の人材を紹介してほしい
4. 起業のための資金調達（融資・補助金等）の支援をしてほしい	8. 実際に起業した人の意見を聞いてみたい
	9. その他 []

問 29-3. 問 29 で「3. 起業したいと考えていない」と答えた方に伺います。起業したいと考えていない理由は何ですか。（複数回答可）

1. 現状に満足している
2. 収入が減少したり、生活サイクルが不安定になったりしそう
3. 事業に失敗したときのリスク（負債の返済、再就職等）が大きい
4. 家族の理解、協力が得られない
5. プライベートの時間がなくなる
6. 起業するための能力、知識、経験がない
7. 起業することに現実味がない、起業したいと考えたことがない
8. その他 []

越谷市の伝統的手工芸品についておたずねします。

問 30. 越谷市には以下のような伝統的手工芸品があることを知っていますか。また、以下の伝統的手工芸品のうち、買ったことがあるものはありますか。

（ア～オ それぞれ横に〇は1つずつ）

	買ったことがある	知っているが買ったことはない	知らない
ア 越谷手焼きせんべい	1	2	3
イ 越谷だるま	1	2	3
ウ 越谷ひな人形	1	2	3
エ 越谷甲冑	1	2	3
オ 越谷桐箱・桐工芸品	1	2	3

問 31. 今後、越谷市伝統的手工芸品についてどのような取組みを期待しますか。（複数回答可）

1. 各種イベントへの参加	5. 技術の継承（後継者の育成）
2. 見学・体験などの受入れ	6. デザイン性に優れた新商品の開発
3. PRパンフレットの作成	7. 物販店舗の増加
4. WEBサイトの開設	8. その他 []

医療費適正化（医療費通知）についておたずねします。

問 32. あなたご自身の加入保険を教えてください。(〇は1つ)

- | | | |
|--------------|--------------|----------|
| 1. 越谷市国民健康保険 | 3. 国民健康保険組合 | 5. その他 [|
| 2. 被用者保険* | 4. 後期高齢者医療制度 | 6. 分からない |

※被用者保険：全国健康保険協会・組合管掌健康保険・共済組合等

問 33. あなたは、健康保険から届く医療費通知*の内容を確認していますか。(〇は1つ)

- | |
|------------|
| 1. 確認している |
| 2. 確認していない |

※医療費通知：健康保険加入者に治療等にかかった医療費をお知らせするもの

問 33-2. 問 33 で「1. 確認している」と答えた方に伺います。あなたは、医療費通知を受け取ってどのように思いますか。

(ア～イ それぞれ横に〇は1つずつ)	思う	どちらとも いえない	思わない
ア 健康な身体づくりを意識しようと思う	1	2	3
イ 医療機関への適正な受診を心がけようと思う	1	2	3

問 34. 医療費通知に関するご意見がありましたら、自由にご記入ください。

景観（風景）についておたずねします。

問 35. あなたは、お住まいの地区の景観（風景）に満足していますか。(〇は1つ)

- | | |
|-----------------------|--------------|
| 1. 満足している | 4. とても不満である |
| 2. 十分とはいえないが、概ね満足している | 5. どちらともいえない |
| 3. やや不満である | |

問 36. あなたは、良い景観（風景）のまちをつくるために行政に何を望みますか。(〇は3つまで)

- | | |
|-----------------------|-----------------------|
| 1. 目標や基本方針を住民に示す | 5. 景観づくりに協力する際の助成金等 |
| 2. 良好な景観づくりに役立つ公共事業 | 6. 景観整備のための住民の合意づくり支援 |
| 3. 規制を含めた強いリーダーシップの発揮 | 7. その他 |
| 4. 景観に関する情報提供・普及啓発 | [|

こしがやブランド認定品についておたずねします。

問 37. こしがやブランド認定品を知っていますか。また、こしがやブランド認定品を購入したことがありますか。(〇は1つ)

- | | | |
|-------------------|--------------------|---------|
| 1. 知っていて、買ったことがある | 2. 知っているが、買ったことはない | 3. 知らない |
|-------------------|--------------------|---------|

問 37-2. 問37で「1. 知っていて、買ったことがある」と答えた方に伺います。購入した理由を教えてください。(複数回答可)

- | | |
|-------------------|------------------------|
| 1. 家族や友人等と食べるため | 4. 「こしがやブランド」に興味があったため |
| 2. お土産品として利用するため | 5. その他 [] |
| 3. 口コミでいい評判を聞いたため | |

問 38. あなたは、こしがやブランド認定品に何を求めますか。(複数回答可)

- | |
|---|
| 1. 越谷市の素材の活用や歴史、文化等の関連性など、地域性に富んでいること |
| 2. 品質やデザイン、製法等に独自性・優位性があり、他の類似品等と比較して特長的であること |
| 3. 継続的な生産、販売実績や商品の将来性など、市場性に富んでいること |
| 4. 品評会や他団体等においても高い評価を得ていること |
| 5. 市のイメージアップやPR活動につながること |
| 6. その他 [] |

地場農産物や地産地消についておたずねします。

問 39. 越谷の農業特産物であると知っているものを選んでください。(複数回答可)

- | | | |
|-----------|-----------|------------|
| 1. 太郎兵衛もち | 4. 山東菜 | 7. 小松菜 |
| 2. くわい | 5. いちご | 8. その他 [] |
| 3. ねぎ | 6. チューリップ | |

問 40. 越谷の農業特産物を購入したことがありますか。ある場合は、どこで購入しましたか。

(ア～ク それぞれ横に複数回答可)

	購入したことがある				い 購入したことがない
	ど イベント 市 民まつりな	農 産物直売所	マ ーケット 市 内スーパ	そ の他	
ア 太郎兵衛もち	1	2	3	4	5
イ くわい	1	2	3	4	5
ウ ねぎ	1	2	3	4	5
エ 山東菜	1	2	3	4	5
オ いちご	1	2	3	4	5
カ チューリップ	1	2	3	4	5
キ 小松菜	1	2	3	4	5
ク その他 []	1	2	3	4	5

問41. 野菜はどこで購入することが多いですか。(複数回答可)

1. 市内農産物直売所	5. 大型ショッピングセンター
2. 市外農産物直売所	6. ネット通販またはネットスーパー
3. スーパーマーケット	7. その他 []
4. 八百屋	8. 野菜を購入することがない

問42. 野菜を購入するとき、どのようなことを意識して選びますか。(複数回答可)

1. 鮮度の良さ	4. 国産かどうか	7. 特に意識しないで購入する
2. 価格の安さ	5. 生産者	8. 野菜を購入することがない
3. 地元産かどうか	6. その他 []	

問43. あなたが、地産地消推進のために必要だと思うことはなんですか。(複数回答可)

1. スーパーマーケットなど、地場農産物を購入できる店の増加
2. 地場農産物を使用する飲食店の増加
3. 地場農産物を使用した加工品の開発
4. 学校給食での地場農産物の利用増加
5. 地場農産物に関するPR活動（インターネットやイベントでの情報発信など）
6. その他 []
7. わからない

住宅用火災警報器の設置状況についておたずねします。

問44. あなたのお住まいの住居には、住宅用火災警報器を設置していますか。(〇は1つ)

1. 設置されている	---	2. 設置されていない
------------	-----	-------------

問44-2. 問44で「1. 設置されている」と答えた方に伺います。住宅用火災警報器を設置してある場所はどこですか。次の中から選んでください。(複数回答可)

1. 寝室	3. 台所
2. 階段上部（2階以上に寝室がある場合）	4. その他 []

問44-3. 問44で「1. 設置されている」と答えた方に伺います。住宅用火災警報器の点検を実施していますか。(〇は1つ)

1. 点検方法を知っていて定期的の実施している	3. 点検方法を知っているが実施していない
2. 点検方法を知っているが不定期に実施している	4. 点検方法を知らない

問44-4. 問44で「1. 設置されている」と答えた方に伺います。住宅用火災警報器の交換時期を知っていますか。(〇は1つ)

1. 知っている	2. 知らない
----------	---------

自治基本条例についておたずねします。

問45. 市民参加と協働のまちづくりに必要なルールなどが書かれている、「越谷市自治基本条例」を知っていますか。(〇は1つ)

1. よく知っている	3. 聞いたことがある
2. まあまあ知っている	4. 知らない

問46. 関心のある市政に参加する方法を教えてください。(複数回答可)

- | | |
|-------------|-----------------------|
| 1. アンケート | 5. パブリックコメント (意見公募手続) |
| 2. 住民投票 | 6. 審議会等への参加 |
| 3. 説明会 | 7. その他 [] |
| 4. ワークショップ* | 8. 関心がない |

※ワークショップ: いろいろな人たちが意見を持ち寄り、学習したり、ものごとをつくりあげていく場

問47. 関心のあるまちづくりの分野を教えてください。(複数回答可)

- | |
|---|
| 1. 暮らしの安全・安心に関すること (防災、防犯、消防、消費生活など) |
| 2. 福祉に関すること (社会保障、児童福祉、障がい者福祉、高齢者福祉など) |
| 3. 環境に関すること (ごみ問題、自然環境など) |
| 4. 健康づくりや医療に関すること (地域医療、予防医療、保健など) |
| 5. コミュニティ活動に関すること (地域活動、市民活動、ボランティア活動など) |
| 6. 子育てや教育に関すること (子育て、学校教育、青少年教育など) |
| 7. 都市の開発や整備に関すること (都市計画、都市施設、住宅など) |
| 8. 文化やスポーツ・レクリエーションに関すること
(歴史、文化、スポーツ・レクリエーション、生涯学習など) |
| 9. 地域経済に関すること (産業振興、観光、農業、雇用など) |
| 10. 人権や平和に関すること (人権、男女共同参画、多文化共生、平和など) |
| 11. その他 [] |
| 12. 関心がない |

問48. 越谷市のまちづくりのために、あなた自身ができることがあるとすれば、次のどれですか。(複数回答可)

- | |
|---|
| 1. お祭りや町内会・自治会などが主催するイベントに参加する |
| 2. 町内会・自治会の会員 (役員) として活動する |
| 3. ボランティア活動に参加する |
| 4. NPO法人のスタッフとして活動する |
| 5. その他の市民活動団体のスタッフとして活動する |
| 6. 集合住宅の管理組合の理事として活動する |
| 7. 民生委員・児童委員として活動する |
| 8. 社会福祉協議会の会員として活動する |
| 9. PTA・保護者会の会員 (役員) として活動する |
| 10. 行政から委嘱された各分野の推進員・指導員として活動する
(例: スポーツ・レクリエーション推進委員、廃棄物減量等推進員など) |
| 11. 市の審議会等の委員として活動する |
| 12. NPO法人などの市民活動団体への経済的支援 (寄附など) を行う |
| 13. その他 [] |
| 14. できることはない |

問49. 越谷市では「それぞれがお互いの役割を認識して取り組むこと」を協働とし、まちづくりを推進しています。その担い手として、あてはまるものはどれだと思いますか。(複数回答可)

- | | |
|---------------------------|------------|
| 1. 市民活動団体 (ボランティア団体・NPO等) | 5. 自治会 |
| 2. 行政 | 6. 子ども会 |
| 3. 企業 | 7. その他 [] |
| 4. 教育機関 | |

越谷市への愛着度と魅力発信についておたずねします。

問50. あなたは、越谷市に対して、どのくらい愛着がありますか。(○は1つ)

- | | |
|-------------|--------------|
| 1. とても愛着がある | 4. 愛着がない |
| 2. 愛着がある | 5. どちらともいえない |
| 3. やや愛着がある | |

問50-2. 問50で「1」から「3」(愛着がある)と答えた方に伺います。その理由は何ですか。

(複数回答可)

- | | |
|--------------------------|-------------------|
| 1. 交通の利便性がよく、都内等に近い | 6. おいしい食事がある |
| 2. 自然(水辺空間、農地等)が多く残されている | 7. 地域の特産品(土産品)がある |
| 3. ショッピング施設や商店街が豊富 | 8. 誇れる産業(企業)がある |
| 4. イベント、祭り、伝統芸能が豊富 | 9. 誇れる著名人がいる |
| 5. 歴史的建造物や誇れる街並みがある | 10. その他 [] |

問51. 越谷市の誇れるもの、知人に自慢したいものは何ですか。(複数回答可)

- | | |
|----------------------|------------------------------------|
| 1. イオンレイクタウン | 8. 日本庭園「花田苑」・日本文化伝承の館
「こしがや能楽堂」 |
| 2. 田んぼアート | 9. 日光道中宿場まちとしての蔵のある街並み |
| 3. 越谷花火大会 | 10. だるまやせんべい等の伝統的手工芸品 |
| 4. 南越谷阿波踊り | 11. こしがや鴨ねぎ鍋 |
| 5. 5本の1級河川等による水辺空間 | 12. 宮内庁埼玉鴨場 |
| 6. イチゴ狩り | 13. その他 [] |
| 7. 越谷ねぎ、くわい、山東菜等の農産物 | |

問52. あなたは、観光やレジャーにおいて、どのような情報を知りたいですか。(複数回答可)

- | |
|--------------------------------|
| 1. イベントや催しなどの催事情報 |
| 2. 観光施設や花の名所などの「観て」楽しむ観光情報 |
| 3. 果物狩りや〇〇作り体験などの「体験して」楽しむ観光情報 |
| 4. 地域の特産品が食べられるお店などのグルメ情報 |
| 5. 地域の特産品が購入できるお店などの買い物情報 |
| 6. バスやレンタサイクルなどの交通情報 |
| 7. 周辺地域を周遊できる広域的な観光情報 |
| 8. 特になし |
| 9. その他 [] |

問53. あなたは、普段からどのような方法で観光情報を得ていますか。(複数回答可)

- | | |
|-----------------|--|
| 1. ホームページ※ | 5. ブログやフェイスブック等のSNS |
| 2. 雑誌 | 6. 各地域の観光協会や自治体
(ガイドブックや自治体ホームページ等) |
| 3. フリーペーパー | 7. その他 [] |
| 4. 友人・知人等からの口コミ | |

※「1. ホームページ」: それぞれの観光施設、名所、イベントが運営するホームページなど

問54. 平成28年度に、観光物産を中心とした市の魅力発信の拠点施設を越谷駅東口高架下に整備します。
あなたは、この施設にどのようなことを期待しますか。(複数回答可)

1. こしがやブランド認定品、伝統的手工芸品、ガーヤちゃんグッズなどの市内特産物の販売
2. ご当地グルメ、地場野菜の惣菜などの提供
3. 観光イベントや観光資源などの案内・PR
4. 東武鉄道沿線や日光道中宿場町等と連携した広域的な観光物産の案内・販売
5. だるまの絵付け・せんべいの手焼き等体験型観光メニューの実施
6. 無料公共無線LAN環境の整備等によるインバウンド観光^{*}への対応
7. その他 []

※インバウンド観光：外から入ってくる旅行を意味し、一般的には訪日外国人旅行を指す。

スポーツ・レクリエーションの実施状況についておたずねします。

問55. この1年間でどのくらいスポーツ・レクリエーション活動を行いましたか(ウォーキング・徒歩や軽い体操も含みます)。(〇は1つ)

- | | |
|-------------|-----------------------|
| 1. 週に3回以上 | 4. 3ヵ月に1~2回 |
| 2. 週に1~2回程度 | 5. 年に1~3回程度 |
| 3. 月に1~3回程度 | 6. 行っていない ---▶ 問55-4へ |

問55-2. 問55で「1」から「5」のいずれかと答えた方に伺います。あなたがスポーツ・レクリエーション活動を行った主な理由は何ですか。(〇は3つまで)

- | | |
|---------------|-----------------------|
| 1. 気分転換・気晴らし | 7. 試合や大会に参加したいから |
| 2. 運動不足解消 | 8. 学校のサークル活動等で行っているから |
| 3. 美容、肥満解消 | 9. スポーツ教室や講座に参加しているから |
| 4. 家族のふれあい | 10. その他 [] |
| 5. 友人との交流 | 11. 特に理由はない |
| 6. 健康、体力維持・増進 | |

問55-3. 問55で「1」または「2」と答えた方に伺います。スポーツ・レクリエーション活動をしたことで、どのような効果がありましたか。(複数回答可)

- | | |
|-----------------|---------------------|
| 1. 疲れにくくなった | 7. 血圧が下がった |
| 2. 冷え症が改善した | 8. 食欲が出た |
| 3. よく眠れるようになった | 9. 便秘が解消した |
| 4. 運動不足が解消した | 10. 健康への効果は感じられなかった |
| 5. 通院回数が減った | 11. その他 [] |
| 6. 適正体重に(近く)なった | |

問55-4. 問55で「6」と答えた方に伺います。あなたが、スポーツ・レクリエーション活動を行っていない理由は何ですか。(〇は3つまで)

- | | |
|--------------------------|---------------------------------|
| 1. 仕事(家事、育児も含む)や勉強が忙しいから | 6. 年をとったから |
| 2. 費用がかかるから | 7. スポーツ・レクリエーションが好きでない(興味がない)から |
| 3. 身近に適切な場所や施設がないから | 8. その他 [] |
| 4. 健康上の理由から | 9. 特に理由はない |
| 5. 一緒に行く相手、指導者等がないから | |

越谷市の施策についておたずねします。

問 64. 市では様々な施策を進めていますが、ここ数年のうちで「よくなってきたと感じるもの」また、今後の市政の中で「特に力を入れるべきだと思われるもの」を、次の中から**それぞれ5つまで**選び、下の□内に番号をご記入ください。

よくなってきたと感じるもの					
特に力を入れるべきだと思われるもの					

- | | |
|---------------------------|-----------------------------|
| 1. 青少年の健全育成 | 21. ごみ・し尿の処理対策 |
| 2. 防犯対策 | 22. 公営住宅の整備などの住宅対策 |
| 3. 交通安全対策 | 23. 水害や地震などの災害対策 |
| 4. 消費者の保護対策 | 24. 市民の財産や生命を守る消防・救急対策 |
| 5. 女性の社会参加など男女共同参画の推進 | 25. 工業の振興対策 |
| 6. 国際交流 | 26. 商業の振興対策 |
| 7. 生活習慣病などの保健衛生対策 | 27. 農業の振興対策 |
| 8. 地域医療や救急医療体制の整備 | 28. 勤労者の福祉や雇用を促進する対策 |
| 9. 児童福祉の充実 | 29. 小中学校の教育環境(教育内容や教育施設)の充実 |
| 10. 障がい者(児)福祉の充実 | 30. 生涯学習(公民館活動等)の充実 |
| 11. 高齢者福祉の充実 | 31. 芸術文化活動の振興や文化施設の整備 |
| 12. 介護保険の充実 | 32. スポーツ・レクリエーションの振興と施設の整備 |
| 13. 駅周辺の整備 | 33. 市民とのパイプ役としての広報広聴活動の充実 |
| 14. 土地区画整理事業などの市街地整備 | 34. 上水道の整備 |
| 15. 生活道路や都市計画道路の整備 | 35. その他 [] |
| 16. 道路の維持管理状況 | 36. 特になし |
| 17. バス路線等公共交通網の充実 | |
| 18. 公園や緑地の整備 | |
| 19. 下水道(公共下水道や排水路)の整備 | |
| 20. 自然保護や河川の汚濁防止などの環境保全対策 | |

問 65. **問 64 で選ばれた「特に力を入れるべきだと思われるもの」**について、どのような対応(対策)を望まれますか。また、市政に関するご意見やご要望など、自由にご記入ください。

ご協力ありがとうございました。

同封の返信用封筒に入れて **7月8日(金)**までにご投函ください。

平成28年度 市政世論調査結果報告書

発行年月：平成28年11月

発行：越谷市 市長公室 広報広聴課

〒343-8501

埼玉県越谷市越ヶ谷四丁目2番1号

電話 048-963-9117（直通）